彩の国さいたま

調査研究報告

第 10 号

目　　次

古墳出現期の北武蔵　増田逸朗……1
―前方後方墳成立の要因―

感覚のフォークロア　斎藤修平……21
―不潔意識と時間感覚について―

民俗事例の窓　斎藤修平……37
―自治体は民俗をどのように描いてきたのか―

博物館と学校教育の連携（2）　渡辺勤……105
―「博学融合」の試み―

平成9年3月

埼玉県立さきたま資料館

あ い さ つ

県立さきたま資料館は、「さきたま古墳群等から出土した考古資料や、郷土の民俗資料を保護活用することにより、教育、学術、文化の振興を図る」ことを目的に、昭和44年に設置開設されました。

この目的を達成するため、９基の大型古墳を含む、東国有数の「埼玉古墳群」の整備を進めるとともに、考古資料や有形民俗資料の収集・保管・展示・調査研究を行ってまいりました。

特に古墳の保存整備事業にあっては、平成３年度から実施してきました将軍山古墳の整備が、いよいよ完了する運びとなりました。

御承知のように、この将軍山古墳は、明治27年に地元の人々によって発掘され、馬冑や蛇行状鉄器をはじめ銅鋺、環頭大刀、衝角付冑など、夥しい数の優れた副葬品を出土しております。

そこで、埼玉県は、これらの遺構・遺物を永く保存活用するため、墳丘や堀の保護復原を行い、墳丘には埴輪を樹立し、加えて石室を覆う古墳展示館を建設しました。

ここには、石室内に模型の副葬品を配置し、埋葬時の様子を再現してみました。これは、石室と副葬品を往時の姿で直接見ることができる、全国初めての保存と展示を図つた施設であります。

このような史跡の整備や展示の実施にあっては、十分な学問的裏付けが必要であり、このためには、学芸員の日頃の調査研究が事業の成果を挙げることになります。また、日常の考古・民俗展示や体験学習にあっても、この調査研究の結果をもとに企画し、実施されるべきものであります。

本書は、その学芸員の研究成果の一端をまとめたものでありますが、今日の生涯学習時代にあって、この刊行が、県民の皆様にとつて埼玉県の古墳文化や常民文化の理解に役立つことを願うものであります。

おわりに、当館の運営に対しましては、日頃から格別の御指導・御協力くださいました関係各位に対し、厚くお礼申し上げますとともに、今後とも一層の御支援・御鞭撻を賜わりますようお願い申しあげます。

平成９年２月28日

埼玉県立さきたま資料館
館　長　　横　川　好　富

古墳出現期の北武蔵

―前方後方墳成立の要因―

増田逸朗

1）はじめに

邪馬台国論争が盛んな今日、奈良県桜井市纒向古墳群の評価は、これを決する要素を十分持ち合わせている。というのは、ヤマト政権＝邪馬台国という図式によれば、最初の大型前方後円墳である箸墓古墳を取り巻くこの纒向古墳群中に、箸墓古墳に相前後する中型前方後円墳が確認されたことに起因する。このことから、前方後円墳が成立するに際し、『纒向型前方後円墳』（註１）から、より定型化された箸墓古墳が創出されたとすることができる。以後、３世紀後半から４世紀にかけて、大和盆地東南部の古墳群は、初期ヤマト政権の中枢部を担うこととなる。

さて、この東南部の大和古墳群中に下池山古墳を含む数基の前方後方墳が存在し、これが、濃尾平野を中心とした勢力との関係で取り沙汰されている。ここに、かつて卑弥呼に対峙した狗奴国がクローズアップされることになる。

前方後方墳の成立に関しては、濃尾平野が有力視され、東国の古墳成立にこの場所が深く関与していたことは、東国最初の古墳が前方後方墳であることからも容認されている。本稿で扱う－前方後方墳成立の要因－の意義がここに存在する。

さて、東国の古墳出現以前の墓制としては再葬墓、土坑墓、壷棺墓、方形周溝墓などがある。この内方形周溝墓は、古墳に連なる墳墓として期待されてきた。

埼玉県では、1955年に大宮公園内遺跡（註２）が調査されたが、当時は住居を廻る環溝と理解されていた。続いて、1963年に庄和町で権現山遺跡（註３）が調査されている。さっそく、この遺跡を台地研究に報告した横川好富氏は「高塚古墳が伝播し、築造される以前の墳墓形態」と結論付け、その性格をいち早く分析し、後の研究の指針とした。この翌年、八王子市宇津木遺跡（註４）で連結する４基が発掘され、1965年に大場磐雄氏により「方形周溝墓」の名が提唱さた。しかし、この際も、墳墓としての性格付けは曖昧なものであった。

埼玉考古学会は、1969年に埼玉考古７号－埼玉の方形周溝墓－を編集し、この中で「埼玉の方形周溝墓をめぐる問題点」と題し、全国に先駆けて古墳以前の墓制に取組んでいる。内容は、立地・分布・形式・形態・編年と多岐に渡って討論されたが、埼玉県最古の古墳を円墳である熊野神社古墳とし、５世紀初頭と認識していたため、古墳成立との関係を詰めるには至らなかった。

この間、1978年、岡部町石蒔Ｂ遺跡（註５）で前方後方型周溝墓が調査され、これが方形周溝墓群の中に群在することが明らかになった。これをうけ、1981年、坂本和俊氏は、山の根古墳を前方後方墳ではないかと指摘している（註６）。

埼玉県における前方後方墳の最初の発掘は、埼玉県史編纂室の「埼玉の古式古墳調査」による諏訪山29号墳（註７）であり、これは1984年のことであった。その後、県立さきたま資料館による「古墳詳細分布調査」の成果が加わった。

この様に、1970年以降は埼玉県域の３～４世紀代の墳墓に、方形周溝墓・前方後方型周溝墓・前

方後方墳・前方後円墳・方墳・円墳が存在することが判明し、出現期古墳の実態を解明する資料も整ってきた。これらの成果を受け、前方後方型周溝墓と前方後方墳の諸要素を分析し、北武蔵における階級社会成立の実態に迫ってみたい。

2）遺構の概要（表１・１図）

鷺山古墳（児玉町下浅見字鷺山）（註８）　小山川中流域左岸の独立丘陵最上部に構築され、東西に開ける水田面からの比高12ｍを測る。この丘陵は南北約500ｍ、東西150ｍの「く」の字形を程する小丘陵とはいえ、最上部に占地することで大きく主軸方位を制約される程の地形ではない。前方部南側には30ｍ程離れて、径10ｍの墳丘の高まりが見られ、付近から古式土師器片が確認されている。

墳丘規模は、全長58.4ｍで、後方部は主軸長が僅かに長い形態を示す。前方部端はバチ形に開き、この延長線上は括部中央で交わる。また、括部から発する前方部延長線上は後方部中央で結ばれるようである。なお、前方部東側は調査が不十分であったが、ここの墳丘のコンタを読みとると、左右対称を成し、築造に際しては企画性の高い古墳とされる。

遺物としては、西側括部から、口縁に６対12個の円形透かしを持つ壷形土器と埦形土器が出土している。両者共に底部を焼成前に穿孔しており、壷外面には赤彩が見られ、いかにも儀器的様相を呈している。加えて、この括部には段状の張出しが有り、葬送儀礼の場を彷彿とさせる。また、墳頂部からは、二列の竹管文を持つ手焙形土器片が古くに表採されており、これが古墳に伴うものとすれば、遺構の性格や時期さえも限定できる。

主軸方位Ｎ－25°－Ｅ、後方高5.4ｍ、前方高1.5ｍ。

山の根古墳（吉見町久米田）（註９）　吉見丘陵の東端尾根上に立地し、沖積地からの比高は12ｍを測る。位置的には、東京湾から入間川、市の川を遡ると、比企丘陵への先ずの到着点にある。古墳は東側面を崖面に接するとはいえ、主軸方位を規制される程の地形ではない。付近には、本古墳の後方部北西35ｍに、長辺28ｍ、短辺22ｍの方墳である山の根２号墳が、対をなすようにある。調査の結果、周堀については、墳丘盛土を獲得するため白色粘土層まで削り出した地山整形面は確認できたが、外側立上り面は一部の調査のためか検出できなかった。

墳丘規模は全長54.8ｍで、後方部の長辺33.6ｍ、短辺26.2ｍの長方形を示し、前方部の側線は後方部中心で交わるようである。墳丘の基底部からの高さは、後方部が３ｍ、前方部が1.9ｍとなる。

遺物としては、西側括部から墳丘裾部平坦面に並べられたように甕４・鉢１・高坏１の計６点の土器が検出されている。うち、鉢と高坏は完形品で、とくに高坏は元屋敷式土器の範疇に属し、当墳の時期を限定できるものである。

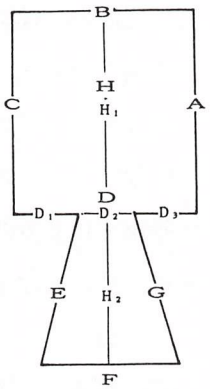
主軸方位Ｎ－23°－Ｅ、

天神山古墳（東松山市柏崎）（註10）　五領遺跡と同一の東松山台地上にあり、眼下に東流する市の川を臨み、これを挟んで山の根古墳を遠望できる位置にある。沖積地からの比高は12ｍを測り、北側は崖面をなし、東側には緩やかな谷が形成されているが、古墳の方位を規制する程の地形的制約はない。付近には古墳時代前期を含む番清水遺跡があり、ここからは一辺20ｍを測る最大級の方形周溝墓が検出されている。なお、調査では複合口縁壷形土器片が、そして古くに仿製内行花文鏡

表1．遺構部位計測値表

	(遺構名)	A	B	C	D	D1	D2	D3	E	F	G	H	H1	H2	面積	
1	鷲山古墳（児玉町）	36.5	35.5	38.0	35.5	13.0	8.2	13.0	22.0	20.0	22.0	58.8	37.0	21.4	1822m²	
2	山の根古墳（吉見町）	33.6	26.2	33.6	26.2	8.5	9.2	8.5	21.1	19.2	21.1	54.8	33.6	21.2	1173m²	
3	天神山古墳（東松山市）	37.5	37.5	37.5	37.5	12.0	13.5	12.0	21.0	21.5	21.0	(59.0)	37.5	21.5	1751m²	I
4	諏訪山29号墳（東松山市）	27.8	24.0	28.4	24.0	8.4	7.5	8.4	23.0	19.5	23.0	51.0	28.0	23.0	970m²	類
									(17.8)	(16.5)	(17.8)	(45.0)		(17.0)		
5	塚本塚山古墳（浦和市）	34.0	34.0	34.0	34.0	11.5	11.0	11.5	18.4	22.2	18.4	(52.0)	34.0	17.0	1464m²	
6	塩１号墳（江南町）	20.8	20.0	20.6	20.0	7.2	5.1	7.2	14.2	11.8	14.2	35.3	20.8	14.5	538m²	
7	塩２号墳（江南町）	17.6	20.0	17.6	20.5	8.0	4.5	8.0	13.0	11.0	12.5	30.0	17.5	12.5	459m²	
8	権現山２号墳（上福岡市）	21.0	20.5	21.0	20.5	7.0	6.5	7.0	13.5	9.0	13.5	(34.0)	21.0	13.0	570m²	II 類
9	三ノ耕地１号墓（吉見町）	25.7	23.8	25.7	21.0	6.9	7.2	6.9	22.5	15.3	22.5	48.3	25.7	22.5	864m²	
10	三ノ耕地２号墓（吉見町）	19.0	15.4	19.0	15.0	3.8	7.5	3.8	12.0	9.0	12.0	31.0	19.0	12.0	413m²	
11	南志渡川４号墓(美里町)	14.6	17.0	14.8	15.8	7.2	3.8	5.0	12.0	15.6	10.6	25.0	14.6	11.0	319m²	
12	村後墓（美里町）	14.3	17.0	14.3	17.0	6.5	4.0	6.5	9.0	9.5	9.0	23.0	14.3	8.7	306m²	III
13	石蒔Ｂ８号墓（岡部町）	15.2	13.0	15.5	13.2	5.4	2.6	5.2	6.5	6.6	7.8	23.2	16.2	7.0	262m²	類
14	中耕42号墓（坂戸市）	17.0	12.7	17.0	13.5	8.5	2.5	2.5	12.0	6.0	11.0	28.5	17.5	11.0	260m²	
15	下道添２号墓（東松山市）	14.5	12.0	14.5	12.0	4.0	4.0	4.0	7.5	8.0	7.5	22.0	14.6	7.4	223m²	
16	塚本山38号墓（美里町）	14.8	13.0	14.0	15.0	4.0	2.0	9.0	3.5	0.8	3.5	17.8	14.0	3.8	182m²	N
17	塚本山14号墓（美里町）	15.2	14.0	15.0	13.8	5.0	3.8	5.0	3.0	4.0	5.2	20.5	15.0	5.5	233m²	類
18	塚本山33号墓（美里町）	13.5	14.0	12.0	13.8	4.6	2.3	6.9	6.2	5.2	5.5	18.0	12.6	5.4	198m²	

遺構部位名称



D1＋D2＋D3＝D

H1＋H2＝H

推定値

片・銅釧（註11）が出土したとされている。

規模は、前方部が未調査のため定かでないが、墳丘の残存状況から全長59m程と推定した。後方部は調査結果からすると、一辺37.5mの正方形となる。前方部のコンタからすると、この延長線上は後方部北辺中央で結ぶものとされる。周堀は、西側括部で切れるようで、ここにブリッジが想定される。　全長59.0m、主軸方位N－19°　－W、後方高4.0m、前方高？。

諏訪山29号墳（東松山市大字西本宿）　都幾川右岸の高坂台地北縁辺部にあり、沖積地からの比高５mを測る。このため、都幾川を眼下に臨み、対岸の東松山台地に立地する大型前方後円墳の野本将軍塚古墳を遠望することができる。付近には、前方部に接して、本墳と同一主軸方位を持つ、全長61mの前方部未発達の前方後円墳諏訪山古墳が存在し、埴輪が採集されていないことや墳形から、初現期の前方後円墳と推測されている。また、後方部延長線上の約100mには、埴輪を持たない浅間神社古墳が存在する。

古墳の規模については、前方部に調査が及んでないことと、北半分が削平されているため定かでない。しかし、後方頂の残存状況から中軸線を想定し、括部のトレンチから前方部の開きを推定した。全長は、崖面に見られた落ち込みを重視すれば全長51.0mに、盛土の裾を重視すれば45m程になる。これらによれば、後方部は主軸線に沿った長方形と想定される。

遺物としては、後方部南面に通じるブリッジ付近から土器が見られた。後方部裾に、頸部に凸帯を廻らす焼成前穿孔の壷形土器、肩部以下を打欠いた大廓式土器、ブリッジ中央から坩形土器、ヘラ磨きを施した器台などがあり、ここに土器が集中している。土器の組成としては壷・坩・器台が目立ち、墓前祭祀的性格が顕著である。

全長51.0(45.0)m、主軸方位N－42°　－W、後方高3.6m、前方高1.6m。

塚本塚山古墳（浦和市塚本内東）（註12）　荒川下流域の鴨川左岸の自然堤防上にあり、沖積地からの比高１mを測る。当古墳は、大久保古墳群に属し、群内の大型円墳塚山古墳からはＢ種ヨコハケ埴輪が検出されている。古墳群は、少なくとも５世紀前半には構築され始めたことが、現時点

でも確認できる。本墳は、残存する墳丘からのみの推定であるが、墳頂部平坦面を参考に中軸線を想定すると、全長52mで、後方部は34mの正方形と推定される。しかし、後方部が5.5mと高く、自然堤防上に構築されていることから、全てを盛土と考えざるをえず、該期前方後方墳としては多少の違和感も残る。全長52.0m、主軸方位N－56°－E、後方高5.5m、前方高？

塩１号墳（江南町塩字狸塚）（註13）　山の根古墳の眼下を流れる市の川の支流、滑川の上流左岸に位置し、沖積地からの比高15mを測る比企丘陵南縁にある。形態は、後方部が正方形で、この中軸線上に前方部が位置し、側線は後方部中央で交わり、極めて幾何学形のプランを示す。後方部の後方には群内最大の方墳がある。周溝からは、口縁に円孔を穿つ有段口縁壷が発見されている。

全長35.3m、主軸方位N－37°－W、後方高4.2m、前方高1.2m。

塩２号墳（江南町塩字狸塚）（註14）　１号墳の南側に位置する。形態は後方部が短辺17.6m、長辺20.0mの横長を示す。前方部右側辺は後方部に直交し、左側辺は中軸線中央1/2で交わる。遺物としては、複合口縁壷・鉢形土器が出土している。なお、本墳の前方部に接して一辺11mの方墳が存在し、他にも方墳25基が群内に確認されている。全長30.0m、主軸方位N－45°－W、後方高2.8m、前方高1.0mであるが、墳丘裾から1.5mまでは旧表土を削出し、墳丘としている。

権現山２号墳（上福岡市滝）（註15）　眼下を東流する新河岸川右岸の入間台地縁辺部にあり、北側に広がる沖積地からの比高７mを測る。遺構の調査は一部で、全容は不明な部分が多い。現在残る墳丘コンタから中軸線を割出し推定すれば、全長34.0mで、後方部辺21m、前方部側線は後方部中央で交わる様である。２号墳には後方部辺に並列して一辺15m程の１号方形周溝墓が隣接している。

遺物としては、焼成前穿孔の有段口縁壷・パレス壷・高坏がある。群構成としては、２号墳の前方部に隣接して一辺15m程の方墳が見られ、さらに、付近にはこれより小型の方形周溝墓５～６基が確認されている。

全長34.0m、主軸方位N－24°－E、後方高2.4m、前方高0.2m。

根岸神社古墳（東松山市古凍字根岸）（註16）松山大地の南東部端に位置し、沖積地からの比高５mを測り、東に川島町の低地帯を遠望できる。同一台地上には下道添２号墓を含む古凍古墳群が存在する。特筆すべきは、眼下に開ける川島町正直の地に北陸系の集団と関係が深いとされる正直玉造遺跡が発見されている。

現墳形は、長辺13m、短辺10mに整然とコンタが巡り、ここより３m離れて周堀が検出されている。コンタから推定される主軸はN－6°－Eを示し、方墳としての方位観に合致する。あえて前方後方墳として想定すれば、前長26.6m、後方部の長辺17.8m、短辺15.0mと推定される。

遺物としては、在地の吉ヶ谷系の壺型土器と土師器壺形土器が見られ、前者は焼成後に穿穴され、後者は焼成前であり、両者の違いが注目される。後方部高1.6m、前方部高？。

南志渡川４号墓（美里町駒衣字南志渡川）（註17）　利根川の支流である小山川右岸の平地にあり、沖積地からの比高1.5m程を測る。平面形態は、後方部東辺が長い台形を示し、前方部前面は、右側にブリッジを持ち左側がやや張る特徴を示す。後方部中央に中軸線を設けると、前方部右側線は方台部中央に、左は手前1/2にその交点を求めることができる。

遺物としては、周溝内よりパレス壷・鉢・小型壷形土器が検出されている。なお、調査区内からは、４号墳を除き９基の方形周溝墓が発掘されており、四隅の切れる小型、一周する中型、４号墳の後方部と同様な台形を示す大型のものが見られる。全長25.0m、主軸方位Ｎ－61°－Ｗ。

村後墓（美里町下茂田字村後）（註18）　南志渡川４号墓より下流の小山川右岸の自然堤防上にあり、一部が調査されている。形態復元に当って、括部の一定の幅を考慮すると、横長の後方部とならざるをえない。残存する溝底は決して深くはないが、前方部を区切る溝は、幅こそ狭いが深く掘削されている。形態は、方台部を一周し、前方部右側にブリッジを有するものと推測される。

遺物としては、装飾壷・器台・坩・高坏・台付甕・Ｓ字状口縁台付甕が見られる。

全長23.0m、主軸方位Ｎ－70°－Ｅ。

石蒔Ｂ８号墓（岡部町後榛沢字石蒔）　村後墓より下流の小山川右岸の自然堤防上にあり、沖積地からの比高１ｍを測る。調査区内には12基の方形周溝墓が検出されている。８号墓の形態は、縦長な長方形を示し、前方部右側にブリッジを有し、括部はほぼ中軸線を対称にするが、前方部側面は、右側が方台部中央に、左側がこの1/2で交点を持つ様である。

全長23.2m、主軸方位Ｎ－54°－Ｅ。以下の分析の項参照。

下道添２号墓（東松山市古凍字下道添）（註19）　松山台地上の古凍古墳群内にあり、沖積地との比高10ｍを測る。後方部と同一規模を示す方形周溝墓を含め、多くの周溝墓で構成されている。形態は、前方部の溝が不明であるが、調査されたここの張出し形態から、全長22.0ｍで、後方部は短辺を12m程とする。長方形を想定した。これは、張出し形態の他の類例からしても括部幅が最も良く収まる配分である。

遺物としては、各溝から壷形土器を中心に高坏・器台を含め多くの土器が見られた。複合口縁の壷形土器を除き、他は全て焼成前の穿孔である。全長22.0m、主軸方位Ｎ－41°－Ｗ。

塚本山38号墓（美里町下児玉字西山）（註20）　小山川左岸の大久保山丘陵南面に立地し、眼下に小山川と美里の平野を一望できる位置にある。沖積地との比高は14ｍで、方形周溝墓としては最も高位にある。遺物としては、有段口縁壷・単口縁壷・焼成前穿孔の装飾壷・埦形土器が見られる。遺構の形態は、方台部は台形で、ブリッジは極端に左に寄り、ここの形態も外に開くものではない。これよりすれば赤塚氏のＢ1型（註21）とするのは困難かもしれない。一応ここでは、Ｂ1型の初現期のものとしておく。

全長17.8m、主軸方位をＳ－30°－Ｅ。

塚本山14号墳（美里町下児玉字西山）（註22）　38号墓の下位斜面の比高10ｍにある。形態は、西側にブリッジを持ち、この両側は左右非対称の掘方を成すが、左側辺の延長線上は方台部中央部で結ばれる。また、ここには主軸に沿って長辺3.7m、短辺1.0mのローム槨とも見られる埋葬施設があり、鉄剣と鉄鏃が出土している。さらにこの第１主体部に直交して第２主体部が構築されている。これからすると、長方形の方台部中軸を基準に主体部とブリッジが設置されていたことが予測される。周溝からは、２段に円孔を有する完形の高坏や壷・甕形土器が出土している。

全長20.5m、主軸方位をＳ－72°－Ｅを示し、かなりの斜面ながら1.0～0.75ｍの盛土が認められる。

塚本山33号墳（美里町下児玉字西山）（註23）　14号墳の下位、斜面の比高５ｍにある。形態は、

方台部はやや台形で、北辺に位置する括部は辺のやや左に寄る。この偏在した右張出しの辺は、方台部中軸線上にある。右張出し部の位置と方台部の形態や括部の偏在位置は、14号墳と共通した要素といえる。遺物としては、在地系の複合口縁壷・高坏形土器が出土している。

全長18.0m、主軸方位をＳ－12°－Ｅを示す。なお、南溝中に長辺2.0m、短辺0.85mの土坑が検出されている。

3）分析と若干の考察

＊石蒔Ｂ遺跡の分析（１図・表２）　遺構の配置は、単独で方位を異にする12号墓と溝を接する１～11号墓に分かれる。規模（方台部面積）は、５号が25mとやや小さく、53～64mの小型が２・４・６・７・９号、80～107m中型が３・10・11号、225～262m大型が１・８・12号である。形態は、５号を除いて溝は全周し、正方形が１・９・11号、台形が２～７号で、この中には、平行する二辺を縦にするもの３・４・６号と横にする２・５・７号がある。長方形は８・10・12号で、８号は前方後方型周溝墓で、12号は、Ａ辺が８号Ｂ辺の長さに近似することから、主軸を８号と直角にとる前方後方型周溝墓とも推定される。

方位は、正方形の１・11号が３度、台形の横の２・７号が２度、縦の３・４・６号が３度、長方形の８・10号は０度の違いで収まり、形態と方位が有機的関係にあることがわかる。

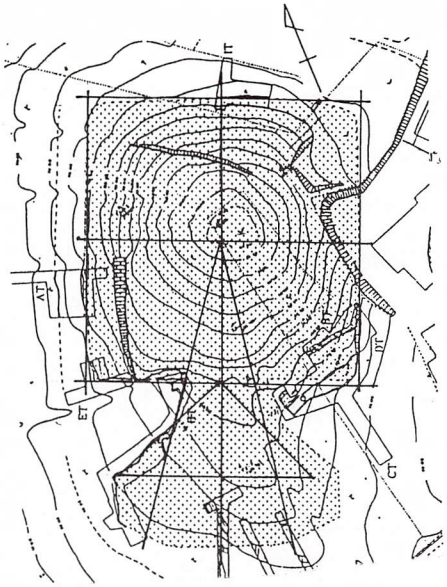
遺構の新旧関係は、隣接する溝の形態からも予測される。２号は１・４号を避けており、６号も４号を避けている。10号は８・９・11号構築後に掘削していることがわかる。８号と９号との関係は、隣接し主軸方位が一致することと配置から、極めて近い時期に対として構築されているようである。

出土遺物としての土器は、11号からパレス壷がある。複合口縁に刻目があり棒状浮文を有し、肩部に波状文が施文され、焼成前の底部穿孔がある。次の３・４・７号に欠山系譜の口縁が内湾し、端部がシャープな仕上がりで、ヘラ磨きの丁寧な仕上げの壷形土器がある。８号からは前者に近似した造りで、体部肩がやや張り、底の上がる坩形土器がある。１・６号からは８号より下る体部球形の坩形土器がある。さらに、10号からは、体部が深く、ヘラ削りを施す新しいタイプの坩形土器が見られる。一応、土器論からは11号→３・４・７・８号→１・６号→10号の順で時間軸が追える。

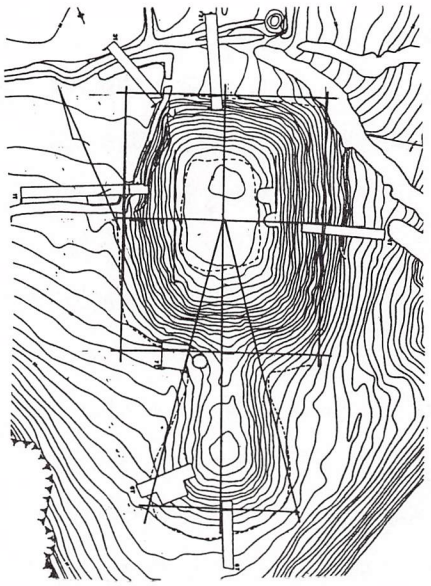
表２．石蒔Ｂ遺跡遺構測定値

遺構名	Ａ辺	Ｂ辺	Ｃ辺	Ｄ辺	面　積	方　位	形　態
１号墓	15.2m	13.5m	15.5m	14.4m	225㎡	Ｎ―35度―Ｅ	正方形
２号墓	7.0m	8.3m	6.5m	7.5m	53㎡	Ｎ―47度―Ｗ	横長台形
３号墓	10.0m	8.5m	9.1m	7.9m	80㎡	Ｎ―40度―Ｅ	縦長台形
４号墓	7.9m	6.4m	8.5m	6.5m	55㎡	Ｎ―37度―Ｅ	縦長台形
５号墓	5.1m	5.5m	5.0m	4.6m	25㎡	Ｎ―32度―Ｅ	縦長台形
６号墓	9.6m	7.0m	7.8m	7.1m	64㎡	Ｎ―37度―Ｅ	縦長台形
７号墓	7.4m	8.7m	7.0m	8.5m	64㎡	Ｎ―45度―Ｗ	横長台形
８号墓	15.7m	13.8m	15.9m	13.0m	205㎡	Ｎ―50度―Ｅ	縦長長方形
９号墓	7.2m	7.1m	7.4m	6.9m	56㎡	Ｎ―49度―Ｅ	正方形
10号墓	11.4m	9.4m	11.7m	9.2m	107㎡	Ｎ―49度―Ｅ	縦長長方形
11号墓	10.3m	9.5m	10.3m	8.8m	98㎡	Ｎ―33度―Ｅ	正方形
12号墓	13.3m	(16.0m)	？	？	(235㎡)	Ｎ―49度―Ｗ	縦長長方形

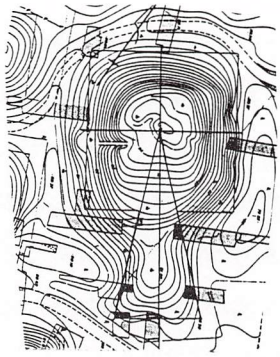
（　）推定値



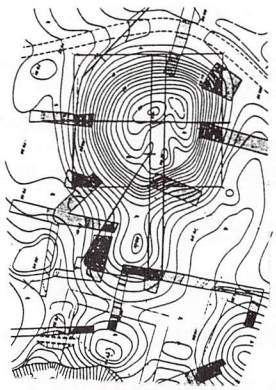
Ⅰ類（山の根古墳）



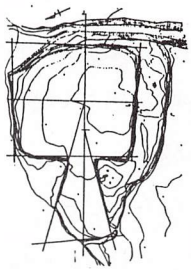
（鷺山古墳）



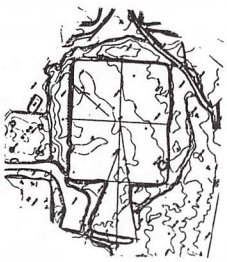
（塩１号墳）



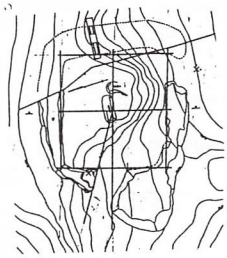
Ⅱ類（塩２号墳）

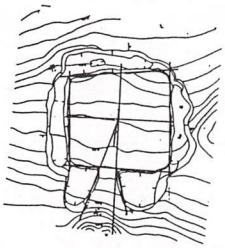


Ⅲ類（南志渡川４号墓）



（石蒔Ｂ８号墓）

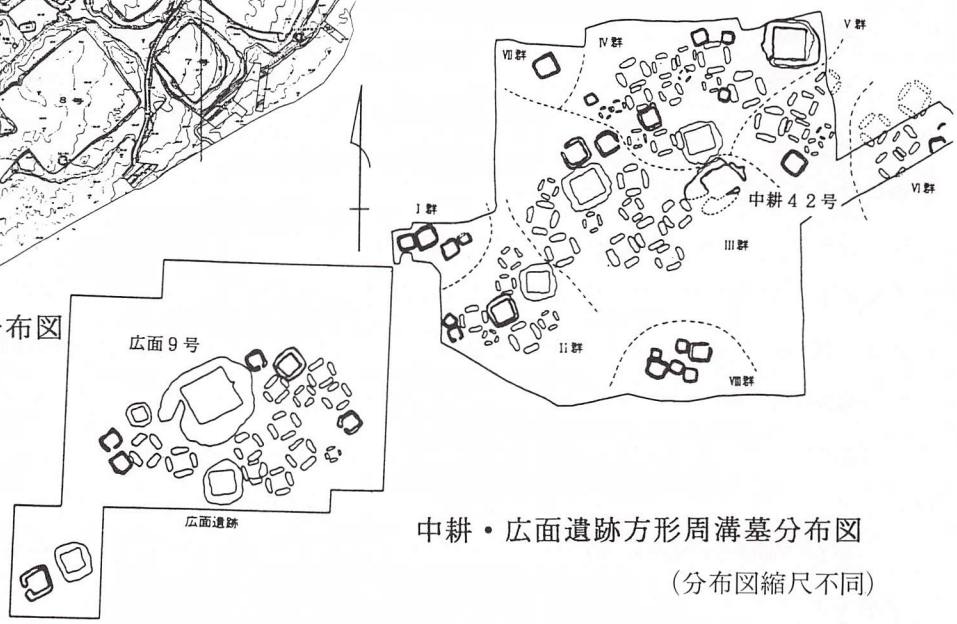




Ⅳ類（塚本山１４号墓）（塚本山３３号墓）



石蒔Ｂ遺跡遺構分布図



中耕・広面遺跡方形周溝墓分布図

（分布図縮尺不同）

１図　遺構及び分布図

ここに東海の編年を対応させると11号を廻間Ⅱ～Ⅲ式に、３・４・７・８号を廻間Ⅲ式前半に、１・６号を廻間Ⅲ式後半・元屋敷（中）とすることができる。（註24）

以上の諸事実からすれば、規模から最低３段階の階層差を、形態と方位から３～４の系譜や出自を、そして、配置や土器論から各層３世代に渡り墳墓を構築したものと理解できる。前方後方型周溝墓の群内における出現については、形態と主軸が異なる11号が前方に構築されている事実がある。８号の坩は１・６号より古いが、11号のパレスとはなかなか比較が困難である。８号を避けて同一系譜の10号が構築されていることから、最終段階で発展的に前方後方型周溝墓が構築されたものではないらしい。

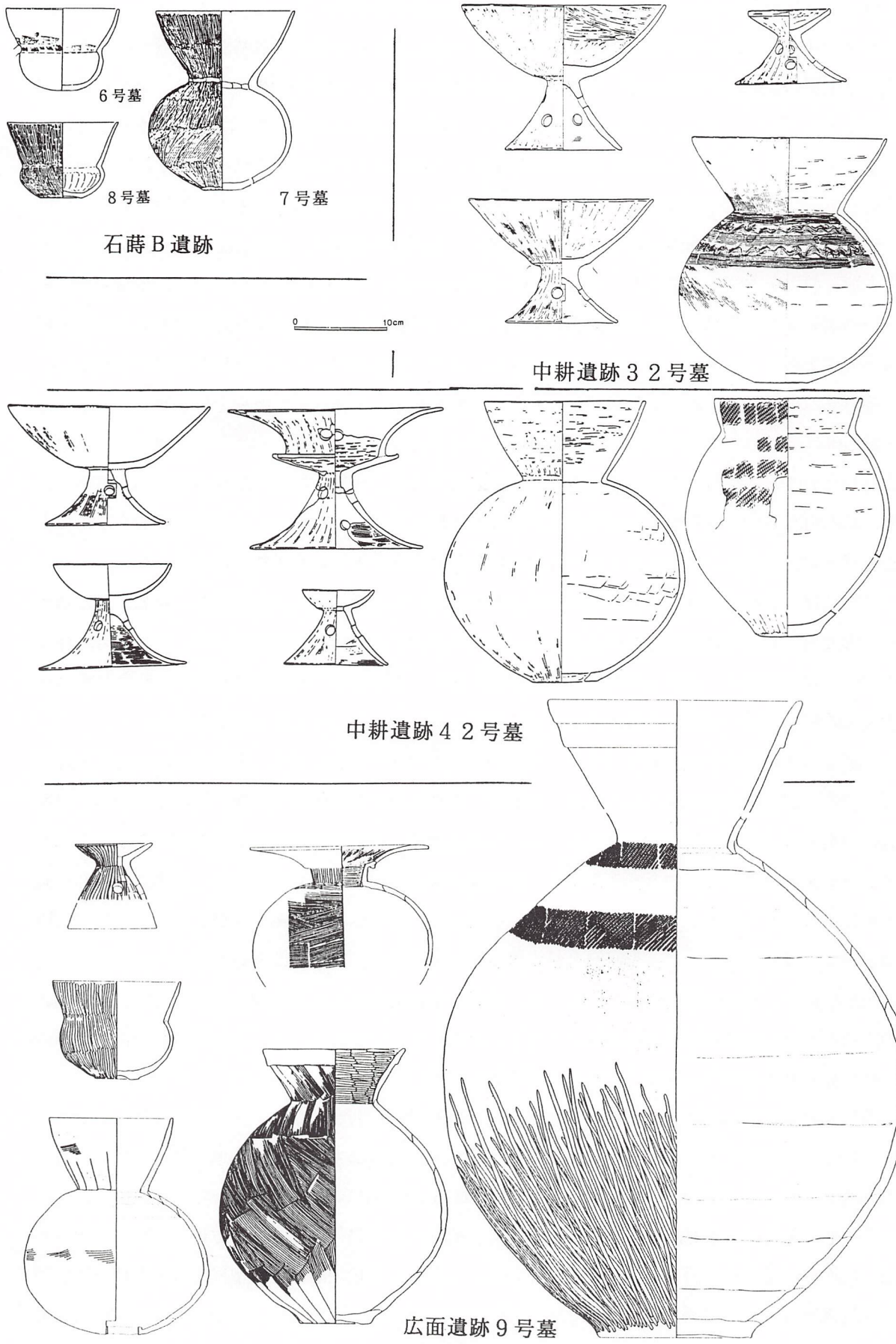
＊中耕・広面・稲荷前遺跡（註25）の分析（１・２図）　越辺川右岸の自然堤防上に立地する３遺跡は隣接し、中耕・広面遺跡は、同一のものとも考えられる。

３遺跡の方形周溝墓は、Ａ類＝長いブリッジを持つ大型３基、Ｂ類＝溝が一周する大型20基、Ｃ類＝同小型41基、Ｄ類＝四隅の切れるもの60基の合計124基から成る。それぞれの規模は、Ａ類の稲荷前Ｂ５号が184㎡、中耕42号が260㎡、広面９号が451㎡とブリッジを持つ大型のものでもその占有面積に差がある。Ｂ類は、最小が72㎡、最大が250㎡、平均的なものが132㎡である。Ｃ類は、最小が20㎡、最大が89㎡、平均的なものが60㎡である。Ｄ類は、最小が17㎡、最大が130㎡、平均的なものが90㎡である。これら占有面積から言えることは、Ｂ類でも大型のものはＡ類の小型なものを凌駕し、Ｃ類とＤ類にあっては、最大・平均値ともＤ類が大きいことがわかる。これよりすれば、Ａ類→Ｄ類への単純な階層差として理解することはできない。これまた、それぞれの集団の系譜や出自にかかる墓制の選択とすることができよう。このことは、中耕63号～68号がＣ類のみで独立して占地し、Ｄ類も遺構が規則的に配置され、一定空間を占有していることからも明らかである。

Ａ類の形態的特徴は、稲荷前Ｂ５号が極めて狭いブリッジを北に開き、広面９号は長方形の方台部を持ちながらブリッジを中央に築くことなく、中耕42号は一見前方後方型を呈しながらブリッジを南に寄せ、左右対称的企画性が見られない。ちなみに、後に述べるように、比企郡では既に吉見町三ツ耕地遺跡（註26）に典型的な前方後方形が出現している。さて、これら諸現象から言えることは、後に土器でも触れるが、極めて在地色の強い集団の墓制として理解できそうである。稲荷前Ｂ５号はブリッジを中央に築くことを知りながらＢ２型を採用せず、その方位までも稲荷前遺跡のＢ類に準じている。広面９号や中耕42号もＣ類やＤ類の方位に従い、墓道の方位や位置も変則的で，これが意味する独特の葬儀が執り行なわれたものと推測される。

遺跡の年代は、Ｄ類の中耕32号墓に３孔２段透かしと４孔１段透かしの高坏、北陸系の装飾器台がある。器台は坏に三角形、脚部に２段透かしを持ち大きく開く形態を示す。４孔１段透かしの高坏が口縁端部に弱いとはいえ稜線を持つこと、３孔２段透かしの坏と脚部の比率、器台の特徴からすれば廻間Ⅱ式４に比定することができる。また、Ａ類の中耕42号墓からは、３孔２段透かしの装飾器台２点に、３孔透かしの高坏があり、32号に比べて坏部が内湾せず直線的に開き、深さも浅くなっており、脚部は張ることはなく大きく開くものである。これより、廻間Ⅲ式２（布留１式）に比定できる。

土器としては、Ａ類～Ｄ類まで在地系の吉ケ谷式土器を伴出する。特にＤ類にはこれが目立ち、



2図　遺構出土土器図

A類の中耕42号墓からも最後の形骸化した吉ケ谷式土器の甕が伴っている。D類を含め、東海系の土器をこれほど供献しながら、在地系の吉ケ谷式土器にこだわるのが本遺跡群の特徴といえる。底部穿孔土器は、広面９号墓を除いて全て焼成後の穿孔である。広面９号墓のものは、全て小型壷で、造出し・コーナー・ブリッジからの出土であり、土器外面の削り手法からして新しくされるものである。これよりしても、A類は群構成の中で新しく出現するものと考えられる。いずれにしろ、群構成にあってはD類を嚆矢とし、B・C類の出現をみて、A類が成立したものと推測される。

＊群構成と墳形の企画性（表１・１図・３図）　北武蔵の遺跡は、立地と分布から、Ⅰ類＝前方後方墳、前方後方墳＋方墳（１～５）、Ⅱ類＝前方後方墳＋方墳＋方墳…（６～10）、Ⅲ類＝前方後方型周溝墓＋方形周溝墓＋方形周溝墓…（11～14）、Ⅳ類＝Ｂ１・Ｂ２型方形周溝墓＋方形周溝墓＋方形周溝墓…（15～18）のように分類できる。以下、諸特徴からその企画性を抽出してみたい。

後方部の平面形は、A辺＞B辺の長方形が一般的である。主体部を中軸線上に埋葬しようとする意識が働けば当然のことである。これに対し、A＜Bの横長の形態は、初めから並置することを目的としたものとされる。後者には、塩２号、南志渡川４号、村後、塚本山33号があり、南志渡川４号、塚本山33号は、取り巻く方形周溝墓が同様の形態を示すことから、この伝統下に成立した後方部の形と考えられる。A＜BはⅡ類～Ⅳ類には見られるが、少くともⅠ類には存在しない。

後方部はAとCが並行し、B＞Dで括部辺がやや短いものが多い。これに対し、Ⅲ類、類に属する南志渡川４号、中耕42号はこの逆である。不正台形をするものに南志渡川４号、中耕42号、塚本山14号、塚本山33号、塚本山38号があり、Ⅳ類に多く、Ⅲ類にも一部確認される。これよりすれば、後方部の平面形は、Ⅳ類一Ⅰ類に向かって長方形化が整っていったものと理解できる。

括部は通常D辺の中央に取り付ける。Ⅲ類の南志渡川４号は左に寄せ、Ⅳ類の中耕42号は右に寄せている。同一遺跡と考えられる広面９号墓が、極端に左に取り付けている。このことから、中耕遺跡の集団は、在地の伝統的思考のもとに、中央主体部への邪気の直接的侵入を防ぐため、中央のブリッジを避けているものと考えられる。前方部の左右対象でないものがある。左側に前方部を張出すE＞Gのものに塩２号、南志渡川４号、中耕42号、塚本山33号があり、塩２号はGがD辺と直角を成す。また逆なものに、石蒔Ｂ８号、塚本山14号がある。さらに、前方部ブリッジが右開きと左開きがあり、多種多様である。これらは、在地の伝統的墓制にある葬列の進行方向等、葬送儀式の規範のもとに設計された遺構形態とすることができる。いずれにしろ、この種のものは、Ⅱ類の一部に見られるものの、Ⅲ類、Ⅳ類に多く確認される。

墳形の設計に当っては、前方部のE辺とG辺の取り付けが問題になる。EとGの延長と中軸線の交点によって分類すると、Bとの交点に結ばれるものに天神山古墳・三ノ耕地１号・２号がある。石蒔Ｂ８号は、Eが中央1/2に、Gは中央で結ばれる。塚本山33号はEが中央で、GがDに当っている。他の全ては、中軸線の中央に交点を置く。要は、前方部の発達した前方後方墳は、奥辺（B辺）に取り、前方部の開きを緩やかにしている。しかし、Ⅲ類の前方後方型周溝墓やⅣ類のB2 型方形周溝墓は、前方部が短いことにより、中央に前方部の非対象性からくる中央1/2交点が生じてくる。Ⅳ類からⅠ類へと規格化が進むが、Ⅲ類、Ⅳ類にあっては固定化された設計図のようなものはなく、Ⅱ類においてさえ、伝統的在地的墓制に規定された不規則なブリッジなどの遺構構造を示

している。

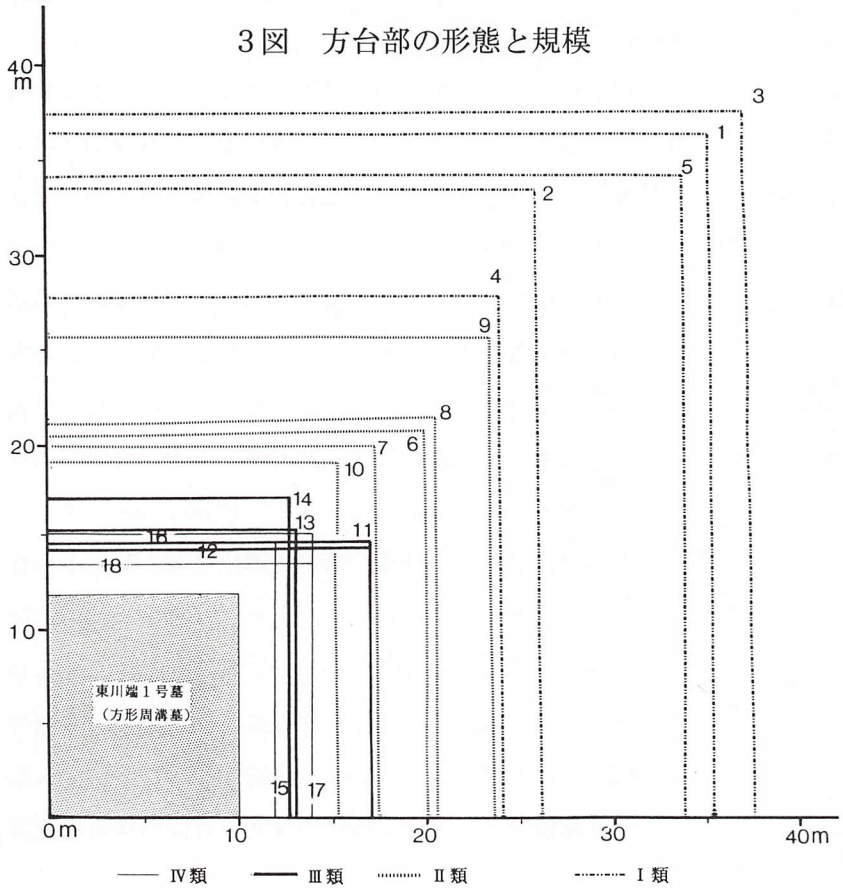
＊遺構の規模（３図）　Ⅰ類～Ⅳ類の全長・面積・盛土量を数値表を参考にまとめると、以下のようになる。ただし、盛土量はⅠ類が山の根古墳、Ⅱ類が塩１号墳と権現山２号墳の平均値、Ⅲ類は墳丘が残るものはない。Ⅳ類は塚本山14号墓の計測値である。

	（全長）最大	最小	平均	（面積）最大	最小	平均	（盛土量）
Ⅰ類	58.8m	51.0m	55m	1822㎡	970㎡	1436㎡	1690㎥
Ⅱ類	48.3m	30.0m	36m	864㎡	413㎡	569㎡	415㎥
Ⅲ類	28.5m	23.0m	25m	319㎡	260㎡	287㎡	－
Ⅳ類	22.0m	17.8m	20m	233㎡	182㎡	209㎡	160㎥

これらから読み取れることは、Ⅰ類とⅡ類との全長の差は1.5倍、面積は2.5倍、体積に至っては実に4.1倍を示す。さらに、Ⅰ類とⅢ類は、全長の差は2.2倍、面積は５倍を示す。そして、Ⅰ類とⅣ類に至っては、全長で2.8倍、面積は6.9倍、体積に至っては実に10.6倍を示す。ちなみに、世帯共同体の有力家長層の墳墓とされる方形周溝墓、東川端１号墓(12.0×10.0m)の盛土は104㎥であり、これとⅠ類との差は実に16.1倍に達する。ここに、族長層を越えた首長の姿を見ることができる。

＊前方部の発達度　後方部長に占める前方部長の割合＝H_2／H_1（表１）は１：２を50%とする。Ⅰ類は、未調査の塚本塚山古墳を除くと57～63%となり、山の根古墳の前方部が最も発達している。Ⅱ類は、三ノ耕地１号の88%が最も発達している。塩１・２号とも70%であるが、塩２号の横長後方部長に対すれば58%を示し、権現山２号の62%と共にⅠ類の数値に近似する。Ⅲ類は、南志渡川４号の75%の数値が高く、石蒔Ｂ８号の43%とその数値の開きが大きい。Ⅳ類は、51%～27%とバラツキが大きいが、塚本山に関しては43%～27%と、前方部の未発達の様子が窺える。

３図　方台部の形態と規模



前方部の発達度は、Ⅰ類では比較的安定した数値が得られるのに対し、Ⅲ類・Ⅳ類での開きが大きい。前方後方型周溝墓から前方後方墳が発達するのであれば、三ノ耕地１号や南志渡川４号の数値の前方後方墳が存在してよいはずである。しかし、これらの遺跡に近い鷺山古墳や山の根古墳で

はこれより25～17%低い数値である。もっとも、三ノ耕地１号に続く２号は63%と、山の根古墳と同値である。

＊遺構の主軸方位（４図）　Ⅰ類は、Ｎ－25°－Ｅの鷺山古墳、Ｎ－23°－Ｅの山の根古墳、Ｎ－19°－Ｗの天神山古墳、Ｎ－42°－Ｗの諏訪山29号墳があり、比較的北位を意識した主軸を持つ。時期不明の塚本塚山古墳を除くと、北を中心に67度の範囲に収まり、これはⅡ類とほぼ同じ数値を示す。

Ⅱ類は、権現山２号墓がＮ－24°－Ｅ、三ノ耕地１・２号墓がＮ－32°－Ｅで、塩１号がＮ－37°－Ｗ、塩２号がＮ－45°－Ｗと北を分けて２群に分かれる。

Ⅲ類は、石蒔Ｂ８号がＮ－54°－Ｅ、村後がＮ－70°－Ｅ、志渡川４号がＳ－61°－Ｅ、中耕42号がＮ－36°－Ｅと、その方位にバラツキが目立つが、前面溝の確認されていない中耕42号墓を除くと、Ｅを中心に65度の範囲に収まる。

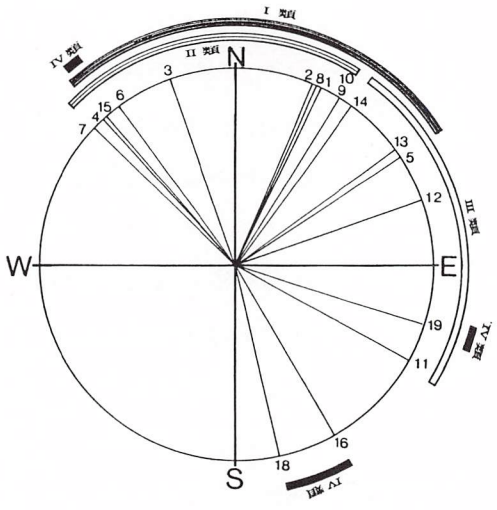
Ⅳ類は下道添２号墓がＮ－41°－Ｗ、塚本山38号がＳ－30°－Ｅ、塚本山14号がＳ－72°－Ｅ、塚本山33号がＳ－12°－ＥとⅢ類よりバラツキが目立ち、北方位の意識は見られない。これらは前方部としての認識すらなく、ブリッジは単なる墓道として意識されていたようである。Ⅰ類・Ⅱ類以外は、在来の墓制の強い伝統のもとに、その方位を規定されているものと考えられる。

＊遺構の年代と変遷（２・５図）　ここで扱う遺構に伴う土器の年代については、本館が調査に当った成果を「研究報告」（註27）に利根川章彦氏が、『埼玉県古式古墳調査報告』（註28）で坂本和俊氏が一部ふれており、おおまかには、これらに従い論を進め、遺構の変遷を把握していきたい。

Ⅰ類の鷺山古墳には、焼成前に底部と口縁に円孔を持つ壷と埦、それに面部に２段の竹管文を施す手焙形土器が見られる。埦形土器を北作１号墳（註29）のものと手焙形土器を、弘法山古墳（註30）に類似したものとすると、廻間Ⅲ式１段階とすることができる。

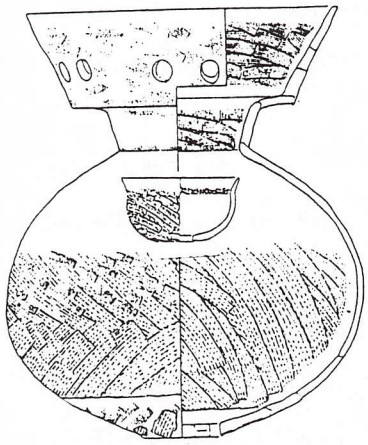
山の根古墳からは、括部から、坏部が深く脚部の高さと同値を示す２段円孔の高坏が出土している。これは、口縁部が内湾せず直線的に開き、外端部に弱い稜を有する。欠山期の口縁内端部のような稜は描かないが、大型有稜高坏として坏端部にシャープさを保持している。脚部が大きく開き、千鳥式穿孔や口縁端部の特徴から、廻間Ⅱ式４～Ⅲ式１段階とすることができる。

４図　遺構の主軸方位

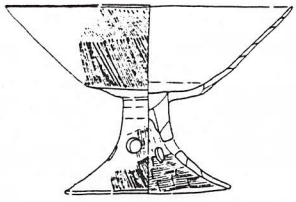


諏訪山29号からは、大廓式土器、有段口縁壷形土器、器台形土器などが出土している。壷形土器は、口縁外端部に面を持ち、頚部に三角凸帯を貼付け、口径が胴径を凌駕する口縁の発達した形態を示す。焼成前の穿孔である。器台脚は内湾し薄く、端部はシャープで、外面は横篦磨きを施す。壷形土器に口縁の装飾や三角凸帯にキザミが見られないことから、茂原愛宕塚古墳（註31）のものより後出とし、器台はやや古くなるが、廻間Ⅲ式２段階・布留１式平行期としておく。Ⅰ類の時期は、廻間Ⅱ式４～Ⅲ式２段階とすることができる。

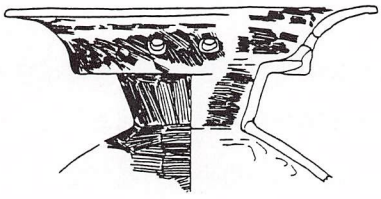
Ⅱ類の塩１号には、焼成前穿孔の有段口縁壷形土器



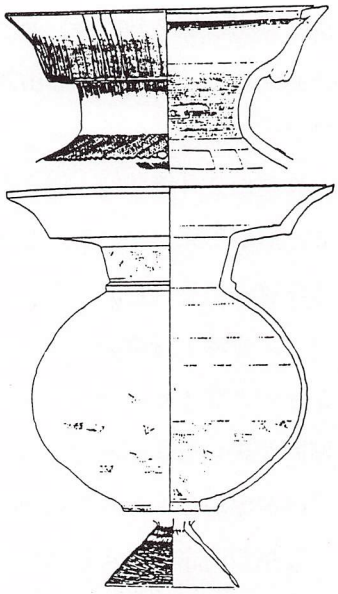
鷺山古墳



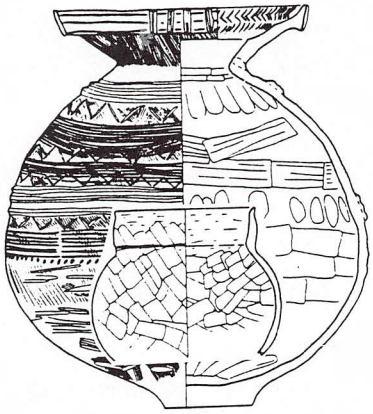
山の根古墳



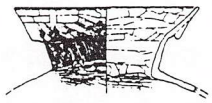
塩１号墳

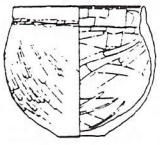


諏訪山２９号墳

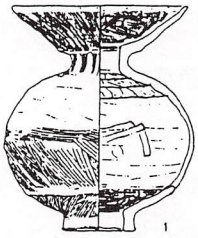


志渡川４号墓



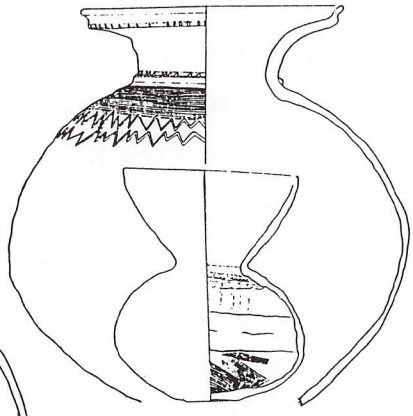


塩２号墳

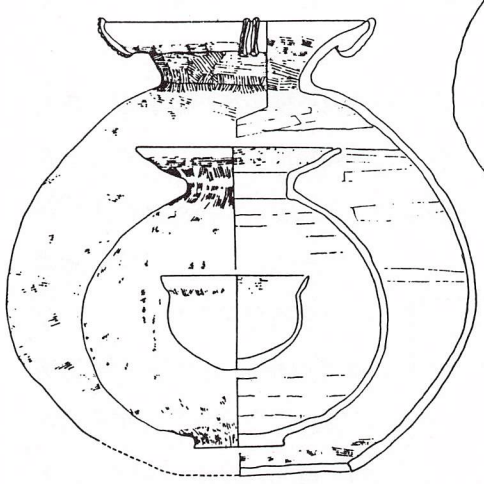




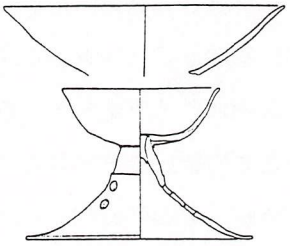
権現山２号墳



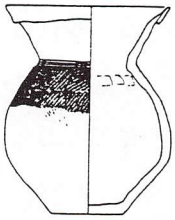
村後墓

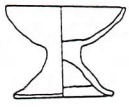


塚本山３８号墓

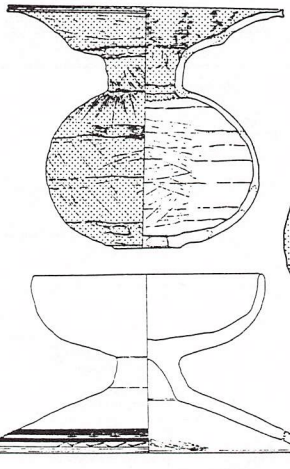


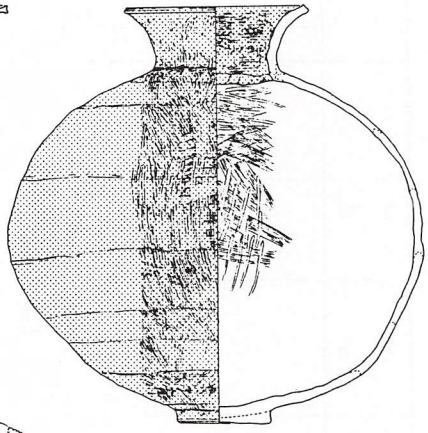
塚本山１４号墓





塚本山３３号墓





下道添２号墓

5図　遺構出土土器図

が、後出の塩２号には、壷と鉢形土器がある。塩１号の壷形土器は、鷺山古墳の壷と同様に口縁に円孔を設け、頚部は諏訪山29号より長く発達しているが、熊野神社古墳の有段口縁壷形土器ほどではない。東海との比較資料に乏しいが、廻間Ⅲ式３～４段階としておく。

権現山２号墳には、焼成前穿孔の有段口縁壷形土器とパレス壷がある。パレス壷は連弧状の波状文を肩部に施している。これを廻間遺跡のＳＢ49（註32）に類例を求めれば、廻間Ⅱ式２段階前後に位置付けることができる。

三ノ耕地１号墳からは、大型有稜高坏が見られる。坏部は深くやや内湾し、内端部に稜線を描くシャープな造りを示し、脚部は幾分張りぎみで裾で開き、４孔２段透かしである。これよりすれば、廻間Ⅱ式２段階前後とされ、明らかに山の根古墳の高坏より古く編年される。三ノ耕地２号墳は、その占地から１号の後に構築されたものである。

Ⅲ類の南志渡川４号墓にはパレス壷がある。口縁内面に、乱れてるとはいえ３段の羽状文、肩部と胴部に３条の凸帯、さらに山形文と横線文を交互に４回施す。口縁には４単位の棒状浮文を付け、いまだ下膨れの器形を保っている。これより、廻間Ⅱ式３段階前後とされる。

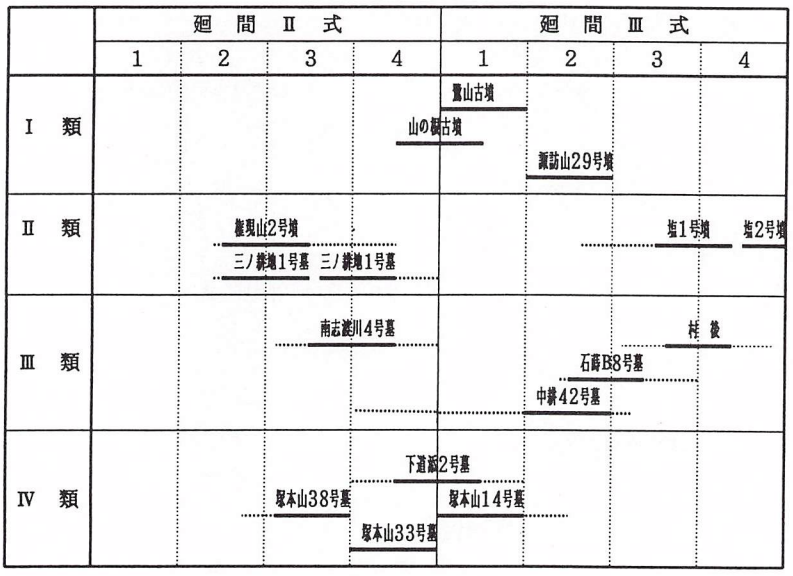
村後遺跡には、退化したパレス壷、小型壷などがある。頚部に凸帯を持つとはいえ、すでに三角を呈することなく、山形文も乱れている。廻間Ⅲ式３～４段階としておく。

石蒔Ｂ８号墓には（２図）坩形土器がある。口縁が高く体部肩が張り底が上がり、外面は縦方向の丁寧な篦磨きを施し、古相を示す。廻間Ⅲ式２～３段階としたい。

中耕42号墓からは（２図）、大型高坏、装飾器台、小型器台などが出土している。高坏は、口縁端部が丸く収められ外方に大きく開く。山の根古墳のものと比べると、後出的要素が多い。装飾器台は脚に３孔２段、坏部に三角と円孔透かしの両者がある。廻間Ⅲ式２段階前後としておく。Ⅲ類は、廻間Ⅱ式３～廻間Ⅲ式４段階まで存続したことがわかる。

Ⅳ類には、下道添２号墓がある。有段口縁壷、複合口縁壷、素口縁壷、小型高坏、器台など畿内系色彩の強い土器が見られる。有段口縁壷は外面に明瞭な稜をなし、口縁端部は上下に鋭くつまみだされ、その外面に凹部が造られる。素口縁壷も口縁端部は同様な造りを成す。小型高坏は浅い坏と、内湾ぎみに大きく開く脚端にヘラ文様が見られる。これらの要素は纏向辻４号土壙下層（註33）に見られる。布留式古段階、廻間Ⅱ式４～廻間Ⅲ式１段階に比定されよう。

6図　遺構変遷図



塚本山38号墓からは、複合口縁で棒状浮文をつける底部穿孔の壷に、坩形土器の祖形と考えられる鉢形土器がある。鉢は、纏向遺跡鉢Ｄ類に属し、鷺山古墳より古相を示す。廻間Ⅱ式３

段階とする。

同14号墓からは、口縁端がシャープで大きく開くものと、３孔２段透かしで坏の小さい高坏がある。廻間Ⅲ式１段階前後とする。同33号墓には、複合口縁で頸部に簾状文、肩に縄文を施す在地産の壷、脚部のやや張った小型高坏がある。年代決定の要素に欠けるが、廻間Ⅱ式４段階としておく。Ⅳ類は、廻間Ⅱ式３～廻間Ⅲ式１段階とすることができる。

４）まとめ

これまで諸要素の分析と若干の考察を進めてきたが、さらに論を加えてみる。

前方後方型周溝墓に関連して、石蒔Ｂ遺跡や中耕遺跡などから導き出せることは、その属する階層性は、遺構の規模と形態から少なくとも３段階以上に分れる。石蒔Ｂ遺跡では、その主軸の方位と配置から、それぞれが３時期（３累代）にわたり構築されていた。そして、群内での前方後方型周溝墓の出現時期は当初ではなく、それでも早い時期に、そこの最高権力者の墳墓として成立し、次期に後継者が続いている。これは南志渡川遺跡でも同様な事象を示す。

一方、中耕遺跡などでは、群の終盤に大型方形墓を含む前方後方型周溝墓が出現している。これらからすると、決して、前方後方型周溝墓の被葬者が頂点に立って、突如入殖したものではない。このことは、中耕遺跡の在地系土器の在りかたや、四隅の切れる方形周溝墓の存続時期、加えて、Ⅱ類に匹敵するような占有面積451㎡の大型方形周溝墓の広面９号墓が、在地の伝統的形態に固執していることからもわかる。たとえ、中耕４２号墓が前方後方型周溝墓を採用しても、右偏りの墓道形態を採用せざるえない、伝統的規制が強くはたらいていたことを窺わせる。

調査された前方後方墳の後方部は、全て主軸に沿った長方形である（３図）。しかし、Ⅲ類の前方後方型周溝墓にあっては、横長台形・横長長方形・長方形が存在する。Ⅰ類の前方後方墳とⅢ類の前方後方型周溝墓との中間階層にあるⅡ類には、横長長方形・長方形・方形がある。Ⅲ類からⅠ類への形態的変遷は、確実に縦長長方形と左右対称の規格化へと思考されている。横長方台部が複数並列埋葬を予定したのに対し、縦長長方形は単独埋葬が想定され、支配者層が専制化の方向へと歩みだした事象とされ、ここに階級制の成立をみるものと考える。

ところで、農耕技術の発展段階によって可耕地は異なる。弥生後期の磨製石斧の激減は、とりもなおさず、鉄器の普及を意味する。弥生中期の強湿田中心の限定された耕地から、後期の半湿田やより生産性の高い自然堤防上の乾田への耕地の拡大は、自ずと土地の占有意識の高揚を促進することになる。この経済基盤の基層こそ葬制に反映するものである。

東国の弥生中期の方形周溝墓の規模には、さほどの格差は見られない。これが顕著に現れるのは後期も後半になってからである。ここで扱う時期もこの延長にある。

前方後方型周溝墓の平均的全長は、前方後方墳のそれの2.2倍で、占有面積は実に５倍である。方形周溝墓の東川端１号墓と前方後方墳とでは12倍である。盛土の容積は、Ⅳ類の塚本山14号墓と山の根古墳とでは実に10.6倍で、東川端１号墓とはなんと16.1倍である。方形周溝墓を世帯共同体の有力家長層のものとすれば、55mの前方後方墳の被葬者は、少なくとも16以上のこの家長層を束ねたことになる。ちなみに、比企においては、吉見丘陵に山の根古墳、松山台地に天神山古墳、高坂台地に諏訪山29号墳が築造されており、それぞれが至近距離にある。山の根古墳と諏訪山29号墳

の間に、仮に天神山古墳が編年されるとすれば、吉見町を含めた東松山市域100㎢で、50mクラスの前方後方墳が存立していることになる。

さて、前方後方墳は前方後方型周溝墓から、在地で系統的に発展成立するものであろうか。両者の規模こそ違え、前方部の発達した前方後方型周溝墓がある。

南志渡川４号墓は前方部が後方長の75%で、時間的にこれに続く鷲山古墳のそれは58%である。鷲山古墳は、纏向型前方後円墳の１：２に近く、南志渡川４号墓の前方部は、発達した前方後方墳の比率である。距離的にも近い両者にあって、南志渡川４号墓の被葬者の系譜が鷲山古墳を築造したのであれば、当然これに近い比率の墳形を採用するはずである。まして、後の前方後方墳の形態が、南志渡川４号墓的比率であれば、なおさらのことである。形態的には、南志渡川４号墓（前方後方型周溝墓）から鷲山古墳（前方後方墳）への系統的発展はなさそうである。このことは、鷲山古墳の土器がより畿内的であり、その墳形にバチ型を採用していることと関連しようか。

同様な事象として、三ノ耕地１号墓と山の根古墳の関係も注目される。三ノ耕地１号墓は山の根古墳の眼下の自然堤防上に立地し、土器編年上も近接する。前者の前方部は88%でかなり発達しており、後者は63%でこれに比べて前方後方墳のものは短い。もっとも、１号墓に続く三ノ耕地２号墓は63%で、山の根古墳と同値を示す。これよりすれば、三ノ耕地１号墓から山の根古墳への発展は形態的には説明がつかない。むしろ、２号墓で前方部も規模も縮小した段階のものから、山の根古墳は成立したのであろうか。三ノ耕地２号墓の土器論の検討を待って結論を導きたい。

縮小現象の事例として、破鏡を出したことで著名な高部遺跡（註34）がある。高部32号墳から30号墳への変遷でも、79%から51%と減じている。高部30号墳は神門４号墳に近い時期で、纏向型前方後円墳の１：２の数値を示す。このことは、箸墓古墳以前の政権を容認すると、これと東国との関係を理解する上で無視できない事象である。

バチ型構造を示す鷲山古墳や山の根古墳の前時期の墳墓との関係は、３世紀後葉の社会にあって、基層文化としての前方後方型周溝墓と、新たな社会変革をもたらすことになる政治機構の、２層がとりなす現象ともいえる。

土器の検討から、前方後方型周溝墓と前方後方墳は、廻間Ⅱ式２段階からⅢ式４段階にかけて構築されていることが判明した。畿内の編年でいえば、庄内式新段階から布留式中段階にかけてである。山の根古墳を廻間Ⅱ式４段階に、さらに、前方部の極めて発達した、全長48mの三ノ耕地１号墓を前方後方墳とするならば、その時期は廻間Ⅱ式２段階（庄内２式）（纏向３式古）に比定されることになり、このことは、北武蔵にも確実に３世紀後半には前方後方墳（古墳）が成立していたこととなる。

遺構からの土器は、下道添２号墓のように畿内系が、中耕遺跡のように在地系の多いものとがあるが、当然、基層文化遺物として東海系と北陸系土器がこれに加わる。東海系土器の流入は弥生後期を通していえることであり、社会変革の活発化した３世紀後半には、当然土器の動きも頻繁になるはずである。これをもって、武力集団を含む人間の大量移動を想定するのは危険である。

要は、狗奴国の基層文化としての各種方形周溝墓や前方後方型周溝墓の頂点として、Ⅱ類の群集型が在地の中から醸成されるのであるが、これが前方後方墳として独立するには、外因的要素を含

めた諸要件が加わる必要がある。その要因として、内部的には、中耕遺跡の124基以上の方形周溝墓の存在が示すように、活発な耕地の拡大があり、そこでは鉄器の確保と技術者が要求される。これに答えるべく対外交渉にあたる首長の出現が望まれることになる。これに加え、３世紀後半は、東海勢力の加わった畿内政権の再編成時期にあたり、早くから伊勢湾文化に馴染んでいた東国もこの動きにさらされることになる。在地族長が内因的外因的要求に立ち向かった結果、首長としてその階級制に高揚した事象が、まさに、前方後方墳（古墳）の成立である。

さて、これまで墳墓の形態の規格化、特に後方部の長方形化・前方部側線の中軸線中央または奥辺（Ｂ）への集中化と左右の対称性、また、主軸方位の北への集中化、規模における全長や盛土の増大化などをもって古墳成立の事象としてきた。墳墓の規格化は、勿論、葬送思想の高揚化へと進展するわけであるが、加えて、その共有性は首長層の同盟連合意識を醸成し、一層首長間の物流が容易になり、盛んになったものと考えられる。これにより、もたらせることになる人的交流による技術や物資の移動、これに伴う文化や思想の影響は大きい。これを一手に首長が掌握し、地域開発や支配に利用したものと考えられる。古墳築造に際し、ここに労働提供する民衆は、その対価として農工具などを貸与され、一部再分配として還元されるとはいえ、古墳築造のうまみは、交易権を掌握することで常に首長層が享受していたのである。ここに、階級制の成立と意義がある。

首長権の性格や構造は、副葬品や主体部が不明な今日、論述しにくい。それでも、気掛かりな事象がある。それは、前方後方墳に隣接して方墳らしきものが対で存在する現象である。

Ⅰ類の山の根古墳には山の根２号墳が、鷺山古墳には前方部主軸線上に古式土師器片を出土した10m程の古墳が、諏訪山29号墳には、後方部延長線上に浅間神社古墳がある。

Ⅱ類の塩１号墳の後方部後方には方墳が、塩２号墳の前方部の前方には方墳が築造されている。これらの古墳については調査例がなく前方後方墳との時期的検討ができない。ところが、山の根１号墳と２号墳の規模をみると、１号墳の後方部の長辺33.6m、短辺26.2mに対し、２号墳は長辺28m、短辺22mの長方形を呈し、１号墳後方部の各辺の83%を占め相似形を成す。このことは、２号墳は１号墳の後方部と同一規格のもとに構築されたものとされる。

時期に関しては、鷺山古墳のそれが古式土師器片を伴うことを重視し、墳形に関しては塩２号墳の例を加えると、前方後方墳と対になる墳形は方墳で、時間的には両者は近く、同一規格を示すことから、前方後方墳の被葬者と極めて関係の深い人物の墳墓であることが想定される。

このような配置を示す古墳群としては、本県だけの事象ではなく、千葉県駒久保６号墳と方墳（註35）、大井戸八木15号墳と方墳（註36）や栃木県茂原愛宕塚古墳・大日塚古墳（註37）にもあり、各地に散見する。これは、東国における前方後方墳成立期の共通した現象であろうか。両者の調査を待って結論を出すべきであるが、危険を冒し、あえて触れてみる。

まず、対の現象は、次元的にはⅢ類の先に述べた前方後方型周溝墓の石蒔Ｂ８号と９号墓に見られる。これは、前方後方型周溝墓を導入した際に、既に両者が一体で支配構造を成す機能を付加していたとも想定される。この墳形が方形周溝墓より、より高次元の機能を有した墓制として導入されたことを意味しようか。

対の機能として、卑弥呼と男弟の関係を想定している。ようは、支配機構の問題である。弥生時

代の支配構造にあって、祭りの機能には大きいものがあった。ところが、古墳時代にあっては、首長の集団から期待される機能は大きく変わり、首長連合の証しとしての前方後方墳を造り、結果として対首長間の交易を体現する機能にたよらざるをえない社会状況になった。ここに、祭りと政りごとに大きな変化が生じ、より政治的機能を要求されるにいたった。たぶんに方墳の被葬者は祭りに、前方後方墳は政りごととしての機能を発揮し、地域的政治社会を体現リードしていったものとみられる。

祭りと政りごとの体現者の埋葬施設として方墳と前方後方墳とを考えたが、前方後方墳に両者が埋葬される可能性もある。これは、副葬品の内容によって分離が可能であろうが、良好な資料に恵まれない。出自の異なる両者の場合は前方後方墳と方墳として存在し、より前方後方墳の被葬者と親縁関係が深い人物が祭りを司った場合には、同一古墳に埋葬される事例もあったものと予測している。この対の関係は、前方後円墳の出現によって解消されるようである。このことは、いわゆる『前方後円墳体制』（註38）による政りごとの性格の強い新たな墓制の創出にある。これらの事象からも前方後方墳の性格をより在地的で政治性の未成熟な墓制として規定することができる。

最後に、各地の前方後方墳成立後の墳形と規模を取り上げる。児玉地域では、鷲山古墳に続く古墳は径47mの物見塚古墳とされているが、いまひとつ墳形が明らかでない。この地域では、少なくとも３期から７期までの前方後円墳は今のところ確認されていない。この間の４世紀後半から５世紀前半にかけて、菱雲文縁方格規矩鏡を出土した径50の長坂聖天塚古墳（註39）・直刃鎌を出土した円墳の前山２号墳（註40）・格子目タタキの埴輪を伴い、葺石が見られる径67mの金鑽神社古墳（註41）・同様な埴輪と直刃鎌の石製模造品を持つ径65mの公卿塚古墳（註42）・径60mの生野山将軍塚古墳（註43）と、大型円墳が続いて築造される。確かに70～60m級の円墳の盛土量は100m級の前方後円墳のそれに匹敵するものであるが、ついに前方後円墳は現れない。この現象を、格子目タタキや生野山将軍塚古墳の幅広い竪穴式石室の形態、金鑽神社古墳の箱式石棺や大型の石製刀子から渡来系集団の関わりを強調する立場と、畿内政権による墳形の規制（註44）とする両者の考えがある。本論で扱っている時期よりやや時代が下がった事象の解釈であるが、これは、在地勢力が前方後円墳を含め墳形を採用する際の、在地共同体に対処する内的要因と外的政治状況を現しているものと考えられる。

一方、比企地域にあっては、諏訪山29号墳の後に、全長61mの諏訪山古墳（註45）が３期の前方後円墳として出現するようである。続く４期には初出の埴輪と葺石を持つ、武蔵最大の帆立形前方後円墳である全長84mの雷電山古墳（註46）が、その後Ｂ種ヨコハケを持ち短甲が出土したとされる大型円墳諏訪山33号墳（註47）が構築される。加えて、全長115mの野本将軍塚墳（註48）が埴輪を持たないことと、その墳形から、雷電山古墳以前に位置するものであれば、北武蔵においては、４世紀から５世紀中葉にかけての比企の優位性は明らかである。

前方後方墳成立に引き続き前方後円墳が構築されたここに、前期比企地域政権とも言うべき政治構造の醸成が見られる。これを受け、辛亥銘鉄剣が示す河内政権の影響の強い後期埼玉政権が成立するものと考えられる。稲荷山古墳成立の要因を含め、両政権の関係は北武蔵の古代史上重要課題であるが、本論から外れるので別稿で触れることにする。

本題の前方後方墳成立の要因については、必ずしも十分な論証はできなかったが、武蔵・相模を見渡しても、前方後方墳の集中するのは比企地域である。そして、ここに前期比企地域政権の存在すら想定させた。児玉地域と異なり、いち早く前方後円墳が出現するのもこの地である。遺構の数から推測するのは早計かと思われるが、前方後方型周溝墓の数と前方後方墳の数は、必ずしも比例するものでは無く、その系統的発展の可能性は少ない。前方後方墳成立の要因は、初期畿内政権の動向に加え、すぐれて、在地勢力の内外に対する政治的判断によるものとされた。勿論、墳形の採用にあっては、弥生後期において東海からの基層文化があってのことである。

本稿を草するに当たり、弓　明義氏には三ノ耕地遺跡、鳥羽政之氏には石蒔Ｂ遺跡、宮島秀夫氏には天神山古墳の資料の便宜を図っていただいた。また、古式古墳に関しては坂本和俊・田口一郎両氏及び諸墨知義氏に数々の教示を賜った。ここに改めて深く感謝致します。

【註】

註１　寺沢　　薫　　1988　「纏向型前方後円墳の構造」『考古学と技術』同志社大学考古学シリーズⅣ
註２　大護　八郎他　1956　「大宮公園弥生時代竪穴住居跡発掘及び復元報告書」埼玉文化会館
註３　横川　好富　　1963　「北葛飾郡庄和村権現山遺跡」台地研究N013　台地研究会
註４　国学院大学考古学会　1964　「弥生終末期文化展」『若木考古』73号　国学院大学考古学会
註５　佐藤　忠雄　　1979　「後榛沢遺跡群（石蒔Ａ・Ｂ遺跡）の調査」『第12回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会他
註６　坂本　和俊　　1981　「埼玉の前方後円墳」『歴史手帳』９巻５号
註７　増田　逸朗他　1986　「諏訪山29号墳」『埼玉県古式古墳調査報告書』埼玉県史編さん室
註８　坂本　和俊　　1986　「鷲山古墳」『埼玉県古式古墳調査報告書』埼玉県史編さん室
註９　利根川章彦　　1994　『埼玉県古墳詳細分布調査報告書』埼玉県立さきたま資料館
註10　註９に同じ
註11　面径10.5cmの仿製鏡。６個の花文、外区は櫛歯文帯、有節平行線帯、鋸歯文帯の広い平縁の１/２程の破片。破鏡であるかは不明。他に刻み目のある銅釧３点がある。なお、この形態の銅釧は一般的に後期古墳から多く見られるものである。
註12　青木　義脩　　1974　「大久保古墳群」『浦和市史』１巻・考古資料編
註13　新井　　端　　1995　「埼玉県大里郡江南町塩古墳群」日本考古学年報46　日本考古学協会
註14　註13に同じ
註15　笹森　健一　　1983　『埋蔵文化財の調査（Ⅴ）』郷土資料第29集　上福岡市教育委員会
註16　若松　良一　　1991　「根岸稲荷神社古墳」『古墳詳細分布調査概報１』埼玉教育委員会
註17　岡本　幸男　　1982　「美里町志渡川遺跡群の調査」『第15回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会
註18　細田　　勝他　1984　『向田・権現塚・村後』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第38集
註19　坂野　和信　　1987　『下道添遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第67集
註20　増田逸朗他　　1977　『塚本山古墳群』関越自動車道関係埋蔵文化財発掘報告Ⅵ　埼玉県教育委員会
註21　赤塚　次郎　　1992　「東海系のトレース」『古代文化』44－６　古代学協会
註22・註23は註20に同じ
註24　赤塚　次郎　　1990　『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター
註25　杉崎　茂樹他　1994　『中耕遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第125集
　　村田　健二　　1990　『広面遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第89集
　　富田　和夫　　1994　『稲荷前遺跡（Ｂ・Ｃ）』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第145集
註26　担当者の弓　明義氏より現地説明会資料の提供及び土器の実見、遺構の説明も受ける。

註27　利根川章彦　1995　「吉見町山の根古墳の年代について」『調査研究報告』8号　埼玉県立さきたま資料館
註28　註８に同じ
註29　糸川　道行　1994　『沼南町北ノ作１・２号墳発掘調査報告書』千葉県文化財保護協会
註30　直井　雅尚　1993　『弘法山古墳出土遺物の再整理』松本市教育委員会
註31　久保　哲三　1990　『下野茂原古墳群』宇都宮市教育委員会
註32　註24に同じ
註33　石野　博信他　1976　『纏向』橿原考古学研究所
註34　小沢　洋　1995　「高部古墳群」『前期前方後円墳の再検討』埋蔵文化財研究会
註35　酒巻　忠史　1991　「駒久保古墳群の調査（１）」『研究紀要Ⅳ』（財）君津郡市文化財センター
註36　能城　秀喜　1993　「大井戸八木遺跡」年報№11（財）君津郡市文化財センター
註37　註31に同じ
註38　都出比呂志　1989　「古墳が造られた時代」『古代史復元　６　古墳時代の王と民衆』
註39　菅谷　浩之他　1975　「美里村長坂聖天塚古墳の調査」『第８回遺跡発掘調査報告会発表要旨』
埼玉考古学会他
註40　小久保　徹他　1978　『東谷・前山２号墳・古川端』埼玉県遺跡発掘調査報告書　第23集
註41　佐藤　好司他　1986　「金鑽神社古墳」『埼玉県古式古墳調査報告書』埼玉県史編さん室
註42　柳田　敏司　1963　「本庄市公卿塚と石製模造品」『埼玉考古第１号』埼玉考古学会
註43　柳田　敏司　1964　「埼玉県児玉郡生野山将軍塚古墳発掘調査概要」『上代文化』第34号
国学院大学考古学会
註44　小野山　節　1970　「五世紀における古墳の規制」考古学研究第36号　考古学研究会
註45　金井塚良一　1968　『諏訪山古墳群』考古学資料刊行会
註46　佐藤　好司　1986　「雷電山古墳」『埼玉県古式古墳調査報告書』埼玉県史編さん室
註47　若松　良一　1987　「比企の大首長と武蔵国造」『諏訪山33号墳の研究』
註48　金井塚良一　1979　「比企の前方後円墳―北武蔵の前方後円墳の研究（１）―」
埼玉県立歴史資料館研究紀要　第１号

感覚のフォークロア　―不潔意識と時間感覚について―

斎　藤　修　平

はじめに

フィールドワークと称して町や村を訪れ、そこに暮らす人たちの日常生活にできるだけ迫ってみようという営みを繰り返していると、いつまにか装着されてしまった商売上のホスピタリティーや、「これ（この出来事）は民俗なのか、あるいはそうでないのか」ということを巧みに識別する自身のまなざしが気になってくる。自分自身は、固有のまなざしで対象を見て、測っているつもりになっているが、実際には近年の民俗学が求めたと思われる、基準化された大きな枠組みからは、そうそう逸脱していないことになっており、これは「まづい」という気持ちから調査ではいきおい自分にとっての新しい民俗探しをというような気持ちでインタビューを実施することになる。先般、久しぶりにここしばらく調査でご協力願っている入間郡毛呂山町を訪れて、衛生感覚や時間感覚といった、変化した感覚（改良された感覚）をめぐっての課題を追求してみたので報告しておきたい。

いささか私事にわたっての話題で恐縮だが、少しばかり離れたところの梨園に六年ほど前に長女を連れて梨狩りに行ったときの事件を伝えたい。いわゆる観光梨園で、長女が用足しをしたいというので、筆者は梨園の隅にある便所に連れていったのである。さすがはお客商売と思うぐらい、便所の清掃は行き届いて便器もその周りも雑巾がけされており汲み取り式ではあったがそれなりに好感を持つことができた。しかし、何故か長女は便所を覗いた途端に出てきてしまった。汚いとか臭いというようなことで、言ってみればショックを感じたようである。この感覚差は理解はできるものの、近くに用足しする場所がここにしかない以上は飛び出してくるほどののことではないな、とも思ったわけである。切羽詰まったときだったから、便所の伝統を教えるつもりもなかったが、「きれいなトイレだと思うよ」とだけは述べた。が、水洗トイレしか使用したことのない子どもにとっては筆者の言葉は理解を越えていたわけで、仕方なく急いで梨園を出て近くのガソリンスタンドに連れて行って、事件の解決をみたわけである。水洗トイレが普及して、それに慣れてきてはいるが、筆者は多少の異和感を押さえておけば、郷愁の感覚から汲み取り式便所に戻ってはいける。長女は当たり前だけど戻っていけるところだなんて思ってもいない。この感覚差を理解するには、生理的、本能的なものだ、といった単純なものいいで解決すべきことではないようだ。多分、この差異は社会的な文脈の上で理解していくことが必要なんだろう。

筆者だってインタビューを受ければ「昔の便所は今のと比べれば確かに不潔だったと思う。でも、それに慣れ親しんでいた子どものころには特別に嫌な感覚はなかったし、あったとしてもどうにもならない時代だったから」という風に答えるだろう。でもあの汚い汲み取り式便所を汚いと感じたのは、水洗トイレという世界に出会った以降に生まれた感覚ではなかったか、というのが感覚差を問題にしたくなった理由である。便所の不潔と清潔を区画する線分のはじまりはどこからなのか気になり、清潔という感覚の誕生後に不潔という感覚が誕生したんだ、というようなことを家に戻っ

てから長女に語ってみたがもちろん、こういった論議も当時の長女はまったく受つけてはくれなかった。

そんな事件以降、筆者が実施しているフィールドワークの課題の一つに「不潔（意識）の誕生」というものがある。朝シャンをはじめとした清潔志向（不潔の囲い込みと排除）というベクトルのはじまりと行く末を考えていく上でも、いつごろから不潔という感覚が意識の上に立ち現れたのかを調べるおくことも大切なことかな、と思ったからである。調査地に暮らす何人かの方々から不潔あるいは衛生をめぐるコメントを集めてみた。人々の不潔意識とはどのような時刻に、どのような政治性の下（少し大袈裟かな）で登場してきたのかを考えてみたいと思っている。この小論では、スケッチ程度のものであるがこの領域の可能性の検討という点を訴えておきたいと思う。

それから、数年前のことだが、この町の人たちと一緒に海外に旅行したときのことである。集合時間に少しでも遅れると、口やかましく注意する方がいた。いわゆる時間厳守という姿勢である。その時の光景が印象に残り、やがてこの町の時間感覚というものが気になりはじめたのである。町の人たちと時間について会話を交わしていくと、毛呂時間とか川角時間（あるいは玉林寺時間）などと時間の前に旧村名や字名をつけて、自分たちの時間感覚をいささか自嘲ぎみに振り返りながら説明してくれるが多いことに気がついた。「つい、近年まで会合の時になると時間（定刻）に集まるのは半分強で、遅く行くのが美徳というような感があった。このごろでも任意の会合では遅れる人がいる。特に農家の人に多い。昔は偉い人が遅いといったが、この頃は偉い人は大体時間を守っている。」というようなことを口やかましく遅刻を注意する方（昭和７年生）から旅先で伺った。農家の人は時間を守れない人（時間にだらしない人）が多いというのが立派な勤め人であるこの方の意見であった。時間厳守という感覚は取りも直さず、遅刻意識の誕生を意味してくれるわけだが、一昔前の農家の時間感覚を、これまたスケッチ程度となるが述べておきたいと思う。

1　不潔意識の誕生

まづは、事例の提示を行うことにするが、こちらでは用足し後や食事のときの手洗い、風呂、便所、洗濯、体の汚れぶり、食器の管理などの項目を用意して、清潔・不潔の考え方を引き出そうと12名の方々に質問を繰り返し行った。いわゆる一昔前の衛生意識や衛生面から見た生活実態を明らかにするためには、もう少し多く質問項目を用意する必要があったと思われるが、今回は限定的なやりとりを行った。

事例１　「衛生巡視は春と秋の年２回ほど、大正時代より続いて実施されていた。巡視日が決まると役場より回覧で知らされた。各家では巡視日の数日前より家の内外の清掃をした。とくに晴れた日に家具一切と畳まで外に出して干した。長さが２、３メートルぐらいの篠を五本ぐらい縛って、箒をつくり蜘蛛の巣や埃を払い、床下まで掃除をした。縁の下などは小さい子どもが丁度いいので、入らされて働かされた。午後になると畳の埃を細い棒でトントン叩く音が近所から聞こえてきた。農家では春に畳を上げると、物置などに積み込み、秋になってから敷き込まれる。その間は部屋は養蚕に使われた。家具を元の場所に戻して終わるが子どものときには、片付けるといままで見たこ

ともないものが出てきて、一日使われても楽しかった。巡視は、役場から一人、区長、消防分団長、そして衛生委員が二名で各戸を廻り、家の内外、とくに下水と火の元を見て廻り、衛生委員宅にて反省会をして、とくに良く出来ている該当者があれば、申請して役場より後日、「衛生模範の証」と書かれた木札（４センチ×12センチぐらいだった）いただき、玄関口に貼った。木札をいただくと、常に清掃に気をつけなければならないので、大変だったがこれも、自分のためということで皆さん良くやってくれた。昭和40年代より昔の家も建て替えとなり新しい家が増えてきたので、50年ごろには巡視はなくなり、昭和60年には衛生委員は廃止された。」（大正６年生）

＊衛生巡視の前日にはいわばハレの気分の下で大掃除が実施されいたようである。衛生委員の役割、「衛生模範の証」が発信する象徴的な意味はどのようなものだったのだろう。模範の家を設定することは、そのまま村で模範とはならない家をも明らかにしていったのだろう。模範となる家からもっとも遠くに位置する家はどのような評価を地域で受けたのか、気になる点である。衛生役員二名らは、下水と火の元までも観察の対象としたわけだから、かなり家の深部を見透したに違いないだろう。衛生巡視という語彙を使っての衛生的（清潔）と非衛生（不潔）の分割がなされていったことが推察できる。

事例２　「小学校時代、小便の後や食事の前の手洗いなどあまり先生は細かく指導しなかった。友だちのするのを見よう見まねで覚えてきた。当時はハンカチを持っている者はいないので、濡れ手をおっ振って自分の着ているもので拭いてすませていた。私の家には常時、５人の女工さんがおり、家族が多かったので風呂水の取り替えは毎日していたが、小さい風呂桶で顔を洗って出入りするだけでも、はじめに入るのと終わりに入るのとではまったく違っていた。今考えると不潔そのものだった。男は少しの湯でも頭も洗えるが、女は休日に日中お湯を沸かして洗っていたのを覚えている。小人数の家などでは２、３日は水を足してタテッカエシ（湯の沸かし直し）だった。下着などは汗をかかない時は三日ぐらいは平気で着せられた。洗濯は盥で手洗いなので、中々重労働だった。私の家の近くには小川があったので、一年中川に持って行き、すすぎ洗いをしていた。小学校のとき、学生服で通学するのは組で一人ないし二人だった。その他の人は着物に下駄や草履を履いて通学していた。着物らの袖で鼻水などを拭いて、白く光っている着物を着ている子どももいた。靴下や足袋などは寒いときだけで少し暖かくなれば、みんな素足だった。貧しい生活だったので不潔だ、不衛生だと考える余裕もなかったのが実態だった」（大正６年生）

＊不潔だ不衛生だという考えは豊かになってから、つまりは身の回りが行き届くようになってから、振り返りながらあらためて自分たちの暮らしぶりに「不潔」のラベリングを行っている。ラベリングの対象は、食事前の手洗い、風呂、洗濯、下着など生活諸場面に行きわたっていくようだ。ハンカチとちり紙を学校に持参するような衛生的な指導はどのあたりからはじまったのか気になる点である。

事例３　「便壺が浅く、汲み取りがまめに行われていない時は嫌な感じだった。便壺に半分ぐらい溜まるとまめに汲み取る家があった。そんな家は臭いはあってもこういう便所には今でいう清潔感があった。とにかく、タメ（糞溜め）の周囲がきれいになっている家は褒められたものだった。ダラシガナイと言われる家はきまって便所が汚かった。それから便所が高床になっていて便槽との差が大きいと、なんとなく清潔さを感じたものだった。便槽が密閉されていて光りが入らないで、暗くなっていると何となく清潔感があった。便所の後で手を洗わないことに不潔感はさほどなかった。

金盥に水を汲んでおき、手でその水を掻いだしながら洗っていたが、この水が汚れていると手を洗わないことがあったから、手よりも水に不潔さを感じていたと思う。風呂の水の取り替えは三日に一度ぐらいであった。とにかく、井戸と風呂場が離れていたから、取り替えが大変だった。手桶に十杯ぐらいは入れなくてならないから、むしろ水の継ぎ足しで間に合わせることが多かった。風呂の水は翌朝には洗濯水として使われていた。風呂の水はまだ暖かくて汚れがよく落ちた。洗濯で減った分を足していた。一度に風呂の水を抜くと、大変だった。水溜めがすぐに一杯となって風呂の水が処理できないことになってしまった。風呂の水は堀に直接流すことはなく、一度は水溜めに溜められた。この水溜めの水はさらに便壺をきれいにするのに利用されていた。継ぎ足しで風呂の水を足してすませていくと、やがては風呂の下に溜まった汚れがヌルヌルしてくるようになる。こんなときに、「風呂が汚れた」と言って、汲み替えた。垢が表面に浮いたときと、風呂の下がヌルヌルしたときには何となく、不潔さを感じて、水の取り替えとなった。ただ、昭和初期のころの生活は、割合と清潔な暮らし方をしていたと思う。きたない、と言えば便所と外のどぶぐらいだったと思う。「ボウフラがわく」と言えば汚い感じて、「ウジがわく」と言えば不潔という感じだった。お勝手の流し廻りと便所廻りがきちんとしている家は好感を持たれていた。家にいるとき、ちゃぶ台に落ちた飯粒を平気で拾って食べていた。「もったいない」という親の口癖で大きくなったから、拾って食べるものだと思っていた。昭和初期の農家では、拾って食べるようなことは、精神的な美徳とさえ思われていた。学生になって寄宿舎生活に入った途端に「きたない」と怒鳴られたことを覚えている。食事前の手洗いをしなかったこと、指をなめること、箸をなめること、食べたお茶碗でお茶を飲むことも「きたない」と言われた。気をつけたが、長い間の習慣でつい繰り返すことが度々あったので上級生から「いやしい奴」と蔑まれて、食事をすることが怖くなったことも覚えている。今の中学生の年齢だし、出るに出られない寄宿舎生活だったからあわれなものだった。農家の常識と都会の常識には当時、かなりの違いがあることを思い知らされた。「もったいない」という思いが都会の人には「きたない、いやしい」と映ったわけだ。とにかく当時（昭和の初期）、農家では拾って食べることは美徳のように思われていた。私は今でも「田舎者」という呼び方には差別的で怒りを感じている。」（大正15年生）

＊タメのまわりがきれいだと、世間から褒められたということから、タメのまわりや流しの様子が評価項目であったことが示唆される。また、汲み取り式の便所も便槽の高さなど構造によって、いわゆる清潔感を感じたり、そうでなかったりという感覚はあったと理解される。学生時代の寄宿舎生活では食事のマナーなどにも評価が及び「きたない」とか「いやしい奴」というレッテルが上級生（先進）から新入生（後進）へ貼られていたことが判明している。いわゆる田舎での常識が都会では非常識と映ったわけである。きたないという観念は、都会から田舎を見ての視線のなかにあり、いわば「きたない」あるいは「不潔」という観念は都会（新しい社会）と田舎（古い社会）という優劣関係から導きだされた観念ではなかったか、ということを示唆してくれる。

事例４　「昭和40年から50年ごろは農家の改築が進んだ。台所には水道が流しのところまで配管されて、食器なども使った後すぐに洗うようになった。それまでは、膳箱に食器と箸は使った後にそのまま入れて、次の食事のときに使っていた。食器が汚れたときになって、洗うという風だった。時によると、残った副食なども食器に入れたままにして、膳箱に入れることもあった。今考えると

非衛生だったと思う。昔の風呂は土間の片隅にあって、三方が土壁で囲まれ、壁の下半分がセメント壁になっていた。風呂桶は木造りだし、洗い場も木の簀の子が置いてあるだけだった。風呂場は開け放しだから寒くて、冬は風呂桶のなかで体を洗ったから後に入るほど、湯が汚れた。また、風呂水は二晩目は、温まっていて湯の沸きが早く、燃料の節約になるので水を替えなかった。昔の便所は母屋と別棟の屋外に汲み取り式だったから、便所に入って下を覗くと溜まった便が見えた。夏には蛆が湧いているように見えた。臭いもした。汲み取った糞尿は田畑に施肥したが回虫の卵などは乾いた土と一緒に風で散って、生野菜などから回虫が伝わると言われていた。おとし紙は古い新聞紙であった。小便のときは手を洗うことはなかった。昭和９年から10年にかけての農村不況のときに東京から人糞を共同購入して田畑に撒いていた。駅に着いた貨車から人糞樽を運搬するわけだが、樽の栓が緩んで滲みだした人糞が手足や衣服について、臭いが体にしみついた。肥料代の節約になったので当時はそれほど苦にしていなかったが、今考えると金には代えられないほど不衛生だったと思う。農家は土との関係で手足や顔、衣類が汚れることが多かった。盥の中で洗濯板を使っての洗濯は手間もかかって大変だった。汗になったり汚れたりしたときに、洗濯していた。今は自動洗濯機があって、下着は毎日洗濯して取り替えるようになった。一番汚れた仕事は、煤掃きだった。昔は農家で、藁葺き屋根で台所では毎日薪を燃やした。煙突がなく、屋根の棟上には気抜きと呼んだ煙出しがあった。煙りは屋根裏にまわって気抜きから出ていった。そのためで、屋根裏には煤がまっくろく溜まった。春と秋の大掃除には屋根裏に上って竹笹で作った箒で煤を払い落とした。手拭で頬被りした上に帽子を被ったが、顔から衣服全体が真っ黒くなって、風呂に入ってからようやく煤が落ちた。煤を吸い込んで衛生上はよくない仕事だったと思う。」（大正５年生）

＊不潔の感覚は、食器洗いの習慣にもおよんでいる。いまでこそ食器は毎日洗っているが、少し前まで、水道が普及する前は食事毎に洗うものではなくて、汚れたら洗うという感覚であった。この汚れたら洗うというときの、汚れの基準はその家によって違っていたのだろう。風呂での体の洗いも冬は風呂の中で洗うというのが習慣だったから、確かに湯は汚れしまうわけである。恒例の煤掃きが衛生上問題だと振り返っている点も注目していいだろう。

事例５　「昭和26年ころだったが、クラスに「不潔な子」と言われた女の子がいた。その子が「不潔な子」と呼ばれたのは、髪にシラミが住んでいたからだった。そのころは、女の子もあまり髪を洗う回数も少なかったし、男の子も頭にシラクモが多く、タムシも多くいた。あおい鼻を垂らしていて、それでいてチリ紙もハンカチも持っていなかった。昭和30年ころまでの銭湯は湯が少なく、湯船から湯が溢れてはいなかった。赤ん坊は小便も糞も湯船にしてしまうので、糞はとろけそうになって、ふわふわと浮いていたことがあった。子どもたちは銭湯が遊び場であったから、もぐりっこなどをしていた。今から思うとお湯は濁っていた。菖蒲湯や柚子湯のときは楽しみで、柚子は食べたり、菖蒲は噛んだり草笛にしていた。町中には公衆便所が少なかったので大人も婦人も道の端で大小便をする人が多かった。婦人のでかい、そして妙に白いケツには随分と驚かされた。便所の紙も昭和30年ころは、どこの家でも新聞紙が多かった。ダイジンの家は新聞紙も古いのが多く重ねられており、ケツを拭くのにもやわらかく、うらやましかった。紙不足だったから、新しい新聞紙は少ししか使えず、よく揉んで柔らかくしてから使った。新聞紙は昭和40年代に入る前は、魚の干物、さつま揚げ、豆腐、油揚げなどみんな新聞紙で包んでいた。今のように新聞のページは多くな

く、広告に入ってくるチラシも少なかったから、紙が足りなかった。」（昭和17年生）

＊話者は東京生まれで、戦後の東京の様子をよく覚えている。もうすでに「不潔」という語彙が学校に行き渡っていたことが判明してくる。シラミ、タムシといったものと馴染んでいた社会があったわけだが、髪にシラミがいると、すでに不潔な子として扱われていたわけである。不潔が一種の烙印となって子どもの世間で通用していた時代である。

事例７　「昔は、便所は外が普通で、家の中にある家は部落中で一軒か二軒であった。家の廊下の隅にある便所はカミゴウカと呼んでいた部落があった。風呂も便所も外だったから寒いときに風呂に入るのは嫌ったものだった。風呂水は二晩ぐらいは足しながらだった。便所の手洗いは殆どしなかった。畑仕事で手が汚れていても、手をたたいて汚れを落とすようにして、着物の縁でこすってから食べた。女性との性行為でも昭和20年代、赤線に行っても風呂などなかったし、手も洗わないで帰ってきたものだった。」（昭和７年生）

＊不潔とか清潔を話題にしていくと、手の汚れ落としの様子や性行為の際の入浴や手洗いというところまで、振り返って、昔の不潔さを感じている。

事例８　「昭和52年に嫁いだ娘が子どもを連れて家に戻って来たとき、孫たちが汲み取り便所を怖いといって使用するのを嫌がったことがあった。昭和28年だったが、便所にブリキの手洗い容器を買ってきて吊るした。下に出ている棒を押すと水が出てくる仕掛けだった。風呂の水は今でこそ毎日取り替えるが昭和30年代の前半までは手桶で井戸から運んだので一日中雨が降ると、減った分だけ水を足すようなことはよくあった。髪洗いと下着の洗濯は、暑気が厳しいときは、毎日だった。冬は下着は２、３日は着ることもあった。手足の汚れは畑仕事より水田の仕事方が汚れるので他所に出かけるときは、手足をきれいにするは大変であった。昔、ある病院で看護婦さんが手の爪を亀の子たわしで洗っているのを見てから、外出するときはたわしで手を洗っている。」（昭和６年生）

＊農家の便所を怖いといって使用を嫌ったという孫の話しは驚きであり、話者にはショックであったという。それから便所の改築を思いたったという。「世代の他者」からの指摘によって、便所の不潔さを意識させられたのである。

事例９　「風呂水は２、３晩で取り替えていたし、髪洗いは月に１、２回ぐらいうどんのトギジル（茹でたときの汁のことか）、ヒナツチ（粘土）を使っていた。下着や足袋などは５、６日に１回まとめ洗いをしていた。手足や顔の汚れだが、大便のときは手を洗っても小便のときに手を洗うことはあまりなかった。手足の汚れも顔の汚れも風呂の水を使って洗っていたが、セッケンを使うと見違えるようにきれいになったことを覚えている。あの当時は草屋根（麦殻と茅）の母屋の葺き替えや補修のときに屋根屋さんのお手伝いとして、屋根裏で竹針の挿し替えなどで働くと、顔、手足、口、鼻の中まで油煙とワラのごみでマックロクロスケ（真っ黒黒助）であった。お湯でセッケンをつけて洗っても落ちないほどのひどい汚れかたであった。顔と手を洗ってからお茶飲みしたものだった。田圃の畦にクロツケするときも手足を使っ

て十分に土をこねあげたので、汚れた。牛や馬を使っての田掻きもかなり汚れたものだった。昭和20年代のころは、畑の野菜や麦などに便所の下肥を使っていたから、今から思うと不潔だが箱膳での食事で、ご飯を食べたお茶碗にはお湯をそそいで箸でかきまわして飲んできれいにして洗わなかったような生活をしていたから、不潔とか不衛生とは思ったことがなかった。」（昭和６年生）

＊用足し後の手洗い習慣、農家仕事での汚れ、洗濯の回数、屋根替え仕事など今振り返れば汚いわけだが、不潔、不衛生というような意識は当時はなかったということを表明している。

事例10　「この頃、家に帰ればすぐに風呂に入れるものが出回っていて、勧められた。水を取り替えないですますことができるお湯の循環装置で、20万から30万ぐらいするもので、便利だとか言っている。昔のタテッカエシのようなもので、その都度に湯を捨てて新しい湯を入れたほうがきれいだと思う。戦前、そして戦後のしばらくの間も大便の後と食事の前に手を洗うか洗わないかが、不潔とか不衛生と言われる境目のようなものだった。それほどにどうこう言われるようなことではなかった。生活に追われていたからだと思う。ただ、学校では昼飯の前に手を洗うことは昔も行っていた。井戸端で手を洗うことが義務づけられていたし、行列ができていた。風呂の水は毎日、私の家では取り替えていたし、大雪の降る日などには取り替えなかったことがあったが、仕方がないと思っていたし、それでも汚れていて嫌だったという気持ちはあった。下肥は、麦や野菜に肥料として使っていたころ、汚いと思っていたが、あれ以上の手はなかったと思う。汲み取り便所は近所では今も大分あるが、私のところでは20年以上前に母が亡くなったときに、都会に住む妹の子が「田舎のトイレは汚い」と言って泊まってくれなかった。その後で大きな浄化槽の水洗トイレにしたが、汚いと言っていた子どもたちもきれいと言って驚いていた。戦前だって海軍の一級官舎は水洗だった。帰省して、自分の家の便所は汚いと痛切に感じたものだった。食事は箱膳だったから茶碗は何日も洗わないで、箸と茶碗は箱膳に入れておくものだった。妻も嫁入りには箱膳一組を持ってきた。戦中のころ、夏ともなれば、子どもも低学年のころは、男女とも上半身は裸で、首のまわりには垢がついている者もいたし、女の子では、「シラミの佃煮」なんてあだ名を付けられたシラミだらけの子もいた。軍隊にもシラミがいて、海軍航空隊に何日か寄宿したときに、シラミにたかられて、その痒い体験は今でも忘れられない思いでとなっている。（昭和７年生）

＊「田舎のトイレは汚い」という感覚は話者自身の海軍の一級官舎での水洗トイレの経験と身内が暮らす都会の視線によって確定されていく。汲み取り式便所は不潔だという感覚が軍隊経験と都市生活者の指摘から生まれている。

事例11　「昔と今ではお話しにならい程の差があって、昔育ちの我々は今でも用足しをした後にその都度、手を洗うこともしないで平気でいて若い者が見ると不潔だと見られているだろう。昔は学校でも用足しをした後に手を洗えなんて先生も言わなかった。第一、手を洗うところがなかったのだから、おそらく先生だって洗わなかったと思います。校庭の隅に井戸があっただけですからね。便所は臭くて、夏には蛆がウヨウヨしていて、今から思うと随分汚いと思うが殺虫剤もなかった時代です。風呂水だって、毎晩は取り替えないで、一日おき、つまりタテカエシの風呂水で戦争中に東京の従妹が疎開して来たので、風呂に入れと言ったら、田舎の風呂は汚くて入れないと着物をまくって足だけ洗っていたことがあった。食事の衛生面では、個人個人の膳箱があり、自分の食器は自分の膳箱に入れておくのですが、食事が終わった後に茶碗を洗わないで舌でなめて箱膳に収めてしまって何日も茶碗を洗わなかった」（大正11年生）

＊手洗いと風呂と便所と膳箱が不潔を語る上の項目となっているが、とりわけ東京の従妹の風呂での行動が、農家の風呂の不潔さを家族に感じさせたことだろう。

事例12　「農家では便所と流しが汚いところの代名詞であった。それが話題となったときは必ず、その家の女の人の評価となっていた。農家では屋外に便所があったが、それは下肥は農家の重要な肥料だったから汲み出すのに便利であるように屋外にしてあった。昭和20年以前の農家の家族の構成は、大家族だったから、性交為だって親、兄弟、子どもに神経をつかっていたから、風呂に入ってからするようなことなどとても考えられなかった。風呂に入らない晩もあったから、今の感覚では到底考えられない。農家の風呂は炊く時間と薪、木の葉、藁など燃料の節約から毎日のように風呂は沸かさない。タテカエシの風呂だから幾晩も同じ風呂に入る。井戸との距離のこともあって、一週間から十日くらい経たないと水を替えない家があった。不潔と言えば不潔だが、このような状態が当たり前であったから不潔と思ったことはなかった。洗濯も時間的な余裕が少しもなかったので明るい中は仕事、仕事であったから身の回りの洗濯など月に二、三回あれば多い方であり、今考えれば非常に身の回りは汚れていてきたないものであった。母にかまってもらえない子どもは汚い身なりで惨めであった。風呂に入れない子どもの手足はヒビ、アカギレで惨めだった。とにかく、都会暮らしは人が多く外聞が悪いからきれいにするが、田舎では隣近所の人だけだから、汚れていても外聞もなく、それが当たり前であったから、生活の上では苦になることはなかった。」（大正13年生）

＊性行為は清潔とか不潔というような範囲で語られることはなかったし、節約第一では風呂だって、タテカエシが当たり前であったことが理解できる。汚れは、他者との関係で実体化される感覚で田舎では外聞もないから汚れも汚れとして意識しないですんでいたことが示されているようだ。また、汚れは女性の評価と結びついていた。

さて、以上が不潔をめぐっての事例の提示であった。こうした事例をどのような視点で解いていったらよいのか、ということでは、『境界侵犯－その詩学と政治学』（ありな書房、1996）（註１）が役立った。とりわけ「都市－下水、眼差し、そして汚穢と接触」と題する［第三章］は、新興のブルジョワの上品さ（リスペクタブル）の一つの表象として、清潔が解読されていくように感じたしだいである。

ここに列挙した言説はそのままこのフィールドの衛生観念の変化を表象したものというふうに位置づけにくいが、不潔という意識がどのような足取りの中で誕生してきたのかを探す方向だけは見えたと思っている。

事例１では、不潔なムラから清潔なムラへとゆるやかに変換していく手立てとして衛生役員らの巡視が採用されていたことが判明している。行政といういわば優越したところから、検査され、家の隅々まで通り抜けていった視線から選び出された模範の家とその標示は、清潔と不潔の線分をしっかりと描いていったわけである。一方、家々では巡視前の家の大掃除をハレ的な年中行事として把握し、できるだけ清潔にしてマレビトとしての衛生役員らを迎えている。不潔なムラから清潔なムラへの移行は、衛生的な監視行為と大掃除という民俗行事との融合によって成し遂げられていったわけである。

また、事例８、10、11見られるように都市に暮らす親戚という他者の訪問と発言によって、潜伏していた不潔はいよいよ「不潔」として照らされることになる。この身内の造反によって、田舎のあるいは実家として農家の不衛生の拠点が風呂であり、便所であることが指摘されることになる。

不潔の誕生は他者という眼差しの存在が不可欠ということである。便所が怖い、臭いという指摘や、風呂には入らずに足だけつかったという出来事は、自らの生活様式を見直すより方法のない、都市からの圧力であった。

事例３は、その逆で都市に出ていった学生が、学生に長い間のムラの生活で装着されていた行為形式が、周囲の眼差しによって「きたない」とか「不潔だ」というふうに烙印を押される事例である。これまた、田舎と都市の圧倒的な力関係から、自らの生活体験や信条に基づいて、こういった生意気な批判に反撃するようなことは決してなく、ノイローゼ寸前まで追い込まれながらひたすら、自らの生活様式を変換させながら、たんに一つの形式にしか過ぎない「清潔で上品なお行儀とかマナー」といった類いを学んでいったわけである。清潔（先輩）がどのようにして不潔（後輩）を襲ってくるかのいい事例だといえよう。また、この事例ではムラには術語としてダラシガナイという基準があったこと、「ぼうふらが湧く」とか「蛆が湧く」といった会話が交わされており、清潔、不潔にかわる評価項目が溜めと流しに向けられて存在していたことも分かっており、今後の調査の指針となるものが多く含まれていた。多くは風呂（タテッカエシの話題ばかりで、今流行の24時間いつでも入れる風呂をタテッカエシと評価して嫌っている点も興味ふかい）と便所だが、膳箱での食器の扱いや洗濯（註２）と着替えの話題であっても、共通しているのは、こういったことが不潔であったという感覚は、当時はなくて、今振り返っての評価という点であった。清潔だと解釈され、評価される領域が増えれば増えるほど、昔は不潔だったという領域も増えていくように思われた。清潔の感覚と不潔の感覚は都市（他者）と農村（身内）の力関係が反映した感覚差といってもいいと思われた。清潔は進歩のメタファーとなり、不潔は伝統的遅滞のメタファーとなっているが、これではあまりに平凡の解釈だ。もう少しこの線分の引かれ方には注目してフィールドデータを積み上げていきたいと思っている。

２　時間感覚の変化

さて、ここで扱う時間感覚という語彙は、時間の流れという意味ではない。不可逆的に進行していく時間の流れ、それからまた今年もクリスマスがやってきたというような円環的な時間の流れといったものを扱っていない。もう、誰の側にも小さくなった時計が身体と一部として取り込まれている今にあって、あるいは時間管理ができない人があまり評価されない時代にあって、定刻とか遅刻という意識がこのフィールドでどう語られてきたのかを報告しようとするものである。また、労働の時間についても一日八時間という基準が行き渡りにくい時代にはどの程度の時間が働く時間として認識されていたのかを報告することにした。刑務所はもとより、軍隊、学校、病院、工場など時間管理（時間配分）が行き届いた近代以降にあっても、それぞれの地域、職場、個人の単位で〇〇時間という、建前とはズラシタ時間を持っている。調査地での時間について、何が描けるのか試みてみたい。

大谷木ムラで農業を営むＹさん（昭和８年生）からは「地域の集まりでは偉い人は時間すれすれ、もしくは若干遅れ気味の出席だったが、最近はむしろ逆のようだ。昔は寄り合いの時間は農作業の

都合であまり守られていなかった。集まりの内容より、自分の仕事を優先とする農家が多かったから時間が守れなかったと思う。今では専業農家が少なくなりサラリーマン家庭が増えてきて、ほぼ定刻に集まって集会は開催されている。この辺りでは四日市の寄合という言葉がある。坂戸の四日市場は働き者の多い部落として知られていて、それだから、寄合の集合時間はどうしてもルーズとなり、四日市場では一時間遅れは普通だと言う噂みたいなものがあった。だから、あまり重要でない寄合のときにはこの大谷木でも四日市場の寄合だから、と言って遅れて行った人がいた。それでも昭和30年代ぐらいからはだいたい定刻に集まって寄合が行われている。」などいうお話しを伺うことができた。

時間厳守それはとりもなおさず遅刻意識の誕生（あるいは形成）という問題でもあり気がかりテーマとなったしだいである。まあとにかく時間感覚を調べるために、さらに寄り合いの集合時間の様子を聞いてみることにした。

滝ノ入のＹさん（大正11年生）は「昔の時計はゼンマイ巻のものが多かったからゼンマイ巻が遅れて止まることがしばしばあって、隣りの家に聞きにいったり、来られたりであった。柱時計は外から入って来て一番見やすいところにかかっていた。部落の集まりに十分や二十分遅れても気にしなかった。時間厳守というようにはいかなかったのであまり気にしなかった。家の時計が十分遅れていて、遅れてしまったというようなことを述べれば誰もがあまり気にしないで受け入れてくれた。なかには誰々さんの家の時計はいつも遅れているから、遅くなるよ、というような会話がときたまはあった。私の家の屋号は板屋と呼ばれていたが、.昔の家には大きな門があって、奉公人が朝早く起きて門を開く音が近所に聞こえたそうだ。すると、板屋の門が開いたから、というふうに近所の家々も起きたそうである。時間的には何時だか聞いていないが、門を開ける音が近所の起床の時間ということになっていたそうだ。また、板屋は昼飯が遅いことでも知られていて、板屋の八つ昼めしと呼ばれ遅い昼めしで近所では有名であったそうだ。」ということを述べてくれた。

「ラジオのない昭和の初め頃はどこの家でも時間を合わせる標準がなかった。時計が止まると、隣りの家に時間を聞きにいって、教わった時間に時計を合わせていた。お寺の鐘に合わせたり、磁石を使って太陽が真南になったときを12時にしたり、暦に出ている日の出、日の入りに合わせて時刻を合わせていた。だから、昔はそれぞれの家々で時計の時刻はみんな違っていた。寄り合いなどでは、俺らが時計じゃ今何時だったというわけであった。寄り合いの時間だが、昔は何日の早夕飯集合（早めに夕飯と食べてから集まる）というのが普通だった。だから、遅い人、早い人では30分ぐらいの差はあった。ラジオが普及しはじめたのは二・二六事件があった昭和11年ごろからだった。その頃から家々の時計も正確になっていった。時間はそれからしだいに守られるようになった。」と沢田のＯさん（大正５年生）は教えてくれた。時間感覚の変化にはラジオの普及による時計の正確性の向上という要素が関係していることがよくわかったしだいである。

「毛呂山時間というより、田舎時間と言った方がいいかも知れない。当時、部落の集まりである寄り合いはほとんどが夜であった。そのため30分遅れるのは当たり前の方で、一時間後にはじまることもめずらしくなかった。集まっても世間話が多く、本題に入るまででかなりの時間がかかった。はじまっても議題に対する原案はなく、どうしましょうが話のはじまりであった。問題が投げかけ

られるとあっちでゴソゴソ、こっちでゴソゴソと話しがはじまり、しばらくしてから口利きという人たちが口火を切る。すると、これに対してヒソヒソ話となり、幾人かの口利きがボソボソと相談して、これでどうでしょうかということになる。やっと一つの答えが出て、それからまたしばらくは世間話で、口利きが、この辺りで終わりにしたら、という一声でやっと終わりになった。五分で終わる話しが延々と二時間もかかるときがあった。どうせ時間にははじまらないということで誰もが承知して30分遅れで出てくる。話し合いもはじめから、どうしましょうだから年寄りが口を利かないと終わることはなかった。これは寄り合いだけでなく、冠婚葬祭の集まりでも同じであった。お祝いは式場を借りてやるようになってから、葬式は火葬になってから、火葬場の時間に合わせるようになってから集まる時間が正確になってきた。それから、毛呂山時間が定刻通りになっていったのは30年ぐらい前に町長が集まっても集まらなくても定刻に始めると宣言してからだと思う。家々の時計はラジオと高萩（となりの日高市）の正午のサイレン（この辺りでは親しまれていた）で調整されていた。家の時計はいつも、オフクロが30分進めておいた。姉が女学校に行く時間に遅れないようにと、すべて30分前に準備が出来るようにという心遣いだったように思う。時計はだいたいがボンボン時計で、遠くからも見えるように大きな掛け時計であった。時計を掛ける場所は寝ていても、昼間に仕事から帰って来ても土間から見える場所が選ばれていた。私の家では中屋敷の間柱に掛けておいた。土間からも見えるように障子は細目に開けておいた。時計も日巻き、三日巻、七日巻などがあったが、どれも振り子がよく見えるものがよかった。振り子の様子で時計の診断がついたからである。時計を巻くのは子どもの仕事であったが、七日巻時計となると最後の何回かのゼンマイ巻は子どもの力では巻切れなかった。ボンボン時計では音の様子で時計の状態がわかった。音がゆるくなると、時計がかったるくなったからゼンマイを巻いてやれ、ということでゼンマイを巻いた。振り子の長さの調整は男（大人）の仕事であった。進みと遅れを最小限に微調整したものである。あそこの時計は正確だ、と信用されると自慢も出来た。ボンボン時計の鳴る音は深夜にはよく響いたものだった。朝五時を打つと、オフクロが起きる。男はそれから一寝入りして六時ごろに起きた。」以上が大類のＨさん（大正15年生）のお話しである。昔の寄り合いを支配していた時間の質の問題、時計と暮らしとの関係、男の時間と女の時間（夜が明けると早めに起きて食事づくり、それから家中が起きて食事。野良が忙しくなると夜が明けるのを待って出発だから、もっと女は早起きだった。女は野良でも大活躍だから、主婦とか専業主婦という身分が誕生したのは本当に最近のことだ）の差などが明らかになり、参考になったしだいである。

前久保のＩさん（大正６年生）は「私が部落の行事に参加するようになったのは、終戦近くで公会堂も出来ていた。当時は若い男はほとんど出征していて、老人や婦人が集会に出席していた。時間はあまり守られていなかった。戦後は軍隊経験者が多く出席して、時間には厳しくなって守るようになっていった。戸数が増えてだんだん若い者が出席するようになってきたが、勤め人が増えて、昔の農家の集会とちがって欠席者が多い。特に最近は半数にも足りない。それでも多数決で決めている。昔は《四日市場の寄り合い》という言葉があって、物事を決めるときに意見を尋ねると、誰もが皆さんしだいで結構です、と言うので議事が簡単に決定していく様子のたとえとしていた。」とのことであった。岩井のＳさん（大正７年生）は寄り合いの時間については「10年ぐらい前から

団地の若い人たちが参加して旧住民の高齢者層が減少するようになってから時間厳守になった。旧村の集会では、集会に酒や食べ物を持ち込むような人がいて、この人たちは時間を気にしないで遅刻しても上座に座りたがる。偉い人というわけではないが。旧村の集会では上座を空席にする部落もあるようだ。」と説明してくれている。

まあ、聞いたかぎりでの感触だが、昭和30年～40年ごろまでは遅刻は個人の都合で止もう得ないという考えであった、やがて、遅刻はだらしないという意識が芽生えてきたのでは、と思うのだが、このあたり正確かどうか。もう少し多くの人たちの記憶を重ねていかなくてはと思っている。つぎに、Oさん（大正５年生）のお話しにもあったように、時間意識の変化は時計と深い関係がある。時計と言えば柱時計と懐中時計、そして腕時計（この町では昭和10年前後から普及しはじめたようだ）であった。それから、野良仕事や山仕事での空腹感を頼りにする腹時計、太陽の角度や影の長さや角度、仕事のはかどりを見て決める日時計も生活時間を管理する重要な時計であった。晴れた日は日時計、曇りの日は腹時計であったそうだ。

なかでも懐中時計は、医師、教師、大口山林所有者、オダイジン（豪農）、豪商、村長さんなど公職の人、工事の現場監督の人などが所有しており、特定の階層（時間を管理する人たち）の人たちのシルシと理解されていたことが興味ふかい。腕時計は成人式を契機に身につけることが多かったそうである。　前久保のＩさん（大正６年生）は「大正時代でも農家の６～７割ぐらいの家には柱時計があった。ゼンマイ式時計だったので止まったときには近くの家で聞いてきて時刻を合わせた。太陽が回ってきた方向を見て、あるいは温度とか明るさで時刻を判断するようなことは行われていた。また、鉄道が昭和初期に開通したので駅で時間を合わせたりした。昭和12年に隣りの家で部落ではじめてラジオが入ったので正確な時間を知るようになった。柱時計は台所、土間から一番よく見えるように大黒柱が多かった。腕時計は昭和のはじめから普及しはじめた。」という。大谷木のＹさんは下大黒柱、表座敷の東向いの鴨居を柱時計の伝統的な位置としている。いずれにしても柱時計の位置というのは時間意識を考える上では重要な問題である。

最後に農家の労働時間の感覚について述べておきたい。川角のＫさん（大正11年生）が「農家じゃだいたいオテントウサマしだいの生活で、初夏（５月）から晩秋（11月）にかけては早寝早起きということであった。」という言うように、昼寝の時間もあるが日の出から日の入りまでが農家の仕事時間の基本であった。夏場は夜の10時には就寝していて、午前４時には起きていた。冬場は午後８時に寝て、朝５時起床が一般的であったから、とても今日でいうところの労働時間意識というもはなかった。ヨナベ（ヨナベ仕事は何時間働くということではなく予定の仕事が片付けば止めていた。）だって夕食後に少し休憩を入れてから一時間ないし二時間程度というわけだから、働きどうしで、とても何時間働いたというような意識はなっていなかったことが判明している。むしろ、農作業の進み具合で仕事を止めたり、続行したりしていた。　ただ、岩井のＳさん（大正７年生）が「地主層の人は作業員に賃金を支払わなくてはならないので、労働時間に対する意識が強かった。」ということを述べてくれた。

阿諏訪のＫさん（大正13年生）も「時間のことはあまり言わずに作業の都合で早く始める日もあり、時期によっては夜中まで働いた。特に養蚕の時期には大変であった。私の母は農閑期にも縦糸

の巻き返しの賃仕事をしていたので、子どものころ、母親が就寝する時間を知らなかった。」と家の時間を述べてくれ、さらには「あの田を一日で植えたとか、一日で畑を掘ったとか言われていたが時間は言わなかった。きつい作業だと無理せず早く止め、軽い片付けなどは翌日にしていた。しかし、人夫が来ている家ではかなり頑張る家もあったと聞いている。」というふうに振り返ったくれた。玉林寺のＫさん（大正13年生）によると「他人を雇っての野良仕事の時間は、約十時間が目安」というふうに意識されていたそうだ。ただし、サクダイ（小作料の代わりに地主の家で奉公して働く人たち）経験者はもっと働いたと以前に筆者が西戸のＡさん（明治42年生）から聞いたことがある。どうやら、労働時間は人夫を雇っている人たちには意識されており、一般的な農家ではとくに意識されていなかったというのが少し前のこの町の実情であった。昭和初期から機織り工場を営んでいた前久保のＩさん（大正６年生）は「当時、娘さんは全部住み込みで、家族の一員として一緒に生活をして働いていた。小学校６年を終えると２年または３年ぐらい年季といって給料は年間で決めてあり、盆暮れには仕着せといって下駄、足袋、反物などを支給していた。給料は親が前借りで持っていった。年季が終わってからは、年間いくらで決めて嫁に行くまで住み込みで働いていた。時間は朝７時より、午後７時まで実働では10時間で第一と第三の日曜日が休日であった。それから正月休みが８日間、盆が５日間、その他には春と秋の祭りのときが休みであった。」ということで10時間を一日の労働時間として理解していたことを述べてくれた。　さてこれからの仕事だが、あそこの家（あるいはあそこの部落は）は早起きの家だったとか遅くまでよくヨナベをするだったといった評判の家（部落）をめぐるエピソードを集めることと、「畑うないはヤッコジで一日に五畝、カタジでは三畝、ソダ作りは一日で20束」というような一日の農作業の目安を精査していきながら労働量の目安を拾っていくことだと思っている。農家の時間感覚はヨナベと早起きの伝承を解釈することで、あるいは一日仕事という農家の労働の目安も具体的な事例を重ねていけば説明できれるかと思っている。また、野良仕事の手伝いを依頼する側（オダイジン）の時間意識も聞いておきたいところである。

ただ、時間感覚は勤勉（働き者）あるいは怠け者という評価項目と結びついており、時間感覚という感性をうまく取り出すには広汎な目配りが必要だなと思うしだいである。

それから、四日市場（坂戸市にある）という少し離れたムラに対する評価がおもしろい。前述したように前久保と大谷木では四日市場に与えられた評価内容が違っているのだ。その後の調査で玉林寺と沢田、そして長瀬では「寄り合いで、自らの意見を述べないで皆さん次第、言って意志表示をしないこと」の意味に四日市場の集会というたとえを用いていることが判明している。「昔はダイジンコの意見がまかり通って、貧乏人の意見は通らなかったから、皆さん次第でということなかれ主義になっていたんだ。」とか、「四日市場の人は人が良く、皆さんが良ければ結構です。皆さん次第で、まとまりが良く、決め事が早い」とのことであった。

滝ノ入は大谷木と同じように、定刻が過ぎても会議がはじまらないことのたとえとして四日市場の寄り合いを用いている。四日市場に出向いて、地元ではどう解釈しているのか聞いてみたい。興味ある世間話のテーマである。

さて、定刻と遅刻について考えてみる。これもまた、定刻が要請され（どこから要請されてきた

のかが問題だが)、徹底されいわゆる時間の規律化がこのフィールドでも進んできたことが確認できた。定刻遵守が町長から発令されたり、帰郷した兵隊さんから時間厳守が提案されたり、都会に働きに出るサラリーマン世帯から暗黙のうちに要請されたりで、従来の時間感覚は生きる場所を失いこの町の寄り合いの開始時間は定刻化していった。また、時間を知らせる正確で狂いの少ない時計の普及によって、それぞれの時間が消えうせてしまい、共通の時間となってしまったことも大きな要素だと思われる。これによって、集まったところではじまる、という待ち時間が失われていくことにもなった。定刻開始の要請と遅刻意識の誕生、これまた都会(近代)と田舎(伝統社会)の差異を際立たせる項目だったのかも知れない。

おわりに　—今後の課題—

不潔という感覚あるいは不潔として清潔から区画してしまう政治的な力学について、遅刻意識の誕生する時刻や時間感覚の変化について少ない資料を提示しながら簡単な報告をしてきたわけだが、「感覚のフォークロア」と題する以上、もっと広汎な領域で感覚(触覚、嗅覚、味覚など五感を駆使して)を扱わなくてならないと思っている。ただ、特定の感覚というものは社会的に築かれたんだ、なんていうおきまりの方向に流れていくのではあまりに意味がないというもので、しばらくは失われつつある感覚群と生き延びている感覚群を調査から掬いとって検討してみたいと思っている。

ところで、今回は間に合わせることが出来なかったが筆者は匂いという課題でもフィールドデータを集めているところである。とりわけ「失われた匂い」の確認とそれがどういうふうに評価され、どのように記憶され語られてきたのかということに関心を抱いている。匂いが生活場面でどういう位置にあったのか、年中行事ならぬ、年間の匂いと評価の暦を作成することも課題としている。

つい最近になって、久しぶりに伊豆七島の一つである新島を訪れた。新島といえば、「くさや」という名産品があり、筆者がはじめてこの島を訪れた昭和40年代末には、このくさやの匂いが充満していた。五十集(いさば)衆と呼ばれるくさやの製造業者は庭狭しとばかりに、くさやの汁に浸けたムロアジやアオムロ、トビウオを天日に干していた。筆者には異臭という感覚でこの匂いと戦っていたが、やがては慣れてしまい島ならではの匂いと解釈し、敵対するような感覚ではなくなったことを覚えている。島の人たちには、当たり前だが永年にわたって慣れ親しんだ匂いだから、とくにクレームというものは聞かなかった。ところが、近年は観光客を招く民宿の人たちから、観光客が嫌うという理由から、町中で行うくさや加工について住宅地から離れたところで仕事をしてくれという要請があり、主だったくさや加工業者は共同加工所を人のいないところに作り、町中でくさやを干すような光景はなくなりつつある、というわけだ。くさやの匂いは異臭と扱われ、周辺地域に排除されつつあるという。くさやの匂いも受容されにくい時代になったのである。

さて、調査を実施している毛呂山町での「匂いの様相と評価」に関するデータだが、「家畜は何を飼っているか、わかるほどにそこの農家の家族全員に匂いが移っていた。豚の匂いは戦前は残飯を与えていたからすっぱい匂いがしていたが、戦後は配合飼料を与えたから、甘っぽい匂いがした。肥育豚は飼料が濃厚だったのでとくにくさかった。豚小屋の匂いも強くて近くの道を通るときは車

であれば窓をしめたし、息を止めて通り抜けたこともあった。ヤギのメスを連れて種オスのところに交尾のために連れていくと強い匂いがしていた。種オスを飼育している家は、種オスの匂いが遠くまで匂ったので、よくわかった。ヤギのオスとメスは匂いがすごくちがっていた。牛は乳牛がくさかった。馬は馬糞も家畜のなかでは匂いはやさしいほうであった。にわとりは鳥小屋で地面で飼っていたときは今の養鶏のように匂うことはなかった。夏の養鶏の匂いはすごい。大麦の脱穀は長いトゲが穂にあるからチクチクとあっちこっちが痛くてつらいものがあった。埃っぽい籾の匂いを覚えている。小麦の藁はいろいろと利用できるので、束ねてとっておくが、管理が悪いと中からカビて、紐を解くとカビくさいむっとする麦藁独特の匂いがしていた。」（昭和20年生）というような資料となって提示されてくる。家畜の匂いの微妙な違いや、すでに嗅ぐことのできない匂いもあって、表現していくことは難しい。「麦刈りして、畑にひろげて乾燥、それから脱穀だが乾いた麦稈の匂い、脱穀してから天日の筵干しのときなど、手にとって嗅ぐと大麦と小麦それぞれの匂いがした。」（大正５年生）「麦蒔きには堆肥を施したが、前の晩に堆肥と金肥を切り返して、明日の用意をしたが、堆肥の熱気と蒸気で心地よい匂いがしました。」（大正４年生）「大麦らしい匂い、小麦らしい匂いを取り入れのときに感じた。麦を乾燥した時はなんとなく暑そうな、こげるような匂いがした。麦を脱穀したときはほこりっぽい匂いがした。大麦の粉と砂糖を混ぜたコガシはこうばしい匂いであった。」（昭和６年生）「小麦を脱穀した後に麦からを束にして積んでおくが、この上にゴロッと横んなると乾いた麦カラが鼻に心地よかった。小麦のカラは色々と遊び道具になったた。長くつないで井戸の中の水まで届くようにして、チューチューと水を吸い上げて飲んだり、つなぎながらドドメカゴ（熟れた桑の実を入れる篭）をつくりました。きれいに丈夫につくるのが競争だった。小麦のカラで人形や箱をつくって遊んだ。大麦も小麦も熟れると独特の匂いがした。雑木が一揃いに芽吹くころに穂ばらむ麦の畑のさく切りするが、作業中の風のさわやかさは格別だった。種を蒔くときのニオイは大麦と小麦では少し違っていた。ただ、種そのものの匂いではなくて、種を保存貯蔵しておいた袋なり器なりのそのものが大方の匂いであった。種を蒔くとき、昔は堆肥の匂いが一番濃厚だった。完熟した堆肥はカビ臭い匂いであまり強い匂いではなかったが完熟していない堆肥は発熱していて、臭気も強かった。甘酸っぱい匂いであった。収穫のとき、大麦は小麦より刈り取りが早く、穂を落とした後の麦稈でどどめ篭をよく作った。この時の匂いが大麦稈の特徴で、うす甘いような感じだった。」（大正３年生）こんな具合に独特（と感じる）の匂い、香ばしい（と感じる）匂い、心地よい（と感じる）匂いなど、匂いの様相もその時代の文化の中にあるもので、その時代にそれなりの評価をもらいながら嗅覚で感じ取られてきたものである。いい匂いと（解釈されて）感じた時代とそれが異臭と解釈されて排除されてしまう時代、匂いの区分けもその社会の文脈の上で構築されたものに違いないという漠然とした思いから、基礎的な感じられた匂いとその評価をめぐっての資料を今少し集めていきたいと思っている。

（註）

註１）第三章では、「バークの著書において、清潔と不潔、純粋とを不純とを隔てる境界は、キリスト教と異教、文明と野蛮との間に存在するのである。」とか「チャドウィックは、スラムを下水に、下水を病気に、そして病気を倫理の頽廃に結びつける。」とか「治安維持と衛生とがうまくい

くためには、今度は感覚の改良が必要となる」とか「あらゆる臭いは、もしそれが強烈だと病気を惹き起こす。（途中略）あらゆる臭いとは病気そのものなのであると言うことができよう」とか「ある点では、臭いも階級差を表わす媒体としてつくりかえられた。」といったふうな不潔と臭いに関する元気な記述と出会うことができ、筆者などは考える上でのヒントをいただいたように思っている。

註２）「昔は山から枯木を集めておいて、それを燃やして毎晩毎晩ご飯を炊いたり、お湯を沸かしていたから、木灰はいつもありました。糠は、米糠で農家のことだからいつでもありました。灰や糠を使っての洗濯はだいたい男の方の農作業で身に着けたものが多かった。別に何日着たからというわけではなく、何日も着て、本当に汚れがひどくなったら洗ったのです。一回に三、四枚ぐらい前夜のお風呂の水を盥（たらい）に汲み取って、衣類が十分につかる程度に入れて、その上に灰とか糠を三つかみか四つかみぐらいを適当に振りかけて揉み混ぜておくようにして、半日ぐらい時間をおいてから、念入りに揉み洗いします。糠は汗とか体臭が取れました。それからすすぎは下の小川の流れでよくすすぎ洗いをしました。洗濯では男物と女物は区別しないで一緒に洗いました。ただ、白地類は除いておきました。洗濯の種類は手もみ洗いと洗濯板でごしごしする程度で今のように、毎日するわけでもなく、暇のあるときに（だいたいお昼休み）に洗濯をしていました。一年中で洗濯をしない日は、元旦だけだと思いましたが、一月十六日八月十六日は罪人でも許されるとかで、幾分仕事を休みました。灰を使っての洗濯は昭和十年過ぎまでは行われていました。」（明治42年生）このような、洗濯をめぐる調査は清潔と不潔の区分を考えていく上で、必要だと思っている。

註３）時間感覚という課題を設定していたとき、偶然にも大宮小児保健センター（小児医療センターという名称に比べて、なんとソフトなんだろう。）に勤務されている奥山眞紀子さんからアラン・コルバン著（小倉孝誠・野村正人・小倉和子訳）『時間・欲望・恐怖－歴史学と感覚の人類学』（藤原書店、1993）を紹介された。本論のタイトルである「感覚のフォークロア」は、この本の表題からいただいた。「『時間』の誕生－時間管理と規則化－」という題の小論は無駄な時間を過ごしたな、といった感覚や自由時間の扱われ方とか暇な時間を過ごすことに抵抗を覚えてしまう感覚などは、歴史的に形成されてきたことがよく理解できた。時間を有効に使おうというような発想だって、そんなに昔からあった考えではないことがわかり、ほっとした気分になった。時間感覚は社会的な地位に応じて存在し、階級によって不均衡だった時代ってつい最近まであったんだ。

民俗事例の窓　―自治体は民俗をどのように描いてきたのか―

斎　藤　修　平

はじめに

どこの資料館にあっても博物館にあっても寄贈されてくる報告資料の整理・管理はなかなか大変なものである。県立さきたま資料館にあっても資料図書室はすでに手狭となっており、寄贈された報告書類の整理に日々追われているのが現状である。また、整理された報告書類はどこに収納していくのかも頭痛の種となっている。本年度に入って図書室内部を整理する機会があり、県内市町村から寄贈された民俗関係の報告書類の書架を特定し整理することとなった。そのおりに架蔵の文献整理を思い立ち、さらには索引がわりとなるようにそれぞれの「章立て」を一括してまとめてみようと思いたったのである。整理をしていくと、県内の市町村が刊行してきた民俗関係の報告書類は思ったほど十全には収蔵されていないこともわかり、今後の収集の課題であることも判明してきた。本報告は、これまでに県内の市町村が刊行した民俗関係図書類の確認と整理のための一歩ということで、次年度の紀要にも紙幅の関係などで落としてしまったところを掲載して市町村刊行の民俗資料報告書の章立て集成を目差していこうと考えている。

それともう一つ、筆者は表題に示した通りのことだが、県内の市町村が民俗をどういうふうに描いて来たのかという課題を設定している。各自治体の調査グループは民俗らしきものの中から、どういう手続きを経て特定の項目を「民俗」と認定し、それを調査対象化して記述していったのかという問題を考えたいということである。章立てには、あきらかにそれぞれの地域の民俗をどのように考えた上で、それを把握しようと努めたかという調査者（自治体）の政治的な思考の痕跡がある。したがって章立ての変遷なども、それはとりもなおさず調査者（自治体）とフィールドとの関係性の変化を示すものだから、今後も民俗編などを発行していない、いわば未調査の自治体にとっては、『民俗編』というものは、いったいどういう思想の下で仕上げられていった本であり、そこにはどのような陥穽があるのか、といった点で参考になることも多いと思っている。自治体の民俗調査は通常は市町村史編纂事業という傘下に入って「いまやらなきゃ、間に合わない」といういわば乗り遅れを心配し、時間ぎれの脅迫観念の下で開始され、短期間で終了することが多い。そして、これこそわが町の民俗という名の下で、選択された項目に対して集中的な調査が行われ、それぞれの「市町村の民俗」として記述されていくことになっている。自覚的であっても、無自覚であっても、ともあれ自治体が民俗をどのように表象してきたのかを明らかにしていければ、と思っている。

とにかく、章立て資料として、ここでは36市町村の39例をまづ紹介してある。かなり字が小さいけれど、ざっとでも一見すれば、誰が、どのようにな場所から、どのような手段を講じてこのように見事に基準化された章立てを市町村の民俗調査報告を、問うてみる気分になるはづである。そして、そういった問いは、もういくらも残っていない「民俗編未刊行」地域の民俗調査と資料刊行を考えていく上で重要なことだと思っている。近年、物凄いスピードで積み上げられてきた民俗資料群に接近する窓口として章立てを提示しながら、民俗という分野の自明性を一度は振り返っていくことも大切なのではと思ったしだいである。民俗編の編纂のための章立ては、「こうじゃなきゃいけない」というものではないだろうし、現在、市町村の民俗資料刊行のために調査に従事されている調査員の方々も今一度、どのような姿勢で民俗と係わっていくことがいいのか反芻してみることも大事かもしれない、と思うのである。

資料001『上尾の民俗Ⅰ』

（上尾市文化財調査報告　第三十七集）

平成１年12月

目　次

第一章　社会生活
1　小泉の社会生活・・・・・・・・・・・・・・・・1
2　領家の社会生活・・・・・・・・・・・・・・・・6
3　平方の社会生活
（1）平方の概観・（2）平方の上宿社会生活・・13
（3）平方新田の社会生活・・・・・・・・・・・15
第二章　生産・生業
1　平方上宿１家の農業・（1）農業経営・・・・21
（2）麦　作・・・・・・・・・・・・・・・・・22
（3）陸　稲・・（4）さつまいも・・・・・・25
（5）その他の作物・・・・・・・・・・・・・・27
2　藤波Ｈ家の農業・・・（1）農業経営・・・・28
（2）麦　作・・・・・・・・・・・・・・・・・30
（3）摘　田・・・・・・・・・・・・・・・・・33
（4）さつまいも・・・・・・・・・・・・・・・36
（5）その他の作物・・・・・・・・・・・・・・39
3　小敷谷Ｆ家の農業・・（1）農業経営・・・・40
（2）麦　作・・・・・・・・・・・・・・・・・42
（3）摘　田・・・・・・・・・・・・・・・・・45
（4）陸　稲・・・・・・・・・・・・・・・・・48
（5）さつまいも・・・・・・・・・・・・・・・49
（6）その他の作物・・・・・・・・・・・・・・52
4　農業・補遺・・・（1）農業経営・・・・・・55
（2）麦・・・・・・（3）摘田・陸稲・・・・・56
（4）その他の作物・副業・・・・・・・・・・・56
5　養　蚕・・（1）平方上宿Ｎ家の事例・・・・57
（2）中分Ｙ家の事例・・・・・・・・・・・・・59
6　漁撈・狩猟・・（1）荒沢沼と漁撈・・・・・61
（2）荒沢沼周辺の漁法・・・・・・・・・・・・62
（3）荒沢沼周辺の魚の食べ方・出荷・・・・・64
（4）荒川，入間川，屏風沼と漁撈・・・・・・64
（5）荒川，入間川，屏風沼の漁法・・・・・・65
（6）狩　猟・・・・・・・・・・・・・・・・・67
第三章　年中行事
1　平方上宿Ｉ家の年中行事
（1）概　観・・・・・・・・・・・・・・・・・68
（2）正月行事・・・・・・・・・・・・・・・・69
（3）春から夏の行事・・・・・・・・・・・・・72
（4）盆行事・・・・・・・・・・・・・・・・・75
（5）秋から冬の行事・・・・・・・・・・・・・77
2　平方領領家Ｏ家の年中行事
（1）概　観・・（2）正月行事・・・・・・・・79
（3）春から夏の行事・・・・・・・・・・・・・82
（4）盆行事・・・・・・・・・・・・・・・・・84
（5）秋から冬の行事・・・・・・・・・・・・・86
3　小泉Ｋ家の年中行事・（1）概　観・・・・・87
（2）正月行事・・・・・・・・・・・・・・・・88
（3）春から夏の行事・・・・・・・・・・・・・91
（4）盆行事・・・・・・・・・・・・・・・・・92
（5）秋から冬の行事・・・・・・・・・・・・・94
4　藤波Ｈ家の年中行事・（1）概　観・・・・・96
（2）正月行事・・・・・・・・・・・・・・・・97
（3）春から夏の行事・・・・・・・・・・・・・102
（4）盆行事・・・・・・・・・・・・・・・・・104
（5）秋から冬の行事・・・・・・・・・・・・・107
5　小敷谷Ｆ家の年中行事・（1）概　観・・・・109
（2）正月行事・・・・・・・・・・・・・・・・110
（3）春から夏の行事・・・・・・・・・・・・・114
（4）盆行事・・・・・・・・・・・・・・・・・117
（5）秋から冬の行事・・・・・・・・・・・・・120
6　年中行事・補遺・・（1）正月行事・・・・・122
（2）春から夏の行事・・・・・・・・・・・・・130
（3）盆行事・・・・・・・・・・・・・・・・・133
（4）秋から冬の行事・・・・・・・・・・・・・138
第四章　人の人生
1　出産と育児・・（1）妊　娠・・・・・・・・143
（2）出　産・・・・・・・・・・・・・・・・・144
（3）成長と祝い・・・・・・・・・・・・・・・147
2　婚　姻・・・・（1）縁　談・・・・・・・・150
（2）結　納・・・（3）祝　言・・・・・・・・151
3　葬　送・・・・（1）死と霊・・・・・・・・153
（2）葬　送・・・・・・・・・・・・・・・・・156
（3）忌明け・年忌・・・・・・・・・・・・・・162
第五章　信　仰
1　ムラの神仏・・（1）小　泉・・・・・・・・164
（2）中　分・・・・・・・・・・・・・・・・・165
（3）藤　波・・・（4）井戸木・・・・・・・・166
（5）中　妻・・・（6）沖の上・・・・・・・・167
（7）弁　財・・・・・・・・・・・・・・・・・168
（8）小敷谷・・・（9）小　林・・・・・・・・169
（10）畦　吉・・・・・・・・・・・・・・・・・170
（11）領　家・・・・・・・・・・・・・・・・・171
（12）平　方・・・・・・・・・・・・・・・・・172
（13）上　野・・・・・・・・・・・・・・・・・174
（14）平方領領家・・・・・・・・・・・・・・・175
（15）上野本郷・・（16）貝　塚・・・・・・・176
2　ムラの祭り・・（1）小　泉・・・・・・・・177
（2）中　分・・・・・・・・・・・・・・・・・180
（3）藤　波・・・・・・・・・・・・・・・・・182
（4）井戸木・・・・・・・・・・・・・・・・・186
（5）中　妻・・・・・・・・・・・・・・・・・187
（6）沖の上・・・・・・・・・・・・・・・・・188
（7）弁　財・・・・・・・・・・・・・・・・・189
（8）小敷谷・・・・・・・・・・・・・・・・・190
（9）小　林・・・（10）畦　吉・・・・・・・191
（11）領　家・・・・・・・・・・・・・・・・・193
（12）平　方・・・・・・・・・・・・・・・・・196
（13）上　野・・・（14）平方領領家・・・・・・204
（15）上野本郷・・・・・・・・・・・・・・・・206
（16）貝　塚・・・・・・・・・・・・・・・・・207
3　イエの神
（1）神棚・（2）年神様・（3）荒神様・・・・・209
（4）恵比寿・大黒様・・・・・・・・・・・・・210
（5）床の間・・・（6）その他の屋内神・・・・211
（7）屋敷神・・・・・・・・・・・・・・・・・212
（8）領家地区のウジガミサマ・・・・・。・・・213
4　代参講と神参り
（1）各地区の代参講の種類と組織・・・・。・・214
（2）各講の実際・・・・・・・・・・・・。・・218
（3）神参り・・・・・・・・・・・・・・。・・227
5　俗　信・・・・（1）予知・前兆・・・。・・228
（2）民間療法・・・・・・・・・・・・・。・・230
（3）災難除け・・（4）禁　忌・・・。・・・232

平成元年12月25日　発行
上　尾　市

資料002『朝霞市史　民俗編』

平成７年３月

目　次

第一章　概　説
第一節　自然環境・・・・・・・・・・・・・・・3
第二節　朝霞市の略史・・・・・・・・・・・・・6
第三節　民俗の概観・・・・・・・・・・・・・・8
第二章　社会生活・親族

第一節　社会生活・・・・・・・・・・・・・・・・15
1　社会生活に関わる出来事・・・・・・・・・・16
2　人口・世帯数の変遷・・・・・・・・・・・・20
3　近隣集団
（1）町内会
＜下内間木・上内間木・宮戸・田島・浜崎・岡・根岸 台・溝沼・膝折＞・・・24
（2）組合・近所・講中
＜下内間木・上内間木・宮戸・田島・浜崎・岡・広沢 ・根岸台・溝沼・膝折＞・49
（3）消防団・・・・・・・・・・・・・・・・・65
4　生業集団
（1）農家組合（農業組合）・・・・・・・・・・70
（2）水利組合・・・・・・・・・・・・・・・・75
（3）出荷組合・・・・・・・・・・・・・・・・76
（4）モヤイ・・・・・・・・・・・・・・・・・77
5　年齢・性別集団
（1）子どもの団体・・・・・・・・・・・・・・78
（2）青年会・・・・・・・・・・・・・・・・・85
（3）老人会・・・・・・・・・・・・・・・・・100
（4）婦人の団体・・・・・・・・・・・・・・・103
6　同信集団
（1）氏子集団・・・・・・・・・・・・・・・・109
（2）檀家集団・・・・・・・・・・・・・・・・111
（3）ムラ内の講・・・・・・・・・・・・・・・112
（4）代参講・・・・・・・・・・・・・・・・・116
第二節　親　　族
1　親族呼称・・・・・・・・・・・・・・・・・120
2　親族とつきあい関係
（1）下内間木＜下内間木Iｲｯｹ/親戚つきあい＞・・・・・122
（2）上内間木・・・・・・・・・・・・・・・・125
（3）宮戸＜宮戸Tｲｯｹ/親戚つきあい＞・・・・・・・・125
（4）田島＜親戚つきあい＞・・・・・・・・・・・127
（5）岡＜岡Hｲｯｹ＞・（6）根岸台＜根岸台＞・・・128
第三章　生　　業
第一節　農　　業・・・・・・・・・・・・・・135
1　耕地（田と畑）・・・・・・・・・・・・・・138
2　稲　　作
（1）用水＜井戸の利用/河川の利用/湧水の利用＞・・・・・・139
（2）稲作の作業工程・・・・・・・・・・・・・143
＜ﾀｳﾅｲ/ｸﾛﾂｹ/ｼﾛｶｷ/ﾅｴﾏﾂｸﾘ/ﾀﾈﾏｷ/ﾀｳｴ/ﾀﾉｸｻﾄﾘ/ｿｳｺﾞｼﾞﾏｲ/ｶﾘｲﾚ/脱穀・乾燥・籾摺・選別・俵詰め＞
（3）湿田の稲作・・・・・・・・・・・・・・・148
3　畑　作
（1）畑地の土壌・・・・・・・・・・・・・・・152
（2）作物の種類の変化・・・・・・・・・・・・152
（3）畑作の作業工程・・・・・・・・・・・・・155
（4）麦作＜ｲﾝｶﾞﾌﾐ　ﾀﾈﾏｷ　ｻｯｷﾘ　麦刈り　脱穀・調整＞・・157
（5）陸　稲・・・・・・・・・・・・・・・・・159
（6）根菜類・・・・・・・・・・・・・・・・・160
①ニンジン＜日本種　洋種＞・・・・・・・・・160
②ゴボウ＜作業工程　バウリ＞・・・・・・・・162
③ダイコン＜作業工程＞・・・・・・・・・・・163
（7）芋　類・・・・・・・・・・・・・・・・・164
①サトイモ　　②サツマイモ・・・・・・・・・165
（8）葉物類・・・・・・・・・・・・・・・・・167
4　肥料＜下肥　ツクテ　キンピ　エグミ＞・・168
5　作物の保存・出荷
（1）ム　ロ（ムロホリ）・・・・・・・・・・・171
（2）運　搬＜水路・陸路＞・・・・・・・・・・172
（3）市　場・・・・・・・・・・・・・・・・・174
6　農具と機械化・・・・・・・・・・・・・・・175
第二節　漁　　撈・・・・・・・・・・・・・・179
1　漁撈の対象となる場・・・・・・・・・・・・180
2　魚の種類　（1）川でとれるもの・・・・・181
（2）池でとれるもの（3）水田でとれるもの・182
3　漁法の種類・・・・・・・・・・・・・・・・183
（1）網漁法＜ﾀﾓｱﾐ/ﾏﾁｱﾐ/ｻｴｷﾘ/ｾﾊﾘ/ﾄｱﾐ/ﾖﾂﾃﾞ＞・183
（2）釣（竿）漁法＜ｵｷﾊﾘ/ﾄﾋﾞﾂｷ/ﾅｶﾞﾗ＞・・・・185
（3）突刺漁法・・（4）ウケ（筌）漁法・・・187
（5）その他の雑漁法・・・・・・・・・・・・・188
第三節　狩　　猟
1　網狩猟　＜ｶｽﾐｱﾐ/ｵﾄﾘ/ｶﾓｱﾐ＞・・・・・・・190
2　罠狩猟　＜ﾜｸ/ﾊｺﾜﾅ/ﾄﾗ＞・・・・・・・・・192
3　その他の雑狩猟　＜ｳｻｷﾄﾘ/ﾄﾘﾓﾁ＞・・・・・193
第四節　諸　　職・・・・・・・・・・・・・・・194
1　竹屋＜竹材の種類と利用法/竹山の管理/作業工程/出荷/修業と生活＞・195
2　簾屋＜製品の種類/材料/製作工程/出荷＞・200
3　井戸屋（1）掘抜き井戸＜作業工程/生活と信仰＞・・204
（2）丸井戸＜作業工程/ﾎﾟﾝﾌﾟ井戸/井戸替え/生活と信仰＞・・・207
4　車屋　（1）水車＜水車の用途/水車の製作＞・・・・210
（2）春屋・粉屋・・・・・・・・・・・・・・・213
5　針金屋（伸銅業）
（1）伸銅の歴史・・・・・・・・・・・・・・・214
（2）材　　料・・・・・・・・・・・・・・・・215
（3）製　　品・・・・・・・・・・・・・・・・216
（4）製作工程＜伸銅に関わる職人/技術の変化＞・・・・・・217
（5）制作工程＜ｼﾞｱﾜｾ/ﾎﾄﾞ/ﾂﾎﾞ/ﾕ/電気炉/ｶﾀﾊﾞﾂｸﾘ/ﾇｶｶﾀ/ﾕｲﾚ/ﾄﾒﾎﾄﾞ/圧延/ﾄﾞｳﾂﾞｷ/ｵﾄｼ/ｶﾜﾑｷ/ｼｱｹﾞ＞・218
（6）経　　営＜運搬＞・・・・・・・・・・・・224
（7）生活と信仰＜技術の修得/生活/信仰＞・・・・・・226
6　菓子屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・227
（1）膝折の菓子屋＜製品/販売/平林寺の出入職＞・・・・228
（2）停車場道り菓子屋
＜製品/材料/飴作り/菓子作り修業と生活＞・・・・・・・・230
第五節　商　　業・・・・・・・・・・・・・・・234
1　家畜商＜馬と牛/馬喰/市/飼育＞・・・・・235
2　呉服屋＜商品の種類/仕入れ/販売方法/仕立てと染直し/信仰＞・・239
3　八百屋
（1）膝折の八百屋＜仕事の種類/生活＞・・・・・・・242
（2）停車場通りの八百屋＜卸と小売/市場/生活＞・・・244
4　魚　屋＜商品/卸売と小売/市場/仕出し/技術/生活＞・・・・246
5　旅　　館
（1）膝折宿の商人宿＜宿泊客/部屋と料理/信仰＞・・・・249
（2）駅前の割烹旅館＜客/部屋と料理＞・・・・・・251
第六節　勤め人の登場
―ゴルフ場・被服廠で働いた人々―
1　ゴルフ場で働いた人々・・・・・・・・・・・253
（1）朝霞ゴルフ場の開場と閉場・・・・・・・254
（2）キャディーの仕事・・・・・・・・・・・254
2　被服で働いた人々
（1）被服廠の朝霞移転・・・・・・・・・・・256
（2）被服廠の組織・・（3）仕事と生活・・・257
（4）徴用工の生活・・・・・・・・・・・・・260
（5）「営団」の誕生・・・・・・・・・・・・261
第四章　衣　生　活
第一節　仕事着
1　野良着（1）男性の野良着・・・・・・・・267
（2）女性の野良着＜着物/腰まき/股引き/足と手/ﾓﾝﾍﾟ＞・269
（3）仕事着の行商・・・・・・・・・・・・・272
2　職人の仕事着＜井戸屋/竹屋/簾屋/籠屋/桶屋/下駄屋/屋根屋/伸銅工場の職人/鍛冶屋/菓子屋/醤油屋/髪結＞・・・・・・・・・・272
3　仕事着の袖＜筒袖/ムキミヤ袖/なぎなた袖＞・・・・・276
第二節　普段着・・・・・・・・・・・・・・・・278
1　大人の普段着（1）毎日の着物・・・・・・278
（2）着物の四季＜袷から単衣へ/単衣から袷へ＞・・・・・279
2　子供の普段着
（1）学校での服装＜男児/女児/通学の服装＞・・・・・280
（2）体操の時の服装・・・・・・・・・・・・282
第三節　よそゆきと晴れ着
1　よそゆき＜女のよそゆき/男のよそゆき＞・・・・・・284
2　晴れ着
（1）子供の成長と着物
＜生まれた時の着物/お七夜/養育/お宮参り/誕生日/七五三＞・・・・286

（2）祝儀の着物
＜花嫁衣装/お色直し/新客の衣裳/里帰り/もんぺ姿の花嫁/貸衣裳 ＞・・289
（3）年祝いの着物・・・・・・・・・・・・・・・293
（4）葬式の着物＜死者の着物 喪服 アトキヨメ＞・・・・・293
第四節 染・織と裁縫
1 染めと織り＜養蚕/染め/織り＞・・・・・・・・・296
2 裁縫所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・297
3 洗い張り＜糊/張り方/干し方＞・・・・・・・・・299
4 作り直し・つくろい・・・・・・・・・・・・・301
第五節 かぶりもの，雨具，はきもの・・・・・・305
1 かぶりもの＜もうろく頭巾＞・・・・・・・・・・305
2 雨 具＜蓑/キゴザ/ショイタ/傘＞・・・・・・・・307
3 はきもの
（1）野良仕事用＜わらじ/わらぞうり/地下足袋/田んぼの長靴＞・310
（2）日常用一下駄＜駒下駄/日和り下駄/子供の下駄/鼻緒/修理＞312
（3）雨の日用・・・・・・・・・・・・・・・・313
（4）足袋・靴下・・・・・・・・・・・・・・・314
第六節 寝 具
1 布 団・・・・・・・・・・・・・・・・・316
（1）敷布団＜敷布団の作り方/綿の入れ方/布団地/敷布＞・・・・317
（2）掛布団＜掛布団の作り方/布団の襟/夏掛け＞・・・・・・320
（3）かいまき＜毛布＞・・・・・・・・・・・・322
2 ねまき・・・・・・・・・・・・・・・・・・323
3 枕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・324
4 蚊 帳・・・・・・・・・・・・・・・・・・325
第七節 髪と美容
1 髪
（1）髪型＜オケシ/呑龍坊主/坊主/若い衆刈り/女の子の髪型/理髪/女の人の髪型＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・326
（2）髪結＜出髪結＞・・・・・・・・・・・・・330
2 美容＜歯磨き/化粧/洗髪/風呂＞・・・・・・・・・332
第八節 衣服の管理，保存
1 洗濯 ＜石鹸＞・・・・・・・・・・・・・・・335
2 虫干し・・・・・・・・・・・・・・・・・・336
3 収 納・・・・・・・・・・・・・・・・・・337
第五章 食 生 活
第一節 食制
（1）呼称と回数＜朝食/昼食/夕食/休み＞・・・・・・・343
（2）食事の作法・・・・・・・・・・・・・・・344
（3）食事の場所・・・・・・・・・・・・・・・345
第二節 毎日の食事・・・・・・・・・・・・・・・348
1 主 食
（1）ご飯＜ご飯の炊き方/人参ご飯の作り方/足らず米/すいとん＞・・348
（2）うどん・・・・・・・・・・・・・・・・・351
（3）そ ば・・・・・・・・・・・・・・・・・352
（4）雑 炊・・・・・・・・・・・・・・・・・353
2 副食(おかず)＜納豆/豆腐/野菜のおかず/魚介類のおかず＞・・354
3 汁 ＜味噌汁/すまし/醤油汁＞・・・・・・・・・356
4 一日の食事
（1）田島地区・新井家の一日の食事・・・・・359
（2）宮戸地区・高橋家の一日の食事・・・・・361
5 間 食・・・・・・・・・・・・・・・・・・362
第三節 ハレの日の食事
1 年中行事の食事・・・・・・・・・・・・・・364
（1）正月＜正月の準備/餅つき/三が日の食事/雑煮/セチ/オオバン/七草/蔵開き/小正月/恵比寿講＞・・・・・・・・・・365
（2）春の行事＜節分/初午/ひなまつり/彼岸/端午の節句＞・・・378
（3）夏から冬の行事＜土用餅/七夕/盆/十三日・迎え盆/十四日/十五日・送り盆/十六日/二十四日/十五夜・十三夜/十日夜/荒神様/冬至/星祭り＞・385
2 人の一生と食事・・・・・・・・・・・・・・392
（1）妊娠と出産の食事
＜妊娠の食事/産後の食事/妊娠・出産の禁忌＞・・・・・・・392
（2）子供の成長と食事
＜出生/お七夜/お食い初め/初節句/誕生日＞・・・・・・・394
（3）祝儀の食事＜見合い/結婚式＞・・・・・・・・396
（4）葬式の食事＜枕だんご/一杯飯/初七日・四十九日＞・・・397
3 ハレの日の変わりもの＜餅/ぼた餅/赤飯/小豆飯/粥/団子/まんじゅう/うどん・そば/まぜご飯/けんちん汁＞・・・・・・・・398
第四節 保 存 食
1 漬物 （1）春から夏の漬物＜ぬか漬け＞・・・403
（2）夏の漬物＜梅干し/らっきょう漬け/塩漬け/味噌漬け＞・・・404
（3）秋の漬物＜たくあん漬け＞・・・・・・・・・407
（4）冬の漬物＜白菜漬け＞・・・・・・・・・・408
2 干し物＜切り干し大根(きりぼし)/ずいき(芋柄)＞・・・・・410
第五節 調味料と嗜好品
1 調味料＜味噌/味噌こし/醤油/塩/砂糖/油/酢＞・・・・・412
2 嗜好品
（1）お茶
＜茶摘み/製茶/ふかし/火おこし/青ごろし/手もみ/火入れ/保存＞・416
（2）酒＜酒/甘酒＞・・・・・・・・・・・・・・422
第六節 台所と道具
1 台所の移り変わり・・・・・・・・・・・・・424
2 井戸の移り変わり＜田島・内間木地区の井戸＞・・・・426
3 台所の道具
＜貯蔵用具/精米・製粉用具/炊事用具/調理・調整用具/食事用具(食器類)＞・427
第七節 民間療法（薬用植物）・・・・・・・・・431
第六章 住 生 活
第一節 環境と住まい方
1 ノガタとサトガタ・・・・・・・・・・・・・437
2 自然とその利用 （1）ノガタ・・・・・・439
（2）サトガタ・・・・・・・・・・・・・・・440
（3）ハケ・・・・・・・・・・・・・・・・・442
第二節 屋敷と母屋・・・・・・・・・・・・・・444
1 屋敷取りと付属舎＜納屋/作業小屋/堆肥小屋/風呂/便所/井戸/馬屋とマギ/蔵/屋敷神/屋敷林と垣根・塀/門＞・・・・・・・・444
2 母屋 間取り（1）母屋の外観・・・・・・449
（2）間取りと其その機能
＜ダイドコロ/ハリダシ/チャノマ/ザシキ/デイ/オクとヘヤ＞・・・451
第三節 建築儀礼＜山出し/手板振る舞い/手斧立て/地祭り/地掲く/建前/荒打ち・葺きごもり/家移り＞・・・・・・・・・・・475
第七章 交通・交易
第一節 交 通
1 道（1）歴史の道＜川越街道/停車場新道/河岸道＞・・・483
（2）市内の主要道の道筋・・・・・・・・・・492
（3）坂 （4）道の管理・・・・・・・・・498
2 川・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・499
（1）舟運＜舟運/船頭/船頭たちの信仰/網引き/オワイ舟/舟大工/荷積舟>500
（2）河岸・・・・・・・・・・・・・・・・・503
① 新河岸川の河岸場
＜井口河岸（江口河岸/台河岸/振崎河岸/宮戸河岸＞・・・・・504
② 黒目川の河岸場
＜根岸河岸(黒目河岸)/黒目川の河岸場計画＞・・・・・・・506
③ 荒川の河岸場・・・・・・・・・・・・・・507
④ 水運の衰退・・・・・・・・・・・・・・・508
（3）橋と渡し場
① 橋 ＜現在の橋梁＞ ・・・・・・・・・・・508
② 舟渡し
＜地蔵木の渡し/渡船場/下内間木の渡し/権八渡し/末無川＞・・・・511
（4）舟運と水神信仰・・・・・・・・・・・・514
3 荷車の普及と交通機関の発達・・・・・・・519
（1）荷車＜荷車/馬力/手車/牛車と馬車/オート三輪自転車＞・・・519
（2）運送＜運送/マルツウ＞・・・・・・・・・・522
（3）人力車と円タク＜人力車/円タク＞・・・・・・523
（4）乗合馬車とバス＜乗合馬車/バス＞・・・・・・523
（5）鉄 道・・・・・・・・・・・・・・・・527
第二節 交 易・・・・・・・・・・・・・・・529
1 家・村の外へ（1）家の外へ・・・・・・・530
（2）村の外へ・・・・・・・・・・・・・・・531
2 家・村の外から・・・・・・・・・・・・・532
（1）訪れる商人・・・・・・・・・・・・・・533
（2）訪れる職人・・・・・・・・・・・・・・535
3 市と河岸・・・・・・・・・・・・・・・・536

（1）膝折宿の市・・・・・・・・・・・・・・・537
（2）不動様の市・・・・・・・・・・・・・・・539
（3）その他の市・・・・・・・・・・・・・・・540
（4）卸売市場・・・・・・・・・・・・・・・541
（5）河　　岸・・・・・・・・・・・・・・・544
4　交易と町の賑い
（1）膝折宿―川越街道の宿場町―・・・・・・547
（2）停車場通り―鉄道とともに発展した町―・557
第八章　年中行事
第一節　年中行事の変化
1　暦の変化＜月遅れの行事＞・・・・・・・・・・・567
2　行事の変化＜行事の消滅化＞・・・・・・・・・・573
第二節　正月行事・・・・・・・・・・・・・・・582
1　正月の準備＜歳暮/すすとり/餅つき/かき餅/雑穀餅/水餅/カマシ゛メ/門松・松飾り/年神棚/大晦日/ミソカッパ゛ライ/おみたま/年越しそば＞・・582
2　大正月＜初詣/年男/若水くみ/三が日の食事/雑煮/書初め/セチ・オオハ゛ン/初卯/その他/仕事初め/タナサガ゛シ/門つけ/六日年越/鍬入れ/初荷/七草蔵開き/ブク＞・・・・・・・・・・・・・・・・・600
3　小正月＜女の正月＞・・・・・・・・・・・・・612
（1）モノヅクリ
＜粟穂/稗穂/削り花/粥掻き棒/繭玉つくり/小豆粥/赤のご飯＞・・・612
（2）成木責め・・・・・・・・・・・・・・・620
（3）恵比寿講・・・・・・・・・・・・・・・621
第三節　春から夏の行事
1　次郎の朔日・・2　節分＜ヤッカブシ/豆/豆蒔き＞・626
3　八日節句・・・・・・・・・・・・・・・637
4　やぶいり・・・・・・・・・・・・・・・639
5　初　　午＜ヨミヤ/初午/小屋掛け・よみや＞・・・・・・640
6　彼　　岸・・・・・・・・・・・・・・・649
7　三月節句・・・・・・・・・・・・・・・652
8　お釈迦様・・・・・・・・・・・・・・・654
9　五月節句・・・・・・・・・・・・・・・657
10　サナブリ＜種フリから田植え＞・・・・・・・・・663
11　六月一日（旧）＜雨降り正月/農休日＞・・・・・・665
12　粉　初・・・・・・・・・・・・・・・668
13　天王様・・・・・・・・・・・・・・・669
14　土　用・・・・・・・・・・・・・・・672
15　七　夕＜七夕馬/供物/七夕飾りご馳走/七夕の雨/豆の伝承＞・・672
第四節　盆行事
1　盆の準備
＜盆供/墓掃除/新盆/盆棚/掛軸/無縁仏/みずむけ/馬/金花・銀花＞・・687
2　盆行事
＜迎え盆/棚経/しょい縄/土産団子/送り盆/かたずけ/施餓鬼/裏盆＞・・692
第五節　秋・冬の行事
1　八朔の節句・・・・・・・・・・・・・・・704
2　十五夜・・・・・・・・・・・・・・・705
3　彼　岸・・・・・・・・・・・・・・・708
4　クンチ・・・・5お日待ち・・・・・・・・709
6　十三夜・・・・・・・・・・・・・・・711
7　荒神様＜お旅立ち/中帰り/おちつき＞・・・・・・・712
8　十日夜（とうかんや）・・・・・・・・・717
9　恵比寿講・・・・・・・・・・・・・・・720
10　カビタリ（川浸り）・・11大師講・・・・・・721
12　八日節句・・・・・・・・・・・・・・・722
13　ふいご祭り・・・14　冬至＜星祭り＞・・・・723
第九章　人の人生
第一節　出産・育児・・・・・・・・・・・・・731
1　妊娠
＜妊娠/アヤカリッコ/妊娠中絶/帯祝い/安産祈願/妊娠中の禁忌/流産＞・・731
2　出産＜出産の場所/産婆/トリアゲ゛バ゛ーサン/出産/出産時の無事を願う/出生数/えなと臍の緒の処理/産湯・産毛剃り・チンケバ゛/出産と禁忌/床上げ/死産/産婦の死＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・737
3　出産と祝い＜誕生/お七夜・命名/橋渡り/宮参り/お食初め/初節句/初誕生日の祝い/七五三の祝い/元服＞・・・・・・・・・・・749
4　育　児＜母子の健康/離乳/呪い・民間治療法/呑龍坊主＞・・・・757
第二節　結　　婚・・・・・・・・・・・・・・・762
1　縁談
＜縁組の地域性/縁談/見合い/恋愛結婚/口固め/仲人/結納/足入れ＞・・762
2　祝宴＜衣装/嫁入り道具/嫁入り/ご祝儀・祝宴/仲間入り/里帰り＞・・770
3　嫁の人生＜嫁の人生/嫁の休日/嫁いびり/子供を持つということ/生涯で一番よかった頃/別れ/感謝＞・・・・・・・・・・・・・・・777
第三節　葬送
1　死＜死の知らせ/死/枕直し/死に使い/入棺/座棺と寝棺/通夜＞・・・784
2　葬送の準備＜葬式と組合/床取り帳/大役/道具作り＞・・・・791
3　葬送＜出棺・野辺送り/野辺送りの鉦と太鼓/埋葬/墓地からの帰りと清めの席/四十九の餅＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・797
4　忌明け・年忌＜忌明け/逆さ着物/四十九日/年忌＞・・・・804
付　神葬祭＜死ということ/遷霊祭・通夜祭/祖霊舎・霊璽に霊を移す/死後の祭り/盆と正月＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・808
第四節　墓　　制
1　墓　　制＜単墓制と両墓制/両墓制の分布＞・・・・・・・810
2　宮戸の宝蔵寺の両墓制
＜呼び方/共同墓地と個人墓地/埋葬/墓移し/お詣りする場所/墓地整理＞・・・811
3　上内間木の阿弥陀堂の両墓制
＜両墓制であった様子/両墓制の成立/お参り/両墓制を止めた理由＞・・・・・816
第十章　信仰・芸能
第一節　村の神仏・・・・・・・・・・・・・・・823
1　神　　社
（1）下内間木地区・氷川神社
＜由緒沿革/境内社等/氏子組織/日常管理/行事祭礼＞・・・・・・・・823
（2）上内間木地区・内間木神社＜（1）に同じ＞827
（3）宮戸地区・宮戸神社＜（1）に同じ＞・・830
（4）田島地区・神明神社＜（1）に同じ＞・・835
（5）浜崎地区・氷川神社＜（1）に同じ＞・・839
（6）岡地区・氷川地区　＜（1）に同じ＞・・844
（7）溝沼地区・氷川神社＜（1）に同じ＞・・850
（8）膝折地区・子之神氷川神社＜（1）に同じ＞857
2　寺　　院・・・・・・・・・・・・・・・・864
（1）下内間木地区・西福寺（観音堂）
＜由緒沿革/境内仏堂・墓地等/檀家組織/日常管理/行事等＞・・・・・・864
（2）宮戸地区・宝蔵寺＜（1）に同じ＞・・・868
（3）田島地区・冨善寺＜（1）に同じ＞・・・872
（4）浜崎地区・三光院＜（1）に同じ＞・・・875
（5）岡地区・東圓寺　＜（1）に同じ＞・・・878
（6）岡地区・本仙寺　＜（1）に同じ＞・・・883
（7）根岸台地区・金剛寺＜（1）に同じ＞・・889
（8）根岸台地区・台雲寺＜（1）に同じ＞・・894
（9）溝沼地区・泉蔵寺　＜（1）に同じ＞・・900
（10）溝沼地区・光善寺　＜（1）に同じ＞・・902
（11）膝折地区・一乗院　＜（1）に同じ＞・・904
3　堂庵（1）下内間木地区＜観音堂/地蔵堂＞・・・910
（2）上内間木地区＜阿弥陀堂/大日堂＞・・・・・・・911
（3）宮戸地区＜薬師堂/地蔵堂＞・・・・・・・・・913
（4）浜崎地区＜観音堂/東薬師堂/地蔵堂＞・・・・・・913
（5）岡地区＜不動堂/観音堂＞・・・・・・・・・・915
（6）根岸台地区＜阿弥陀堂/文殊堂/大日堂/阿弥陀堂＞・・・・918
（7）溝沼地区＜観音堂＞・・・・・・・・・・・・920
（8）膝折地区＜地蔵堂/闇魔道＞・・・・・・・・・920
第二節　地域・同族の神仏
1　稲　　荷・・・・・・・・・・・・・・・・924
（1）イッケが中心に祀る稲荷・・・・・・・・924
（2）イッケと近所で祀る稲荷・・・・・・・・926
（3）地区で祀る個人の稲荷・・・・・・・・・929
（4）地域で祀る稲荷・・・・・・・・・・・・930
2　その他＜下内間木地区の不動堂/宮戸地区の天明稲荷神社/田島地区の美女神社/浜崎地区の六道地蔵尊/岡地区のオシャクジ゛様/根岸台地区のHイッケの神明神社/南栄の八幡神社（栄町地区）/溝沼地区の下の権現様/泉水地区の白山神社/膝折地区の愛宕神社＞・・932
第三節　家の神仏
1　屋内の神仏＜大神宮様/仏様/荒神様/エビス様/床の間＞・・・944
2　屋外の神仏＜井戸神様/便所神様/屋敷神＞・・・・・・948
第四節　講・・・・・・・・・・・・・・・・・952
1　代参講

（1）木曽御嶽講＜根岸台地区の御嶽講/宝明講＞・・・・・953
（2）大　山　講・・・・・・・・・・・・・・960
（3）御　岳　講・・・・・・・・・・・・・・961
（4）榛　名　講・・・・・・・・・・・・・・962
（5）高　尾　講・・・・・・・・・・・・・・964
（6）成　田　講・・・・・・・・・・・・・・965
（7）三　峰　講・・・・・・・・・・・・・・966
（8）古　峰　講・・・・・・・・・・・・・・967
（9）平　心　講・・・・・・・・・・・・・・968
（10）富　士　講・・（11）伊勢参り・・・・・970
（12）川崎の大師様・・・・・・・・・・・・・971
2　村内の講（1）水神講・・・・・・・・・・971
（2）観音講（馬頭観音講）・・・・・・・・・973
（3）広沢観音講（4）念仏講・・・・・・・・976
（5）稲荷講（ビシャ講）・・・・・・・・・・977
第五節　稲荷講・・・・・・・・・・・・・・・978
1　子どもの行事ーヨミヤ
＜根岸台地区のヨミヤ/浜崎地区中道下のヨミヤ/参加者の年齢と性別/小屋作りと準備/大人の関与/遊び/幟・旗/カジツキ/ヨミヤの終わり＞・・・・・978
2　稲荷講（ビシャ講）＜根岸台地区のビシャ講/浜崎地区のビシャ講/日どり/出席者/場所/食事/宿の引継ぎ＞・・・・・・・・・984
第六節　民間宗教者・・・・・・・・・・・・・990
1　各地区における民間宗教者との関係・・・・991
2　市内の主な民間宗教者
（1）天明稲荷神社・・・・・・・・・・・・・994
（2）日英寺別院・・・・・・・・・・・・・・997
（3）「先達」・・・・・・・・・・・・・・・1001
（4）出雲大社・・・・・・・・・・・・・・1003
第七節　民族芸能・・・・・・・・・・・・・1007
1　風流その他
（1）獅子舞と囃子＜溝沼の獅子舞/膝折囃子/富士見囃子＞・・1007
（2）神　　楽＜湯花神楽/浦安の舞/里神楽＞・・・・・・1014
2　歌　謡　（1）歌　謡・・・・・・・・・1020
（2）はつうせ・・・・・・・・・・・・・・1026
第十一章　子どもの遊び
第一節　年中行事と子ども＜正月/小正月/節分/恵比寿講/初午/三月の節句/五月の節句/七夕/盆/十五夜・十三夜/クリスマス＞・・・・1033
第二節　家族の一員としての子ども—家の手伝い—
（1）朝・・・・・・・・・・・・・・・・・1041
（2）学　校・・・・・・・・・・・・・・・1042
（3）学校から帰って＜子守り/風呂掃除/夕飯の支度＞・・1043
（4）農作業＜小学校低学年/小学校高学年から＞・・・・・・1044
第三節　子どもの遊び
1　屋内の遊び　（1）特　徴・・・・・・・1046
（2）遊びの内容＜お手玉/おはじき/人形遊び/かるた取り/あやとり/折紙/手あわせ・じゃんけん/その他の遊び＞・・・・・・・・・1046
2　屋外の遊び　（1）特　徴・・・・・・・1057
（2）遊びの内容
＜鬼ごっこ/かくれんぼ/戦鬼/トロケー/アウト/たか鬼/色鬼　影踏み/缶けり/だるまさんころんだ/ポコペン/足掛け（人工衛星飛んだ）/かごめかごめ/はないちもんめ/あぶく立った煮え立った/タケノコ一本くださいな/通りゃんせ/ウマ乗り/石蔵り/こま回し/メンコ/ビー玉/釘刺し/釘つぶし/竹馬/たが回し/缶ぱっくり/凧あげ/羽根つき/まりつき/縄跳び/ゴム跳び/棒高跳び/相撲/草野球/トッチボール/ゴルフ遊び/ごっこ遊び/落とし穴/胆試し/探検＞・・・・・・・・1058
3　ほかの世界とのかかわり
＜物売り・芸人/恐ろしい動物/水＞・・・・・・・・・・1077
第四節　自然の中で
1　春　（1）採る・捕る＜摘み草/集める/捕る＞・・1081
（2）作る・競う＜作る/当てる/競う＞・・・・・・1083
（3）味わう・・・・・・・・・・・・・・・1085
2　夏　（1）採る・捕る＜集める/捕る＞・・・・・1086
（2）泳ぐ・・・・・・・・・・・・・・・・1090
（3）作る・競う＜作る/競う＞・・・・・・・・1092
（4）いたずら・・・・・・・・・・・・・・1095
（5）味わう・・・・・・・・・・・・・・・1096
3　秋　（1）採る・捕る＜集める/捕る＞・・1097
（2）作る・競う＜作る/競う＞・・・・・・・1098
（3）いたずら・（4）味わう・・・・・・・1099
4　冬　（1）採る・捕る＜集める/捕る＞・・・・1100
（2）作る・競う＜作る/競う＞・・・・・・・・1102
第二章　伝説・世間話・昔話
第一節　伝説・・・・・・・・・・・・・・・1111
1　片目の魚・・・・・・・・・・・・・・・1116
2　なんじゃもんじゃの木・・・・・・・・・1119
3　縁きり榎・・・・・・・・・・・・・・・1120
4　金剛寺の銀杏の木・・5　疱瘡石・・・・1122
6　弘法大師お杖掘りの滝・・・・・・・・・1123
7　末無川・・・・・・・・・・・・・・・・1127
8　仏　坂・・・・・・・・・・・・・・・・1129
9　膝折の地名由来・・・・・・・・・・・・1130
10　膝折草分けの高麗氏・・・・・・・・・・1135
11　下内間木地区草分けの十三軒・・・・・・1137
12　根岸地区の草分け・・・・・・・・・・・1139
13　上内間木地区の草分けの家・・・・・・・1139
14　宮戸地区の草分けの家・・・・・・・・・1140
15　浜崎地区の草分けの家・・・・・・・・・1140
16　田島地区の草分けの家・・・・・・・・・1141
17　岡地区の草分けの家・・・・・・・・・・1141
18　溝沼地区の草分けの家・・・・・・・・・1142
19　台地区の草分けの家・・20　一夜塚・・・1143
21　柊　塚・・・・・・・・・・・・・・・・1145
22　行人塚・・・・23　流山塚・・・・・・・1147
24　越居塚・・・・・・・・・・・・・・・・1148
25　ごはん塚・・・・・・・・・・・・・・・1149
26　広沢観音・・・・・・・・・・・・・・・1150
27　泉蔵寺の観音様・・・・・・・・・・・・1152
28　岡の氷川様と広沢の観音様の主・・・・・1153
29　雹害を防いでくれる日王子・・・・・・・1154
30　おしゃくじ様・・・・・・・・・・・・・1154
31　病を治してくれる神仏
（1）笠森（加佐森，瘡守）稲荷・・・・・・1155
（2）元禄地蔵・・・・・・・・・・・・・・1156
（3）柊坂の地蔵様・・・・・・・・・・・・1157
（4）地蔵様（下内間木地区）・・・・・・・1157
（5）あごなし地蔵（溝沼小字後根）・・・・1157
（6）瘡神社・（7）　歯痛の神様（戸隠神社）1157
（8）美女神社・（9）　薬師様（宮戸地区）・1158
（10）権現様（溝沼地区）・・・・・・・・・1158
（11）ほうそう神・（12）　溝沼の獅子・・・1159
32　蕎麦を作ってはいけない地区・・・・・・1159
33　天王様とキュウリ・・34　子の神・・・・1160
35　岡の氷川様の御神体・・・・・・・・・・1161
36　溝沼の氷川様の御神体・・・・・・・・・1162
37　広沢の池出土の鰐口・・・・・・・・・・1163
38　東円寺本道本尊の薬師如来・・・・・・・1163
39　血の出る杉（根岸字流山）・・・・・・・1164
40　力　　石・・・・・・・・・・・・・・・1166
41　黒目川のさんしょのぶ・・・・・・・・・1167
42　上内間木のまぐろ家と河童・・・・・・・1168
43　溝沼のケツアブリ・・・・・・・・・・・1169
44　七　　夕・・・・・・・・・・・・・・・1170
第二節　世間話・・・・・・・・・・・・・・・1171
1　キツネ火・・・・・・・・・・・・・・・1175
2　赤池のキツネ・・・・・・・・・・・・・1176
3　門ざえもんのキツネ・・・・・・・・・・1177
4　女に化けたキツネ・・・・・・・・・・・1178
5　キツネが火の玉んなって線路を転がって歩いた話・・・・・・・・・・・・・・・・・1178
6　岡のゆかいなキツネ・・・・・・・・・・1179
7　水を汲むキツネ・・・・・・・・・・・・1179
8　キツネに引まわされた話・・・・・・・・1180
9　こうざえもんタヌキ・・・・・・・・・・1180

10　とんとんと戸をたたくムジナ・・・・・・1181
11　根子八の大椀・・12　だいこん泥棒・・・1183
13　中山屋敷のてる姫の話・・・・・・・・・1184
14　火をふいた氷川様のモミの木・・・・・・1185
15　血とり・・16　七ツ釜・・・・・・・・・1185
17　カマイタチ・・・・・・・・・・・・・・1187
18　電気が怖い・・19　馬捨て場・・・・・・1188
20　二本松と庚申塔・・・・・・・・・・・・1189
21　平方のおしっさま・・・・・・・・・・・1190
22　一升の徳利に五升・・・・・・・・・・・1191
第三節　昔　　話・・・・・・・・・・・・・1193
1　蛙報恩・・・・・・・・・・・・・・・・1195
2　天道様金の鎖・・・・・・・・・・・・・1197
3　たのきゅう・・・・・・・・・・・・・・1199
4　古屋の漏り・・・・・・・・・・・・・・1202
附編1　朝霞青年学校経営概要・・・・・・・1207
附編2　酒造蔵・・・・・・・・・・・・・・1224
主な参考・文献一覧・・・・・・・・・・・・1227
執筆者一覧・・・・・・・・・・・・・・・・1233
話者一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・1234
資料提供者・協力者一覧・・・・・・・・・・1238
朝霞市史編さん関係者名簿・・・・・・・・・1242
編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・1244

平成7年3月31日　発行
朝霞市史編さん室

資料003『荒川村誌　第七編民俗』

昭和58年12月

目　次

第七編　民　　俗
第一章　伝　　説
第一節　石に関する伝説・・・・・・・・・・・・・857
第二節　水に関する伝説・・・・・・・・・・・・・858
第三節　地名に関する伝説・・・・・・・・・・・・862
第四節　社寺に関する伝説・・・・・・・・・・・・864
第五節　木に関する伝説・・・・・・・・・・・・・871
第二章　呪　　術
第一節　冠婚葬祭にまつわるもの・・・・・・・・872
第二節　朝・夜・日・季節にまつわるもの・・・872
第三節　衣服にまつわるもの・・・・・・・・・・872
第四節　動物にまつわるもの・・・・・・・・・・873
第五節　器物にまつわるもの・・・・・・・・・・873
第六節　雑・・・・・・・・・・・・・・・・・・873
第三章　禁　　忌
第一節　冠婚葬祭に関するもの・・・・・・・・・875
第二節　朝・日・時・季節にかんするもの・・・878
第三節　数に関するもの・・・・・・・・・・・・886
第四節　衣服に関するもの・・・・・・・・・・・887
第五節　住居に関するもの・・・・・・・・・・・888
第六節　動物に関するもの・・・・・・・・・・・890
第七節　植物に関するもの・・・・・・・・・・・893
第八節　器物に関するもの・・・・・・・・・・・896
第九節　雑・・・・・・・・・・・・・・・・・・899
第四章　前兆予知
第一節　善に関するもの・・・・・・・・・・・・902
第二節　悪に関するもの・・・・・・・・・・・・903
第三節　その他・・・・・・・・・・・・・・・・906
第五章　民間療法
第一節　呪によるもの・・・・・・・・・・・・・908
第二節　神仏に祈願するもの・・・・・・・・・・910
第三節　草根木皮による薬物的なもの・・・・・911
第六章　祭りと民間信仰
第一節　信願相撲・・・・・・・・・・・・・・・916
第二節　甘酒祭り・・・・・・・・・・・・・・・916
第三節　廻し念仏・・・・・・・・・・・・・・・922
第七章　年中行事
第一節　小正月行事・・・・・・・・・・・・・・924
第二節　節分とやいかがし・・・・・・・・・・・928
第三節　五月節供・・・・・・・・・・・・・・・931
第四節　七夕祭りとネブタの木・・・・・・・・・934
第五節　十日夜・・・・・・・・・・・・・・・・937
第六節　天狗祭り・・・・・・・・・・・・・・・938
第八章　芸　　能
第一節　神　楽・・・・・・・・・・・・・・・・941
第二節　獅子舞・・・・・・・・・・・・・・・・945
第三節　白久の人形芝居・・・・・・・・・・・・951
第九章　唄
第一節　遊びの唄・・・・・・・・・・・・・・・956
第二節　くらしの唄・・・・・・・・・・・・・・968
第十章　方　　言・・・・・・・・・・・・・・・970
第十一章　民　　具・・・・・・・・・・・・・・989
荒川村歴史年表／参考文献目録／資料提供及び助言者
あとがき
荒川村誌編さん委員会編さん委員（執筆者）

昭和58年12月28日　発行
荒　　川　　村

資料004『岩槻市史　民俗史料編』

昭和59年3月

目　次

第一章　生活の場と民俗概観
第一節　自然環境と歴史・・・・・・・・・・・・・3
1　岩槻の自然環境・・・・・・・・・・・・・・・3
2　岩槻の略沿革　＜原始時代　古代・中世　近世　近代＞・・・・4
第二節　明治初期の町や村の様子・・・・・・・・・7
第三節　岩槻市域の民俗の特徴・・・・・・・・・・15
第二章　社会性活と親族
第一節　民俗社会のしくみ・・・・・・・・・・・・27
1　民俗社会と近世村・・・・・・・・・・・・・・27
2　村鎮守の祭祀と村祈祷・・・・・・・・・・・・31
3　村の境とフセギの行事・・・・・・・・・・・・35
4　村の中の地域区分・・・・・・・・・・・・・・39
5　組あるいは自治会の班・・・・・・・・・・・・47
6　隣　保　班・・・・・・・・・・・・・・・・・54
7　村　入　り・・・・・・・・・・・・・・・・・56
8　村の起こりの伝承・・・・・・・・・・・・・・57
第二節　民俗社会の運営
1　町村制の実施と区制・・・・・・・・・・・・・59
2　民俗社会の警護と防災・・・・・・・・・・・・62
3　ムラヤク・・・・・・・・・・・・・・・・・・64
4　自治会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
第三節　民俗社会の中の諸集団・・・・・・・・・・72
1　若い衆講・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
2　青年団・・・・・・・・・・・・・・・・・・・78
3　旦那講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・79
4　遊山講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
5　オトキ・念仏講・・・・・・・・・・・・・・・82
6　老人会・・・・・7　代参講の組織・・・・83
8　茅　講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・86
第四節　家と家族
1　家の創設・・・・・・・・・・・・・・・・・・87
2　相　　続・・・・・・・・・・・・・・・・・・90
3　家　　族・・・・・・・・・・・・・・・・・・91
4　子供たち・・・・・・・・・・・・・・・・・・93
5　青年たち・・・・・・・・・・・・・・・・・・95
6　奉公人・・・・・・・・・・・・・・・・・・・97
第五節　本家・分家・・親戚
1　本家・分家・・・・・・・・・・・・・・・・・99

2　親　　戚・・・・・・・・・・・・・・・・・107
第六節　大口地区の社会性活
1　大口の概況・・・・・・・・・・・・・・・・112
2　ムラの範囲と空間＜ムラ境と虫追い/地域区分/隣　組　墓地/勢至堂/ｺｳﾃﾞ地蔵/香取神社＞・・・・・・・・・・・・・112
3　ムラの運営と行事＜区長・自治会/区長代理・監査/定使/総会・新年年会/区費/共有地/道普請・堀浚い/氏子総代/年番/香取神社の祭礼＞・・・116
4　ムラの集団＜若い衆講/旦那講/道山講/念仏講/代参講＞・・・120
5　ムラシンルイと家族生活
＜ﾑﾗｼﾝﾙｲ/本家・分家/家族の呼び方/家族の構成/相続/ｼﾝｼｮｳ譲り＞・124
第七節　町の社会性活
1　岩槻町と太田町・・・・・・・・・・・・・・127
2　町の境界と町への出入口・・・・・・・・・・131
3　各町内の様子
＜市宿町/久保宿町/渋江町/田中町/新町/横町/林道町/富士宿町/新曲輪町＞・134
4　自治会・・・・・・・・・・・・・・・・・・138
5　消　防・・・・・・・・・・・・・・・・・・143
6　神　社・・・・・・・・・・・・・・・・・・144
7　青年の集団・・・・・・・・・・・・・・・・148
8　婦人会・老人会・・・・・・・・・・・・・・152
9　組合・燐保班・自治会の班・・・・・・・・・153
10　向う三軒両隣のつきあい・・・・・・・・・・156
第三章　農業・川漁
第一節　水田と畑
1　ノガタとサト
＜ﾉｶﾞﾀとｻﾄ/耕地整理・暗渠排水/耕地の所有/現在の耕地＞・・・161
2　水田灌漑と水利慣行・・・・・・・・・・・・171
3　稲　　作・・・・・・・・・・・・・・・・・180
（1）稲作の変遷＜ｳｴﾀとﾂﾐﾀ/稲の品種＞・・・・・・180
（2）ウエタ＜ﾀｳﾅｲ/ｸﾛﾂｹ/苗代と種まき/施肥/ｼﾛｶｷ/田植え/除草・追肥/ﾎｶｹﾐｽﾞ/稲刈り/脱穀・調整＞・・・・・・・・・186
（3）ツミタ＜ｸﾛﾂｹ・ﾌﾝｺﾞﾐ/ﾀｳﾅｲ・ｼﾛｶｷ/ｳﾈﾋｷ/ﾀﾂﾐ/ﾉﾏﾜﾘ/除草/追肥/稲刈り＞・・・・・・・・・・・195
4　ハスとクワイ＜ﾊｽ/ｸﾜｲ＞・・・・・・・・・・203
5　畑　　作
（1）畑と作物＜畑の種類と利用/畑作の変遷/つくってはいけない作物＞205
（2）畑作の技術＜麦　粟/ｵｶﾎﾞ/ｿﾊﾞ/ｻﾂﾏｲﾓ/前栽物/綿＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・210
第二節　肥料と農具
1　肥　　料＜堆肥/灰/下肥/ﾓｸ/落葉/金肥＞・・・・・・219
2　農具と牛馬
＜ﾏﾝﾉｳ/ｸﾜ/鋤と犂/ﾏﾝｶﾞ/馬と牛/ｶﾏ/脱穀用具/運搬具＞・・225
第三節　養蚕と農閑期の仕事
1　養　　蚕・・・・・・・・・・・・・・・・・233
2　農閑期の仕事＜ﾑｼﾛｵﾘ/ﾊﾀｵﾘ＞・・・・・・・235
第四節　労働と休日
1　労働慣行
（1）共同労働＜ｲｲｼｺﾞﾄ/ｽｹ/ﾋｮｳﾄﾘ＞・・・・・238
（2）奉公人・・・・・・・・・・・・・・・・・242
（3）アサヅクリとヨナベ＜ｱｻﾂﾞｸﾘ/ﾖﾅﾍﾞ＞・・243
2　休日と農耕儀礼
＜ﾀｳﾅｲｼｮｳｶﾞﾂ/ﾓﾒﾝﾎﾞｳｻﾏ/ﾀﾈﾏｷｼｮｳｶﾞﾂ/ﾂﾐﾀのｻﾅﾌﾞﾘとﾀﾂﾐｼｮｳｶﾞﾂ/ｳｴﾀのｻﾅﾌﾞﾘとﾀｳｴｼｮｳｶﾞﾂ/ｵｼﾒﾘｼｮｳｶﾞﾂと雨乞い/ﾛｸｻｲｼｮｳｶﾞﾂ/ﾑｼｵｲ/ｱﾚﾅﾝｼｮｳｶﾞﾂ/ｶｯｷﾘｶﾞﾕ・ｺｯｷｶﾞﾕ・ﾋｯｷﾘｶﾞﾕ/麦まきの祝い/ｵﾋﾏﾁ/ﾀﾞｲｼｶﾞﾕ＞・・・・・244
第五節　川漁と狩猟
1　川　　漁・・・・・・・・・・・・・・・・・255
（1）漁　法・・・・・・・・・・・・・・・・・258
（一）漁具を使わぬ漁＜ﾂｶﾐ/ﾄﾞｼｮｳﾎﾘ/網を使った漁獲/ﾆｺﾞｼ/ｶｲﾎﾞﾘ/ﾂｹｼﾊﾞ＞
（二）突刺・鉤引漁＜ﾂｷﾌﾞｼ/ﾄﾞｼﾞｮｳﾌﾞﾁ/ｳﾅｷﾞｶｷ＞
（三）ウケ漁＜ｶｺﾞﾄﾞｳｹ/ｳﾅｷﾞﾄﾞｳｹ/ﾄﾞｼﾞｮｳｳｹ/ｹﾂﾒﾄﾞﾄﾞｳｹ/ﾀｶﾂﾞｯﾎﾟ/ﾋﾞﾝﾄﾞｳｹ/ｶﾅｱﾐｳｹ/ｳｹを使ったｴﾋﾞとり＞
（四）釣　漁＜ｵｷﾊﾞﾘ/ﾅﾏｽﾞﾊﾟﾀｷ＞
（五）網　漁＜ﾊｽﾞ/ｵｲｶｹ/ｶｯﾂｹｲ・ｵｼｱﾐ/ﾄﾞｼﾞｮｳﾌﾐ/ｽｹｲｱﾐ/ﾌｸﾛｱﾐ/ｱｼﾞ/ｱﾐ/ﾄｱﾐ/ｷﾘｺﾐ＞
2　狩　　猟＜ｽｽﾞﾒの捕獲/ｲﾀﾁの捕獲＞・・・・・・・272
第四章　職人と技術
第一節　職人と技術
1　人形作り・（1）岩槻人形・・・・・・・・277
（2）天保の人形・・・・・・・・・・・・・・287
（3）奉納ひな人形・・・・・・・・・・・・・289
2　ダルマ作り・・・・・・・・・・・・・・・290
3　かご屋・・・・・・・・・・・・・・・・・292
4　タンスとお宮製作・・・・・・・・・・・・296
5　コウジヤ・・・・・・・・・・・・・・・・301
6　下駄屋・・・・・・・・・・・・・・・・・302
7　鍛冶屋・・・・・・・・・・・・・・・・・309
8　大　工・・・・・・・・・・・・・・・・・312
9　仕事師・・・・・・・・・・・・・・・・・320
10　屋根ふき・・・・・・・・・・・・・・・・324
11　瓦　屋・・・・・・・・・・・・・・・・・330
12　左　官・・・・・・・・・・・・・・・・・336
13　畳　屋・・・・・・・・・・・・・・・・・342
14　石　工・・・・・・・・・・・・・・・・・357
第五章　交通・交易
第一節　交通と運輸
1　道と種類と施設・・・・・・・・・・・・・363
（1）主要道路・・・・・・・・・・・・・・・363
（2）ムラの道・・・・・・・・・・・・・・・366
（3）廃れた道路＜春日部往還/舘林往還/その他＞・・・・368
（4）道の施設＜橋/渡船場/一里塚/道標/杉並木/茶店など＞・・372
（5）道と俗信・・・・・・・・・・・・・・・380
（6）道の管理・・・・・・・・・・・・・・・381
2　日光御成街道・・・・・・・・・・・・・・382
3　河川の利用（1）元荒川・・・・・・・・・384
（2）綾瀬川・・・・・・・・・・・・・・・・385
（3）綾瀬川の船・・・・・・・・・・・・・・386
（4）綾瀬川の状態・・・・・・・・・・・・・387
（5）藻刈り・・・・・・・・・・・・・・・・388
（6）舟運従事者の話・・・・・・・・・・・・389
（7）肥　船・・・・・・・・・・・・・・・・392
（8）綾瀬川汽船株式会社・・・・・・・・・・393
4　車の普及　（1）荷　車・・・・・・・・・394
（2）自転車・・・・・・・・・・・・・・・・396
（3）リヤカー・・・・・・・・・・・・・・・398
（4）オート三輪・・・・・・・・・・・・・・398
（5）トラック・・・・・・・・・・・・・・・399
5　交通機関の発達・・・・・・・・・・・・・399
（1）人力車・・・（2）乗合馬車・・・・・402
（3）乗合自動車・・・・・・・・・・・・・・404
（4）タクシー・・・・・・・・・・・・・・・406
6　鉄道の敷設・・・・・・・・・・・・・・・410
（1）岩槻電気軌道・・（2）乗合馬車・・・・402
（3）総武鉄道・・・・・・・・・・・・・・・413
7　運搬方法と運搬具・・・・・・・・・・・・414
第二節　旅と旅人・・・・・・・・・・・・・・416
1　旅に出る機会・・・・・・・・・・・・・・417
（1）西国巡礼・・・・・・・・・・・・・・・417
（2）伊勢参宮・・・・・・・・・・・・・・・418
（3）関東社寺への参詣・・・・・・・・・・・422
2　訪れたる人々・・・・・・・・・・・・・・422
（1）遊芸人・・・・・・・・・・・・・・・・423
（2）社寺参詣者・・・・・・・・・・・・・・424
（3）職　人・・・・・・・・・・・・・・・・425
3　旅の習俗と信仰・4　宿泊※休憩施設・・・426
第三節　交易のいろいろ・・・・・・・・・・・427
1　物々交換・・・・・・・・・・・・・・・・428
2　行商＜魚屋/海産物屋/干瓢売り/煮豆売り/豆腐屋/唐辛子売り/薬売り/呉服屋/小間物屋/日用雑貨屋/金物売り/籠屋/紙屋/菓子売り＞・・・428
3　商人の出買い＜鶏卵買い/果実買い/木買い/木の実買い/棕櫚の皮買い/甘藷買い/米麦買い/繭買い/灰買い＞・・・・・・・・・・・431

4　市取引
（1）岩槻の六斎市＜近代以前の六斎市/近代の六斎市/市神＞・・433
（2）慈恩寺観音市・・・・・・・・・・・・・・441
（3）周辺市町村の市・・・・・・・・・・・・・442
5　野菜の出荷と市場・・・・・・・・・・・・・443
6　穀物販売と穀物問屋・・・・・・・・・・・・447
7　商　　店・・・・・・・・・・・・・・・・・452
（1）白木綿商・・・・・・・・・・・・・・・・454
（2）穀物問屋・・・・（3）灰問屋・・・・・456
（4）川魚仲買商・・・・・・・・・・・・・・・458
第六章　衣　食　住
第一節　衣　服
1　仕事着と普段着＜仕事着/普段着/オヒ゛/タヒ゛/下着/オシメ＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・463
2　寝　具＜ネマキ/フトン/マクラ/カヤ＞・・・・・・・・・470
3　外出着と晴れ着＜外出着/防寒着/晴れ着＞・・・・・・471
4　被りものと履き物＜被りもの/雨具/履き物＞・・・・・477
5　染織と衣服の調達＜ワタ/ハタオリ/コンヤ/衣服の調達＞・480
6　髪型と化粧＜髪型/化粧/歯磨き/抜髪/フロ＞・・・・・・482
7　洗濯と衣服の管理＜洗濯/衣服の管理/針仕事＞・・・・485
第二節　食　生　活
1　食生活の概観＜一日の食事/膳とチャブ台/食事の支度と後かたづけ/食料の保存/その他＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・488
2　日常の食べ物＜主食/副食/間食＞・・・・・・・・・・492
3　ハレの日の食べ物＜餅/赤飯/アズキメシ/団子　粥/マンジュウ/ウトドン/ソバ/スミツカリ/ケンチン汁/五目飯＞・・・・・・503
4　味噌と醤油＜味噌/醤油/その他の調味料＞・・・・・・・511
第三節　住　　居
1　屋敷構え＜屋敷構え/付属建物/庭・屋敷林＞・・・・・・516
2　母屋＜母屋の向き/トプグチ・セドグチ/ツノヤ/屋根型/間取り＞519
3　燃料と照明＜付け木/照明＞・・・・・・・・・・・・524
4　井戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・526
5　風呂・・・・・6　屋根葺・・・・・・・・・・527
7　建築儀礼＜ジマツリ/作業始め/水盛り/ネキリ/シギョウ/チョウナダテ/上棟式/アラウチ/フキゴモリ/シンコウ式/ヤクツリ＞・・・529
第七章　人の人生
第一節　産　　育
1　妊娠＜妊娠と産の神/帯祝い/妊娠中の禁忌※呪い＞・・・・・553
2　出産＜出産/胞衣・産湯/臍の緒の始末/ウブタテメシ/産見舞/授乳/産婦の食事/チブク＞・・・・・・・・・・・・・・・・・559
3　生児儀礼
＜お七夜/トコアゲ/食い初め/初節供/初正月と孫抱き/初山/初誕生＞・・572
4　育児＜育児儀礼と呪い/子守＞・・・・・・・・・・・582
5　七五三から厄年まで＜三つ身の祝い・帯解き/十五の初山/一人前になるまで/奉公/一人前/若い衆講※年齢別の講/厄年と年祝い＞・・・・・584
第二節　結　　婚
1　太田町と大森の婚姻習俗・・・・・・・・・・・592
2　結婚の条件＜縁談/見合い/恋愛/仲人/結納/アシイレ＞・・・602
3　婚礼＜ご祝儀の時期/荷送り/嫁迎え/嫁入り/嫁の入家式/ご祝儀/メデタモウシとムラマワリ/里帰り/離婚/オンジイ＞・・・・・・・・・615
第三節　葬　　送
1　死と霊
＜死の予兆/末期の水/マクラダンゴ/シニツカイ/ユカン・ニュウカン/通夜＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・637
2　葬送＜葬式組/墓穴掘り/野辺送り/埋葬と帰りの作法/葬家の贈り物＞・647
3　忌みあけ・年忌＜初七日まで/四十九日など/年忌＞・・・・666
4　葬制・墓制＜流れ灌頂/その他の異常葬法/墓制＞・・・・・674
第八章　信仰・俗信
第一節　村で祀る神仏
1　神　　社
（1）はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・697
（2）市内の神社＜岩槻地区宮町久伊豆神社/川通地区大戸第六天神社/柏崎地区柏崎久伊豆神社/和土地区笹久保新田浅間神社/神和地区尾ヶ崎八幡神社/慈恩寺地区上野鷲宮神社/河合地区平林寺開白神社＞・・・・・・・・・・704
2　堂　　庵
（1）はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・721
（2）市内の堂庵＜岩槻地区久保庚申堂/川通地区増長薬師堂/川通地区新方須賀観音堂/柏崎地区谷下谷下庵/新和地区高曽根薬師堂/慈恩寺地区表慈恩寺阿弥陀堂/河合地区平林寺観音堂＞・・・・・・・・・・・・・・724
3　寺　　院・・・・・・・・・・・・・・・・・733
第二節　地域・同族でまつる神仏・・・・・・・・・736
1　耕地・組でまつる神仏・・・・・・・・・・・737
2　有志でまつる神仏・・・・・・・・・・・・・747
3　小　　祠・・・・・・・・・・・・・・・・・750
4　同族でまつる神仏・・・・・・・・・・・・・751
第三節　家でまつる神仏・・・・・・・・・・・・753
第四節　講
1　念仏講
＜血の池/光明真言/四方がため/大寺/じぞうそん/送り念仏/からくり/家見念仏＞・761
2　代参講・・・・・・・・・・・・・・・・・・769
3　総参講・・・・・・・・・・・・・・・・・・780
4　一般の講・・・・・・・・・・・・・・・・・783
第五節　民間宗教者・・・・・・・・・・・・・・786
第六節　俗　　信
1　禁忌呪法・・・・・・・・・・・・・・・・・789
2　民間療法・・・・・・・・・・・・・・・・・790
3　自然現象に関する民間知識・・・・・・・・・792
4　民間知識・・・・・・・・・・・・・・・・・793
第九章　年中行事
第一節　概　　論
1　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・797
2　暦の変化＜旧暦から新暦へ/モノヒ゛＞・・・・・・・・798
3　年中行事の変化・・・・・・・・・・・・・・800
4　年中行事暦・・・・・・・・・・・・・・・・804
第二節　正月行事
1　正月の準備＜煤はらい/門松/餅つき/シメカザリ/神の膳＞・・812
2　大晦日＜大晦日＞・・・・・・・・・・・・・817
3　正月行事＜トシオトコ/正月の供え物/正月のカレイ/依神様/若水汲み/初詣仕事始めと初荷/オオバンブルマイ/年始の挨拶/トシカミサマ/ヤマイリ/七草粥/正月の間の仏壇/クワイレ・クワヒ゛ラキ/マユタ゛マタ゛ンゴ゛/ニワトコノハナ/オミタマ/成木責め/アズキカ゛ユとカユバシ/アズキメシとジュオウマシ＞・・818
4　その他の正月行事
＜門付け/万歳/金比羅様の縁日/ヤブイリ/若衆講＞・・・・・・835
第三節　春から夏の行事
1　一月の行事＜エヒ゛スコ/ハッカコナ/天神講＞・・・・・836
2　二月の行事＜次郎の初日/節分/初午/太子講/ヨウカセ゛ック/甘酒祭り・オヒ゛シャ/不動様の縁日/淡島様/タ゛ンナ講＞・・・・・・・・839
3　三月の行事＜三月の節供/毘沙門天/春の彼岸/馬寄せ/シャニチマイリ/金比羅様＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・846
4　四月の行事＜花祭り/モメンボ゛ウサマ/ウメワカサマ/トウカネンブツ/大師様の御影/大師送り/秋葉様の祭日＞・・・・・・・・・848
5　五月の行事＜五月の節供　大凧あげ＞・・・・・・・・・851
6　六月・七月の行事＜農作業にかかわる一連の行事/タネフリショウカ゛ツ/サナブリ/アシアライ/タツミショツカ゛ツ/ロクサイショウカ゛ツ/百万遍/浅間神社の祭りと初山/天王様/虫追/開山忌オスワ山＞・・・・・・・・・853
7　七　　夕＜七夕＞・・・・・・・・・・・・・・858
第四節　盆
1　盆の準備
＜カマノクチアケ/ボ゛ンコ/ニイボ゛ン/盆の墓掃除/盆棚作り＞・・・・861
2　盆行事
＜迎え盆と盆行事/野まわり/施餓鬼/棚経/エート※エート/送り盆＞・・・864
3　ウラボン＜ウラボ゛ン＞・・・・・・・・・・・・869
第五節　秋から冬の行事
1　八月・九月の行事
＜ハッサクセ゛ックと二百十日/十五夜※十三夜/クンチとオヒマチ＞・・・869
2　十月・十一月の行事
＜トウカンヤ/神無月と荒神様/エヒ゛スコ/二十三夜/タ゛イシカ゛ユ/カッキリカ゛ユ・コッキリカ゛ユ・ヒッキリカ゛ユ＞・・・・・・・・・・・873
3　十二月の行事
＜カヒ゛タリモチ/ヨウカセ゛ック/秋葉神社へのお参り/コ゛ミッパ゛タキ/冬至＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・878
第十章　民俗芸能・遊戯

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・883
第一節　民俗芸能
1　高曽根の獅子舞・・・・・・・・・・・・・・・885
（1）日　時・・（2）組織及び緒役・・・・・・885
（3）曲目・舞の実際＜幕切り/一本幣/二本幣/狂い＞・・・888
（4）服　装・・（5）練　習・・・・・・・・・892
（6）祭の準備・（7）祭当日・・・・・・・・・893
（8）祭当日・・・・・・・・・・・・・・・・・895
2　柏崎の万作
（1）変　遷・・（2）日時・場所・・・・・・・897
（3）演　目・・・・・・・・・・・・・・・・・898
3　尾ケ崎の囃子
（1）由来・変遷・・・・・・・・・・・・・・・900
（2）日時・場所・・・・・・・・・・・・・・・901
（3）楽　器・・（4）曲　目・・・・・・・・902
4　高曽根の囃子
（1）由来・変遷・（2）日時・場所・・・・・905
（3）練　習・（4）曲　目・（5）楽　器・・906
5　黒谷・浮谷の囃子・（1）由来・変遷・・・906
（2）日時・場・・（3）練　習・・・・・・・907
（4）曲　目・・・（5）楽　器・・・・・・・907
6　笹久保の古式子供相撲土俵入り
（1）由来・変遷・・・・・・・・・・・・・・・908
（2）組織・諸役・（3）練　習・・・・・・・909
（4）祭の過程・・・・・・・・・・・・・・・・910
（5）土俵入りの所作＜小役/小役以外の子供たち/手合/亀能＞・912
7　釣上の古式子供相撲土俵入り
（1）由　来・・・（2）組織・諸役・・・・・916
（3）練　習・・・（4）祭の過程・・・・・・917
（5）土俵入りの所作・・・・・・・・・・・・・918
第二節　民謡・童謡
1　民　　謡・・・（1）仕事唄・・・・・・・925
（2）祝い唄・・・・・・・・・・・・・・・・・926
（3）余興歌・・・・・・・・・・・・・・・・・932
第三節　遊　　戯
1　女の子の遊び＜ナッコ/キシャゴ/綾取り/まりつき/ナンキン玉＞・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・935
2　男の子の遊び
＜コマジ マイ/ナッキンボウ/メンコ/馬とび/水鉄砲/竹鉄砲/ゴムカン/弓矢/タガ回し/水浴び/魚とり＞・・・・・・・・・・・・937
3　男女共通の遊び＜ゴムトビ/縄とび/カクネゴッコ/鬼ごっこ/こうとろことろ/ケダシ/竹馬＞・・・・・・・・・・・・940
第四節　わらべ唄＜子守りうた(1)(2)(3)(4)/遊ばせうた(1)(2)/お手玉うた(1)(2)(3)(4)(5)(6)/手まりうた(1)(2)(3)(4)(5)/羽根つきうた(1)(2)＞・・・・・・・・・・・943
第十一章　昔話・世間話・伝説
第一節　昔　　話・・・・・・・・・・・・・・・951
はじめに＜1十二支の由来/2猿と蟹/3かちかち山/4くらげに骨がないわけ/5ほととぎすの鳴きかた/6雀孝行/7犬の脚/8兎と亀のかけ比べ/9ひえっかたの鳴き声/10蛇婿入/11桃太郎/12ぶっつァりべえ/13ちゅうたらこい/14花咲か爺さん/15舌切り雀/16旅人の留守番/17米埋め・籾埋め/18皿々山/19紅皿と欠皿/20鬼の家の便所/21猫の踊り場/22節分の豆と鬼の婿入り/23松山鏡/24たくあん風呂/25どっこいしょ/26嫁と姑/27本殺し半殺し/28平林/29二人の不精者/30まるでしかくで/31姥捨て山/32餅は本尊様/33仕事は弁当/34けんかの裁き/35物言う木切れ/36かわをむいて食べる/37ねずみ経/38いまさか降りるよ/39達磨におあしがあるもんか/40あいたい喧嘩/41一口話/42四十九の餅/43五色の読み/44天から褌/発端の言葉/結びの言葉＞
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・951
第二節　世間話＜1むじな/2狐に化かされた話/3狐や狸に化かされること/4まみ/5おおとかつき/6おとかの嫁入り/7黒浜の大どろぼう/8力持ち/9愛宕社の大蛇/10うましか＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・982
第三節　伝　　説
はじめに＜1衣掛の松/2鎧掛け松/3箸立柳/4なんじゃもんじゃの木/5天狗が昼寝した杉/6箸立杉/7物見松/8片葉の葦/9虎御石/10力石/11黒谷の七島/12鏡ケ池/13片目の魚/14祠童/15経塚/16八幡塚/17行人塚/18慶伝塚/19金塚/20竜灯登ること/21鶴姫大明神/22世泣き稲荷/23松尾大明神/24いぼ天神/25サンカの薬師/26しばられ地蔵/27北向きのお地蔵様/28コウデ地蔵/29手無不動/30八百比丘尼/31ショウツカばあさん/32おたま様/33元荒川出現の第六天社の御神体/34鎧の宮/35とうもろこしを作ってはいけない村/36ごまを作ってはいけない村/37きゅうりを作ってはいけない家/38みょうがんぼ/はちこく/40人身御供/41門松をたてない家/42餅なし正月
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・987
第十二章　民俗の変化と変容
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・1015
第一節　社会生活
＜近隣組織への加入/クミアイのつきあい/緊急の連絡/共同作業＞・・・・1016
第二節　人生儀礼＜五月目のハラオビ/実家からの届け物/出産の場所/ヘソのオ/はじめて台所にたった日/チブクあけ/お七夜/初宮参り/オクイゾメ/初誕生/浅間様の初山/七五三/十五の初山/結婚式/実家/アシイレ/アシイレをした理由/嫁入りしてきた時おがんだ神様/葬送/マクラダンゴ/魔よけの刃物/埋葬/ロクドウ/葬式の手助け/十三仏や四十九の餅＞・・・・・・・・・・・・・・・・・1024
第三節　信　仰＜神社の氏子/神社の役/神社に出かける時/初詣/屋敷の神様/エビス※大黒様/まつらなくなった神様＞・・・・・・・・・・・・1041
第四節　年中行事＜残存するもの/消滅するもの/やったことのないもの/餅やボタモチ/ダンゴ/盛んになったもの＞・・・・・・・・・・・1050
民俗調査話者一覧・・資料提供者及び協力者名簿
市史編さん関係者名簿・・あとがき
付図1　岩槻街復元図
付図2　明治末頃の岩槻街並
付図3　川通地区フセギ札の位置

昭和59年3月19日　発行
岩槻市役所　市史編さん室

資料005『浦和市史　民俗編』

昭和55年3月

目　次

第一章　生活の場所と概観
第一節　浦和の地名・・・・・・・・・・・・・・・・2
第二節　浦和の自然＜位置/面積/地形と地質/気候＞・・・・・・3
第三節　浦和の略沿革＜原始時代/古代/中世/近世/近代＞・・・・7
第四節　明治初期の町や村のようす・・・・・・・10
第二章　むらと家
第一節　む　ら・・・・・・・・・・・・・・・・・24
1　村制度の変遷＜区と五人組/部落会・町内会と隣保班/自治会と班＞・25
2　むらのしくみとその運営
＜むらと村/むらの構造/むらの範囲/ホラ,コウチ,クミ/クミ,五軒組,隣組/むらの起こりの伝説/むら入り/むらの上と下/むらの役職/むら寄り合い/むら仕事,休み日,むらの財産＞・・・・・・・・・・・・・・・・・31
3　むらの年齢集団
＜子供たちの集団/若い衆講/青年会(団)/主婦たちの集い/老人の集い＞・・50
第二節　家・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
1　家とその継承・分出＜家族/相続/分家/家格/屋号・家例＞・57
2　家のつきあい＜両隣/組のつきあい/本家分家のつきあい/シンセキ・シンルイのつきあい/労働慣行をめぐるつきあい＞・・・・・・・・・64
第三節　村と町の社会生活
1　高畑村の社会組織＜概況/自治会組織/むらを単位とする行事/村組ごとの行事/近隣組のつきあい/本家分家・両隣＞・・・・・・・・・73
2　都市部の社会組織＜概況/町内/自治会/近隣組織＞・・・77
第三章　生産・生業
第一節　水田と畑
1　耕地と土地利用＜野方と里/川と耕地/現在の耕地と利用＞・・82
2　水利慣行＜見沼代用水/天久保用水/高沼用水/鴨川/沼と涌き水/井戸＞90
3　稲　　作
＊稲作の変遷＜植え田と搗き田/収穫量の増加＞・・・・・・101
＊植え田＜稲の品種/クロツケからシロカキまで/苗代/田植え/田植えの禁忌除草と追肥/稲刈り/脱穀・調整＞・・・・・・・・・・・・109
4　ハスとクワイ＜ハス/クワイ＞・・・・・・・・・146
5　畑　　作
＊畑と作物の変遷＜畑の種類と利用/畑作の変遷/前栽物と土室＞・154
＊畑作物の種類＜穀類/芋類/豆類/野菜類/その他の畑作物＞・・161
＊麦とサツマイモ＜麦/サツマイモ＞・・・・・・・172
第二節　肥料と農具

1　肥　料＜灰/堆肥/下肥/禁＞・・・・・・・・・・・180
2　馬と牛＜馬/牛＞・・・・・・・・・・・・・・・187
3　農　具＜鍬/万能/犂と鋤/馬鋤/収穫用具/選別用具/ムシロ＞・・190
第三節　農家とくらし
1　農家のくらし＜農家数/農作業の一年/養蚕/ヨナベとアサヅクリ＞
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・195
2　共同労働と一人前
＊共同労働＜ウチデマ/テマガワリとモヤイ/スケ/ヒョウトリ＞・204
＊一人前・・・・・・・・・・・・・・・・・・・208
3　休み日と農耕儀礼
＊休み日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・210
＊休み日と農耕儀礼の諸相＜木綿坊主/種まき祝いと種まき正月/サナブリとタツミ正月/サナブリと田植え正月/雨降り正月/虫送り/雨乞い/アレナシ正月/ハツガリ/カッキリガユ/お日待ち＞・・・・・・・・・・・212
第四節　川漁と猟＜網漁/釣漁/筌漁/その他の漁＞・・・・・・222
第五節　職人・商人の暮らし・・・・・・・・・・・231
1　桶屋（渡辺清蔵氏）のはなし・・・・・・・・233
2　染物屋（安藤好夫氏）のはなし・・・・・・242
3　屋根屋（沢野栄次郎氏）のはなし・・・・・249
4　八百屋（町田初五郎氏）のはなし・・・・・258
第四章　交易と交通
第一節　交易と道路
1　市（いち）と交易＜浦和の二七市/与野の四九市/岩槻の十六市/越ケ谷の二七市/場ヶ谷の三八市/蕨の四九市/志木の二七市/川越の三六九市/東京の市場＞268
2　店と行商・・・・・・・・・・・・・・・・・276
＊浦和宿の店＜米穀商と米の流通/魚屋＞・・・・・・・277
＊村々の店・・・・・・・・・・・・・・・・・286
＊行　　商・・・・・・・・・・・・・・・・・287
3　運　　搬・・・・・・・・・・・・・・・・・291
4　街道と主要道＜中山道/日光御成街道/赤山街道/岩槻道/越ケ谷道/場ヶ谷道/志木道/与野道/羽根倉道＞・・・・・・・・・・・294
5　村々の道・・・・・・・・・・・・・・・・・303
第二節　舟運と河岸場・・・・・・・・・・・・・308
1　荒川の河岸場
＜羽根倉河岸/道場河岸　秋ケ瀬の渡し/道満河岸（地蔵河岸）＞・・・・・309
2　芝川と見沼代用水の舟運・・・・・・・・・318
＊江戸時代の舟運・・・・・・・・・・・・・319
＊見沼通船会社の舟運
＜八丁河岸/宮本河岸/山崎河岸/北原積場/染谷河岸/大崎河岸＞・・・・321
＊見沼通船の廃止・・・・・・・・・・・・・332
3　綾瀬川の河岸場
＜戸井河岸/新河岸/下野田河岸/畷（なわて）河岸/戸塚河岸（銀蔵河岸）＞・・333
第五章　衣　食　住
第一節　衣生活
1　衣料と服飾の変遷・・・・・・・・・・・・・344
2　仕事着と普段着＜野良着/船頭の仕事着/普段着＞・・・・346
3　ヨソイキと晴れ着＜ヨソイキ/晴れ着＞・・・・352
4　ミノ・ゴザとかぶりもの・履物
＜ミノとゴザ/かぶりもの/履物＞・・・・・・・・・356
5　髪型とお歯黒＜髪型/お歯黒＞・・・・・・・・・362
6　染織と衣服の管理＜機織り/染め物/洗濯/衣服の管理＞・・364
第二節　食生活
1　食事と食物＜一日の食事/食器・調理用具の変遷/穀類の調理法＞・366
2　日常の食べ物＜主食/副食/間食＞・・・・・・・・371
3　ハレの日の食べ物
＜餅/赤飯と赤の飯/粥/団子/饅頭/ウドン/ソバ＞・・・・・・377
4　味噌と醤油＜味噌/醤油＞・・・・・・・・・・387
5　保存食
＜漬け物/梅ぼし/切り干し大根といもがら/魚の乾物/アラレと水餅＞・・391
6　水とお茶・酒＜飲料水/茶/酒＞・・・・・・・・396
第三節　住
1　屋　敷＜立地/屋敷林/垣根＞・・・・・・・・・397
2　母　屋＜家の向き/間取りの変遷/左ずまい/カマドとイロリ/式台/屋根の形/屋根ふき/棟/瓦屋根/たたみ/町家（商家）の洋風住宅＞・・・・・・400
3　付属建物＜門/倉/納屋/その他の建物＞・・・・・・・419
4　井　戸
＜掘抜井戸と突抜井戸/井戸の位置と神様/井戸浚い/井戸縄/井戸掘り＞・・425
5　災害と住居＜地震/風/水害/その他＞・・・・・・・427
6　照　明・・・・・・・・・・・・・・・・・・430
7　風呂・8　家普請＜地祭りから地搗きまで/建前/上棟式＞・434
第六章　人の人生
第一節　産　　育
1　妊　娠＜妊娠と産の神/帯祝い/妊娠中の禁忌等＞・・・・・・440
2　出　産
＜出産/胞衣/産湯/臍の緒の始末/産見舞い/授乳/産婦の食事/血ブク＞・444
3　生児儀礼
＜お七夜/ウブアケ（産明け）/食い初め/初節供/初正月と初山/初誕生＞・451
4　育　児＜育児儀礼と呪い/子守＞・・・・・・・・・458
5　七五三から厄年まで＜三つ身の祝い/帯解き/成人/厄年＞・460
第二節　婚　　姻
1　大間木の婚姻習俗・・・・・・・・・・・・・463
2　結婚の条件＜縁談/見合い/恋愛/仲人/結納/アシイレ（足入れ）＞467
3　婚　礼
＜道具送り/ムコイリ（婿入り）/嫁入りと入家式/迎え祝儀/（付）離婚＞・477
第三節　葬　　送
1　死と霊＜死の予兆/末期の水/臨終直後の処理/枕団子と枕飯/二人使い/湯灌/入棺/通夜/耳ふさぎ＞・・・・・・・・・・・・・・492
2　葬送＜葬式組/墓穴掘り/野辺送り/埋葬と帰りの作法/喪家への贈り物＞・501
3　忌み明け・年忌＜初七日まで/四十九日など/年忌＞・・・517
4　葬制・墓制＜神葬祭/異常葬法/墓制＞・・・・・・・525
第七章　民間療法
第一節　村鎮守
1　村と村鎮守・・・・・・・・・・・・・・・・・536
2　神社整理・・・・・・・・・・・・・・・・・・539
3　神社の年間祭祀・・・・・・・・・・・・・・・543
4　神社の維持・管理・・・・・・・・・・・・・・546
5　神社にまつわる伝説・・・・・・・・・・・・・549
第二節　小　　祠
1　小祠の概観・・・・・・・・・・・・・・・・・550
2　稲荷社・・・・・・・・・・・・・・・・・・・552
3　天王社・・・・・・・・・・・・・・・・・・・553
4　村組で祭る神・・・・・・・・・・・・・・・・556
5　職業集団によって祭る神＜水神/観音/太子講＞・・557
6　特別の霊験がある神・・・・・・・・・・・・・560
第三節　小堂・寺
1　釈迦堂・・・・・・・・・・・・・・・・・・・560
2　薬師堂・・・・・・・・・・・・・・・・・・・561
3　阿弥陀堂・・4　観音堂・・5　不動堂・・562
6　弁天堂・・・・・・・7　寺・・・・・・・563
第四節　村祈とう
1　観音経・・・・・・・・・・・・・・・・・・・565
2　百万遍・・・・・・・・・・・・・・・・・・・566
3　お獅子様・・・・・・・・・・・・・・・・・・567
4　フセギ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・569
第五節　信仰的な講集団
1　稲荷講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・570
2　念仏講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・572
3　庚申講その他・・・・・・・・・・・・・・・・576
4　代参講
＜榛名講/大山講/木曽御嶽講/戸隠講/三峰講/古峰講/成田講/伊勢講＞・578
第六節　屋敷と家を守る神
1　屋敷神・・・・・・・・・・・・・・・・・・・586
2　屋内神・・・・・・・・・・・・・・・・・・・588
3　カドモリ（門守り）・・・・・・・・・・・・・591
第七節　共同祈願
1　雨乞いと雹祭り・・・・・・・・・・・・・・・592
2　虫送り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・594
3　呪　い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・595
4　禁　忌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・597
第八章　年中行事
第一節　序　　論
1　概　説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・600

2　暦法の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・502
3　下木崎の年中行事・・・・・・・・・・・・・・607
第二節　正月行事
1　正月の準備
＜煤はらい/お松迎へ/餅つき/シメカザリ/トシガミダナと神の膳＞・615
2　大晦日＜ミソカッパライ/オミタマ＞・・・・・・・・・623
3　正月行事＜トシオトコ/正月の供物と家例,村例/六日までの行事/七草がゆ/クワイレ/オオバン＞・・・・・・・・・・・・・・・626
4　小正月
＜マユダマ/ハナカキ/お飾り下げ/ナルカ/ナンネエカ/アズキガユ(小豆粥)＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・637
5　その他の正月行事＜歳暮/書き初め/四方拝/仕事始め/初荷/ウタイゾメ/ネンシまわり/ヤブイリ/十王飯/お正月念仏/馬寄せ/代神楽/三河万歳/正月の遊び/不幸のあった家の正月＞・・・・・・・・・・・・645
第三節　春から夏の行事
1　一月の行事＜エビスコウ/二十日こがし/初大師/天神様の祭日/文殊様の縁日/不動様の縁日＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

五　養　蚕＜蚕の飼育－蚕室－養蚕用具－養蚕の信仰＞・・・・・・・102
六　農閑作業
＜藁細工－真綿作り－機織り－紙漉－柿渋－紫蘇巻－製茶－染物－蒟蒻の製造－山仕事－漁猟－家畜の飼育＞・・・・・・・・・・・・・・・・・106
七　農業に関する禁忌・・・・・・・・・・・・・・・126
八　職人のくらし＜職人の技能習得－職人の信仰＞・・・・・・・127
九　商人のくらし＜商人の技能習得－商人の信仰＞・・・・・・・128
信仰と俗信
一　講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・130
1　地域的な講
イ　産土神を中心とした講（産土講－一覧）
ロ　仏教的な講（地蔵・観音・供養塔－一覧）
ハ　俗信的な講＜庚申講（庚申塔－一覧）－馬頭観音講（馬頭観世音塔－一覧）－太子講－天神講－お精進講・観音講・遊山講＞
2　参講＜三峰講－大山講・石尊講－榛名講－御嶽講・信心講－成田講・不動講－戸隠講－古峰講－木曽御嶽講－伊勢講－富士登山講－平方講（おしし様講・狛狗講）－板倉講・雷電講－善光寺講－穴守稲荷講－笠間稲荷講－吾竜講－敬神講（氷川太々講）－秋葉講－八雲講＞
二　家の神＜家の中の神－屋敷神＞・・・・・・・・・・・198
三　俗　信
＜前兆－災難よけ・禁忌・まじない－願かけ－幽霊・妖怪・異獣など－狐－付民間療法＞・206
家と親族
一　家　族＜家族の範囲－家族の呼び方－家族の中心－主婦の地位＞・・・・220
二　相　続＜相続者－相続者の権限－遺産の相続－形見分け－勘当・義絶＞・・225
三　本家と分家
＜本家と分家の呼び方－本家と分家のつきあい－非血縁の分家＞・・・・・227
四　親族と姻戚＜範囲－交際－親族会議のメンバー＞・・・・・・230
五　仮り親・親方・子方・・・・・・・・・・・・・・232
六　隠　居＜隠居する時・年齢－隠居の呼び方－同居・別居・別家の別－隠居の権限－隠居の世話－隠居分の相続＞・・・・・・・・・・・・・・・234
人の人生
一　誕　生＜帯祝い－安産祈願－妊娠・出産の禁忌－出産－うぶ湯・うぶたて飯・うぶ着－へそのお・えな－産婆＞・・・・・・・・・・・・・・・238
二　生児儀礼＜命名－お七夜－宮参り－食初め－初節供－初誕生＞・・・・248
三　育　児＜育児用具と玩具－拾い親・病弱な子－育児祈願と年祝い＞・・・256
四　成人から結婚まで＜若い男女のつきあい－恋愛結婚と見合結婚－婚約－仲人－婚姻圏－結婚の形態（婚礼の呼び方・聟入・足入れ婚・年期聟・姉女房）－結婚式（初聟入り・嫁入り・嫁入り行列・中宿・輿入れ道具・嫁の到着・盃・披露宴）－里がえり－婚姻と俗信－離縁－でおくれ・その他＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・264
五　葬　制＜葬式の呼称など－葬式組の範囲・役割り－北枕－枕めし・だんご－通夜－湯灌・納棺－葬列－忌中－墓地－葬制と俗信＞・・・・・・・・・・・289
衣　服・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・302
一　ふだん着＜着物と帯－下着－冠りもの－手甲・脚絆・足袋－履きもの－子どもの服装－若者の服装－娘の服装－雨の日の服装＞・・・・・・・・・・・304
二　仕事着＜野良着＞・・・・・・・・・・・・・・・318
三　晴れ着＜産着－七五三－婚礼衣裳－訪問着－葬送の衣服＞・・・・・321
四　制　服＜消防装束－学制服＞・・・・・・・・・・・327
五　化　粧＜髪の結い方－顔の化粧＞・・・・・・・・・330
六　寝　具・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・334
七　着物の保管と手入れ・・・・・・・・・・・・・・335
八　衣服の禁忌と呪い・・・・・・・・・・・・・・・338
食　物
一　主食と副食・・・・・・・・・・・・・・・・・・339
1　主食の材料＜米と麦－粟と稗－もろこし・そば－甘藷＞
2　主食の食べ方＜粒食（ごはん・赤飯・ぼたもち・おかゆとおじや・かてめし）－餅類（まもち・ひきもち・草餅・かしわ餅・だんご）－粉食（うどん・そば・すいとん・麦こがし・きな粉＞
3　副食の材料
＜野菜－魚と海草－鶏や卵－川魚など－豆腐・油揚げ－野草－野鳥＞
4　調味料＜塩－砂糖－味噌・醤油－香辛料＞
5　食物の保存＜ほしい・もち－漬物－干物－土中の保存－その他の保存＞
二　食　事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・358
1　ふだんの食事＜名称－内容－間食＞
2　特別の日の食事
3　災害時の食事
4　食事の席順，作法など
三　用　具
＜食器－膳－鍋や釜－ざる・ます－蒸し用具－運搬用－酒・水の入れ物－箸と臼＞・365
四　食物の禁忌・・・・・・・・・・・・・・・・・・371
付　録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・371
1　贈答用食品・・・2　料理の仕方
住　居
一　屋　敷＜屋敷の立地－屋敷の構え－家屋配置－井戸（井戸掘り・井戸浚い・井戸神信仰と年中行事）－屋敷林と垣根＞・・・・・・・・・・・・・・・380
二　母　屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・389
1　屋　根＜屋根形－屋根の材料－ぐし－破風－煙出し＞
2　間取り＜農家の間取り（左勝手と右勝手・二室型の家・広間型の家・四っ間型の家・式台のある家・蚕室のある家）－商家の間取り－特殊な家の間取り－建物の細部（床と天井・柱・縁側と雨戸・部屋の仕切り・窓）－間取り－住まい方（台所・囲炉裏とかまど・勝手・流し・うまや・座敷・北座敷・でい・部屋となんど・灯火）＞
三　付属建物＜門と木戸－蔵と物置－納屋－肥料小屋－厠＞・・・・440
四　家づくり＜敷地の選定－地つき棟上げ－壁塗り－屋根葺き＞・・・450
年中行事
一　年中行事暦・・・・・・・・・・・・・・・・・・458
二　年中行事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・465
伝説と巷説
一　見沼の伝説＜御舟祭りと片目の鯉－見沼の笛－蚤の宮－見沼の竜神（その1・その2）－雨降り朝顔－男女のえし－見沼の蛇枕－見沼のいもり＞・・・・・・532
二　大宮の伝説＜足立－高鼻－氷川神社へ参詣できぬ家－鎌ヶ谷戸と鐘塚－黒塚の鬼婆－黒塚の大黒天－蛇松・御鷹止めの松－倉屋敷稲荷社－椎谷山景元寺－土手の閻魔堂－高台橋のお女郎地蔵－火の玉不動－安藤橋－涙橋－塩地蔵－天沼のおしゃもじさま－竹芝居物語－暴れ御輿＞
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・543
三　三橋の伝説＜諏訪明神のお使い－駒形社－大平－うたらぎ－首無し地蔵－茶堂＞
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・564
四　日進の伝説
＜普門院のいたずら禅師像－片羽の迦楼羅－尾ケ山稲荷－内藤塚－櫛引と切敷田圃＞・568
五　宮原の伝説＜三貫清水－慶人塚－加茂神社の金の御幣－雷様の貝殻＞・・574
六　大砂土の伝説＜鷲神社と竜神の笛－砂－土呂の大杉＞・・・・・576
七　指扇の伝説＜指扇－中釘－鰐中観音－つぶて仏－堀口坂＞・・・・579
八　馬宮の伝説＜昼間の渡し＞・・・・・・・・・・・579
九　植水の伝説＜八百比丘尼－八百姫松で作った臼－神様の仲違い－お后盗み＞585
十　片柳の伝説＜染谷の由来－おかま坂と高井－中氷川－御蔵のいかり草－お宮弁天－南部の十王尊－長久寺弘法大師－瘤地蔵＞・・・・・・・・・・・590
十一　七里の伝説＜膝子－延命地蔵＞・・・・・・・・・・600
十二　春岡の伝説
＜子舗神社と寅御石－生入定－五郎淵と片葉の葦－六坊田－金井塚と経塚－青南塚＞・601
巷説　＜大宮八景－六国見が原－剣法一の宮流－神道徳次郎－強盗除けの呪い－高台橋の千匹蚤－乱れ柳屋・梅屋のあけぼの－大門町轍－切られ与三郎－馬のお化け－十六塚の髑髏－藤橋－長老堂と早鐘五郎－大橋の盆灯篭－児島高徳の後裔たち－黒塚－雷震木の肌刀－鼻の銀介さん＞608
歌　謡
一　歌　謡＜田の草取り－麦打ち唄－麦搗き唄の囃子－粉ひき唄－臼ひき唄－機織り唄－盆踊り唄－数え唄－桃栗三年－祝儀の唄－始めの唄－おつもりの唄－嫁御様－仲介－春駒－盃－七色の花－植木鉢－宝船－とばめ－ねづみ－茶－蕗－おかみさん－お招きしてもー－お正月－五葉の松－帯ときの唄－祝儀の唄・はつせ－はやし言葉1－はやし言葉2－一本杉の仇討－中山道往来＞・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・629
二　和　讃（御詠歌・念仏唄）＜六地蔵和讃－如来さま十日念仏－熊谷発心和讃－壺坂和讃－卓状庵薬師如来の唄－宮ガ谷塔観音和讃－当山は三十一番御本尊馬頭観世音菩薩ニ奉唱上御詠歌－新秩父三十三箇所観音詠歌・足立坂東順礼歌－北足立八十八か所霊場－大震災功徳念仏－戦歿英霊供養和讃＞・・・・・・・・・・・・・・647
三　現代歌謡＜盛衰時大宮－埼玉唱歌－大宮町歌－片柳村勢歌－大砂土唱歌－大宮小唄－大宮をどり－大宮まつり－馬宮小唄－櫛引音頭－大宮市歌＞・・・・・・・658
四　童謡と遊び＜こ正月－正月数え唄－お手玉－押しくら饅頭－竹馬－天神様－手まり－おはじき－独楽－根っ木－めんこ－ビー玉－ヨーヨーと鞠玉－三月雛祭り－綾とり－せっせっせ－はないちもんめジャン拳遊び－蚤－つばな－いも虫－ほおずき－こうもり－月－がん－馬－蛙－おけら－鳥－むけ歯－十日夜－石蔵り－尻まくり－鬼ごっ－下駄かくし－中のこん坊主・坊さん何処へいく－中の中のこん坊主－坊さん何処へ行く－室内の遊戯－子守唄＞・・・・677
大宮の方言と訛言
一　名詞の部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・708
二　その他の部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・724
民俗芸能
一　氷川神楽・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・735
二　祭囃子と里神楽＜囃子の流派－楽器と曲目－踊りと舞い－演技－技術の習得－市内囃子組－一覧表＞・・・・・・・・・・・・・・・742

三　獅子舞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・760
1　深作ささら獅子舞＜伝承－獅子舞の場所－門人衆－祭典と獅子舞－獅子舞諸道具と服装－行列次第－獅子舞唄－舞の型－獅子舞後の行事－悪疫退散の獅子－奉納以外の獅子舞＞
2　今羽ささら獅子舞・・3　奈良瀬戸の獅子舞
4　秋葉ささら獅子舞
四　祈祷獅子（獅子廻り）・・・・・・・・・・・・789
1　染谷東組の獅子・・・2　上加の獅子
3　蓮沼と砂の獅子
五　万　　灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・795
1　祇園祭り（天王様）
2　砂の万灯祭り＜伝承－万灯と行事＞
3　染谷の万灯祭り＜伝承－組織と役割－経費－万灯の飾り付け－祭りと巡路－勘定神酒＞
六　餅つき踊り・・・・・・・・・・・・・・・・・807
1　沿　革・・・・・・2　つき方
3　踊り方・・・・・・4　餅つきうた
七　万作踊り・・・・・・・・・・・・・・・・・・823
1　万作の名称・・・・2　市内の万作
3　種類と楽器
4　台本＜三番叟－高砂－高砂そうだい－大師さま－下妻そうだい－木更津そうだい－白石そうだい（上の巻）－豊年万作（1）－豊年万作（2）－新川地引－東海道五十三次－白粉家－小念仏－茄子と胡瓜－とのさ－広大寺和尚－細田川－ほめ詞＞
東遊・花鎮
1　東遊・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・843
2　花鎮の舞・・・・・・・・・・・・・・・・・・847

昭和44年４月20日　発行
大　宮　市　役　所

資料007『桶川市史　第六巻民俗編』

昭和63年３月

目　　次

総　　説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第一章　生産生業
第一節　稲　作・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第二節　畑　作・・・・・・・・・・・・・・・・・27
第三節　副業・諸職・・・・・・・・・・・・・・・49
第四節　漁　撈・・・・・・・・・・・・・・・・・69
第二章　年中行事
概　観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・85
第一節　桶川地区の年中行事・・・・・・・・・・87
第二節　加納地区の年中行事・・・・・・・・・・100
第三節　川田谷地区の年中行事・・・・・・・・・134
第三章　民　　家
概　観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・157
第一節　川田谷地区の民家・・・・・・・・・・・161
第二節　桶川地区の民家・・・・・・・・・・・・181
第三節　加納地区の民家・・・・・・・・・・・・186
第四章　食　　物
概　観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・201
第一節　桶川地区の食物・・・・・・・・・・・・202
第二節　加納地区の食物・・・・・・・・・・・・223
第三節　川田谷地区の食物・・・・・・・・・・・234
第五章　着　　物
第一部　平常着と仕事着・・・・・・・・・・・・257
第二節　晴れ着・・・・・・・・・・・・・・・・269
第三節　衣　料・・・・・・・・・・・・・・・・276
第六章　社会生活
第一節　桶川の今昔・・・・・・・・・・・・・・284
第二節　労働慣行・・・・・・・・・・・・・・・291
第三節　家族生活・・・・・・・・・・・・・・・295
第四節　年齢の団体・・・・・・・・・・・・・・300
第五節　その他の団体・・・・・・・・・・・・・313
第七章　人の人生
概　観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・321
第一節　新しき生命・・・・・・・・・・・・・・322
第二節　出　生・・・・・・・・・・・・・・・・325
第三節　成長期・・・・・・・・・・・・・・・・329
第四節　婚　姻・・・・・・・・・・・・・・・・333
第五節　厄年と年祝い・・・・・・・・・・・・・341
第六節　いのちの終わり・・・・・・・・・・・・342
第八章　交通・通信・交易
第一節　交　通・・・・・・・・・・・・・・・・355
第二節　通　信・・・・・・・・・・・・・・・・357
第三節　交　易・・・・・・・・・・・・・・・・359
第九章　信　　仰
第一節　桶川地区の信仰・・・・・・・・・・・・367
第二節　加納地区の信仰・・・・・・・・・・・・383
第三節　川田谷地区の信仰・・・・・・・・・・・389
第十章　芸能・娯楽・遊戯
第一節　民俗芸能・・・・・・・・・・・・・・・403
第二節　競技・童戯・・・・・・・・・・・・・・449
第十一章　口頭伝承・民俗知識
第一節　伝説・昔話・・・・・・・・・・・・・・461
第二節　民　謡・・・・・・・・・・・・・・・・498
第三節　ことわざ・なぞ・・・・・・・・・・・・508
第四節　予兆・占い・禁忌・呪い・民間療法・・・511
協力者芳名一覧
あ　と　が　き

昭和63年３月30日　発行
桶　川　市　役　所

資料008『大井町史　民俗編』

昭和60年３月

目　　次

総　　観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第一章　社会生活
第一節　ム　　ラ
1　ムラとは・・・・・・・・・・・・・・・・・17
2　ムラの歴史・・・・・・・・・・・・・・・・21
3　ムラの構成・・・・・・・・・・・・・・・・26
4　ムラの新しい組織・・・・・・・・・・・・29
5　ムラの政治・・・・・・・・・・・・・・・・31
6　ムラの倫理・・・・・・・・・・・・・・・・36
第二節　年齢集団
1　社会生活と年齢集団・・・・・・・・・・・40
2　ワカイシュの地位と役割・・・・・・・・・41
3　青年団の盛衰・・・・・・・・・・・・・・45
4　子供・年寄の地位と役割・・・・・・・・・50
5　年齢集団の変化・・・・・・・・・・・・・55
第三節　家と親族
1　家と生活・・・・・・・・・・・・・・・・57
2　親　　族・・・・・・・・・・・・・・・・65
第四節　交　　際
1　ムラの生活とつきあい・・・・・・・・・69
2　不祝儀のつきあい・・・・・・・・・・・72
3　祝儀のつきあい・・・・・・・・・・・・76
4　折々のつきあい・・・・・・・・・・・・81
5　つきあいの礼儀・・・・・・・・・・・・83
第二章　生業と日々の暮し
第一節　畑作と稲作
1　畑作と水田耕作・・・・・・・・・・・・87
（1）畑作り／（2）大麦・小麦の栽培／（3）薩摩芋の栽培／（4）語坊の栽培1／（5）人参の栽培／（6）大根の栽培／（7）西瓜の栽培1／（8）里芋の栽培／（9）茶／（10）ホウキモロコシ（ホウキ草）の栽培／（11）陸稲／（12）水田耕作
2　養蚕と畜産・・・・・・・・・・・・・・・121
（1）養蚕／（2）畜産
3　農業にともなう種々の祝い・・・・・・・・123

(1)畑作にみられない祝い・休み日/(2)その他の儀礼
第二節　さまざまな仕事
1　職人の仕事・・・・・・・・・・・・・・・・126
(1)蓆製造職人/(2)籠屋/(3)大工/(4)屋根屋/(5)その他の職人/(6)さまざまな仕事
第三節　交通交易
1　交　通・・・・・・・・・・・・・・・・・・148
2　運搬具と運搬法・・・・・・・・・・・・・153
3　通　信・・・・・・・・・・・・・・・・・・157
4　交　易・・・・・・・・・・・・・・・・・・158
5　外部からやってくる職人と旅芸人・・・・・159
(1)行商人たち/(2)外部からやってくる職人たち/(3)旅芸人たち
第四節　衣生活
1　晴れ着と仕事着・・・・・・・・・・・・・163
(1)いろいろな晴れ着/(2)仕事着・普段着
2　その他の衣料・・・・・・・・・・・・・・169
(1)寝具/(2)雨具と防寒具/(3)被りもの・はきもの
3　裁縫と衣服の管理・・・・・・・・・・・175
(1)裁縫/(2)衣服の管理
4　衣料の染め物・機織り・・・・・・・・・・182
(1)衣料(布地)/(2)染め物/(3)機織り
5　化粧と髪かたち・・・・・・・・・・・・・187
(1)化粧/(2)髪かたち
第五節　食生活
1　主食とその食べ方・・・・・・・・・・・・192
(1)日常の主食/(2)ハレの日の主食/(3)餅
2　副食おかず・・・・・・・・・・・・・・・197
(1)普段の日の副食物/(2)ハレの日の副食物
3　間食と調味料・・・・・・・・・・・・・・202
(1)茶ウケ(おやつ)202　(2)調味料202
4　保存食・・・・・・・・・・・・・・・・・206
(1)乾燥と貯蔵206　(2)漬け物208
5　食制と食器・調理器具・・・・・・・・・・209
(1)食制209　(2)食器と調理器具211
第六節　住　居
1　住居の地域性・・・・・・・・・・・・・・216
2　屋敷地と建物・・・・・・・・・・・・・・217
3　大井町における家屋の事例・・・・・・・・224
4　燃料と照明・・・・・・・・・・・・・・・233
5　建築儀礼・・・・・・・・・・・・・・・・234
第三章　儀　礼
第一節　年中行事
1　正月準備・・・・・・・・・・・・・・・・241
2　大正月・・・・・・・・・・・・・・・・・243
3　小正月・・・・・・・・・・・・・・・・・246
4　春から夏にかけての行事・・・・・・・・・247
5　盆行事・・・・・・・・・・・・・・・・・251
6　秋から冬にかけての行事・・・・・・・・・253
第二節　人の一生
1　婚　姻・・・・・・・・・・・・・・・・・257
2　産　育・・・・・・・・・・・・・・・・・263
3　葬　送・・・・・・・・・・・・・・・・・268
第四章　信　仰
第一節　氏神と氏子
1　ムラ氏神・・・・・・・・・・・・・・・・277
2　氏子組織・・・・・・・・・・・・・・・・281
3　祭りと氏神祭祀・・・・・・・・・・・・・285
第二節　屋敷神と屋内神
1　屋敷神・・・・・・・・・・・・・・・・・288
2　屋内神・・・・・・・・・・・・・・・・・293
第三節　講集団・・・・・・・・・・・・・・・294
1　ムラ内部で完結する講集団・・・・・・・・295
2　代参講・・・・・・・・・・・・・・・・・298
第四節　俗　信
1　祈願と祈祷師・・・・・・・・・・・・・・306
(1)祈願/(2)祈祷師
2　予兆と禁忌・・・・・・・・・・・・・・・310
3　呪いと民間療法・・・・・・・・・・・・・312
第五節　絵　馬
1　絵馬概要・・・・・・・・・・・・・・・・314
2　絵馬の奉納所在地と解説・・・・・・・・・316
第六節　仏教民俗
1　寺　院・・・・・・・・・・・・・・・・・320
2　堂祭祀と講祭祀・・・・・・・・・・・・・325
3　幕　制・・・・・・・・・・・・・・・・・329
第五章　芸　能
第一節　夏祭りと囃子
1　天王様・・・・・・・・・・・・・・・・・335
(1)大井地区の天王様と囃子/(2)苗間地区の天王様と囃子/(3)亀久保地区の天王様と囃子/(4)原・三角地区の天王様と囃子
第二節　民　謡
1　労働にともなう歌・・・・・・・・・・・・352
(1)機織り歌/(2)麦打ち歌/(3)臼挽き歌/(4)茶つみ歌/(5)蚕歌/(6)馬子歌
2　祝祭りにともなう歌・・・・・・・・・・・359
(1)正月歌/(2)餅搗き歌/(3)酒宴歌/(4)トノサ節/(5)盆踊り歌/(6)相撲甚句
3　わらべ・子守歌・・・・・・・・・・・・・365
(1)まりつき歌/(2)羽根つき歌/(3)手遊び歌/(4)子守歌
4　四季と行事の歌・・・・・・・・・・・・・369
5　瞽女歌・・・・・・・・・・・・・・・・・370
第三節　遊び・競技・・・・・・・・・・・・・370
1　軒遊び・・・・・・・・・・・・・・・・・371
2　外遊び・・・・・・・・・・・・・・・・・376
第六章　口承文芸
第一節　伝　説
1　伝説の特徴・・・2　大井の伝説・・・・・393
(1)村の部/(2)石の部/(3)水の部/(4)塚の部/(5)祠堂の部/(6)その他の悪病除け
第二節　昔ばなし
1　昔話概要・・・・・・・・・・・・・・・・403
2　昔　話・・・・・・・・・・・・・・・・・406
(1)動物昔話/(2)本格昔話/(3)笑話
3　川越地方昔話集・・・・・・・・・・・・・418
(1)町域の昔話・・・・・・・・・・・・・420
第三節　世間話・・・・・・・・・・・・・・・426
第四節　方　言
1　方言とは・・・・・・・・・・・・・・・・428
2　方言調査一覧・・・・・・・・・・・・・・429
あとがき
＊話者・資料提供・協力者一覧　＊執筆分担一覧
＊町史編さん関係者　　＊民俗関係既刊資料

昭和60年３月30日　発行
大井町編さん委員会

資料009『加須市史　通史編』

（第六編民俗）

昭和56年２月

目　次

第六編　民　俗
第一章　社会生活・・・・・・・・・・・・・・963
まえがき・・・・・・・・・・・・・・・・・963
第一節　村と町の形成・・・・・・・・・・・963
＜自然村と行政村/村と水の農場/本村・本田・新田/村と町の社会圏＞
第二節　地域の自治集団・・・・・・・・・・968
＜隣保集団/耕地集団/区および町内会＞
第三節　家族・同族集団・・・・・・・・・・971
＜家族構成/家督相続から財産相続へ/同族集団＞
第四節　性・年齢集団・・・・・・・・・・・975
＜婦人の集団/若者組/青年団＞
第五節　氏子・檀徒集団・・・・・・・・・・977

＜鎮守社と氏子集団/寺院と檀徒集団＞
第六節　講集団・・・・・・・・・・・・・・・・・981
第七節　経済集団・・・・・・・・・・・・・・・・984
＜系統農会/産業組合/農業協同組合/農民組合/農業組合＞
第二章　生産一農・・・・・・・・・・・・・・・・987
第一節　農家の変動＜農家個数と人口＞・・・・・・・988
第二節　農地所有の変化・・・・・・・・・・・・・990
＜農地の構成と推移/農地の所有関係＞
第三節　農業組織の変化・・・・・・・・・・・・・992
＜栽培作物の変化/畜産の変化/農業経営組織の変革＞
第四節　農業労働と技術の変化・・・・・・・・・996
＜耕起と整地/田植/中耕除草/かんがい/収穫/肥料/病虫害防除/米の生産費と米価/田畑の耕作一年誌＞
第三章　衣・食・住の生活・・・・・・・・・・・1014
第一節　着物の変遷・・・・・・・・・・・・・・1014
＜着物の生産/ふだん着・仕事着/晴れ着＞
第二節　食べ物の変遷・・・・・・・・・・・・・1019
＜食べ物の変遷/ふだんの食べ物/晴の日の食べ物/嗜好品/炊事と食器＞
第三節　住居の変遷・・・・・・・・・・・・・・1024
＜屋敷づくり/間取り/建築/生活と水・火＞
第四章　家庭の儀礼―年中行事―・・・・・・・・1034
第一節　正月行事・・・・・・・・・・・・・・・1035
＜年神祭り/恵方詣り/七草祝/鍬入れ/節会/小正月/恵比寿講・二十日正月＞
第二節　春から夏への行事・・・・・・・・・・1040
＜二郎のついたち/節分/初午/上巳の節句/春彼岸/お獅子様/お釈迦様・薬師様/端午の節句/初田植・サナブリ/六月一日・十五日の行事＞
第三節　七夕行事と盆の行事・・・・・・・・・1047
＜七夕行事/盆の行事/初盆＞
第四節　秋から冬への行事・・・・・・・・・・1050
＜八朔の行事/月見の行事/秋彼岸・社日/亥の子―十日夜―/荒神祭り/冬至/恵比寿講/川浸り祭/ネロハ/クリスマスの祝い＞
第五節　歳暮行事・・・・・・・・・・・・・・・1056
＜煤掃きと家の掃除/餅搗き/注連縄つくり/大晦日/年中行事暦＞
第五章　祭礼・法会
第一節　鎮守社の祭礼・・・・・・・・・・・・・1062
＜春の祭り/夏の祭り/秋の祭り/冬の祭り＞
第二節　寺院の法会・・・・・・・・・・・・・・1073
＜春の法会/夏の法会/秋の法会/冬の法会/その他の法会＞
第三節　小祠・小堂の祭り・・・・・・・・・・1081
＜天狗祭り/地蔵祭り/不動尊祭り/虚空蔵菩薩祭り/薬師堂の灌仏会/権現様/石尊講/大日様/庚申講/弁天様の祭り/天神様/神明社の祭り/大師講/秋葉講＞
第六章　人の人生・・・・・・・・・・・・・・・1087
第一節　誕生から成人まで・・・・・・・・・・1087
＜妊娠・出産に関する儀礼/育児と儀礼/成人儀礼＞
第二節　婚礼と儀礼・・・・・・・・・・・・・・1093
＜婚姻の条件/仲人/見合い/樽入れ/結納/足入れ婚/荷送り/婚礼/婚礼と隣組/若者組/嫁(婿)の市元/里帰り＞
第三節　葬送と儀礼・・・・・・・・・・・・・・1102
＜魂呼び/訃報/葬儀と隣組/葬式の役割分担/枕だんご・枕飯/湯灌/納棺/通夜/出棺に関する儀礼/埋葬/喪服/念仏＞
第四節　年忌と忌服・・・・・・・・・・・・・・1109
＜追善供養/年忌/忌服＞
第七章　伝説・昔話
第一節　伝　説・・・・・・・・・・・・・・・・1111
（1）自然伝説・・・・・・・・・・・・・・・1112
＜不思議田/巡礼堤/通殿社の大蛇/鍋沼の大蛇/三本が一本なった/ひばの木/地蔵堂の鐘楼/観音堂の人柱/白蛇を生んだ香炉/龍水井戸＞
（2）歴史伝説・・・・・・・・・・・・・・・1120
＜豆木法師/延命地蔵/六兵衛田んぼ/行人塚/小手腹地蔵/六十軒の弁財天/漂流してきた不動尊/スパイ発見に役立った加須弁＞
（3）信仰伝説・・・・・・・・・・・・・・・1128
＜切られ観音/雨乞い池/棺の中の子どもは生きていた/女中の身投げ/とげぬき地蔵/釵兵衛地蔵＞
第二節　昔　話・・・・・・・・・・・・・・・・1136
＜オトカッピ/血盗り/橋の上の蛙/瓜盗人立往生/藤内どん/天狗屋敷＞
第八章　方言・俗語・・・・・・・・・・・・・・1139
第一節　方言の種類・・・・・・・・・・・・・・1140
＜方言・俗語一覧/接頭語一覧/接尾語一覧＞
第二節　音韻の形態・・・・・・・・・・・・・・1151
＜母音・子音の転換/母音・子音の脱落/添加/転倒＞
第九章　俗信の伝承・・・・・・・・・・・・・・1154
第一節　俗信の生態―４０年間の変動・・・・1156
＜志多見地区の児童の伝承の比較＞
第二節　俗信の内容・・・・・・・・・・・・・・1160
＜兆占/禁忌/呪い/その他＞
第十章　芸能文化・・・・・・・・・・・・・・・1174
第一節　ササラ獅子舞・・・・・・・・・・・・・1174
＜来歴獅子舞組/仮面・楽器/花笠の風流/曲目構成/芸能/ササラ獅子舞と祈祷獅子平井祐作獅子舞伝書―大越三耕地＞
第二節　万作踊り・・・・・・・・・・・・・・・1193
第三節　馬内の神楽・・・・・・・・・・・・・・1195
加須市史年表
加須市史関係者名簿及び調査協力者名簿
編さんノート

昭和56年２月16日　発行
加　須　市

資料010『川越市史　民俗編』

昭和43年４月

目　次

第一章　民　俗・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第一節　解　説・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第二節　年中行事・・・・・・・・・・・・・・・・・6
1　正月行事・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
2　田植えとその行事・・・・・・・・・・・・・・24
3　七夕祭り・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
4　盆行事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
5　亥の子祭り・・・・・・・・・・・・・・・・・54
第三節　産育習俗
1　総　名・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58
2　生児の名目・・・・・・・・・・・・・・・・・61
3　妊娠祝い・・・・・・・・・・・・・・・・・・64
4　産屋入・産忌・・・・・・・・・・・・・・・・66
5　産　婆・・・・・6　分娩前後・・・・・・68
7　産　神・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70
8　産　飯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71
9　乳付親・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72
10　えい児の成育・・・・・・・・・・・・・・・・73
11　みつめの祝い・・12　神立ち祝い・・・・・76
13　うぶや祝い・・・・・・・・・・・・・・・・・77
14　孫祝い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・78
15　産婦の忌明け・・16　かわや神・その他・・79
17　宮参り・・・・・18　初節句・・・・・・・81
19　食い初め・・・・・・・・・・・・・・・・・・82
20　揺りかご・・・・21　一年後の誕生・・・・83
22　帯初めの祝い・・23　七歳の祝い・・・・・84
24　成人になるときの祝い・・・・・・・・・・・85
第四節　婚姻習俗・・・・・・・・・・・・・・・・86
1　お花女郎・・・・2　口固めと結納と・・・86
3　足入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・88
4　婿入り見参・・・・・・・・・・・・・・・・・89
5　嫁の出立・・・・・・・・・・・・・・・・・・90
6　中　宿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・92
7　入家式・・・・・・・・・・・・・・・・・・・93
8　さかずきごと一杯飯・・・・・・・・・・・・94
9　嫁ひろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・96
10　若衆酒・・・・・・・・・・・・・・・・・・・97
11　里帰り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・98
12　なこうど・・・・・・・・・・・・・・・・・・99
第五節　葬送習俗

1　喪の始め・・・・・・・・・・・・・・・・・100
2　葬式の総名と葬式を忌む日・3　訃報・・・102
4　まくら飯・・・・・・・・・・・・・・・・・103
5　ぶ　く・・・・・・・・・・・・・・・・・・104
6　耳ふさぎ・・・・・・7　香典・・・・・・105
8　葬　具・・・・・・・・・・・・・・・・・・106
9　入　棺・・・・・・・・・・・・・・・・・・107
10　一杯飯・・・・・・・・・・・・・・・・・109
11　でたち・・・・・・・・・・・・・・・・・110
12　野辺送り・・・・・・・・・・・・・・・・111
13　棺かつぎと穴掘り・・・・・・・・・・・・112
14　庭弔いと埋葬・・・・・・・・・・・・・・113
15　野帰り・・・・・・・・・・・・・・・・・114
16　墓じるし・・・・・17　墓地の種類・・・・115
18　墓直し・・・・・・19　火　屋・・・・・・116
20　念仏の供養・・・・・・・・・・・・・・・117
21　願ほどき・・・・・22　水かけ着物・・・・118
23　中　陰・・・・・・24　くちよせ・・・・・119
25　忌明け・・・・・・・・・・・・・・・・・120
26　新仏の正月と盆・・27　年　忌・・・・・・121
第六節　伝　説
1　岩石に関する伝説・・・・・・・・・・・・122
2　川・淵・沼・池・水辺に関する伝説・・・・123
3　井戸・泉に関する伝説・・・・・・・・・・127
4　妖怪に関する伝説・・・・・・・・・・・・129
5　椀貸し・・・・6　橋に関する伝説・・・・130
7　植物・動物に関する伝説・・・・・・・・・132
8　坂・洞穴・地名に関する伝説・・・・・・・135
9　塚に関する伝説・・・・・・・・・・・・・137
10　宝物に関する伝説・・・・・・・・・・・・139
11　仏像に関する伝説・・・・・・・・・・・・140
12　神祇に関する伝説・・・・・・・・・・・・143
13　行事に関する伝説・・・・・・・・・・・・144
第七節　童　戯・・・・・・・・・・・・・・・145
第八節　歌　謡・・・・・・・・・・・・・・・156
第九節　衣　服・・・・・・・・・・・・・・・186
第十節　方　言・・・・・・・・・・・・・・・190
第十一節　村落実態調査
第一部　大袋宿東・宿西・・・・・・・・・・・210
1　概　観・・・・・・・・・・・・・・・・・210
2　生産・生業・・・・・・・・・・・・・・・212
3　手工業・・・・・・・・・・・・・・・・・217
4　林業・漁業・・・・・・・・・・・・・・・221
5　食　物・・・・・・・・・・・・・・・・・225
6　住　居・・・・・・・・・・・・・・・・・226
7　社会生活・・・・・・・・・・・・・・・・230
8　交通・交易・・・・・・・・・・・・・・・235
9　通過儀礼・・・・・・・・・・・・・・・・236
10　年中行事・・・・・・・・・・・・・・・・240
第二部　古谷本郷下組・・・・・・・・・・・・293
1　概　観・・・・・・・・・・・・・・・・・293
2　生産・生業・・・・・・・・・・・・・・・296
3　手工業・・・・・・・・・・・・・・・・・303
4　林業・漁業・・・・・・・・・・・・・・・305
5　食　物・・・・・・・・・・・・・・・・・308
6　住　居・・・・・・・・・・・・・・・・・314
7　社会生活・・・・・・・・・・・・・・・・319
8　交通・交易・・・・・・・・・・・・・・・328
9　通過儀礼・・・・・・・・・・・・・・・・331
10　年中行事・・・・・・・・・・・・・・・・338
第二章　芸　能・・・・・・・・・・・・・・・397
第一節　概　説・・・・・・・・・・・・・・・399
第二節　獅子舞・・・・・・・・・・・・・・・401
1　石原町の獅子舞・・・・・・・・・・・・・404
2　上寺山の獅子舞・・・・・・・・・・・・・418
3　石田の獅子舞・・・・・・・・・・・・・・430
4　福田の獅子舞・・・・・・・・・・・・・・436
5　平塚の獅子舞・・・・・・・・・・・・・・443
6　下小坂の獅子舞・・・・・・・・・・・・・449
7　上戸の獅子舞・・・・・・・・・・・・・・457
8　大袋の獅子舞・・・・・・・・・・・・・・470
9　豊田本の獅子舞・・・・・・・・・・・・・477
10　笠幡の獅子舞・・・・・・・・・・・・・・485
11　吉田の獅子舞・・・・・・・・・・・・・・486
12　並木の獅子舞・・・・・・・・・・・・・・491
13　小中居の獅子舞・・・・・・・・・・・・・501
14　古谷本郷の獅子舞・・・・・・・・・・・・508
15　久下戸の獅子舞・・・・・・・・・・・・・512
16　渋井の獅子舞・・・・・・・・・・・・・・519
第三節　祭りばやし・・・・・・・・・・・・・524
1　新宿町の祭りばやし・・・・・・・・・・・526
2　仙波町の祭りばやし・・・・・・・・・・・536
3　今成町の祭りばやし・・・・・・・・・・・539
4　小室町の祭りばやし・・・・・・・・・・・540
5　豊田本の祭りばやし・・・・・・・・・・・542
6　大塚新田の祭りばやし・・・・・・・・・・543
7　南大塚の祭りばやし・・・・・・・・・・・544
8　中台の上覧ばやし・・・・・・・・・・・・546
9　今福の祭りばやし・・・・・・・・・・・・552
10　藤間の祭りばやし・・・・・・・・・・・・556
11　寺尾の祭りばやし・・・・・・・・・・・・558
12　福田の祭りばやし・・・・・・・・・・・・560
13　網代の祭りばやし・・・・・・・・・・・・562
14　石田の祭りばやし・・・・・・・・・・・・563
15　府川の祭りばやし・・・・・・・・・・・・565
16　鴨田の祭りばやし・・・・・・・・・・・・566
17　伊佐沼の祭りばやし・・・・・・・・・・・568
18　菅間の祭りばやし・・・・・・・・・・・・569
19　鹿飼の祭りばやし・・・・・・・・・・・・570
20　小中居の祭りばやし・・・・・・・・・・・570
21　古谷本郷の祭りばやし・・・・・・・・・・571
22　南田島の祭りばやし・・・・・・・・・・・572
23　並木の祭りばやし・・・・・・・・・・・・575
24　木野目の祭りばやし・・・・・・・・・・・576
25　久下戸の祭りばやし・・・・・・・・・・・577
26　渋井の祭りばやし・・・・・・・・・・・・578
第四節　餅つき踊り・・・・・・・・・・・・・579
1　南大塚の餅つき踊り・・・・・・・・・・・582
第五節　万作踊り・・・・・・・・・・・・・・591
1　老袋の万作踊り・・・・・・・・・・・・・594
2　府川の万作踊り・・・・・・・・・・・・・619
第六節　あやめ踊り・・・・・・・・・・・・・621
1　六軒町のあやめ踊り・・・・・・・・・・・624
第七節　船頭歌
1　新河岸川の舟運・・・・・・・・・・・・・627
第三章　祭　り・・・・・・・・・・・・・・・635
第一節　概　説・・・・・・・・・・・・・・・637
第二節　春祭り
1　一升講・・・・・・・・・・・・・・・・・639
2　弓取式・・・・・・・・・・・・・・・・・645
第三節　夏祭り
1　まんぐり・・・・・・・・・・・・・・・・648
2　ほろかけ祭り・・・・・・・・・・・・・・649
第四節　秋祭り・・・・・・・・・・・・・・・663
1　川越氷川祭り・・・・・・・・・・・・・・663
第五節　冬祭り
1　トリカエモチ・・・・・・・・・・・・・・709
あとがき・・・・・・・・川越市助役　都築　肇
英文要旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・I

昭和43年３月31日　発行
川越市総務部市史編纂室

資料011『川口市史　民俗編』

昭和55年３月

目　次

第一編　総　論
序　章　川口市の概観
一　自然環境＜気象条件＞・・・・・・・・・・・・・・・3
二　地域と産業＜鋳物/織物/釣竿/植木/苗木/味噌＞・・・・・5
三　行政区の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・12
四　戸数と人口動態・・・・・・・・・・・・・・・14
第一章　生業と生活
第一節　生産・生業
一　川口市の伝統産業
（1）鋳物業
1　鋳物の歴史＜創業時期と由来/鋳物製品＞・・・・・17
2　鋳物の生産過程と職人・・・・・・・・・20
（2）釣竿業・（3）味噌醸造・（4）織物・・23
（5）その他の産業・・・・・・・・・・・・・・24
二　農業（1）市域農業の概観・・・・・・・・・24
（2）農業の特色
＜地域的特色/農作物の種類/米・麦/農家・戸数の変遷＞・・・27
（3）稲作の特色・・・・・・・・・・33
（4）植木業
＜生産地域/立地条件/植木と苗木/果樹 苗木/切花/生産と販売＞34
第二節　年中行事
一　信仰的儀礼・・・・・・・・・・・・・・・・38
二　農耕儀礼・・・・・・・・・・・・・・・・・41
三　年中行事の変化・・・・・・・・・・・・・・44
第三節　住
一　屋敷講と母屋・・・・・・・・・・・・・・・48
二　江戸末期の住いの状況・・・・・・・・・・・51
三　室名呼称と各室の機能・・・・・・・・・・・52
四　住に関する俗信・・・・五　衛生・・・・・56
第四節　衣・食
一　衣服・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
二　食制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
第五節　社会生活
一　ムラのしくみ・・・・・・・・・・・・・・・67
二　家族・親族・・・・・・・・・・・・・・・・73
第六節　人の人生
一　誕生・養育・・・・・・・・・・・・・・・・77
二　結　婚・・・・・・・・・・・・・・・・・・81
三　葬　喪・・・・・・・・・・・・・・・・・・83
第七節　交通・交易
一　交通（1）陸上交通＜道路/ミチの呼称/道普請＞・・・87
（2）河川交通＜渡しと船橋/横曾根の渡し＞・・92
（3）運搬＜人力運搬/畜力運搬/荷車運搬/自然力運搬/運送業/包装用具＞・97
（4）交通機関＜乗合バス＞・・・・・・・・・・101
（5）旅
＜旅の服装/所持品/旅に出るときの行事/宿/旅から帰ったときの行事＞・・・102
二　交易（1）交易の種類＜物々交換/行商/市/店＞・・・103
（2）決済の方法＜買物に対する支払い＞・・・・・・107
第二章　信　仰
第一節　家のまつり・・・・・・・・・・・・・・・109
第二節　村のまつり・・・・・・・・・・・・・・・112
第三節　講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・117
第三章　芸能・遊戯
第一節　民俗芸能
一　神楽・・・・・・・・・・・・・・・・・・・121
二　祭囃子・獅子舞・・・・・・・・・・・・・・123
三　万作踊り・・・・・・・・・・・・・・・・・127
第二節　民謡・民謡
一　民謡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・129
二　童謡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・132
第三節　遊戯・・・・・・・・・・・・・・・・・135
第四章　伝　説・・・・・・・・・・・・・・・・・139
第二編　各　論
第一章　生業と生活
第一節　水田地帯
一　生産・生業
（1）総観＜耕地の概観/主な用水源/伊刈村/柳崎村/前川村/生産暦＞・147
（2）稲作
1　水稲栽培の慣行＜用水/番水/田の一区画/田うない/代掻き/苗代/種浸し/種まき/苗代の管理/苗取り/田植え/草取り/害虫駆除/稲刈り/稲扱き/籾摺り/米の保存/種籾の保存/米の収穫量＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・153
2　稲作と労働慣行＜労働力導入方法＞・・・・・164
3　稲作儀礼と禁忌＜サクイリ/焼き米/種まきの禁忌/種まき正/ナエダテ/田植の禁忌/サナブリ/田植正月/雨降り正月/雨乞い/アレナシオミキ/カマッパライ/コキッパライ/カラスッパライ＞・・・・・・165
4　天候予知＜雨風雷水干ばつ＞・・・・・・・・167
（3）ハス・クワイの栽培
1　ハス＜田うない/植えつけ/肥料/除虫/草取り/芋回し/ハスの種類/連作/出荷/ハスの花/ハスの実/種バスの保存/収穫用具＞・・・・・169
2　クワイ＜クワイ種の保存/クワイ植え/除虫/葉欠き/草取り/肥料/収穫/収穫/出荷/料理法＞・・・・・・・・・・・・173
（4）肥　料・・・・・・・・・・・・・・・・・・175
二　年中行事
（1）暮から正月の行事＜ススハライ/暮の市/歳暮/餅つき/注連飾り/門松/歳神棚/正月/オウバン/年始まわり/仕事始め/ナナクサ/臼の使いぞめ/クラビラキ/クワイレ/小正月/あずき粥/ヤブイリ/ハツカコガシ/恵比須講/天神講/不動講＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・77
（2）春の行事＜節分/コトハジメ/初午/彼岸/籾まつり/花まつり/春祈祷/田うない/種の浸水/苗代作り/代参講/花見＞・・・・・・・・・91
（3）夏の行事＜節供/種まき正月/農休み/田植/サナブリ/夏祈祷/虫追い/大山の燈籠立て/土用の牛の日＞・・・・・・・・・・・195
（4）盆の行事＜盆市/カマノクチ/七夕/墓掃除/盆棚/迎え盆/盆の供え物/棚経/盆礼/送り盆/施餓鬼＞・・・・・・・・・・・197
（5）秋から冬の行事＜八朔/十五夜/十三夜/お日待/カッキリガユ/神送り/トウカンヤ/恵比須講/神迎え/ルスイキョ/カビタリ/冬至/みそあ祓い＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・201
三　住
（1）新築＜明治中期の長屋新築＞・・・・・・・・・203
（2）住いと生活　1　芝地区
(1)柳崎，N氏宅＜家の概略/屋敷講/母屋の間取/各室の機能/冠婚葬祭と家/年中行事※信仰と家＞・・・・・・・・・・・205
(2)伊刈，N・H氏宅＜家の概略/母屋の間取/各室の機能/冠婚葬祭と家/年中行事※信仰と家/屋根の差し替え＞・・・・・・・210
（3）明治期の旧柳崎村の民家＜柳崎/方位/屋敷講/母屋の間取/押入/床の間/厩/入側・イロリ/母屋の外形/柳崎村家屋略図＞・・・・212
四　衣・食
（1）衣服・・・・・・・・・・・・・・・・・・・236
1　平常着＜普段着/長着/襦袢/帯/履物/前掛け/褌/腰巻/止め物/子供と着物/通学着/寝具＞・・・・・・・・・・・・・236
2　仕事着＜ノラギ/半纏/前掛け/腕貫き/腰巻/襷/被り物/履物/機屋職人/女工の仕事着＞・・・・・・・・・・・・・242
3　晴　着＜ヨソユキ/宮参り/帯解き/婚礼/葬式＞・・・・245
4　裁縫・仕立て＜裁縫・仕立て＞・・・・・・・249
5　手入れ・保管＜洗濯/土用干し/虫除け/保管＞・・・250
6　結髪・化粧＜結髪/化粧/鉄漿つけ＞・・・・・・251
7　服飾一般＜機織り/染色/身なり/新調/禁忌＞・・・252
（2）食
1　普通の日の食
(1)主食・・・・・・・・・・・・・・・・・・・254
(2)副食類＜野菜/芋類/漬物/肉/魚・海産物/代用食・茶・その他＞・・255
(3)調味料＜味噌/醤油/塩/カツブシ＞・・・・・・259
(4)食事の回数・献立
＜朝めし/お茶うけ/昼めし/コジハン/夕めし＞・・・・・261
(5)料理道具・食器・燃料など・・・・・263
(6)禁忌・作法・その他・・・・・・・・・264

２　特別の日の食＜正月祝い/ナナクサオジヤ/クラビラキ/メーダマダンゴ/アズキガユ/ハツカコガシ/節分/初午/エビス講/雛節供/彼岸/五月節供/講/サナブリ/カマノクチ/七夕/盆/八朔の節供/十五夜/お日待ち/十三夜/荒神さま/トウカンヤ/エビス講/ダイシゲ/オカメイチ/オカザリナイ/ススハライ/大晦日/その他/祝儀/お産/不祝儀＞・・・・・265
五　社会生活
（１）ムラのしくみ
１　ムラの範囲と区分
＜ムラ/ムラの境/小字/組/小字と町会/ムラの鎮守＞・・・・・277
２　ムラの組織と機能
＜芝辻の事例/伊刈の事例/宮根の事例/領家の事例/元郷の事例＞・・284
３　町会の組織・・・・・・・・・・・・・・297
４　ムラ入り慣行・・・・・・・・・・・・・302
５　若い衆の組織・・・・・・・・・・・・・303
６　講・・・・・・・・・・・・・・・・・・304
７　無　尽・・・・・・・・・・・・・・・・307
（２）家族・親族
＜家族呼称/奉公人/屋号/親類・縁故・本家・分家＞・・・・・307
六　人の人生
（１）誕生・養育・・・・・・・・・・・・・・311
１　伊刈＜安産祈願/帯かけ/妊婦の禁忌/出産/後産/臍の緒/お産見舞い/厄年の子/異常出産/流れ灌頂/産後の産婦/産婦の食事/乳/お七夜/お宮参り/食い初め/子育て/初正月/初節供/お誕生餅/七五三の祝い/乳歯＞・・311
２　領家＜子授け/腹帯/妊婦の禁忌/妊婦/出産/後産/臍の緒/お産見舞い/厄年の子/双子/異常出産/産婦の死/産後の産婦/乳/お七夜/お宮参り/食い初め/子育て/初正月/初節供/お誕生餅/七五三の祝い/乳歯＞・・315
（２）結　婚
１　伊刈＜ハタヤマイリ/婚姻の範囲/結婚年齢/婚姻の条件/婚姻の禁忌/呼び名と髪型/見合いと恋愛/結納/仲人礼/アシイレ/婿入り/嫁入り道具/婚礼/バアサンブルマイ/里帰り/離婚と再婚＞・・・・・・・323
２　領家＜男女の知りあう機会/結婚相手/結婚年齢/婚姻の禁忌/嫁の呼び名と髪型/見合いと恋愛/結納/仲人礼/アシイレ/婿入れ/道具送り/婚礼/オバサンブルマイ/里帰り＞・・・・・・・・・・・330
（３）葬　喪
１　伊刈＜死の予兆/死者の処理/組の構成と役割/葬式/湯灌/出棺/野辺送り/埋葬/忌払い/死後の供養/墓の普請＞・・・・・・・335
２　領家＜死の予兆/死者の処理/組の構成と役割/葬式/湯灌/出棺/野辺送り/埋葬/死後の供養/墓地の土＞・・・・・・・・・340
第二節　水田・畑作地帯
一　生産・生業
（１）総観＜耕地の概観/安行村/慈林村/大竹村/赤 井村/戸塚村＞・・345
（２）稲作と畑作
１　摘田の水稲栽培＜摘田と植田/ツミタ/水利慣行/摘田の利点と欠点/カブフンゴミ/田うない/元肥/播種/草取り/畦刈り/虫除け/霜害/稲刈り/稲扱き/籾干し/籾摺り/カラウスの構造/米の保存/小作米＞・・347
２　摘田地帯の農耕儀礼＜雨乞い/ツミタショウガツ/カッキリガユ/ダイシガユ＞・・・・・・・・・・・・・358
３　植田の水稲栽培＜主な用水源/田うない/種浸し/苗間/苗間の管理/代掻き/苗取り/田植とユイ/田植衣裳/水の管理/除草/稗抜き/稲刈り/脱穀・調整/籾摺り＞・・・・・・・・・・・・・・359
４　植田地帯の農耕儀礼と禁忌＜予祝/種まき正月/サナブリ/雨乞い/七夕/アレナシショウガツ/カリアゲ/コキッパライ/カラスッパライ/禁忌＞・・・・・・・・・・・・・・・367
５　畑作の慣行＜畑作物/畑の種類/麦/畑金＞・・・・369
６　労働慣行＜イイ/テマ/スケット＞・・・・・・・373
二　年中行事
（１）暮から正月の行事＜ススハライ/暮の市/歳暮/餅搗き/注連飾り/門松/年越し/恵比須講/正月/仕事始め/年始まわり/タナサガシ/正月の遊び/ナナクサ/クワイレ/マユダマダンゴ/あずき粥/ヤブイリ/ハツカコガシ/恵比須講/初不動/正月中の農作業＞・・・・・・・・・・・・・・・・375
（２）春の行事＜節分/八日節供/初午/代参講のくじ引き/さつま芋の苗床作り/彼岸/節供/百万遍/天道念仏/花まつり/春祈祷/大般若/代参講＞・・・387
（３）夏の行事＜夏祈祷/端午の節供/さつま芋の植付け/サナブリ/虫追い/麦の収穫祝い/石尊講の代参＞・・・・・・・・・・390
（４）盆の行事＜カマノクチ/七夕/盆市/墓掃除/盆棚/迎え盆/盆の供え物/棚経/棚念仏/盆見舞い/送り盆/施餓鬼＞・・・・・・・・・392
（５）秋から冬の行事＜バカムコ節供/二百十日/二百二十日/十五夜/十三夜/お日待ち/カッキリガユ/神送り/トウカンヤ/ルスイギョ/恵比須講/ジュウヤ/荒神さま/大師粥/コト八日/カビタリ/冬至＞・・・・・・・・・・395
三　住
（１）新築と儀礼＜地祭/地固め/建前＞・・・・・・・399
（２）屋根の葺替え
＜昭和20年代の事例/昭和初期の事例/明治期の事例＞・・・・・399
（３）住いと生活
１　安行地区
(1)安行慈林，Ｆ氏宅＜家の概略/屋敷講/母屋の構造/各室の機能/黒明器具/屋敷内の神/家の民俗/屋根の葺替え＞・・・・・402
(2)安行吉岡，Ｓ氏宅
＜家の概略/屋敷講/母屋の構造/各室の機能/屋根の葺替え＞・・・406
(3)安行吉岡，M氏宅
＜家の概略/屋敷講/母屋の構造/各室の機能/屋根の葺替え/家の民俗＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・410
(4)安行原，Y氏宅　＜家の概略/屋敷講/母屋の間取/間取の変遷/各室の機能/屋根の葺替え/家と信仰＞・・・・・・・・414
(5)安行領家，Ｎ氏宅
＜家の概略/屋敷講/母屋の間取/間取の変遷/各室の機能＞・・・422
(6)安行領家，長嶋家文書の間取絵図・・424
２　新郷地区
(1)赤井，Ｋ氏宅
＜家の概略/屋敷講/母屋の構造/母屋の改築/各室の機能/屋根の葺替え＞425
(2)赤井，Ｙ氏宅＜家の概略/屋敷講/母屋の構造と改築/各室の機能と習慣/屋根の葺替え＞・・・・・・・・・・・・428
四　衣・食
（１）衣服
１　平常着＜フダンギ/褌/腰巻/子供の衣類/通学着/寝具＞・・431
２　仕事着＜ノラギ/腕貫き/襟巻/被り物/履物＞　・・・・434
３　晴　着＜ヨソユキ/宮参り/帯解き/婚礼/葬式＞・・・・436
４　裁縫・仕立て＜裁縫/仕立て＞・・・・・・・・439
５　手入・保管＜洗濯/虫干し/保管＞・・・・・・・439
６　結髪・化粧＜結髪/化粧/おはぐろ＞・・・・・・440
７　服飾一般＜染色/新調/身なり＞・・・・・・・441
（２）食
１　普通の日の食
(1)主食
(2)副食類＜野菜/芋類/漬物/肉/魚/海産物/代用食/茶/その他＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・442
(3)調味料＜味噌/醤油/塩/油/その他＞・・・・・・445
(4)食事の回数こめ立・・・・・・・・・・447
(5)料理道具・食器・燃料など
＜なべ・かま類/食器/燃料＞・・・・・・・・・・447
(6)禁忌・作法・その他
＜禁忌作物/食事のときの作法＞・・・・・・・・・448
２　特別の日の食＜正月祝い/ナナクサオジヤ/クラビラキ/マユダマダンゴ/アズキガユ/ハツカコガシ/節分/初午/桃の節供/端午の節供/サナブリ/テンノウサマ/カマノクチ/七夕/盆/うら盆/八朔の節供/十五夜/お日待/荒神さま/トウカンヤ/ススハライ/大晦日/祝儀/お産・養育食/不祝儀＞・・・448
五　社会生活
（１）ムラのしくみ
１　ムラの範囲と区分＜ムラ/小字と組/ムラの鎮守＞・453
２　ムラの組織と運営
＜安行領家の事例/赤井の事例/藤八新田の事例＞・・・・・・・454
六　人の人生
（１）誕生・養育
１　慈林＜子授け/安産祈願/帯かけ/妊婦の禁忌/妊婦/出産/後産/臍の緒/お産見舞い/厄年の子/双子/異常出産/流れ灌頂/産後の産婦/産婦の禁忌/産婦の食事/乳/お七夜/お宮参り/食い初め/子育て/初節供/初誕生/七五三の祝い/乳歯/仲間入り/厄年＞・・・・・・・・・・458
２　赤井＜安産祈願/腹帯/妊婦の禁忌/妊婦/出産/後産/お産見舞い/42の二つ子/産褥期の死/産婦の禁忌/産婦の食事/乳/お七夜/お宮参り/初節供/七五三の祝い＞・・・・・・・・・・・・・467
（２）結婚
１　慈林＜男女の知りあう機会/結婚相手/嫁の呼び名/見合/結納/仲人/

婿入り/道具送り/婚礼/バアサンブルマイ/里返り/離婚＞・・・473
2　赤井＜男女の知りあう機会/結婚相手/婚姻の禁忌/嫁の呼び名/見合と恋愛/結納/仲人/アシイレ/シンキャク/道具送り/婚礼/嫁の顔見せ/バアサンブルマイ/里帰り/離婚＞・・・・・・・・・・・・478
（3）葬喪
1　慈林
＜組の役割/ブク/湯灌/葬式/野辺送り/四十九餅/死後の供養/墓の管理＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・483
2　赤井
＜葬式の名称/死の予兆/死者の処理/組の構成と役割/葬式/死の穢れ＞・488
第三節　畑作地帯
一　生産・生業
（1）総観＜耕地の概観＞・・・・・・・・・・・・・491
（2）畑作の慣行
1　麦作から植木栽培へ＜生産暦＞・・・・・・492
2　麦作＜堆肥作り/麦まき/麦踏み/麦刈り/脱穀/麦搗き/労力組織＞・・・・495
3　さつま芋＜苗床/植え付け/芋掘り/品種＞・・・・・・499
4　里　芋・・・・・・・・・・・・・・・・・501
5　オカボ・・・・・・・・・・・・・・・・・502
6　切り花＜草花/木花/花ムロ/さし木＞・・・・・・503
7　野菜類・・・・・8　柿渋・・・・・・507
二　年中行事
（1）暮から正月の行事＜ススハライ/暮の市/歳暮/注連飾り/門松/年越し/正月/三箇日の食事/オウバン/年始まわり/仕事始め/タナザラシ/歳神さま送り/正月の子供の遊び/ナナクサ/臼の使いぞめ/サクイレ/マユダマダンゴ/あずき粥/あずき飯/ヤブイリ/ハツカコガシ/恵比須講/天神講/不動講＞・・・・・・508
（2）春の行事＜節分/メカゴ/麦のサクキリ/初午/彼岸/雛まつり/花まつり/花見/苗間の虫除け/猫田の準備/代参講/春祈願＞・・・・・・・518
（3）夏の行事＜種まき/節供/猫田正月/麦の刈入れ/ラチガキ/麦の脱穀/田の草取り/夏祈祷/テンノウサマ/シャゲシャゲ＞・・・・・・・・523
（4）盆の行事＜カマノクチアケ/盆市/墓掃除/七夕/仏具みがき/盆棚/迎え盆/無縁仏/盆の供え物/棚経/盆礼/送り盆＞・・・・・・・・・527
（5）秋から冬の行事＜八朔/二百十日/十五夜/十三夜/お日待/荒神さま/ナカガエリ/麦まき/麦踏み/トウカンヤ/恵比須講/冬至/みそか祓い＞・・531
三　住
（1）新築と儀礼
＜地祭/大正・昭和期の建前/明治期の建前/新築祝い＞・・・・・・533
（2）屋根の葺替え＜昭和40年代の事例/明治期の事例＞・・・536
（3）住いと生活
1　神根地区
(1)源左衛門新田，H氏宅＜家の概略/屋敷講/母屋の間取り/母屋の改築/各室の機能＞・・・・・・・・・・・・542
(2)　源左衛門新田，H，K氏宅＜家の概略/屋敷講/母屋の間取・改築/各室の機能/屋根の葺替え/家の民俗＞・・・・・・549
(3)臼倉家の文書の間取と絵図・・・・・・554
四　衣・食
（1）衣服
1　平常着
＜フダンギ/褌/腰巻/履物/子供の着物/通学着/養育着/寝具＞・・555
2　仕事着
＜ノラギ/前掛け/腹掛け/襷/腕貫き/胆巾/被り物/履物＞・・・557
3　晴　着＜ヨソユキ/宮参り/帯解き/婚礼/葬式＞・・・・560
4　裁縫・仕立て＜裁縫/仕立て＞・・・・・・・563
5　手入れ・保管＜洗濯/土用干し/保管＞・・・・・564
6　結髪＜髪型/化粧/おはぐろ＞
7　服飾一般＜機織り/染色/新調/身なり/禁忌＞・・・・565
（2）食
1　普通の日の食　(1)主食・・・・・・・567
(2)副食類＜野菜/芋類/漬物/肉/魚/海産物/代用食＞・・568
(3)調味料・・・・・・・・・・・・・・・569
(4)食事の回数・献立・・・・・・・・・570
2　特別の日の食＜正月祝い/ナナクサガユ/クラビラキ/マユダマダンゴ/アズキガユ/ハツカコガシ/節分/初午/雛節供/彼岸/五月節供/サナブリ/カマノクチ/七夕/盆/八朔/十五夜/お日待/トウカンヤ/大晦日＞・・・570
五　社会生活一源左衛門新田の事例一
（1）ムラのしくみ・・・・・・・・・・・・・・・572
（2）家族・親族・・・・・・・・・・・・・・・・575
六　人の人生一源左衛門新田の事例一・・・・・577
（1）誕生・養育＜子授け/妊娠/安産祈願/帯かけ/妊婦の禁忌/妊婦/出産/後産/臍の緒/お産見舞い/厄年の子/双子/異常出産/産婦の禁忌/産婦の食事/乳/お七夜/お宮参り＞・・・・・・・・・・・・・・・577
（2）結婚＜ハタヤマイリ/婚姻の範囲と条件/婚姻の禁忌/オッカサン/髪型/見合と恋愛/結納/仲人/アシイレ/婿入り/嫁入り道具/婚礼/バアサンブルマイ/里帰り/離婚と再婚＞・・・・・・・・・・・・・・・583
（3）葬喪＜死の予兆/死者の処理/組の構成と役割/湯灌/葬式/野辺送り/四十九日餅/忌払い/死後の供養/墓地＞・・・・・・・・・・・591
第四節　市街地域　　一　生産・生業
（1）川口市の伝統産業
1　鋳物業
(1)木型屋＜Sさんの事例/小僧時代＞・・・・・・・598
(2)溶解士＜Tさんの事例/Tさんの1日のスケジュール/シタク/溶解組合＞・・・・601
(3)鋳物師＜1人前Nさんの事例＞・・・・・・・・604
(4)仕上師＜Aさんの事例/カジヤ/道具/結婚/請負/カジヤ仲間/安全靴＞・・・・・・・・・・・・・・・・・607
(5)ワリヤ＜KさんとOさんの事例/1人前/ワリヤの技術/キリワリ/ビリガデタ/クチガナイタ/カンザシ＞・・・・・・・・611
(6)親方と職人＜Aさんの事例/買湯/ズクヤ/小僧＞・・616
(7)鋳物関係語彙(抄)・・・・・・・・・・620
2　釣竿業
(1)釣竿業の移り変わり＜釣竿の種類と変遷/材料竹＞623
(2)竹の種類と用途・・・・・・・・・・・626
(3)つなぎ竿の作り方＜皮むき/竹みがき/油ぬき・乾燥/キリクミ/ヒイレ/タメ/シタゴシラエ/漆塗り/節抜き/コミケズリ/クチサライ/漆塗り/仕上げ＞・・・・・・・・・・・・・・626
(4)竿屋の生活＜竿師の修業/職人の養成/釣竿組合＞・・628
二　年中行事
（1）暮から正月の行事＜ススハライ/暮の市/餅搗き/注連飾り/門松/仕事納め/年越し/正月/仕事始め/初ブキ/年始まわり/子供の遊び/ナナクサ/クラビラキ/アズキ粥/ヤブイリ/恵比須講＞・・・・・・・・・・・629
（2）春の行事＜節分/初午/お雛さま/彼岸/お釈迦さま/花見＞・・635
（3）夏の行事＜端午の節供/金山さまのまつり/水神まつり＞・・・637
（4）盆の行事＜盆/七夕/盆棚/迎え盆/盆の供え物/無縁仏/棚経/盆礼/送り盆/ヤブイリ＞・・・・・・・・・・・・・・・・638
（5）秋から冬の行事＜十五夜/彼岸十三夜/フイゴ祭り/恵比須講/冬至＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・640
三　住・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・641
四　衣・食・・・・・・・・・・・・・・・・・・642
（1）衣服
1　平常着＜普段着/褌/腰巻/前掛け/止めもの/履物/子供の着物/通学着/養育着/寝具＞・・・・・・・・・・・・・642
2　仕事着＜ノラギ/鋳物職人の仕事着＞・・・・・・646
3　晴　着＜ヨソユキ/宮参り/帯解き/婚礼/葬式＞・・・・647
4　裁縫・仕立て＜裁縫/仕立て＞・・・・・・・650
5　手入れ・保管＜洗濯/土用干し/保管＞・・・・・651
6　結髪・化粧＜髪型/化粧/鉄漿つけ＞・・・・・・651
7　服飾一般＜染色/新調/洋服/身なり/蚊いぶし/俗信＞・・652
（2）食
1　普通の日の食事(1)主食
(2)副食類・・・・・・・・・・・・・・・・654
(3)1日の食事・・・・・・・・・・・・・・655
2　特別の日の食事＜正月祝い/初午/盆/フットメ＞・・655
五　社会生活（1）マチのしくみ・・・・・・・657
六　人の人生
（1）誕生・養育(金山町)＜子授け/妊娠祝い/安産祈願/帯かけ/妊婦の禁忌/妊婦/出産/後産/臍の緒/お産見舞い/厄年の子/死産/産後の産婦/乳/お七夜/子守り/お宮参り/初正月/初節供/七五三の祝い/乳歯＞・・・・・660
（2）結婚(金山町)＜男女の知り合う機会/結婚相手/結婚年齢/婚姻の禁忌/見合い/結納/道具送り/婚礼/バアサンブルマイ/里帰り/嫁の呼び名＞・・666
（3）葬喪(金山町)＜死者の処理/組の構成と役割/湯灌/葬式/野辺送り/埋葬/死後の供養＞・・・・・・・・・・・・・・669

第二章　信　仰
第一節　家のまわり　一　屋内の神・・・・・・・675
（1）神棚にまつる神＜大神宮/神棚のお供えもの＞・・・・675
（2）神棚以外にまつる神
＜年神/オミタマサマ/恵比須・大黒/荒神/仏壇＞・・・・・・・678
（3）神　札＜床の間にまつる神/馬の絵馬/戸口にまつる新札/ヤキカガシ/古い新札の処理法＞・・・・・・・・・・・・・・・・685
（4）付属建物の神＜セッチンガミサマ/井戸神＞・・・・・690
二　屋敷神・・（1）祀られる方角・・・・・・691
（2）初午のまつり・・・・・・・・・・・・・692
（3）その他の神のまつり・・・・・・・・・・694
（4）祀られた由来・・・・・・・・・・・・・695
（5）家の移転に伴う屋敷神の処理・・・・・・698
（6）分家した場合の祀り方・・・・・・・・・699
第ニ節　村のまつり
一　元旦のまつり・・・・・・・・・・・・・・701
二　春のまつり・・（1）オビシャ・・・・・・702
（2）初　午・・・・・・・・・・・・・・・・706
（3）天神さまのまつり・・・・・・・・・・・709
（4）春まつり＜祈念祭＞・・・・・・・・・・709
（5）春祈祷・・・・・・・・・・・・・・・・711
三　夏のまつり・・（1）夏祈祷・・・・・・・712
（2）観音経・・・（3）大般若経・・・・・・714
（4）百万遍・（5）蛇作り＜蛇作りの手順＞・715
（6）虫追い・・・・・・・・・・・・・・・・721
（7）人形流し・・・・・・・・・・・・・・・724
（8）浅間さまのまつり・・・・・・・・・・・725
（9）天王さまのまつり・・・・・・・・・・・726
四　秋のまつり・・・・・・・・・・・・・・・731
（1）宵　宮・・・・・・・・・・・・・・・・733
（2）お日待当日・・・・・・・・・・・・・・735
（3）お日待の翌日・・・・・・・・・・・・・737
（4）まつり以外に集まる日・・・・・・・・・738
（5）組織・役割・・・・・・・・・・・・・・739
（6）神饌など・・・・・・・・・・・・・・・741
（7）費　用・・・（8）由来・信仰・・・・・742
第三節　講
一　念仏講・・・・・・・・・・・・・・・・・743
（1）名　称・・（2）場所及び組織・・・・・743
（3）服装・楽器など・・・・・・・・・・・・745
（4）日時及び種類
1　定期に行うもの・・・・・・・・・・・745
2　臨時に行うもの・・・・・・・・・・・747
（5）念仏の構成＜和讃/御詠歌＞・・・・・・・748
（6）念仏講の実際＜月次念仏/彼岸念仏/千地蔵参り/西新井宿のテントウネンブツ/小谷場のテントウネンブツ/棚念仏/庚申念仏/家見念仏/ユミ念仏＞・758
二　送り大師講（1）名称・（2）日時・・・・768
（3）場　所・・・・・・・・・・・・・・・・769
（4）組　織・・・（5）巡拝所の行事・・・・771
（6）念仏踊り・・・・・・・・・・・・・・・773
（7）巡行以後の行事＜月次念仏/大護摩＞・・・・・・774
三　東領家の題目講・・（1）名称・・・・・・775
（2）日時と種類
1　定期に行うもの・2　臨時に行うもの・775
（3）場所・組織・・・・・・・・・・・・・・776
（4）講の実際＜月次講/オッカケ題目＞・・・・・・・776
四　講（1）講の種類・・・・・・・・・・・・778
（2）代参者の決定＜掛軸/講員＞・・・・・・・779
（3）各講の代参とその日時＜大山石尊講/榛名講/古峰講/御岳講/三峰講/御嶽講/成田講/笠間/寒川稲荷講/鹿島・香取講/筑波・富士講/伊勢講/戸隠・釣鉤・神道第六天講/先達/講台帳/費用＞・・・・・・・・・783
（4）代参以後の行事＜もの参り正月/神礼の処理＞・・・・790
第三章　芸能・遊戯
第一節　民俗芸能
一　安行藤八の祭囃子・神楽・獅子舞・・・・・793
（1）祭囃子・神楽
1　所在地・・2　日時及び場所・・・・・793
3　組　織・・・・・・・・・・・・・・・・794
演目など＜神代神楽/面狂言＞・・・・・・・・795
（2）獅子舞　1　夏祈祷　・・・・・・・・・798
2　舞の実際・・・・・・・・・798
二　江戸袋の獅子舞
1　所在地　・・・・・・・・・・・・・・・802
2　名称・・3日時・・4場所・設備・・・803
5　役割その他の組織＜シンナライ/ナライ＞・・・804
6　服装・・・・・7面・楽器・・・・・・806
8　舞の実際・・・・・・・・・・・・・・807
9　祭前後の行事＜後始末/千秋楽/土用干し＞・・・・821
三　東領家の祭囃子と神楽
（1）祭囃子・1　所在地・2　名称・流派・・・822
3　日時・・・・・・・・・・・・・・・・823
4　場所・・5　組織＜五人囃子/囃子連中/ハッサンカイ/マツリカンジョウ/稽古/保存会＞・・・・・・・・・・824
6　服装・・7　楽器・・・・・・・・・・827
8　曲目・・・・・・・・・・・・・・・・828
（2）神楽・1　由来・・・・・・・・・・・・835
2　曲目その他・・・・・・・・836
3　舞の実際・・・・・・・・・837
四　万作踊り・・・・・・・・・・・・・・・841
第二節　民謡・童謡
一　民謡
（1）仕事唄＜たたら唄/機織り唄/麦打ち唄/千住唄＞・・・・・856
（2）祝い唄＜はつうせ/餅搗き唄/正月祝い唄＞・・・・・・862
（3）芸謡＜おいとこ/やれそうだよ/高砂/木更津節/ヨカヨカ/からくり/とのさ/大津絵節/ゆうぐれ＞・・・・・・・・・・・・872
（4）はやり歌＜さのさ/追分/八木節/伊勢くずし/書生節/有明節/鴨緑江/軍行節＞・・・・・・・・・・・・・・・・885
二　童謡＜羽根つき唄/まりつき唄/お手玉唄/子守り唄/手遊び唄/ジャンケン遊び/遊ばせ唄/歳時唄/その他＞・・・・・・・・・888
第三節　遊　戯
一　玩具＜笹舟/ジュズゴの首飾り/麦笛/モロコシの三味線/ホオズキ/ショッパンコ/竹の子の皮のからかさ/独楽/虫かご/竹とんぼ/水鉄砲/紙鉄砲/竹鉄砲/パチンコ/竹の玩具/貝の飾り＞・・・・・・・・・・・・・・・895
二　指遊び・手遊び＜指遊び/ズイズイズッコロバシ/綾とり/セッセッセッ/影絵/ジャンケン＞・・・・・・・・・・・・・・903
三　軒遊び＜人魚遊び/トウモロコシの人形/ひな草の人形/折り紙/ままごと/ナッコ/ムクレンの遊び/まりつき/キシャゴ/羽根つき/独楽まわし＞・・・・905
四　外遊び・辻遊び＜鬼遊び/竹馬/水遊び/魚とり/土遊び/虫とり/トンボつり/コウモリとり/石けり/かごめかごめ/なかのなかのおん坊主/とうりゃんせ/おひなさまごっこ/下駄かくし/影ふみ/陣とり/輪まわし＞・・・・・・913
五　賭事的遊戯＜双六/カルタ/トッコ/めんこ/ネッキンボウ/玉投げ/なんこなんこいくつ＞・・・・・・・・・・・・・・・920
六　年中行事と遊び＜凧あげ/初午/天王さま/トウカンヤ＞・・923
第四章　伝　説
第一節　自然伝説
一　塚の伝説＜六兵塚/さかい塚/かねつ塚/首塚/道光塚/駒が塚＞・・925
二　山の伝説＜隠し山/ゴザエモン塚/櫓山/仁平山＞・927
三　池・沼の伝説＜龍燈の池/片目の鯉/姥が池/見沼の主/新兵衛沼の主/鐙沼＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・928
四　樹木の伝説＜峯八幡の大銀杏/お熊んさまの大銀杏/八百比丘尼の椿/ばん神さまの椿/椿の塚/稚児桜/蛇松/八百比丘尼の絹繁松/三股竹＞・・・・・933
第二節　信仰伝説
一　神社の伝説
＜流れ神/お熊んさま/後峯のお諏訪さま/いしす稲荷＞・・・・・・937
二　地蔵の伝説
＜イボ地蔵/瘡地蔵/およし地蔵/身代わり地蔵/かわらけ地蔵＞・・・・939
三　観音の伝説＜子安観音/マリア観音/前川観音＞・・・・・・944
四　薬師如来の伝説
＜慈林寺の薬師如来/勤木堂薬師/薬師さま＞・・・・・・・・948
五　その他＜掘り出し不動/川口善光寺の弥陀三尊/女郎仏＞・・・・950
第三節　歴史伝説
一　命名由来＜十二石/灰の木/十二月田/銭橋/舟山/白幡/腹切り/腹切り原/船

ガ島/仁王橋/篠切り橋/鎌倉橋/稲荷橋/三枚橋/ロンショ橋＞・・・952
二　家例・行事・職能由来＜暮の餅/正月の餅/トウモロコシを作らない/蛇まつり/赤井の一升めし/四月八日のメカゴ/川口の鋳物＞・・・・・954

昭和55年３月31日　発行
川　口　市

資料012『川本市史　通史編』

（第六編民俗）

平成１年10月

目　次

第六編　民　俗
第一章　衣生活・・・・・・・・・・・・・・・・・1119
第二章　食生活・・・・・・・・・・・・・・・・・1136
第三章　住　居・・・・・・・・・・・・・・・・・1147
第四章　農　耕・・・・・・・・・・・・・・・・・1161
第五章　年中行事・・・・・・・・・・・・・・・・1181
第六章　人の人生・・・・・・・・・・・・・・・・1193

元年10月31日　発行
川　本　町

資料013『かわさとの民俗　第一巻』

（村史調査報告書　第五集）

平成8年3月

目　次

第一章　稲　作
第一節　稲作栽培の慣行・・・・・・・・・・・・・・2
1　田うない・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
＜馬耕/田うない/単用犁のイチボネ及びニボネ/両用犁のイチボネおよびニボネ/ウマヤゴエ/田うない時期のチャガシ＞
2　代かき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
3　サナフミ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
4　苗の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
＜苗間田/アゲナワシロ/メボシ/折衷苗代/虫取り＞
5　田植え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
＜苗取り/苗運び/コシカケダイ/機械植え/手植え＞
6　除草と水の管理・・・・・・・・・・・・・・・・18
＜田の草取り/水の管理/スイコ・水車＞
7　稲刈り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
＜カッポシ/ボッカリ/ハンデガケ＞
第二節　堀上田と水利
1　堀上田について・・・・・・・・・・・・・・・・29
＜堀上田の形態/堀上田の分布＞
2　堀上田の水利・・・・・・・・・・・・・・・・・32
＜屈巣沼の用排水/屈巣沼の区割り/逆門堰と荒井釣吉＞
第二章　着物と食べ物
第一節　着　物・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
1　被り物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
＜手拭/笠/麦わら帽子＞
2　男の野良着・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
＜野良着の様相ジバン/シャツ/モモヒキ/ズボン/防寒着＞
3　女の野良着・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
＜野良着の様相/田植え支度/長着とジバン/帯と前掛け/モモヒキ/腰巻/モンペとジバン/防寒着＞
4　履物と雨具・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
＜履物/蓑と笠/合羽＞
5　野良着の管理・・・・・・・・・・・・・・・・・70
＜洗濯/繕い/縫い返し/収納＞
第二節　食べ物・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
1　普段の食べ物
（1）食事の回数と支度・・・・・・・・・・・・・74
＜農繁期の食事/農閑期の食事＞
（2）食事の場と座・・・・・・・・・・・・・・・・76
＜食事の場/食事の座＞
（3）主　食・・・・・・・・・・・・・・・・・・・77
＜麦飯/湯づけ飯とヒヤシル飯/芋飯/菜飯/ヤキビン/うどん/蕎麦/オッキリコミ/スイトン/団子汁/餅/弁当＞
（4）副　食・・・・・・・・・・・・・・・・・・・87
＜野菜と豆腐の料理/味噌汁/漬物/豆腐/納豆/コンニャク/川魚/コエビ/シジミ/エビガニとタニシ/ウシガエル/イナゴ/購入する魚介類/鶏卵/肉＞
（5）調味料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・100
＜味噌/醤油/食用油＞
（6）嗜好品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・103
＜茶作り/清酒/濁酒と清酒作り/甘酒＞
2　田植えと農耕儀礼の食事
（1）田植えの食事・・・・・・・・・・・・・・・106
＜食事の回数と支度/ヒルメシとコジハン＞
（2）農耕儀礼と食事・・・・・・・・・・・・・・108
＜サナブリ/シノッパライ＞
3　台所と水まわり
（1）台所の設備・・・・・・・・・・・・・・・・111
＜台所の機能/煮炊きの設備/大釜/煮炊きの燃料/ヌカカマドの流行/食品の管理＞
（2）水まわり・・・・・・・・・・・・・・・・・116
＜井戸/漉し水/使い水の処理＞
第三章　年中行事
第一節　年中行事概説
1　年中行事とは・・・・・・・・・・・・・・・・122
2　暦の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・123
＜旧暦から新暦へ/モノビ＞
第二節　正月行事
1　正月の準備・・・・・・・・・・・・・・・・・125
＜ススハライ/シメカザリ/門松/餅つき/神の膳＞
2　大晦日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・131
3　正月行事・・・・・・・・・・・・・・・・・・134
＜年男/正月の供え物と正月の食事/若水汲み/初詣/セチ/歳神様/山入り/七草粥/クワイレ・クラビラキ/マユダマ団子/ニワトコのハナ/成木責め/小豆飯とジュオウメシ/オミタマメシ＞
4　その他の正月行事・・・・・・・・・・・・・・148
＜ヤブイリ・出替わり/馬の乗り初め/正月の禁忌/仕事始め/年頭/天神様/恵比寿講＞
第三節　二月の行事・・・・・・・・・・・・・・・152
＜次郎の朔日/節分/初午/鬼が嫁にくる日＞
第四章　人の人生
第一節　成人・・・・・・・・・・・・・・・・・・158
＜一人前/成人式/青年団＞
第二節　婚　姻・・・・・・・・・・・・・・・・・161
＜結婚年齢と通婚圏/相手の選択/見合い/恋愛/タレイレ/タルビロウ/足入れ/嫁入り道具/クレ祝儀/婚礼祝いの進物/花嫁行列/入家婚礼/モライ祝儀/お宮参り/お茶よび/仲人札/ヨメゴヨビ/結婚後の生活＞
第三節　離　婚・・・・・・・・・・・・・・・・・175
第五章　広田のささら
第一節　鷲栖神社と獅子舞・・・・・・・・・・・・178
＜由来/文書/変遷/氏子組織と伝承団体＞
第二節　祭礼日程と当日の様子・・・・・・・・・・180
＜日程/祭礼当日の様子＞
第三節　舞の場と用具・・・・・・・・・・・・・・184
第四節　演目と内容・・・・・・・・・・・・・・・186
＜花棒の演目/「太刀さばき」/獅子舞の演目/演目構成と伴奏/歌詞＞
第五節　技術の伝習・・・・・・・・・・・・・・・196
話者・写真提供・協力者一覧
川里村史編さん関係者名簿
あ　と　が　き

平成８年３月31日　発行
川里村教育委員会

資料014『北本市史　第六巻民俗編』

平成１年３月

目　次

第一章　生活の場と民俗概観
第一節　北本の位置と自然・・・・・・・・・・・・・2
第二節　北本市の略沿革・・・・・・・・・・・・・・3
第三節　明治初期の村の様子・・・・・・・・・・・・5
第四節　民俗とは何か・・・・・・・・・・・・・・・15
第五節　北本市域の民俗の特徴・・・・・・・・・・・23
第二章　社会生活と親族
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
第一節　村のあらまし
1　行政区の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・・39
2　村の境とその行事・・・・・・・・・・・・・・・44
3　村と鎮守・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
第二節　村の中の区分とつきあい
1　村の中の区分・・・・・・・・・・・・・・・・・49
2　クミアイと近隣のつきあい・・・・・・・・・・・56
第三節　村の運営
1　近世村の区，部落・・・・・・・・・・・・・・・62
2　村の役員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64
3　村の集会・行事・・・・・・・・・・・・・・・・65
4　村の警備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
5　自治会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
第四節　村の中の諸集団・・・・・・・・・・・・・・68
1　子供たちの集団・・・・・・・・・・・・・・・・69
2　若い衆と囃子連・・・・・・・・・・・・・・・・70
3　青年団（会）・・・・・・・・・・・・・・・・・73
4　婦人の集団・・・・・・・・・・・・・・・・・・78
5　代参講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・79
第五節　家と家族
1　世帯構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・83
2　家族員の役割・・・・・・・・・・・・・・・・・84
3　家の相続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・85
4　分　家・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・86
5　絶家の再興・・・・・・・・・・・・・・・・・・89
第六節　親族のつきあい
1　本・分家集団・・・・・・・・・・・・・・・・・90
2　シンセキ（親戚関係）・・・・・・・・・・・・・92
第三章　農業と川漁
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・96
第一節　畑と畑作
1　畑と山起こし・・・・・・・・・・・・・・・・・97
2　畑作物＜畑作物の種類・作物と畑＞・・・・・・・105
3　畑作の過程＜麦・陸稲・アワ・サツマイモ＞・・・・・114
第二節　水田と稲作
1　水田と水利・・・・・・・・・・・・・・・・・142
2　稲作の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・・153
3　稲作の過程＜摘み田・植え田＞・・・・・・・・・159
第三節　肥料と客土
1　肥　料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・183
2　ドロツケ・・・・・・・・・・・・・・・・・・189
第四節　養蚕と桑苗生産
1　養蚕業の歩み・・・・・・・・・・・・・・・・191
2　養蚕の技術・・・・・・・・・・・・・・・・・198
3　豊蚕習俗・・・・・・・・・・・・・・・・・・209
4　桑園の管理・・・・・・・・・・・・・・・・・210
5　桑苗の生産・・・・・・・・・・・・・・・・・214
第五節　労働と休日
1　労働慣行・・・・・・・・・・・・・・・・・・216
2　休日と農耕儀礼＜モノ日・休日と農耕儀礼の諸相＞・・・・220
第六節　川漁と狩猟
1　川漁＜網漁・釣漁・筌漁・その他の漁法・川魚の料理など＞・・・・231
2　狩　猟・・・・・・・・・・・・・・・・・・・240
第四章　職人と技術
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・248
第一節　日常生活と職人・・・・・・・・・・・・・249
1　コウヤ（紺屋）・・・・・・・・・・・・・・・249
2　ヨリヤ（撚屋）・・・・・・・・・・・・・・・251
3　ゲタヤ（下駄屋）・・・・・・・・・・・・・・253
4　ショウユヤ（醤油屋）・・・・・・・・・・・・254
5　カゴヤ（籠屋）・・・・・・・・・・・・・・・258
6　オケヤ（桶屋）・・・・・・・・・・・・・・・260
7　ダイク（大工）・・・・・・・・・・・・・・・264
8　ヤマシ（山師）・・・・・・・・・・・・・・・267
9　ヤネヤ（屋根屋）・・・・・・・・・・・・・・268
10　トビ（鳶）・・・・・・・・・・・・・・・・・269
11　イドヤ（井戸屋）・・・・・・・・・・・・・・271
12　タタミヤ（畳屋）・・・・・・・・・・・・・・273
13　イシヤ（石屋）・・・・・・・・・・・・・・・276
14　ニワシ（庭師）・・・・・・・・・・・・・・・278
15　ハコヤ（箱屋）・・・・・・・・・・・・・・・279
16　ゾウリオモテ（草履表）・・・・・・・・・・・284
第五章　交通・交易
第一節　道・・・・・・・・・・・・・・・・・・・292
第二節　渡し・橋・・・・・・・・・・・・・・・・295
第三節　運搬具・・・・・・・・・・・・・・・・・297
第四節　村を訪れる芸人・・・・・・・・・・・・・298
第五節　行　商・・・・・・・・・・・・・・・・・299
第六節　仲買・問屋・・・・・・・・・・・・・・・300
第七節　市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・303
第八節　店・・・・・・・・・・・・・・・・・・・305
1　石戸宿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・306
2　高尾河岸・・・・・・・・・・・・・・・・・・307
第六章　衣・食・住
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・314
第一節　衣生活
1　幼児の服装・・・・・・・・・・・・・・・・・318
2　通学の服装・・・・・・・・・・・・・・・・・321
3　娘時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・325
4　嫁入り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・329
5　仕事着・・・・・・・・・・・・・・・・・・・330
6　衣類の調達と管理・・・・・・・・・・・・・・340
7　髪型・お歯黒・肌の手入れ・・・・・・・・・・344
第二節　食生活
1　食料と食事・・・・・・・・・・・・・・・・・349
2　日常の食物・・・・・・・・・・・・・・・・・354
3　ハレの日の食物・・・・・・・・・・・・・・・364
4　味噌と醤油・・・・・・・・・・・・・・・・・371
第三節　住　居
1　屋敷取り・・・・・・・・・・・・・・・・・・374
2　母　屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・380
3　付属屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・394
4　燃料と照明・・・・・・・・・・・・・・・・・399
5　建築儀礼・・・・・・・・・・・・・・・・・・403
第七章　人の人生
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・410
第一節　産　育・・・・・・・・・・・・・・・・・411
第二節　結　婚
1　結婚の条件・・・・・・・・・・・・・・・・・431
2　婚　　礼・・・・・・・・・・・・・・・・・441
第三節　葬　送
1　死と霊・・・・・・・・・・・・・・・・・・・454
2　葬　送・・・・・・・・・・・・・・・・・・・462
3　忌みあけ，年忌・・・・・・・・・・・・・・・483
4　葬制・墓制・・・・・・・・・・・・・・・・・487
第八章　信　　仰
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・496
第一節　神　社
1　市内の神社・・・・・・・・・・・・・・・・・503
第二節　堂　庵・・・・・・・・・・・・・・・・・565
第三節　家で祀る神仏・・・・・・・・・・・・・・585
1　屋敷神・屋内神・・・・・・・・・・・・・・・597
第四節　講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・607

1　市内の講・・・・・・・・・・・・・・・・・・610
第九章　年中行事
はじめに＜概説・暦法の変化＞・・・・・・・・・620
第一節　正月行事
1　正月の準備・・・・・・・・・・・・・・・・627
2　大晦日・・・・・・・・・・・・・・・・・・636
3　正月行事・・・・・・・・・・・・・・・・・640
4　六日までの行事・・・・・・・・・・・・・645
5　小正月・・・・・・・・・・・・・・・・・・652
6　その他の正月行事・・・・・・・・・・・・652
第二節　春から夏の行事
1　1月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・662
2　2月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・666
3　3月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・674
4　4月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・678
5　5月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・680
6　6，7月の行事・・・・・・・・・・・・・・682
7　七　夕・・・・・・・・・・・・・・・・・・689
第三節　盆
1　盆の準備・・・・・・・・・・・・・・・・・693
2　盆行事・・・・・・・・・・・・・・・・・・698
第四節　秋から冬の行事
1　8，9月の行事・・・・・・・・・・・・・・705
2　10，11月の行事・・・・・・・・・・・・・708
3　12月の行事・・・・・・・・・・・・・・・716
第十章　民俗芸能・遊戯
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・720
第一節　民俗芸能
1　石戸宿の獅子舞・・・・・・・・・・・・・721
2　各地域の囃子連＜系譜・組織・練習・囃子と祀り・曲目＞・・732
3　万　作＜北袋の万作・北中丸の万作＞・・・・・・・・・742
第二節　民　謡
1　祝い歌＜はつうせ・相撲甚句＞・・・・・・・・・・746
2　仕事歌＜茶作り歌・麦打ち歌・地形搗き歌・ドハブチ歌・田植え歌＞・・748
3　余興歌＜飴売り歌・おいとこ節＞・・・・・・・・・754
第三節　わらべ歌＜お手玉歌・まりつき歌・子守り歌・ジャンケン歌・指遊び歌・人当て遊び歌※つかまえ鬼・遊び歌・羽根つき歌・冬（寒さ）の歌・いじめっ子の歌＞・766
第十一章　伝説・世間話・昔話・諺
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・780
第一節　伝　説＜蒲桜・逆さ椿または三神椿・龍灯杉・なんじゃもんじゃ・物見の松・「花の木」と「常光」の地名の由来・一夜堤・左陣五郎が一夜で作った大御堂・かねつか・かんねづか・金根（かんね）塚・かね塚・太郎塚・庚塚・たから塚・御経塚・向塚・耳塚・首塚・十三塚・亀御前の塚・鯉沼・埋められてしまった石の仁王・伊藤刑部が背負ってきた地蔵・厳島神社の御神体・鯉沼出現の地蔵尊・病を治してくれる神仏・送りオオカミ・寿命院の宝剣様・河童・小豆とぎばばあ・キュウリを作らない家・キュウリ以外の禁忌作物・禁忌動物・元日に餅をつく家・三が日餅を食べない家・正月14日まで餅つきをしない家・門松を立てない家・おたきあげ・十日夜（とうかんや）＞・・・・・・・・・・785
第二節　世間話＜オトカの嫁入り・狐にばかされた話・ゴーヘー・松の大木・力持ち・寿命院の井戸水・車橋・仲の悪い神様＞・・・・・・・・・・807
第三節　昔　話＜十二支に猫がいない訳・からかち山・コオロギの鳴き声こめ太郎・花咲かじじい・浦島太郎・親捨て山・どっこうしょ・一番うまいとこ・糸合図・家褒め・みょうがを食べると・半殺し・十五夜の月・おかわり・仕事は弁当・飯は食うが・田んなかに一升徳利・弘法も筆の誤り・よってくだんのごとし・人間の寿命・コンニャクの神参り・きゅうくつきゅうくつ＞・・・・・・・・・・・・・・・・・811
第四節　諺
1　諺・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・830
2　言いならわし・・・・・・・・・・・・・・・835
第十二章　民俗の変化と変容
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・838
第一節　社会生活・・・・・・・・・・・・・・840
第二節　人生儀礼・・・・・・・・・・・・・・845
第三節　信　仰・・・・・・・・・・・・・・・860
第四節　年中行事・・・・・・・・・・・・・・866
北本の主な祭り・年中行事と民俗芸能・・・・・881
あとがき
北本市史「民俗編」話者名簿／執筆分担
資料提供・協力者／市史編さん関係者名簿

平成元年3月　発行
北本市教育委員会

資料015『行田市史　下巻』

（第十六章民俗）

昭和39年10月

目　次

第十六章　民　俗
第一節　年中行事・・・・・・・・・・・・・・・967
（1）忘れられた行事・・・・・・・・・・・・968
（2）帯解の祝い・・・（3）厄と賀・・・・970
第二節　風俗，習慣
（1）七夜並びにお宮詣り・・・・・・・・・・971
（2）七五三の祝・・・・・・・・・・・・・・971
（3）婚姻の儀式・・・・・・・・・・・・・・972
（4）葬　儀・・・・・・・・・・・・・・・973
（5）祭　礼・・・・・・・・・・・・・・・974
第三節　方言，訛語・・・・・・・・・・・・・974
第四節　伝　説・・・・・・・・・・・・・・980
（1）蚊喰塚・・・・（2）行人塚・・・・・981
（3）蚊餌塚・・・・・・・・・・・・・・・981
（4）稚児塚・・・・（5）沖の天神・・・・982
（6）せわれ橋・・（7）ガッカラ薬師・・・983
第五節　民　謡
（1）麦打唄・・・・（2）手毬唄・・・・・985
（3）忍領民謡・・・（4）行田音頭・・・・986
第六節　郷土芸能
（1）獅子舞・・・・・・・・・・・・・・・988
（2）村芝居・・・・・・・・・・・・・・・989
（3）自立劇団コスモス座・・・・・・・・・990
第七節　娯楽（劇場，映画館）
（1）忍　座・・・・（2）大正座・・・・・994
（3）昭和座・（4）行田劇場・（5）忍館・・995

昭和39年10月20日　発行
行　田　市　役　所

資料016『熊谷市史　通史編』

（第三章民俗）

目　次

第三章
第四節　民俗と年中行事・・・・・・・・・・・384
第一項　民　俗・・・・・・・・・・・・・・384
第二項　熊谷の年中行事・・・・・・・・・・406

昭和59年8月　発行
熊　谷　市

資料017『騎西町史　民俗編』

昭和60年12月

目　次

第一章　社　会
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第一節　騎西町の今昔
＜その自然／むかしむかし／埼西と私市／山根庄海上郷／騎西領＞・・・・・4
第二節　町村の形成
＜自然村落／耕地集落／川と水と郷村／町村の発展／社会圏＞・・・・・20
第三節　地域の自治＜自治制の沿革／人口構成／区制と隣組＞・・・・43
第四節　家族・同族集団＜家族構成／核家族と相続／同族集団＞・・53
第五節　性・年齢集団

＜婦人団体/青少年団体/種足青年読書会/老人クラブ＞・・・・・・58
第六節　産業経済集団＜農業団体/商工団体等＞・・・・・・64
第七節　宗教集団＜氏子集団/檀徒集団/半檀家制/講集団＞・・・・67
第八節　文化・教育集団＜騎西町文化連盟・PTA＞・・・・・75
第二章　経　　済
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
第一節　産業構造の発展＜産業の歩み/農間渡世/近代の産業＞・・82
第二節　農業の展開＜農家の変遷/農業経営規模/農地の状況/農地所有/小作慣行/経営組織/栽培技術/労働技術/収入と生産費＞・・・・・・・90
第三節　商工業の展開＜町場と商工業/騎西と綿織物/騎西と酒造/大戦後の工業/大戦後の商業/金融関係＞・・・・・・・・・・・・・143
第四節　交通・公益＜交通と交易＞・・・・・・・・・160
第三章　衣　食　住
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・174
第一節　衣生活＜衣料と衣服/晴れ着/訪問着/ふだん着/労働着/被り物・履き物等/寝具類/洗濯・掃除＞・・・・・・・・・・・・・・176
第二節　食生活
＜食事と食料/晴れの日の食物/常の日の食物/嗜好品・調味料/炊事/食器＞・186
第三節　住　居
＜屋敷と住居/住居の間取り/住居の建築/建具と敷物/暖房・灯火＞・・・204
第四章　人間の生涯
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・230
第一節　妊　娠＜身ごもり/身ごもりの予知/腹帯の祝い/妊娠の禁忌＞・・232
第二節　分　娩＜産室/産婆/乳づけ/産婦の食事/ウブタテの飯/お産の神/七夜の命名/産明けの祝い＞・・・・・・・・・・・・・・・・236
第三節　成　長＜食いぞめ/初正月/初節句/初誕生/七五三の祝い/成人の祝い/長寿の祝い/厄歳＞・・・・・・・・・・・・・・・・・241
第四節　婚　姻＜通婚範域/婚姻の形式/樽入れと結納/荷送り/婚儀/お茶よび/里帰り/婿入り婚/足入れ婚/髪直し/嫁と主婦の座＞・・・・・・・・248
第五節　喪　礼＜死亡の認定/魂呼び/早使い/葬儀の準備/枕飯/枕団子/通夜/湯灌/納棺/葬儀/野辺送り/埋葬/妊産婦の葬儀/土葬と火葬/香典等/墓制＞・・・・・・・・・・・・・259
第六節　忌服と忌日・・・・・・・・・・・・・・・274
第五章　歳時習俗
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・280
第一節　春の行事＜正月迎えの準備/歳神祭り/賀正札/七草の節/山入り・鍬入れ/みたまの飯/物作り正月/エビス講/次郎の朔日/立春と節分/事始めとネロハ/初午/彼岸会/上巳の節＞・・・・・・・・・・・・・・282
第二節　夏の行事＜八十八夜と川祭り/苗代の祭り/端午の節句/田植え祝い/農あがり正月＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・294
第三節　秋の行事＜たなばた祭り/盆祭り/八朔祝い/十五夜/重陽の節/十三夜・二十三夜/日待ち＞・・・・・・・・・・・・・・・299
第四節　冬の行事＜おかまさま/稲子祭り/エビス講/大師講/七五三の祝い/冬至の祝い/かびたり祝い/事納めとネロハ＞・・・・・・・・・309
第六章　宗　教
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・318
第一節　地域の神社＜鎮守社/末社・小社等/神社の神々/講による神々/屋敷神・宅神/神社の整理＞・・・・・・・・・・・・・・320
第二節　久伊豆明神考＜久伊豆神社の分布/文献上の初見/騎西の久伊豆神社/伊豆山龍花院/伊豆山権現/久伊豆神の諸説/久伊豆宮と玉敷神社＞・・・340
第三節　地域の祭礼＜祭礼/祭日/祭りの種類/特色ある祭り＞・・・357
第四節　地域の寺院＜仏教伝来/寺院と宗派/町村と寺院/寺院の本尊/寺院の由来＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・364
第五節　堂庵・仏壇＜堂庵/堂庵の仏/堂庵の由来/仏壇の位置/仏壇の中身/仏壇の由来＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・378
第六節　法会・講＜法会/仏事講＞・・・・・・・・・・387
第七章　俗信・俚諺
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・404
第一節　俗　信＜児童と俗信/俗信の種類/俗信の変動/俗信一覧＞・・・406
第二節　俚　諺＜諺の伝承/諺の種類/諺一覧＞・・・・・・・432
第八章　方言・諺言
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・450
方言・諺言一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・455
第九章　伝説・昔話
はじめに＜伝説と昔話/騎西の伝説と昔話＞・・・・・・・・・478
第一節　神社関係の伝説
1 お獅子さまの夜帰り　2 流行病とお獅子さま　3 騎西の明神さまと越後の人
4 鳥居の白蛇　5 明神さまのご神湯
6 雷電さまの雨乞い　7 雷神社のいわれ
8 流れてきた獅子頭・・・・・・・・・・・・・・・・482
第二節　寺堂関係の伝説
9 龍花院の大寂和尚さん　10 鳥の鳴き声を聞く盛典和尚さん　11洪水と背高地蔵
12 西の谷のいぼとり地蔵　13 上種足のいぼとり地蔵　14 根古屋の観音さま
15庚申さまと弁天さま・・・・・・・・・・・・・・・489
第三節　塚と橋の伝説
16 戸室のおぎょう塚　17 上崎の入定塚　18 騎西の念仏橋
19 騎西の親鈴橋・・・・・・・・・・・・・・・・・494
第四節　行事のいわれの伝説
20ネロハのいわれ　21卯日八日は吉日よ　22山姥とおじいさん
23名主の娘と沼の主・・・・・・・・・・・・・・・・500
第五節　妖怪談など
24ブッチャリテー　25ムジナにばかされた話　27戸室のおとか山
28下崎の一本杉・・・・・・・・・・・・・・・・・・503
第十章　芸　術
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・510
第一節　玉敷神社神楽
＜行う時と所/行う人々/曲目構成/神楽用具/神楽の態様/特色と由来＞・・512
第二節　雷神社獅子舞＜行う時と所/行う人びと/ささら用具/舞曲の編成/上演の準備/舞の態様/ささらの由来＞・・・・・・・・・・・520
第三節　説経節の名人漆原四郎次
＜説経節/四郎次の修業/四郎次の門弟/説経説の演目＞・・・・・・556
第四節　万作・盆踊り
＜万作とは/騎西の万作/戸室の万作/盆踊りとは/戸室の盆踊り/上崎の盆踊り唄＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・566
第五節　歌　謡＜騎西の歌謡(民謡・労作唄・子守唄・童唄)＞・・・・584
騎西町史関係者名簿・・・・・・・・・・・・・・・602
索　　引・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・604

昭和60年12月25日　発行
騎西町教育委員会

資料018『久喜市史　民俗編』

平成３年３月

目　　次

第一章　久喜の民俗の概観・・・・・・・・・・・・・・1
第二章　生活を営む
第一節　仕　　事
1　お米を作る・・・・・・・・・・・・・・・・・25
2　畑の仕事・(１) 梨の栽培・・・・・・・・・45
(２) 麦の栽培・・・・・・・・・53
3　蚕を飼う・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
4　職人の仕事・・・・・・・・・・・・・・・・・67
第二節　着　　る
1　ふだん着・仕事着・・・・・・・・・・・・・76
2　特別の日の着物・身なり・・・・・・・・・・82
3　手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・89
第三節　食べる
1　ふだんの食べ物・・・・・・・・・・・・・・93
2　特別な日の食べ物・・・・・・・・・・・・・99
3　食べ物の備え・・・・・・・・・・・・・・・101
4　食事のしかた・・・・・・・・・・・・・・・109
第四節　住　　む
1　屋敷構え・・・・・・・・・・・・・・・・・112
2　母　屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・114
3　付属屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・122
第五節　交　　通
1　道　路・・・・・・・・・・・・・・・・・・127
2　道　標・・・・・・・・・・・・・・・・・・130
3　乗合馬車・・・・・・・・・・・・・・・・・132
4　乗合自動車・・・・・・・・・・・・・・・・133
5　来客輸送・・・・・・・・・・・・・・・・・134

6　村の来る芸人・・・・7　遊　山・・・・・135
8　船運から鉄道へ・・・・・・・・・・・・・138
第六節　交　易
1　「埼玉県営業便覧」にみる商人・・・・・・144
2　三・八の市・・・・・・・・・・・・・・・146
3　買い物・・・・・・・・・・・・・・・・・149
4　行　商・・・・・・・・・・・・・・・・・150
第三章　生活を楽しむ
第一節　天王様の祭り
1　久喜の天王様・・・・・・・・・・・・・・155
2　氏子町と地域・・・・・・・・・・・・・・156
3　氏子町「新二」の組織・・・・・・・・・・162
4　祭りの実態・・・・・・・・・・・・・・・166
（1）お仮屋の様子・・・・・・・・・・・・・166
（2）「新二」の準備・・・・・・・・・・・・170
（3）山車の引き回し・・・・・・・・・・・・175
（4）後片付け・・・・・・・・・・・・・・・187
5　家庭の様子・・・・・・・・・・・・・・・188
第二節　獅子舞
1　古久喜の獅子舞・・・・・・・・・・・・・191
2　天神社の獅子舞・・・・・・・・・・・・・195
3　除堀の獅子舞・・・・・・・・・・・・・・198
第三節　子供の遊びと子供歌
1　子供の遊びの種類・・・・・・・・・・・・207
2　子供歌・・・・・・・・・・・・・・・・・211
第四節　口承文芸
1　昔話・伝説・世間話・・・・・・・・・・・217
（1）昔　話・・・・・・・・・・・・・・・・219
（2）伝　説・・・・・・・・・・・・・・・・224
（3）世間話・・・・・・・・・・・・・・・・225
2　民俗知識等・・・・・・・・・・・・・・・238
3　土地の話・・・・・・・・・・・・・・・・239
（1）久喜地区・・・・・・・・・・・・・・・239
（2）太田地区・・・・・・・・・・・・・・・243
（3）江面地区・・・・・・・・・・・・・・・245
（4）清久地区・・・・・・・・・・・・・・・251
第四章　幸せを祈る
第一節　信　仰・・・・・・・・・・・・・・・257
1　神社・寺院・堂
（1）神　社・・・・・・・・・・・・・・・・258
（2）寺院・堂・・・・・・・・・・・・・・・269
2　講
（1）代参講・・・・・・・・・・・・・・・・286
（2）村内の講・・・・・・・・・・・・・・・297
3　俗　信
（1）前兆・予知・・・・・・・・・・・・・・304
（2）禁　忌・・・・・・・・・・・・・・・・305
（3）民間療法・・・・・・・・・・・・・・・307
（4）まじない・・・・・・・・・・・・・・・308
第二節　年中行事
1　年中行事の期日・・・・・・・・・・・・・309
2　正月行事・・・・・・・・・・・・・・・・311
3　春・夏の祭りと行事・・・・・・・・・・・324
4　盆の行事・・・・・・・・・・・・・・・・345
5　秋・冬の行事・・・・・・・・・・・・・・351
第三節　冠婚葬祭
1　久喜地区の冠婚葬祭・・・・・・・・・・・371
（1）妊娠と出産・・・・・・・・・・・・・・372
（2）育　児・・・・・・・・・・・・・・・・375
（3）成　人・・・・・・・・・・・・・・・・376
（4）婚　姻・・・・・・・・・・・・・・・・377
（5）厄年と年祝い・・（6）葬　送・・・・・382
2　太田地区の冠婚葬祭
（1）妊娠と出産，育児・・・・・・・・・・・386
（2）婚　姻・・・・・・・・・・・・・・・・388
（3）葬　送・・・・・・・・・・・・・・・・391
3　江面地区の冠婚葬祭・・・・・・・・・・・393
（1）婚　姻・・・・・・・・・・・・・・・・394
（2）妊娠と出産，育児・・・・・・・・・・・397
（3）葬　送・・・・・・・・・・・・・・・・400
4　清久地区の冠婚葬祭
（1）妊娠と出産，育児・・・・・・・・・・・402
（2）婚　姻・・・・・・・・・・・・・・・・403
（3）葬　送・・・・・・・・・・・・・・・・406
民俗資料
方言・俗語一覧・・・・・・・・・・・・・・・409
「清久村郷土誌」における年中行事・・・・・・420
我家の年中行事・・・・・・・・・・・・・・・427
我家の養蚕業の記録・・・・・・・・・・・・・439
・協力者（機関）一覧　・久喜市史関係者名簿
・あとがき

平成３年３月25日　発行
埼玉県　久喜市

資料019『鴻巣市史　民俗編』

平成７年５月

目　次

第一章　社会生活と親族
第一節　社会生活
1　行政区の変遷・・・・・・・・・・・・・・・4
2　町場の社会生活・・・・・・・・・・・・・・6
3　村の社会生活・・・・・・・・・・・・・・・35
4　青年と子ども・・・・・・・・・・・・・・・45
5　消　防・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
6　近隣と家の付き合い・・・・・・・・・・・・53
第二節　家と家族
1　イエの家族構成・・・・・・・・・・・・・・60
2　家の相続・・・・・・・・・・・・・・・・・61
3　家と家のつながり・・・・・・・・・・・・・65
4　分家と方位・・・・・・・・・・・・・・・・70
5　家と家のつきあい・・・・・・・・・・・・・72
第二章　住　居
第一節　農　家
1　屋敷構・・・・・・・・・・・・・・・・・・83
2　母　屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・86
3　付属屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・102
4　燃料と照明・・・・・・・・・・・・・・・・108
5　家具・調度品・・・・・・・・・・・・・・・111
6　水害と生活・・・・・・・・・・・・・・・・112
第二節　商　家
1　町屋（まちや）・・・・・・・・・・・・・・117
第三章　衣生活
第一節　仕事着
1　農作業の仕事着・・・・・・・・・・・・・128
2　商人の仕事着・・・・・・・・・・・・・・134
3　職人の仕事着・・・・・・・・・・・・・・135
4　勤め人の服装・・・・・・・・・・・・・・136
第二節　普段着とよそゆき
1　普段着・・・・・・・・・・・・・・・・・138
2　よそゆき・・・・・・・・・・・・・・・・140
第三節　通過儀礼と着物
1　誕生と着物・・・・・・・・・・・・・・・143
2　七五三と着物・・・・・・・・・・・・・・146
3　成人式と着物・・・・・・・・・・・・・・148
4　結婚式と着物・・・・・・・・・・・・・・149
5　厄年・年祝いと着物・・・・・・・・・・・151
6　葬送と着物・・・・・・・・・・・・・・・152
第四節　祭りの着物と化粧
1　祭りと着物・・・・・・・・・・・・・・・154
2　化　粧・・・・・・・・・・・・・・・・・157

第五節　着物と寝具の手入れと管理
1　着物の手入れと管理・・・・・・・・・・・・・160
2　寝　具・・・・・・・・・・・・・・・・・・・162
第六節　織物・染め物・裁縫
1　織　物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・164
2　染　め・・・・・・・・・・・・・・・・・・・166
3　裁　縫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・168
第七節　着物と行商・・・・・・・・・・・・・・・176
第四章　食生活
第一節　毎日の食事
1　主　食・・・・・・・・・・・・・・・・・・・180
2　副　食・・・・・・・・・・・・・・・・・・・187
3　汁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・192
4　間　食・・・・・・・・・・・・・・・・・・・196
第二節　晴れの食事
1　年中行事の食事・・・・・・・・・・・・・・・199
2　人の人生と食事・・・・・・・・・・・・・・・223
第三節　保存食
1　漬　物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・229
2　干し物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・236
第四節　調味料
1　味　噌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・240
2　醤　油・・・・・・・・・・・・・・・・・・・243
3　その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・246
第五節　嗜好品
1　茶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・249
2　酒・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・251
第六節　食　制
1　呼称と回数・・・・・・・・・・・・・・・・・253
2　食事の作法・・3　食事の場所・・・・・・255
第七節　台所と道具
1　台所の移り変わり・・・・・・・・・・・・・・257
2　台所の道具・・・・・・・・・・・・・・・・・258
第五章　生産生業
第一節　農　業
1　農業経営・・・・・・・・・・・・・・・・・・265
2　農耕技術・・・・・・・・・・・・・・・・・・281
3　農耕儀礼・・・・・・・・・・・・・・・・・・304
第二節　漁　撈・・・・・・・・・・・・・・・・・310
1　採　捕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・315
2　つかみ漁・・・・・・・・・・・・・・・・・・316
3　潜水漁法・・・・・・・・・・・・・・・・・・317
4　突き刺し漁・・・・・・・・・・・・・・・・・319
5　ウナギ掻き・・・6　笹伏せ漁・・・・・・320
7　ホリイケ・・・・8　ドジョウ掘り・・・・321
9　カイボリ・カイドリ・・・・・・・・・・・・321
10　鵜飼い・・11　フナ取り・・12　筒漁・・・322
13　筌　漁・・・・・・・・・・・・・・・・・・323
14　釣り漁・・・・・・・・・・・・・・・・・・333
15　網　漁・・・・・・・・・・・・・・・・・・337
第三節　諸　職
1　雛製造・・・・・・・・・・・・・・・・・・348
2　赤物（練物）・・・・・・・・・・・・・・・359
3　桐箪笥・・・・・・・・・・・・・・・・・・364
4　瓦製造・・・・・・・・・・・・・・・・・・376
5　だるま窯製造・・・・・・・・・・・・・・・389
6　野鍛冶・・・・・・・・・・・・・・・・・・394
7　上総掘り（井戸）・・・・・・・・・・・・・400
8　紺　屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・411
9　三味線・・・・・・・・・・・・・・・・・・415
10　鋸鍛冶・・・・・・・・・・・・・・・・・・418
11　籠　屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・425
第六章　交通・交易
第一節　交通・運搬・通信
1　道と交通・・・・・・・・・・・・・・・・・・435
2　川と舟運・・・・・・・・・・・・・・・・・・446
3　旅と往来・・・・・・・・・・・・・・・・・・462
4　通　信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・470
第二節　交　易
1　店・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・473
2　行　商・・・・・・・・・・・・・・・・・・・480
3　市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・483
第七章　信　仰
第一節　家の神仏と代参講
1　家の神仏と祠り方・・・・・・・・・・・・・490
2　屋内の神仏・・・・・・・・・・・・・・・・・491
3　屋敷神・・・・・・・・・・・・・・・・・・・500
4　代参講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・505
第二節　社寺の信仰
1　神社と信仰・・・・・・・・・・・・・・・・・517
2　寺院と信仰・・・・・・・・・・・・・・・・・541
第三節　祭りと行事
1　滝馬室（氷川神社）の的祭・・・・・・・・・560
2　鴻巣のお獅子様・・・・・・・・・・・・・・・562
3　鴻巣の夏祭り・・・・・・・・・・・・・・・・564
4　鴻巣の百万遍・・・・・・・・・・・・・・・・566
5　滝馬室の丑の真言・・・・・・・・・・・・・・568
6　勝願寺（本町）のお十夜・・・・・・・・・・570
7　庚申講・・地蔵講・・愛宕講・・・・・・・・571
稲荷様の灯ろう・・天神堂の灯ろう・・・・571
第八章　年中行事
第一節　正月行事
1　正月の準備・・・・・・・・・・・・・・・・・583
2　大晦日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・588
3　正月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・・590
4　小正月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・595
第二節　春から夏の行事
1　一月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・・601
2　二月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・・603
3　三月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・・607
4　四月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・・609
5　五，六，七月の行事・・・・・・・・・・・・611
6　七　夕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・613
第三節　盆行事・・・・・・・・・・・・・・・・・617
第四節　秋から冬の行事
1　八，九月の行事・・・・・・・・・・・・・・・623
2　十，十一月の行事・・・・・・・・・・・・・・626
第九章　人の人生
第一節　産　育
1　妊　娠・・・・・・・・・・・・・・・・・・・633
2　出　産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・636
3　生児儀礼・・・・・・・・・・・・・・・・・・641
4　生育儀礼・・・・・・・・・・・・・・・・・・647
第二節　婚　姻
1　結婚の条件・・・・・・・・・・・・・・・・・653
2　婚　礼・・・・・・・・・・・・・・・・・・・662
第三節　葬　送
1　死と霊・・・・・・・・・・・・・・・・・・・677
2　葬　送・・・・・・・・・・・・・・・・・・・683
3　忌み明け・年忌・・・・・・・・・・・・・・・694
4　葬制・墓制・・・・・・・・・・・・・・・・・696
第十章　言い伝え
第一節　名をつける
1　土地の名まえ・・・・・・・・・・・・・・・・701
2　道の名・橋の名・・・・・・・・・・・・・・・706
第二節　唱えことば
1　自然の中で・・・・・・・・・・・・・・・・・709
2　子どもの遊びから・・・・・・・・・・・・・・714
3　健康と豊作を願う・・・・・・・・・・・・・・718
第三節　ことわざ
1　農作業の知恵・・・・・・・・・・・・・・・・722
2　生活の中から・・・・・・・・・・・・・・・・724

3　嫌いごと（禁忌）・・・・・・・・・・・・・726
第四節　伝え話・・・・・・・・・・・・・・・・728
第十一章　民　　謡
第一節　中山道と荒川のうた・・・・・・・・・・741
第二節　他唄と麦打唄・・・・・・・・・・・・・755
第三節　女の機械唄・・・・・・・・・・・・・・766
第四節　子どものうた・・・・・・・・・・・・・768
第十二章　民俗芸能
第一節　神　楽
1　湯立神楽・・・・・・・・・・・・・・・・・781
2　安養寺の神楽・・・・・・・・・・・・・・・782
3　糠田の神楽・・・・・・・・・・・・・・・・787
第二節　祭ばやし
1　はやし本宮連・・・・・・・・・・・・・・・790
2　糠田のはやし・・・・・・・・・・・・・・・793
3　滝馬室のはやし・・・・・・・・・・・・・・797
4　小松原のはやし・・・・・・・・・・・・・・799
5　町内のはやし・・・・・・・・・・・・・・・800
第三節　万　作
1　郷地の万作・・・・・・・・・・・・・・・・803
2　寺谷の万作・・・・・・・・・・・・・・・・807
第四節　獅子舞
1　滝馬室の獅子舞・・・・・・・・・・・・・・812
あとがき
関係者名簿

平成７年５月　発行
埼玉県　鴻巣市

資料020『江南町史　資料編５民俗』

平成８年３月

目　　次

第一章　生産・生業
第一節　江南町の水田経営・・・・・・・・・・・・4
1　江南町の農業の現況，水田経営・・・・・・・4
2　江南町の農業水利
（1）三水系による江南町の潅漑・・・・・・・・5
（2）水系別のため池分布
＜ため池総数43ヶ所/ため池の標高/ため池の種類，呼称＞・・・・10
3　江南町の稲作慣行
（1）平地部の稲作慣行・・・・・・・・・・・・14
1　樋春地区の稲作暦・・・・・・・・・・・15
2　慣行の内容・・・・・・・・・・・・・・15
（2）谷津田の稲作慣行・・・・・・・・・・・・16
1　小江川地区の稲作暦・・・・・・・・・・17
2　慣行の内容・・・・・・・・・・・・・・17
4　沼の水利慣行
（1）柴沼の水利慣行（吉野川水系）
＜水利組合/放水/樋棒/ネギ植え/堤体の普請/土場打ち唄/エビ漁＞・・19
（2）大沼の水利慣行（和田川水系）
＜水利組合/放水/堆砂対策/「共同田植え」/普請/「しがらみ」/土場打ち唄/沼の漁業/記念碑＞・・・・・・・・・・・・・・・・21
（3）駒込沼の水利慣行（滑川水系）
＜水利組合/話し合い/放水/樋棒/堤体の普請/漁＞・・・・・・24
（4）沼の改修記念碑・・・・・・・・・・・・・25
5　沼の民俗
（1）土場打ち唄
＜一人だこをやりながら（土場打ち）/一人だこのやり方＞・・・・・26
（2）沼の漁法
1　網を使った漁法・・・・・・・・・・・・31
2　筌を使った漁法・3　釣り上げの漁法・32
4　かき鎌を使った漁法・・・・・・・・・・32
5　投げる道具，刺す道具を使った漁法・・32
6　かえ堀，池さらい，池ぼし・・・・・・32
（3）ウナギ漁
1　ウナギかき鎌によるウナギ漁・・・・・33
2　ウナギの習性・・・・・・・・・・・・・34
3　ウナギの空気孔・4　ウナギの呼び名・35
5　ウナギの用途・6　その他のウナギ漁・36
6　沼普請文書・・・・・・・・・・・・・・・36
7　まとめにかえて・・・・・・・・・・・・・37
第二節　麦　　作
1　台地の麦作＜台地上の土地利用/大麦と小麦/耕地/整地/サクキリ/種まき/タレマキ/中耕・麦踏み・土入れ/夏作の準備/麦刈り/脱穀・調整/出荷＞・・38
2　低地の麦作＜水田の裏作/種まき/整地＞・・・・・・・48
第三節　養蚕と生絹
1　養　蚕・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
（1）飼育回数と蚕期
＜飼育回数/蚕期の日程/蚕と農作業等の兼ね合い＞・・・・・・53
（2）蚕種の購入とコバカイ
＜蚕種の購入/コバカイと種蚕共同飼育所＞・・・・・・・・56
（3）蚕室＜蚕室/蚕室の消毒/蚕室の暖房＞・・・・・・・・58
（4）桑　＜桑園/桑切りと桑摘み/桑の質と善し悪し/桑園の管理/桑の間作/桑の被害/桑の樹皮の利用＞・・・・・・・・・・・・・・・65
（5）飼育・上蔟の工程と用具
＜棚飼い/掃き立て/給桑/拡座とウラトリ/発育進度の調整/蚕の病気と方法/台での飼育/上蔟/マブシの変遷＞・・・・・・・・・・・・74
（6）収繭と出荷＜繭掻きと毛羽取り/出荷/収繭量＞・・・・・93
（7）養蚕の労働力
＜仕事の分担/忙しい時期の手伝い/蚕日儲い＞・・・・・・・100
（8）養蚕信仰＜養蚕祈祷の御礼/小正月のマイダマ＞・・・・・102
2　生　　絹
（1）町内の機屋＜開業と全盛期/廃業＞・・・・・・・・104
（2）生絹の生産＜生絹の種類/繭の調達/製糸/生糸の購入/機織り/賃機/織り手の付け届け/織り賃の支払い方＞・・・・・・・・・・105
（3）生絹の出荷と同業組合＜生絹の出荷/生絹の用途/同業組合/品評会＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・110
第四節　山仕事・・・・・・・・・・・・・・・・112
1　用材と薪の生産
＜山林の売買/山師の仕事/伐採/薪作り/搬出/山の神＞・・・・・113
2　落ち葉かきとカヤ刈り
＜クズハキ/堆肥作り/クズギカキ/カヤ刈り＞・・・・・・・・118
第五節　水　車・・・・・・・・・・・・・・・・122
第二章　衣生活
第一節　仕事着
1　仕事着の様相
＜野良仕事の服装/田植えの服装/川の仕事の服装＞・・・・・・131
2　仕事着の形態と素材
＜被り物/男の野良着（長着/シャツ/ハンキリの着物/股引き/野良着の洋装化）/女の野良着（長着/帯/前掛け/腰巻/股引き/標準服とモンペ/割烹着/野良着の洋装化）/野良仕事の防寒着/脚絆と手甲/野良仕事の履物/野良仕事の雨具と日除け（雨具/日除け）＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・134
第二節　家着とよそ行き
1　家着＜木綿の長着と防寒着/前掛けと割烹着/戦争中の家着/家着の洋装化/寝間着と寝具（寝間着/寝具）＞・・・・・・・・・・・・・157
2　よそゆき＜よそゆきの素材と仕立て/よそゆきの装い（男の装い※袷の季節/男の夏の装い/男の合着/女の装い※袷の季節/女の夏の装い/女の合着/戦争中の女の装い）/よそゆきを着る機会＞・・・・・・・・・・・・・・163
3　下着と履物＜下着（男の下着/女の下着/下着にかかわる習俗）/履物（藁製の履物/下駄/草履）＞・・・・・・・・・・・・・175
4　子供の衣類＜オムツと襁褓/モリッコオビネンネコバンテン/子供の着物/通学着/子供の履物・雨具・持ち物/子供のよそゆき/女学生の服装＞・・・・183
第三節　ハレ着
1　出産＜産着/お産見舞の反物/ショウボウギモン＞・・・・・195
2　帯解きと成人祝＜帯解きの着物/成人祝の着物＞・・・・198
3　婚礼＜花嫁の衣裳/花嫁衣裳/披露宴のお色直し/嫁入りに持ってきた着物/嫁入り道具/婚礼後の儀礼の衣裳/嫁のショウボウビテエモン＞・・・・・・・200
4　厄年と年祝い＜厄年帯/年祝いの着物＞・・・・・・・220
5　葬式＜死者の装束/男の喪服/女の喪服/割烹着を送る風習＞・・・・221
第四節　衣料の製作と入手方法
1　衣料の製作＜木綿機/絹機/紬の縞を織る工程/縮緬やカベの織り方/残り糸の

利用/ナイロン糸を織る/紡織技術の修得/仕立てと裁縫用具＞・・・・・223
2　衣料の購入
＜呉服屋からの購入/行商からの購入/衣料の購入が困窮した時代＞・・・243
第五節　衣服の管理方法
1　洗濯
＜野良着の洗濯/洗濯の水/洗濯の用具と洗剤/衣替えと着物の丸洗い＞・・245
2　繕いと縫返し＜繕い/張り返しと縫い返し/着物の繰り回し＞・・248
3　衣服の収納と防虫＜収納具/防虫＞・・・・・・・250
第六節　容　姿
髪型＜男の髪型/女児の髪型/娘や婦人の髪型/髪結用具とカミイサン/断髪とパーマネント＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・253
2　髪の手入れ＜洗髪/整髪＞・・・・・・・・・・257
3　化　粧＜化粧品/香水/お歯黒と眉を剃る習俗＞・・・・・・258
第三章　食生活
第一節　普段の日の食事
1　普段の食事・・・・・・・・・・・・・・・・・264
2　間　食・・・・・・・・・・・・・・・・・・・265
3　食事の場所と家族の配置・・・・・・・・・・266
4　食物の煮炊き・・・・・・・・・・・・・・・269
第二節　晴れの日の食事
1　年中行事と食べ物
（1）大正月＜T家の事例/正月の餅＞・・・・271
（2）七　草・・・・・・・・・・・・・・・・・274
（3）小正月・・・・・・・・・・・・・・・・・275
（4）恵比須講（小江川・T家の事例）・・・・276
（5）ジロウノツイタチ（次郎の朔日）・・・・276
（6）節　分・（7）初午・（8）二月八日・・・277
（9）三月節供・・・（10）彼　岸・・・・・・278
（11）端午の節供・・・・・・・・・・・・・・278
（12）六月一日・（13）ナエビラキとサナブリ・・279
（14）ノアガリ（野上がり）・・・・・・・・・279
（15）七夕・・・・・（16）盆・・・・・・・・280
（17）八朔の節供・（18）十五夜・十三夜・・・・281
（19）二百十日　（20）オヒマチ（お日待ち）・・282
（21）トーカンヤ（十日夜）・・・・・・・・・・282
（22）恵比須講・・・・・・・・・・・・・・・283
（23）川浸り・・・・（24）冬　至・・・・・・284
2　祝儀・不祝儀と食べ物
（1）御祝儀の食べ物・・・・・・・・・・・・284
（2）不祝儀と食べ物＜通知/四十九の団子/本膳としのぎ/メドバン/ボンク（盆供）/野辺送りの膳＞・・・・・・・・・・・286
第四章　住生活
第一節　屋敷構え
1　屋敷取りと建物配置・・・・・・・・・・・293
（1）板井・小田川家＜屋敷構え/間取り＞・・・・・294
（2）板井・吉野家＜屋敷構え/間取り＞・・・・・298
（3）板井・富岡家＜屋敷構え/間取り＞・・・・・302
（4）塩・富田家＜屋敷構え/間取り＞・・・・・・306
（5）三本・長谷川家＜屋敷構え/間取り＞・・・・・310
（6）樋春・平山家・・・・・・・・・・・・・・314
（7）板井・飯島家・・・・・・・・・・・・・・318
2　付属屋
（1）門・・・（2）蔵＜穀蔵/文庫蔵/味噌蔵＞・・・320
（3）物　置＜木小屋＞・・（4）井　戸・・・322
3　屋敷まわり
（1）カイドウ・・・・・・・・・・・・・・・・324
（2）防風林一屋敷林・・・・・・・・・・・・・325
（3）庭＜坪庭＞・・・・・（4）庭　木・・・・326
4　氏神様・・・・・・・・・・・・・・・・・・327
第二節　家造りと住まい方
1　屋　根
（1）屋根の材料＜かや葺き/瓦葺き＞・・・・・・・330
（2）屋根の形＜煙出し/屋根組＞・・・・・・・・・331
2　間取り
（1）間取り・・・・・・・・・・・・・・・・・333
（2）造　作＜土台/柱/神棚の上＞・・・・・・・・335
3　土　間＜アガリハナ＞・・・・・・・・・・・・336
（1）出入り口＜トボグチ/ナカトボ/ヒガシトボ/セドグチ＞・・・338
（2）台　所＜カマド/流し＞・・・・・・・・・・339
（3）馬　屋・・・・・・・・・・・・・・・・・341
4　風呂と便所
（1）風　呂・・・・・・・・・・・・・・・・・342
（2）便　所＜外便所/内便所＞・・・・・・・・・343
第五章　社会生活
第一節　ムラの組織
1　ムラと屋号・・・・・・・・・・・・・・・・349
2　ムラ組織と役職・・・・・・・・・・・・・・352
3　諸集団
（1）講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・357
（2）子　供・・・・・・・・・・・・・・・・・362
（3）青　年・・・・・・・・・・・・・・・・・364
（4）女　性・・・・・・・・・・・・・・・・・367
4　共同労働
（1）エエ仕事・・・・・・・・・・・・・・・・368
（2）道普請と堀さらい・・（3）夜　番・・・369
（4）水の管理と雨乞い・・・・・・・・・・・371
5　ムラの境・・・・・・・・・・・・・・・・・374
第二節　家と家族
1　本分家関係・・・・・・・・・・・・・・・・376
2　つきあい・・・・・・・・・・・・・・・・・378
3　通婚圏・・・・・・・・・・・・・・・・・・393
第六章　儀礼と生活
第一節　冠婚葬祭
1　産　育＜妊娠/帯祝い/安産祈願/妊娠中の禁忌/出産/流れ潅頂/ノチザン/ヘソノオ/妊娠の食事/オヒチヤ/セッチンマイリ/お宮参り/オクイゾメ/捨て子/夜泣き封じ/カンの虫/初正月/初節供/初誕生/帯解き＞・・・・・・・・402
2　成　人＜青年団/女子青年団/夜遊び＞・・・・・・407
3　婚　姻＜婚礼/結婚年齢と通婚圏/ハシワタシ/見合い/タルイレ/足入れ/恋愛結婚/嫁入り道具/クレ祝儀/入家儀礼/モライ祝儀/仲人礼/離婚＞・・・・409
4　厄年・年祝い＜男の厄年/女の厄年/年祝い＞・・・・・417
5　葬　送＜死の予兆/死者の扱い/死に水/湯かん/組織の機能/通知/ハヤドウグ/穴掘り/香典/入棺/葬法/葬儀/葬列/埋葬後の習わし/イミアケ/墓直し/寺参り/念仏/死後の供養＞・・・・・・・・・・・・・・・・・418
第二節　歳時儀礼
1　正月行事＜若水くみ/ウタイゾメ/三が日の食事/タナサガシ/七草/山入り/お手長様/鍬入れ/オシラビマチ/モノツクリ/マユダマ/小豆粥/やぶいり/セエノカミ/恵比須講/二十二夜様＞・・・・・・・・・・・・・・・424
2　春・夏の行事＜次郎の朔日/節分/初午/デエモンガエシ/社日/春彼岸/お獅子様/ひな祭り/端午の節供/石尊講＞・・・・・・・431
3　盆行事＜カマノクチアケ/七夕/盆/盆迎え/盆の食事/新盆見舞/野回り/施餓鬼/盆送り＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・434
4　秋・冬の行事＜八朔の節供/十五夜・十三夜/お天道さまの日待ち/帯解き/恵比須講/デエモンガエシ/冬至/餅つき/松飾り/ミソカッパライ＞・・・437
第三節　農耕儀礼
1　稲作儀礼
＜予祝儀礼/播種儀礼/田植え儀礼/呪術的儀礼/収穫儀礼＞・・・・442
2　畑作儀礼
＜予祝儀礼/十五夜・十三夜の年占/播種儀礼/播種の禁忌/収穫儀礼＞・446
第七章　交通と交易
第一節　交　通
1　交通の発達
（1）町内の交通の概況・・・・・・・・・・・454
（2）外出の機会・・・・・・・・・・・・・・458
（3）荒川土手の築堤・・・・・・・・・・・・460
2　運搬具の乗り物
（1）ショイタ・・・・（2）大八車・・・・462
（3）馬車・牛車・・・・・・・・・・・・・・463
（4）運送と呑龍坊主の思い出・・・・・・・463
（5）自転車の出現・・・・・・・・・・・・・465
（6）耕運機・・・・・・・・・・・・・・・・466
（7）オートバイ・・・・・・・・・・・・・・467
（8）自動車・・・・・・・・・・・・・・・・468

3　バスの運行
（1）小川・熊谷線の運行・・・・・・・・・・469
（2）熊谷・本畠線の運行・・・・・・・・・・470
4　水運と渡し舟
（1）押切の河岸・・・・・・・・・・・・・・472
（2）押切の渡し舟・・・・・・・・・・・・・473
第二節　交　易
1　物資の流通
（1）物資の交換と買入・・・・・・・・・・・478
（2）農産物等の売却・・・・・・・・・・・・479
2　行商人の往来
（1）物売り
＜越後の毒消し/富山の薬売り/お宝売り/魚売り/食べ物売り/一銭屋＞・481
（2）露天商・・・・・・・・・・・・・・・・485
（3）職　人＜傘屋/鋳掛け屋/籠屋・箕直し＞・・・・・・487
（4）芸　人＜瞽女/獅子回し/三河万歳/人形芝居/紙芝居＞・・488
3　町内の商業活動
（1）屋号に残る昔の話
＜唐臼屋と付け木屋/ランプ屋/鍛冶屋/籠屋＞・・・・・・490
（2）町内の商店・・・・・・・・・・・・・・493
第八章　信　　仰
第一節　町内の社寺と祭り
1　町内の信仰と概要・・・・・・・・・・・・505
2　町内各地区の社寺と祭り
（1）成　沢
1　地内の社寺＜赤城神社/赤城庵/神力寺/静簡院＞・・520
2　年間の祭り＜天王様＞・・・・・・・・・・526
（2）三　本
1　地内の社寺＜渡唐神社/駒形明神社/順海神社/安隠寺＞530
2　主な年間の祭事＜お日待＞・・・・・・535
（3）上新田
1　地内の社寺＜諏訪神社/薬師堂＞・・・・・・537
2　主な年間の祭事＜諏訪神社の大祭＞・・・・542
（4）押　切
1　地内の社寺
＜八幡若宮八幡神社/寺の前/東陽寺跡/円光寺/篠田家/伊勢宮/宝幢寺＞545
2　主な年間の祭事・・・・・・・・・・・552
（5）樋　春
1　地内の社寺
＜七社神社/観音寺跡地/通殿稲荷社/真光寺/薬師堂＞・・・・・554
2　主な年間の社寺＜七社神社の団子投げ/薬師堂の縁日＞・
・・・・・・・・・・・・・・・・・561
（6）御正新田
1　地内の社寺＜雷電神社/浄安寺/不動院＞・・・・565
2　主な年間の行事＜夏祭り＞・・・・・・569
（7）須賀広
1　地内の社寺
＜八幡神社/釈迦寺/能満寺跡地/井天社/重殿稲荷＞・・・・572
2　年間の主な祭事＜八幡様の秋祭り＞・・・・579
（8）野　原
1　地内の社寺＜八幡神社/文殊寺＞・・・・・・581
2　主な年間の祭寺＜八幡神社の大祭/文殊寺の縁日＞・588
（9）小江川
1　地内の社寺＜高根神社/保泉寺/満讃寺/聖観寺/稚産稲荷＞
・・・・・・・・・・・・・・・・・590
2　年間の主な祭寺＜高根神社のお日待と末社の祭り＞・・597
(10) 塩
1　地内の社寺＜八幡神社/常安寺＞・・・・・・599
2　年間の主な祭寺＜天王様/薬師講＞・・・・604
(11) 板　井
1　地内の社寺
＜出雲乃伊波比神社/長命寺/宝光寺/阿弥陀寺/キョウホ院＞・・606
2　年間の主な祭寺＜天王様/不動様＞・・・・613
(12) 柴
1　地内の社寺＜八幡神社/金胎寺跡/阿弥陀堂/寺内廃寺＞616
2　主な年間の祭寺＜お日待＞・・・・・・620
(13) 千　代
1　地内の社寺＜飯玉神社/普門寺＞・・・・・・622
2　年間の主な祭寺＜お日待＞・・・・・・626
第二節　家の内外の神仏
1　地縁・血縁による祭祀
（1）近隣で祀る神仏・・・・・・・・・・・・628
（2）同族で祀る神仏＜広沢一家の不動様(成沢)/関口稲荷(三本)/
持田稲荷(下押切)/大島稲荷(下押切)/市川稲荷(下押切)/坂田家の薬師様
(下押切)/寺山一家の地蔵様(千代)＞・・・・・・・・629
（3）個人で祀る神仏＜高橋家の天神様(成沢)/平山家の地蔵様(樋春
北)/鈴木家の不動様(樋春南)/大澤家の観音様(樋春南)/岡田家の夜泣き不動
(野原)/上杉家の氏神(千代)＞・・・・・・・・・631
（4）先祖供養＜新葬祭の場合/仏葬の場合＞・・・・・・634
（5）信仰を同じくする人で祀る神仏＜御嶽講(樋春北)
/不動院(御正新田)/御嶽様(須賀広)/御嶽講(小江川)＞・・・635
（6）入定塚
＜入定様(成沢)/ヒゲゾウ様(坂井)ダイコボウ様(須賀広)＞・・637
2　家庭で祀る神仏
（1）氏神様・・・・・・・・・・・・・・・・639
（2）神棚と恵比須大黒・・（3）荒神様・・640
（4）年神様・・・・・・・・・・・・・・・・641
（5）その他・・・・・・・・・・・・・・・・642
第三節　共同祈願
1　疫病除け
（1）百万遍と御真言＜百万遍(三本)/御真言(樋春南)＞・・643
（2）フセギ＜上新田/樋春北・南/塩＞・・・・・・・・647
（3）お獅子様＜下押切/小江川/塩＞・・・・・・・・648
（4）大般若＜須賀広＞・・・・・・・・・・・・654
（5）不動様＜上押切＞・・・・・・・・・・・・655
2　農業に関する諸祈願
（1）雹嵐除け・・（2）虫送り＜下押切＞・・・657
（3）雨乞い＜上新田/御正新田/塩＞・・・・・・・・658
3　火　　防＜順海神社(三本)/お手長様(樋春北)＞・・・・・661
4　安　　産・・・・・・・・・・・・・・・・・662
（1）産泰講・・・（2）二夜待・・・・・・・・663
（3）粟島神社・・・・・・・・・・・・・・・664
5　手習い・学業の上達・・・・・・・・・・・665
6　馬の健康＜観音講(上新田)/観音様(樋春北)＞・・・・・666
7　山仕事の安全・・・・・・・・・・・・・・667
第四節　個人の祈願
1　戦勝・武運の祈願
（1）八幡八社参り・・・・・・・・・・・・・669
（2）八村八社参り・・（3）千社参り・・・・672
（4）辻参り・・・・・・・・・・・・・・・・673
（5）その他の戦勝・武運の祈願・・・・・・・673
2　安産・子育ての祈願
（1）子授け＜子持ち石(三本)/柳屋のぼた餅＞・・・・・・674
（2）安産・子育て＜庚申様(成沢)/子育て地蔵(上新田)/子育て地蔵(樋
春南)/粟島神社(御正新田)/子育て地蔵(柴)/山王様(千代)＞・・・676
（3）夜泣き
＜福田家の稲荷様(上新田)/夜泣き不動(野原)/夜泣き地蔵(塩)＞・・678
（4）子供の病気除け
＜出雲伊波比神社の橋くぐり(板井)/庚申様(小江川)＞・・・・・679
（5）手習い・学業の上達
＜天神様(成沢)/天神様(板井)/文殊寺の行事(野原)＞・・・・・680
3　病気平癒の祈願
（1）目の病
＜薬師堂(上新田)/薬師様(下押切)/穴薬師(樋春南)/薬師講(塩)＞・682
（2）歯　痛＜白山神社(成沢)/庚申様(須賀広)＞・・・・・684
（3）婦人病＜粟島神社(御正新田)＞・・・・・・・・・684
（4）疣＜疣地蔵(塩)/疣地蔵(千代)/疣取り地蔵(小江川)＞・・・684
（5）足の病
＜道陸神様(成沢)/道祖神(上押切)/子の権現(須賀広)/庚申様(塩)＞・686
4　生業発展の祈願
（1）農業・・・（2）養蚕倍成・蚕守護・・・687
（3）山仕事・・・・・・・・・・・・・・・・・689

5　諸願成就
（1）宮参り・・（2）お百度・・・・・・・・689
第五節　代参講と伊勢参宮
1　信仰と旅・・・・・・・・・・・・・・・691
2　榛名講と大山講
（1）榛名講・・・・・・・・・・・・・・・692
（2）大山講（石尊講）・・・・・・・・・・697
3　県内の神仏を対象とした講
（1）三峰講・・・・・・・・・・・・・・・702
（2）宝登山講・・・・・・・・・・・・・・704
（3）手長講・・・・・・・・・・・・・・・705
（4）釜伏講・・・（5）雷電講・・・・・・707
4　伊勢参宮・・・・・・・・・・・・・・・708
（1）町内の伊勢講の動向・・・・・・・・・709
（2）昔の伊勢講・・・・・・・・・・・・・711
第九章　民俗芸能と娯楽
第一節　獅子
1　須賀広のささら獅子舞＜由来/形態/八幡神社大祭/須賀広秋祭り「ささら」保存会/獅子頭・衣裳・用具/演目/歌（初手庭）（二の庭）/曲目/楽器/行列/舞の場と一行の位置/演目の構成と曲目の用い方/シシッコ/組織/練習＞・・718
2　上押切ササラ獅子舞
＜由来/形態/八幡神社大祭/獅子舞の奉納/獅子頭・衣裳・用具/演目/歌（平庭）（弊掛り）（花掛り）（網掛り）/曲目/楽器/行列/舞の場/演目の構成と曲目の用い方/役者/練習＞・・・・・・・・・・・・・・・・738
第二節　祭り囃子
1　成沢の祭り囃子
（1）天王様・・・・・・・・・・・・・・・747
（2）囃子の伝播と伝承・（3）楽器・・・・・748
（4）屋台と屋台内の囃し手の位置・・・・・749
（5）曲目　（6）「屋台ばやし」の構成
（7）技術の伝習・・・・・・・・・・・・・750
2　上新田の祭り囃子
（1）諏訪神社の祭り・・・・・・・・・・・751
（2）祭り囃子の伝播と伝承・・・・・・・・752
（3）保存会・・・・・（4）楽器・・・・・・752
（5）屋台と屋台内の囃子方の位置・・・・・753
（6）曲目・・（7）「屋台ばやし」の構成
（8）技術の伝習・・・・・・・・・・・・・754
3　板井の祭り囃子
（1）天王様・・（2）囃子の伝播と伝承・・・755
（3）保存会・・（4）楽　器・・・・・・・・756
（5）山車内の囃子方の位置・（6）曲目・・・757
（7）「はやし」の構成・・・・・・・・・・・758
（8）ひょっとこ踊り・・・・・・・・・・・758
（9）技術の伝習・・・・・・・・・・・・・759
第三節　民　謡
1　祝い歌・・・・・・・・・・・・・・・・760
2　祭り・踊り歌・・・・・・・・・・・・・761
3　行事歌・・・・・・4　仕事歌・・・・・・762
5　その他の歌・・・・・・・・・・・・・・765
6　歌詞と楽器
（1）祝い歌＜高砂/上棟式の木遣り節＞・・・・・・・・765
（2）祭り・踊り歌
＜ボンガヤー/シッチョイ（合の手）/秩父音頭/八木節/盆踊りの歌＞・・766
（3）行事歌＜七草の歌/尻まくりの唄/十日夜の唄＞・・・・・768
（4）仕事歌＜桑つみ唄/機織り唄/杭打ち唄/ドハブチ唄＞・・・・768
（5）その他の歌＜はやし唄/十三仏/飴屋の唄/ゴゼの唄＞・・・771
第四節　子供歌
1　遊び歌・・・・・・・・・・・・・・・・774
2　言葉遊びの唄・・・3　子守り歌・・・・・776
4　歌詞と楽器
（1）遊び歌　＜人寄せ唄/ジャンケン唄/鬼決め唄/指遊びの唄/手遊びの唄/手合せ唄/顔面遊びの唄/キシャゴ・おはじき唄/お手玉・タマイシ唄/羽根つき唄/まりつき唄/なわとび唄/凧あげの唄/石けりの唄/絵かき唄/鬼ごっこの唄/抜き遊びの唄/背合わせ遊びの唄/押し遊びの唄/人当て輪遊びの唄/くぐり遊びの唄/列遊び・人取り遊びの唄/約束の唄＞・・・・・・・・・・・・・・・・777
（2）言葉遊び歌
＜ホタルの唄/寒さの唄/数取り唄/数え唄/尻取り唄/悪態唄/はやし唄＞・792
（3）子守り唄＜遊ばせ唄/眠らせ唄/守っ子唄＞・・・・・・797
第五節　遊び・娯楽
1　娯　楽＜女遊び/男遊び/夜遊び/外出/盆踊り/素人演芸/楽団＞・・802
2　子供の遊び＜手伝い/遊び場/遊びの種類/キシャゴ（おはじき）/トッコ/オオガケ/クニトリ/軍取り・軍ジャ/ブッツケ/縄飛び/まりつき/ドッチボール/クギブッツケ/首ブッケ/金輪/ケダシ・石けり・丸飛び/ネコトリ/人取り/馬飛び・馬乗り/兵隊ごっこ・兵隊ヤッコ/ママゴト/まんじゅう釣り/十日夜/水遊び/竹登り/ハチの巣取り/魚捕り/篠竹鉄砲/草摘み/ドドメ採り/柿採り＞・・・・・・・・807
3　門　付＜ゴゼ＞・・・・・・・・・・・・・814
第十章　伝　　説
1　地名起源の伝説
1 一夜土手（板井）/2 カッパ山（成沢）/3 蔵屋敷（下押切）/4 寺跡（下押切）/5 道祖神（野原）・・・・・・・・・・・・・・・・820
2　塚にまつわる伝説
1 先祖山（野原）/2 十三塚（塩）/3 上人様と上人塚（樋春南）・・・・822
3　神々にまつわる伝説
1 ドコウジン様（成沢）/2 夜泣きを治す稲荷様（上新田）/3 お産の神様山王様（千代）/4 鹿島様の橋くぐり（板井）/5重殿の稲荷（須賀広）・・・・・・824
4　地蔵の伝説
1 椿森のお仕置場（塩）/2 熊地蔵（押切）/3 乳地蔵（野原）/4 子育て地蔵様（上新田・樋春南）/5 ジュウキチ地蔵（須賀広）/6 いぼ地蔵（千代・塩）/7 夜泣き地蔵（野原）・・・・・・・・・・・・・・・・・827
5　薬師の伝説・・・・1 穴の薬師（樋春）・・・・・・834
6　馬頭観音の伝説
1 おりっとの観音様（樋春）/2 熊谷次郎直実の馬（樋春南）・・・・・・835
7　その他の神や仏の伝説
1 ドウロクジン様（上押切）/2 若宮様（野原）/3 中島家の不動様（板井）/4 おきのさん（樋春他）/5 悪魔除け「コロリ除け」（樋春）/6 キリシタンの天神様（三本）/7 神力寺（成沢）・・・・・・・・・・・・・・・837
8　僧の伝説
1 入定塚（塩・成沢）/2 ダイコボー様（須賀広）/3 ひげ僧様（板井）・・・842
9　動物・妖怪の伝説
1 オニガトブバン「鬼が飛ぶ晩」（全町地区）/2 大沼と白蛇伝説（須賀広）/3あずきとぎ婆さん（須賀広）/4 片目の魚（千代）/5 文殊寺の獅子（野原）・・・・844
10　世間話
1 神隠し/2 ムジナやオトウカに化かされた話（塩・御正新田・成沢等）/3 ショウガがつくれなかった話など（塩）/4 麻を作れない話（御正新田）/5 お正月に鮒を食べない家（樋春・小江川）/6 枯れない井戸水（柴）/7 松楽院跡（千代）/8 沼の名のいわれ（千代）/9 子持石（三本）/10 次郎の網目のぼたもち（三本）/11 能満寺の跡（須賀広）・・・・・・・・・・・・・・・・・852
あとがき
関係者名簿

平成８年３月25日　発行
江　南　町

資料021『児玉町史　民俗編』

平成7年3月

目　次

第一章　児玉町の概要
第一節　町の歴史と沿革
1　児玉町の位置と歴史
＜位置/原始・古代/中世/近世/近・現代＞・・・・・・・・・・3
2　町の沿革＜沿革/行政区と大字＞・・・・・・・・・・・・5
第二節　児玉町内の地域的特徴
＜児玉地区/金屋地区/秋平地区/本泉地区/共和地区＞・・・・・・・・8
第二章　社会生活
第一節　村のありよう・・・・・・・・・・・・・・20
1　村の内部組織・・（1）ムラと屋号・・・・20
（2）ムラの組織と役職・・・・・・・・・・・23
（3）下部組織・・・・・・・・・・・・・・・26
（4）共有財産・・・・・・・・・・・・・・・27
2　共同労働・・・（1）エエ仕事・・・・・・29

（2）道普請など・・・・・・・・・・・・・・・・30
（3）夜　　番・・・・・・・・・・・・・・・・31
3　諸集団・・（1）子　供・・・・・・・・・・32
（2）青　　年・・・・・・・・・・・・・・・・36
（3）女　　性・・・・・・・・・・・・・・・・38
（4）その他の講集団・・・・・・・・・・・・・39
（5）雨乞い・・・・・・・・・・・・・・・・・42
第二節　家と家族・・1　本分家関係・・・・・・44
2　婚姻圏・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
第三章　生産・生業
第一節　農　　業・・・・・・・・・・・・・・・56
1　稲　　作
（1）稲
1 栽培慣行＜用水路と潅漑/溜池と潅漑/稲の品種/種籾の管理/耕起/畦塗り/苗代作り/籾振り/植え田の代掻き/苗取り/田植/除草/水の管理と追肥/害虫害鳥駆除/稲刈り/稲あげ/脱穀/調整/出荷/牛馬の飼育/野良仕事の服装＞・・57
2 農耕儀礼と禁忌＜年占/播種儀礼/田植の禁忌/サナブリ/雨乞い/収穫の儀礼＞・・・・・・・・・・・・・・・・・81
2　畑　作
（1）麦
1 栽培慣行＜麦の品種/耕起と整地/畝立て元肥/麦蒔き/タレマキ/カブマキ/中耕/麦踏みと土入れ/麦刈り/麦あげ/脱穀・調整・出荷＞・・・・87
2 麦作の儀礼と禁忌＜年占/播種儀礼と禁忌/鍬入れ/収穫儀礼＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・96
（2）陸　　稲・・・（3）粟・・・・・・・・・99
（4）黍・・・・・・・・・・・・・・・・・・・100
（5）そ　　ば・・・・・・・・・・・・・・・・101
（6）モロコシ・・・・・・・・・・・・・・・・102
（7）大　　豆・・・（8）小　　豆・・・・・103
（9）ササゲ・・・・（10）ご　　ま・・・・・104
（11）菜　　種・・・・・・・・・・・・・・・105
（12）芋　　類
1 里芋／2 八つ頭／3 さつま芋／4 じゃが芋／5 こんにゃく・・・・・・・・・・・・・・・106
（13）蔬菜類など
1 大根／2 にんじん／3 ごぼう／4 ねぎ／5 きゅうり／6 なす／7 しょうが／8 たまねぎ／9 その他の蔬菜類＜ほうれん草/はくさい/トマト＞・・・・112
（14）茶・楮・とろろ葵・花卉
1 茶／2 楮／3 ととろあおい（黄蜀葵）4 花卉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・120
3　養　　蚕・・・・・・・・・・・・・・・・・125
（1）飼　育＜春蚕の飼育/初秋蚕の飼育/晩秋蚕の飼育＞・・・・126
（2）上　蔟・・・・・・・・・・・・・・・・・131
（3）繭かき・・・・・・・・・・・・・・・・・132
（4）桑　園・・・・・・・・・・・・・・・・・134
（5）養蚕信仰・・・・・・・・・・・・・・・・135
第二節　林　　業
1　用材生産・・・・・・・・・・・・・・・・・136
（1）植付け・・（2）下刈り・枝打ち・・・・137
（3）間伐・・（4）売買・・（5）信仰・・・138
2　炭焼き＜炭の種類/炭の原木/炭焼き窯作り/炭焼き/出荷＞・・・139
第三節　酪農・椎茸栽培
1　酪農
＜搾乳/集乳/飼料/飯倉放牧場/健康管理/爪切り/副業から専業へ＞・・・143
2　椎茸栽培
＜原木切り/原木の購入/コマ植え/伏せ込み/芽だし/収穫/干しシイタケ＞・・148
第四節　諸　　職・・・・・・・・・・・・・・・151
1　瓦　屋・・（1）組織と系譜・・・・・・・156
（2）瓦の製作技術・・・・・・・・・・・・・157
（3）年季奉公・・・・・・・・・・・・・・・159
（4）職人の生活・・・・・・・・・・・・・・160
（5）西　業・・・・・・・・・・・・・・・・161
（6）燃　料・・・・・（7）販売・・・・・・162
2　鋳物業・・・・・・・・・・・・・・・・・・162
（1）敷地と仕事場・・（2）材料・・・・・・163
（3）製　　品・・・・・・・・・・・・・・・・164
（4）技　　術・・・・・・・・・・・・・・・・166
（5）道　　具・・・・・・・・・・・・・・・・168
（6）販　　売・・・・・・・・・・・・・・・・169
（7）職　　人・・・・・・・・・・・・・・・・170
（8）生　　活・・・・・・・・・・・・・・・・171
（9）信　　仰・・・・・・・・・・・・・・・・173
3　鍛冶屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・173
4　籠　　屋・・・・・・・・・・・・・・・・・177
5　棒　　屋・・・・・・・・・・・・・・・・・181
6　桶　　屋・・・・・・・・・・・・・・・・・182
7　下駄屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・184
8　建具屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・185
9　畳　　屋・・・・・・・・・・・・・・・・・186
10　石　　屋＜児玉町の石屋/江戸時代の石工/太子講/石材の種類と入手先/製品の種類/職人について＞・・・・・・・・・・・・・・・188
第五節　魚取り
1　魚取り
＜トアミブチ/ヒブリ/カキ/オキバリ/ウケ/ブッテ/オッカブセ/ケーガリ＞・192
第四章　衣生活
第一節　仕事着
1　男の仕事着
（1）明治・大正・昭和初期
＜かぶりもの/腕/はきもの＞・・・・・・・・・・・198
（2）戦争中・戦後以後（昭和40年ころまで）
＜かぶりもの/腕/はきもの/男の仕事着の変化＞・・・・・・200
2　女の仕事着
（1）明治・大正・昭和初期＜かぶりもの/腕/はきもの＞・・203
（2）戦争中・戦後以後（昭和40年ころまで）
＜かぶりもの/手ぬぐい/腕/はきもの/女の仕事着の変化＞・・・・206
3　雨　具・・・・・・・・・・・・・・・・・・208
資料　仕事着一覧表・・・・・・・・・・・・・210
第二節　普段着
1　男の普段着
（1）普段着の移り変わり一着物から洋服へ・・223
（2）戦時下の普段着一国民服・・・・・・・・224
2　女の普段着
（1）普段着の移り変わり＜下着＞・・・・・・・224
（2）戦時下の普段着一標準服と防空頭巾・・・226
3　子供の普段着
（1）学校での服装＜袴/先生/雨の日＞・・・・・・・228
（2）体操の時の服装・・・・・・・・・・・・・231
第三節　よそゆき
1　男のよそゆき・・・・・・・・・・・・・・・232
2　女のよそゆき＜帯/コート＞・・・・・・・・・233
第四節　晴れ着
1　子供の誕生,成長と着物＜生まれたときに着る着物/お七夜に着る着物/お宮参りに着る着物/ヒャッケンギモン/帯とき（七五三）/成人式＞・・235
2　祝儀の着物＜戦争中の花嫁/花嫁の着物/嫁ごのお茶＞・・・・238
3　葬式の着物＜白無垢/黒無垢/男の喪服/履物＞・・・・・240
第五節　裁　　縫
1　裁　縫（1）裁縫所・・・・・・・・・・・・242
（2）袖のいろいろ＜筒袖/もじり袖/元禄袖＞・・・・・243
2　洗い張りと作り直し
（1）洗い張り＜糊/張り方＞・・・・・・・・・・244
（2）作り直し・・・・・・・・・・・・・・・・245
第六節　染めと織り・1　糸取り＜撚り屋/糸染め＞・・246
2　機織り＜機織り機/オサ/玉虫織り＞・・・・・・・・247
3　染め＜縞まさぎ/染料/染め直し/型染め＞・・・・・・・248
第七節　寝　　具
1　布　団（1）綿・・・・・・・・・・・・・・249
（2）敷布団と掛布団・・・・・・・・・・・・250
（3）かいまき・・・・・・・・・・・・・・・251
2　枕＜箱枕/布枕/枕のなかみ＞・・・・・・・・・・252
3　蚊　帳・・・・・・・・・・・・・・・・・253
4　ねまき・・・・・・・・・・・・・・・・・254

第八節　髪と化粧
1　髪と化粧
（1）髪　型＜子供の髪型/女の子の髪型/娘たちの髪型＞・・・・255
（2）洗　髪・・・・・・・・・・・・・・・・256
2　化　粧・・・・・・・・・・・・・・・・257
第九節　衣服の管理・保存
1　洗　濯＜タライと洗濯板/石けん/洗濯機＞・・・・・・・257
2　虫干し・収納＜防虫/虫干し/収納＞・・・・・・・258
第五章　食生活
第一節　食　制
1　呼称と回数，食べる時間・場所
（1）朝食・（2）昼食・・・・・・・・・・・・264
（3）夕　食・・・・・・・・・・・・・・・・265
（4）休　み（10時休み／3時休み）・・・・・266
（5）夜　食・・・・・・・・・・・・・・・・267
2　食事の作法・・・・・・・・・・・・・・・267
3　食事の場所と移り変わり・・・・・・・・・268
第二節　毎日の食事
1　主　食
（1）米・麦＜米/麦/精米/ご飯の炊き方/弁当/残りご飯＞・・・269
（2）うどん・そば＜うどん/うどんの「おつけ」/おきりこみ/あずきぼうとう/そば/そばがき＞・・・・・・・・・・・・271
（3）雑　穀・・・・・・・・・・・・・・・・275
（4）主食が足りなかったとき
＜つみっこ/あんこつみっこ/おじや/さつま飯/モロコシ焼餅/ゆで餅＞・275
2　汁（1）味噌汁＜冷や汁＞・・・・・・・・・276
（2）醤油汁＜けんちん汁＞・・・・・・・・・277
3　副食
（1）野菜のおかずと作り方
＜冬から春/夏から秋/秋から冬＞・・・・278
（2）魚のおかずと作り方
＜どじょう/フナ/タニシ/ウナギ＞・・・・・・・・280
（3）肉，卵のおかずと作り方
＜鶏肉/うさぎの肉/卵＞・・・・・・・・・・・281
4　間　食・・・・・・・・・・・・・・・・282
第三節　ハレの日の食事
1　年中行事と食
（1）正月の行事食
＜そば家例/雑煮/餅/棚さがし/七草粥/小正月/小豆粥/恵比須講＞・・・・284
（2）春の行事食
＜節分/初午/桃の節句/彼岸/お釈迦様/端午の節句＞・・・・・・・・287
（3）夏から秋の行事食
＜おかいこ休み/農休み/七夕/お盆＞・・・・・・・・・・・・288
（4）秋から冬の行事食
＜十五夜・十三夜/十日夜/冬至/大晦日＞・・・・・・・・・・・290
2　行事食の作り方
（1）餅＜正月の餅つき/かき餅＞・・・・・・・・・・・291
（2）赤　飯・・・・・・・・・・・・・・・・293
（3）あずきがゆ・あずきめし・あずきごはん・・294
（4）かてめし・・・・・・・・・・・・・・・294
（5）すし・・・・・・・・・・・・・・・・・295
（6）まんじゅう・酢まんじゅう・・・・・・・296
（7）あんこ餅（アンピン餅）・・・・・・・・297
資料　年中行事食一覧表・・・・・・・・・・298
第四節　保存食
1　漬　物
（1）秋・冬の漬物
＜タクアン/こうじ漬け/白菜漬け/その他の菜っ葉類＞・・・・・・310
（2）春・夏の漬物
＜らっきょう漬け/梅干し/ぬか漬け/味噌漬け/塩漬け/粕漬け＞・・・312
2　干し物＜干し大根/芋がら/きりぼし/干し柿/たるぬき＞・・・・315
3　おなめ・・・・・・・・・・・・・・・・・318
第五節　調味料（1）味　噌・・・・・・・・・・320
（2）醤　油・・・・・・・・・・322
（3）砂　糖・・・・・・・・・・323
（4）塩・・・・・・・・・・・・324
（5）油・・・（6）酢・・・・・325
第六節　嗜好品
1　茶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・326
2　酒・・・・・・・・・・・・・・・・・・・327
3　牛乳・ヤギ乳・・・・・・・・・・・・・・328
第七節　民間療法＜どくだみ/せんぶり/げんのしょうこ/くま笹/どくだみ/ハトムギ/クワカミキリの幼虫＞・・・・・・・・・・・・329
第六章　住生活
第一節　屋敷構え
1　屋敷取りと建物配置・・・・・・・・・・・333
（1）飯倉・清水家・・・・・・・・・・・・・334
（2）保木野・清水家・・・・・・・・・・・・336
（3）田端・田中家・・・・・・・・・・・・・338
（4）風洞・吉川家・・・・・・・・・・・・・340
（5）稲沢・木村家・・・・・・・・・・・・・342
（6）上真下・福島家・・・・・・・・・・・・344
（7）下浅見・関根家・・・・・・・・・・・・346
（8）下浅見・久保家・・・・・・・・・・・・348
（9）連雀町・斎藤家・・・・・・・・・・・・350
(10) 連雀町・金子家・・・・・・・・・・・・352
2　付属施設・・（1）門・・・・・・・・・・・353
（2）蔵・味噌蔵・・・・・・・・・・・・・・354
（3）物置・納屋・木小屋・・・・・・・・・・355
（4）蚕室＜競進社模範蚕室/ドムロ＞・・・・・・・・・355
（5）井戸＜井戸掘り＞・・・・・・・・・・・・・358
3　その他・・・（1）屋敷林・・・・・・・・・360
（2）庭・・・・・・・・・・・・・・・・・・361
（3）庭木・・・（4）屋敷神一氏神様・・・・362
第二節　家造りと住まい方
1　屋　根・・・（1）屋根の材料・・・・・・363
（2）屋根の形＜高窓/屋根組＞・・・・・・・・・・366
2　間取り＜太鼓/篠原家/飯倉・清水家＞・・・・・・・・367
（1）間取り・・・・・・・・・・・・・・・・368
（2）造　作＜柱/神棚の上＞・・・・・・・・・・370
3　土　間（アガリハナ）・・・・・・・・・・371
（1）トボ・セド＜トボ/オオド/セド＞・・・・・・・372
（2）台所と道具
＜流し/カマド/シタイロリ/燃し木/火鉢・炬燵＞・・・・・・・373
4　風呂・便所
（1）風呂
＜風呂場/水汲み/燃料/もらい湯/正月のもらい湯/行水/年中行事と風呂＞・376
（2）便　所・・・・・・・・・・・・・・・・377
5　建築儀礼（1）地鎮祭・・・・・・・・・・378
（2）上棟祭・・・・・・・・・・379
第七章　交通・交易
第一節　交　通
1　道路（1）鎌倉街道＜上道/上杉道/その他の支道＞・・383
（2）川越・児玉往還
＜中山道脇往還川越道/大名小路/深谷道/本庄道/児玉新道＞・・・・389
（3）大師道とその周辺の古道
＜大師道/金鑽道/鬼石道/藤岡道＞・・・・・・・・・・394
（4）秩父新道と周辺の道
＜秩父街道と秩父新道/鬼石街道/上州道＞・・・・・・・・・397
（5）その他の古道・・・・・・・・・・・・・403
（6）変わり行く道・・・・・・・・・・・・・404
（7）道　標＜江戸時代/下浅見成就院/児玉新町油地蔵/金屋淵龍寺/高柳字南/宮内/小平布袋堂脇/秋山字後内手/明治期以後　以上の道標＞・・・・405
（8）道の管理・道普請・・・・・・・・・・・408
2　交通機関・運搬手段の変遷
（1）馬車・人力車・荷車・・・・・・・・・・410
（2）鉄道の開通＜本庄電気軌道の盛衰/八高線の開通＞・・・・413
（3）バス交通の盛衰・・・・・・・・・・・・415
第二節　交　易
1　市（1）六斎市の変遷・・・・・・・・・・416
（2）八幡山の市＜五・八の市/雛市/市神＞・・・417
（3）児玉の市＜三・十の市/十日の市＞・・・・・419

（4）その他の市＜だるま市/植木市＞・・・・・420
2　行商
（1）行商人
＜薬売り/農具/家庭用品（日用品・雑貨）/食品/海産物/衣類＞・・・・421
（2）その他の行商＜金魚売り/とっかん/紙芝居＞・・・・423
（3）村を回る職人
＜鋳掛屋/蝙蝠傘直し・研ぎ屋/箕直し/下駄の歯すげ＞・・・・・・423
第八章　信　　仰
第一節　社寺の信仰
1　神社の信仰・・・・・・・・・・・・・・・428
資料　児玉町の神社の変遷・・・・・・・・・431
（1）児玉町の神社＜稚池神社/八幡神社/白髭神社/飯王神社/三島愛宕神社/住吉神社/若宮神社/諏訪神社/御霊稲荷神社/十二神社/河原神社/新蔵人神社/天神社/石神神社/日本神社/岩上神社/金鑽神社/稲聚神社/富士浅間神社/駒形神社/金佐奈神社/金鑽神社/日枝神社/金鑽神社/八幡神社＞・・・・・・・・437
資料　神社の年間祭事一覧表・・・・・・・・・466
2　寺院の信仰・・・・・・・・・・・・・・・471
資料　児玉町の寺院・・・・・・・・・・・・・472
（1）児玉町の寺院＜長福寺/浄眼寺/実相寺/玉蔵寺/玉蓮寺/東福院/法養寺/信覚寺/龍台寺/天龍寺/円通寺/真福寺/宝蔵寺/淵龍寺/恵日寺/円満寺/長泉寺/観音寺/法性寺/光福寺/真巌寺/龍清寺/日輪寺/本覚院/真正寺/観正寺/普賢寺/成身院/普明寺/春貞寺/光福寺/徳蔵寺/正覚寺/十輪院/慈眼寺/延命寺/能淵寺/龍泉寺/正楽寺/西養寺/真福寺/成就院/岩谷洞＞・・・・・・・・・474
資料　児玉町の行事一覧・・・・・・・・・・・502
（2）児玉町の堂庵＜地蔵堂/観音堂/虚空蔵堂/観音堂/地蔵堂/不動堂/十二天堂/観音堂/薬師堂/薬師堂/観音堂/十王堂/三仏堂/百体観音堂/ほてい堂/地蔵堂/釈迦堂/観音堂/釈迦堂/阿弥陀堂/観音堂＞・・・・・・・・510
資料　児玉町の堂庵の変遷・・・・・・・・・・516
第二節　民間の信仰
1　廓屋組，同族などで祀る小祠・・・・・・・520
2　屋敷神・・・・・・・・・・・・・・・・・523
3　屋内の神＜大神宮様/歳神様/恵比寿講/荒神様/先祖の霊/トボクチの神/納戸の神/便所神様/オソウゼン様/蚕影様/疱瘡神様＞・・・・・・・526
4　講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・532
（1）県外の社寺などを対象とした講組織
＜伊勢講/大山講/古峯講/榛名講/御嶽講/富士講/成田講＞・・・533
（2）県内の社寺などを対象にした講
＜三峰講/宝登山講/金鑽神社講/産泰講＞・・・・・・・・544
（3）地域内の講
＜子待講/庚申講/念仏講/二夜講/三夜講/布袋講/オショウジン＞・・548
5　路傍の石仏＜地蔵/庚申塔/猿田彦大神/観音/甲子講/巳待塔/十六夜塔/二十二夜塔/二十三夜塔念仏供養塔/経典供養塔/廻国塔/巡拝塔/社日塔/道祖神/宝篋印塔/その他の石仏＞・・・・・・・・・・・・・・554
第九章　人の人生
第一節　産　育
1　妊娠＜妊娠/安産祈願/腹帯/妊娠中の禁忌や俗信＞・・・・・・580
2　出産＜お産の場所と方法/出産とトリアゲバアサン/へその緒と後産/産湯/産着/産後の食事と産婦/産後の禁忌/お産見舞い＞・・・・・・・583
3　子供の成長と祝い＜ウブメシ/お七夜/セッチンメイリ/名付け/床上げ/オベエアキと初宮参り/お食い初め/里帰り/初正月/初節句/初誕生/捨て子の習俗/疱瘡流し/七五三/成人式＞・・・・・・・・・・587
第二節　婚　姻
1　婚約＜結婚の条件/婚姻の条件/結婚年齢/男女の交際と恋愛/縁談と仲人/見合い/タルイレ（樽入れ）/結納/アシイレ（足入れ）＞・・・・・・・・597
2　御祝儀＜御祝儀の時期/嫁入り道具と荷送り/嫁方での祝儀/嫁入り行列/チュウヤド/入家儀礼/婿方での祝儀＞・・・・・・・・・・・605
3　御祝儀後＜宮参り/嫁の近所披露/カネツケ/お茶呼び/里帰り＞・・615
資料　本泉村郷土誌・・・・・・・・・・・・・645
第十章　年中行事
第一節　正月行事
1　正月準備＜暮れの市/ススハライ/お松迎え/松飾り/歳神様/歳神様のお飾り/オソウデン様/餅つき/供え餅＞・・・・・・・・・・・655
2　大正月＜初水と供え餅/正月の食べ物・供え物/正月の家例/年始/僧侶の年始/タナサガシ/オタキアゲ/山入り/七草/金比羅様/蔵開き/道祖神＞・・・・664
3　小正月＜小正月/小正月の準備/マユダマ/十六マユダマ/ハナ/ワカモチ/粥かき棒とハラミ箸作り棒削祭/小豆粥/藪入り/山の神の日/恵比寿講/二十日正月とショイナワ/天神講/シマイ正月＞・・・・・・・・・・・・・・672
第二節　春から夏の行事＜年取り/八日節句/初午/三月節句/彼岸/社日/お釈迦様/水口祭/五月の節句/マンガ祝い/農休み＞・・・・・・・682
第三節　盆行事＜七夜焼き/釜の口開け/七夕/墓掃除/盆の期間/盆棚/盆棚上の供え物/精霊様・無縁様盆棚と仏壇/迎え盆/盆中の食べ物・供え物/ショイナワ/畑見せ/盆中の生活/送り盆/盆棚の後片付け＞・・・・・・・・・・692
第四節　秋から冬の行事＜二百十日/八朔の節句/十五夜/十三夜/十日夜/神無月/恵比寿講/マキアゲ/氏神祭り/冬至＞・・・・・・・・・704
第十一章　祭りと民俗芸能
第一節　町場の祭り
1　八幡神社祭礼
（1）由　来・・・・・・・・・・・・・・・・・718
（2）組　織・・・（3）祭りの経過・・・・・720
（4）囃　子＜由来/変遷/曲目/組織/練習/楽器/ジゴト＞・・・722
2　夏祭り・・・・・・・・・・・・・・・・・724
第二節　獅子舞
1　東小平の獅子舞
（1）由来・変遷・・・・・・・・・・・・・・725
（2）役割・組織・・・・・・・・・・・・・・727
（3）練　習・・・（4）演目とその内容・・727
（5）獅子舞を行う場・（6）獅子舞用具・・736
2　吉田林の獅子舞
（1）由来・変遷・・（2）役割・組織・・・737
（3）練習（4）祭りの経過と獅子舞の内容・738
（5）獅子舞用具・・・・・・・・・・・・・・742
第三節　神　楽
1　太駄の神楽
（1）由　来・・・・・・・・・・・・・・・・746
（2）役割・組織・・・（3）演　目・・・・747
（4）神楽が行われる場・・・・・・・・・・750
2　小平の神楽
（1）由来・（2）役割・組織・（3）演目・・750
（4）神楽が行われる場・・・・・・・・・・751
第四節　万　作
1　西小平の万作
（1）由　来・・・・・・・・・・・・・・・・752
（2）演　目・・・・・・・・・・・・・・・・753
（3）万作が行われる場・（4）稽古など・・760
（5）用具・・・・・・・・・・・・・・・・・760
2　元田の万作
（1）由来・変遷・・・（2）演目・・・・・・761
（3）万作が行われる場・（4）稽古など・・762
第五節　宮内の雨乞い屋台
（1）由来・・・（2）雨乞いの実際・・・・763
（3）雨乞い囃子・・・・・・・・・・・・・764
第十二章　方言・訛言
第一節　調査方法
1　方言調査方法２　収録手順３　参考資料・・768
第二節　収録方針
1　収録内容・・・２　凡　例・・・・・・・769
第三節　方言の実態・特徴
1　音韻の転訛・・（1）列音の転訛・・・・769
（2）はつ音（ン）ニ転訛・・・・・・・・・770
（3）長音（ー）に転訛・・・・・・・・・・770
2　語形の変化
（1）冒頭後の変化・・・・・・・・・・・・770
（2）語尾の変化・・・・・・・・・・・・・771
第四節　方言・訛語一覧・・・・・・・・・・・772
参考文献一覧・・・・・・・・・・・・・・・797
あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・799
民俗調査話者一覧／アンケート調査協力者一覧
協力者一覧／写真提供者一覧・執筆分担
町史編さん関係者名簿

平成７年３月28日　発行
児　玉　町

資料022『坂戸市史　民俗史料編１』

昭和60年３月

目　次

第一編　家に関すること
　第一章　本家・分家・いっけ
　　１　家と祖霊＜人の生活/ホトケとカミ＞・・・・・・・・・・3
　　２　本　家＜本家/別本家＞・・・・・・・・・・・・・・・7
　　３　分　家＜村内分家と村外分家/隠居分家/譜代分家/孫分家＞・・・・20
　　４　親　類＜親類の呼び名/親類つきあい＞・・・・・・・・・28
　第二章　墓と屋敷神
　　１　墓と葬制の移り＜墓は放る所か/両墓制/ムラの開発と墓地取り/家墓と屋敷鎮守/屋敷神としての稲荷と八幡/職業神としての屋敷神/屋敷神とは/屋敷神の方位＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
　　２　屋敷神の祭りとご利益
　　＜屋敷神の祭祀とご利益/屋敷神の祟りと禁忌＞・・・・・・・・・61
　第三章　屋内神
　　１　お釜さまと荒神様＜屋内神とは/お釜様/荒神様/祖霊とお釜様・荒神様/お釜様と荒神様の祭り/地荒神＞・・・・・・・・・・・・・65
　　２　えびす・大黒
　　＜大黒柱/大黒様/えびす様/お勝手の神・福神としてのえびす・大黒＞・・・93
　　３　大神宮＜大神宮の神棚/大神宮の本来は＞・・・・・・・・・100
　　４　その他の屋敷神＜蚕前様/水神様＞・・・・・・・・・・・102
第二編　年中行事
　第一章　正月の支度・・１　煤とり・・・・・・・・114
　　２　かましめ・・・・・・・・・・・・・・・・・116
　　３　正月飾り・・・・・・・・・・・・・・・・・117
　　４　餅搗き・・・・・・・・・・・・・・・・・・120
　　５　墓の贈答・・・・・・・・・・・・・・・・・121
　　６　大晦日・・・・・・・・・・・・・・・・・・122
　第二章　大正月・・・１　年神様・・・・・・・・126
　　２　年　　男・・・・・・・・・・・・・・・・・129
　　３　三が日・・・・・・・・・・・・・・・・・・130
　　４　年始廻り・おおばん・・・・・・・・・・・132
　　５　仕事始め・・・・・・・・・・・・・・・・・133
　　６　七　　草・・・・・・・・・・・・・・・・・134
　　７　蔵開き・・・・・・・・・・・・・・・・・・136
　第三章　小正月・１　小正月のいわれ・・・・・・138
　　２　花掻き・ものづくり・・・・・・・・・・・・140
　　３　団子さし（繭玉）・成木攻め・・・・・・・145
　　４　十五日粥・・・・・・・・・・・・・・・・・150
　　５　十六日（藪入り）・・・・・・・・・・・・153
　　６　えびす講・・・・・・・・・・・・・・・・・155
　第四章　春の行事・１　次郎の一日・・・・・・・157
　　２　節　　分・・・・・・・・・・・・・・・・・158
　　３　二月八日・・・・・・・・・・・・・・・・・161
　　４　初　午・・・・・・・・・・・・・・・・・・164
　　５　出替り・・・・・・・・・・・・・・・・・・165
　　６　雛祭り・・・・・・・・・・・・・・・・・・166
　　７　彼　岸・・・・・・・・・・・・・・・・・・169
　第五章　初夏の行事・
　　１　四月八日（五月八日）・・・・・・・・・・・171
　　２　菖蒲の節句（鯉幟）・・・・・・・・・・・173
　　３　苗間正月・・・・・・・・・・・・・・・・・176
　　４　植えきり・・・・・・・・・・・・・・・・・178
　　５　木綿ぼうず・・・６　総ごう上り・・・・・180
　第六章　盆　　月・・・１　七月一日・・・・・・183
　　２　七　　夕・・・・・・・・・・・・・・・・・186
　　３　盆道作り・墓掃除・・・・・・・・・・・・190
　　４　盆　　棚・・・・・・・・・・・・・・・・・192
　　５　迎え盆・送り盆・・・・・・・・・・・・・193
　　６　施餓鬼・・・・・・・・・・・・・・・・・・199
　　７　盆の十六日・・・・・・・・・・・・・・・・202
　第七章　秋の行事
　　１　八　朔（生姜節句）・・・・・・・・・・・203
　　２　彼　岸・・・・・３　十五夜・・・・・・・206
　　４　お九日（おくんち）・・・・・・・・・・・207
　　５　十三夜・・・・・・・・・・・・・・・・・・209
　　６　十日夜・・・・・・・・・・・・・・・・・・211
　　７　お釜様の祭り・・・８　丑寅正月・・・・・214
　　９　刈り上げ・・・・・・・・・・・・・・・・・216
　　10　扱っ切り正月・・・・・・・・・・・・・・・218
　　11　えびす講・・・・・・・・・・・・・・・・・219
　　12　穴っぷさぎ・・・・・・・・・・・・・・・・222
　第八章　冬の行事・１　川びたり・・・・・・・・223
　　２　師走八日・・・・・・・・・・・・・・・・・225
　　３　大師がゆ・・・・・・・・・・・・・・・・・228
　　４　冬　　至・・・・・・・・・・・・・・・・・231
　第九章　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・234
第三編　村に関すること
　第一章　ムラと家
　　１　ムラはムレ＜向う三軒両隣/塞ぎとムラ/ふるさと＞・・・・241
　　２　ムラの構造＜もよりと組/親類縁者＞・・・・・・・・・250
　第二章　ムラの階層
　　１　地主と小作人＜オモダチと小前/百姓と諸職/縁組＞・・・・256
　　２　ムラの意識
　　＜ムラ人とよそ者/嫁と婿・婿いじめ/若い衆遊び＞・・・・・・・259
　第三章　ムラの鎮守様
　　１　氏神・産土神
　　＜氏神の名称/来歴不祥の氏神/内神より産土神へ＞・・・・・・・265
　　２　氏神と氏子＜祭りへの参加/嫁方の親類の参加＞・・・・・・274
　　３　勧請神と小祠＜勧請神/ムラの小祠/流行神＞・・・・・・・277
　第四章　講とムラの生活
　　１　土地の講＜講とは/稲荷講/念仏講/題目講/おしら講とおきぬさん/世田ケ谷の地蔵講/産泰講/お手長講/おじゅうもく講＞・・・・・・・・・・289
　　２　代参講＜代参講とは/大山講/その他の代参講＞・・・・・・・305
　第五章　政治と宗教
　　１　明治政府の宗教統制＜排仏棄釈/祭政一致/神社の合祀＞・・・314
　　２　戦後の神社＜分祀/氏子制の復活/寺院と統制＞・・・・・・324
　第六章　社寺と祭り
　　１　四時の祭り＜祭りと村/四時の祭＞・・・・・・・・・・・324
　　２　春の祭り＜お炊き上げ/春祈祷/大般若経の転読/平方の獅子/その他の春祈祷/住吉神社と天下祭り/大宮住吉神楽/花祭り＞・・・・・・・・・337
　　３　夏の祭り＜夏祭りの意味するもの/獅子と梵天/天王様/施餓鬼/十王飯・芋っ葉灯籠＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・354
　　４　秋の祭り＜秋祭りの意味するもの/ささら獅子舞/その他の秋祭＞・・372
　　５　冬の祭り＜冬祭りの意味するもの/クリスマス/秋葉神社の祭り＞・・387
　　６　その他の祭りと芸能
　　＜縁日/片柳の相撲場/入西くどく＞・・・・・・・・・・・・390
　第七章　村の共同生活
　　１　共用の場＜塚/祟り場＞・・・・・・・・・・・・・・403
　　２　もやい仕事＜屋根替え/井戸替え/道ぶしんと藁刈り＞・・・・408
　　３　村の自治＜世間てい/お上＞・・・・・・・・・・・・410
第四編　坂戸の伝説
　第一章　概　　説・・・・・・・・・・・・・・・・・417
　　１　水に関する伝説・・・・・・・・・・・・・・419
　　２　動物に関する伝説・・・・・・・・・・・・・421
　　３　植物に関する伝説・・・・・・・・・・・・・423
　　４　神仏に関する伝説・・・・・・・・・・・・・424
　　５　塚に関する伝説・・・・・・・・・・・・・・471
　　６　地蔵に関する伝説・・・・・・・・・・・・・473
　　７　妖怪変化に関する伝説・・・・・・・・・・・484
　　８　地名に関する伝説・・・・・・・・・・・・・504
　　９　その他に関する伝説・・・・・・・・・・・・511
第五編　シンポジウム
　Ⅰ　石井元宿座談会・・・・・・・・・・・・・・・541
　Ⅱ　上吉田地区座談会・・・・・・・・・・・・・・554
　Ⅲ　欠ノ上地区座談会・・・・・・・・・・・・・・561
　Ⅳ　新堀地区民俗調査報告・・・・・・・・・・・・567

昭和60年３月15日　発行
坂　戸　市

資料023『坂戸市史

民俗資料編Ⅱ　石造遺物』

昭和58年２月

目　次

第一編　総　説
　第一章　石仏と生活
　　1　信仰のあかし＜信仰の表出/石に祈る心＞・・・・・・・3
　　2　生活の変化と石仏
　　＜自然石崇拝から石仏造立へ/農法の進歩と石仏/忘れられた石仏＞・・・・・7
　第二章　石仏の歴史
　　1　仏教と石仏＜石仏の多様性/独立石仏と磨崖仏/石造塔＞・・・・13
　　2　墓塔と石仏＜墓塔(墓石)/死霊観の移り＞・・・・・・・16
　　3　民間信仰と石仏
　　＜民間信仰と石仏/石仏の分類/石仏信仰の融通性＞・・・・・・・22
　第三章　民間信仰と石仏造立
　　1　板碑と民間信仰＜法界万霊供養と板碑/月待・庚申待の板碑＞・・26
　　2　近世村落の成立＜近世という時代/土豪の解体と庶民の治頭/寺請制度の遊行の聖/石工の村への定着＞・・・・・・・・・・・・・31
　　3　近世民間信仰の石仏誕生＜造塔供養者/講の結衆と石仏造立/石造文化の波及/廃仏棄釈と石仏/文化財としての石＞・・・・・・・36
第二編　各　説
　第一章　生産神
　　概説　＜生産の二面/自然神から祖霊神へ＞・・・・・・・・・・49
　　1　水　神＜弁財天/九頭竜大権現＞・・・・・・・・・・50
　　2　日待・月待供養塔
　　＜マチということ/日待供養塔/月待供養塔＞・・・・・・・・・55
　　3　山王・富士浅間＜山王の猿/富士浅間社＞・・・・・・62
　　4　出羽三山供養塔＜修験道と出羽三山/出羽三山供養塔＞・・・64
　　5　大黒天＜大黒天塔/甲子待＞・・・・・・・・・・・67
　第二章　塞　ぎ
　　概説　＜塞ぎ観念/石仏と塞ぎ＞・・・・・・・・・・・・68
　　1　道祖神＜坂戸市内の道祖神/道祖神信仰＞・・・・・・・・71
　　2　三界万霊供養塔
　　＜三界万霊塔/坂戸市内の三界万霊塔/造立の趣旨＞・・・・・・・74
　　3　橋供養塔＜石橋供養塔/道・橋のカミ/石橋架橋＞・・・・・・77
　　4　勝軍地蔵（愛宕地蔵）
　　＜奇妙な長久寺の像/勝軍地蔵(愛宕地蔵)＞・・・・・・・・・82
　第三章　現当二世安楽の供養塔
　　概説　＜現当二世/二世安楽＞・・・・・・・・・・・・・86
　　1　庚甲塔＜庚申塔の造立/庚申信仰の移り/庚申塔の様式/青面金剛/猿と庚申塔/鶏と庚申塔/庚申信仰の実態/他の信仰の混入＞・・・・・・・・・88
　　2　阿弥陀如来・大日如来＜如来という仏/阿弥陀如来の像容/阿弥陀如来の信仰/大日如来/坂戸市内の大日如来＞・・・・・・・・・102
　　3　地蔵菩薩＜石仏の王者地蔵菩薩/地蔵信仰/治病・延命地蔵菩薩/子育地蔵/犠牲者のための地蔵菩薩/水子地蔵/その他の話/六地蔵/坂戸市内の六地蔵/坂戸市内の変わった地蔵/さいの神との習合＞・・・・・・・・・・・・109
　　4　馬頭観世音＜馬頭観世音供養塔/仏説馬頭観世音/連経講中・観音講中/馬の供養としての馬頭観世音/道しるべの馬頭観世音/牛頭観音の出現＞・・・・129
　　5　観世音菩薩
　　＜観世音菩薩の石仏/仏説観世音菩薩/現当二世安楽としての観世音菩薩＞・・140
　　6　天　部＜天部とは/大六天/摩利支天/仁王＞・・・・・・・147
　　7　明王部＜明王部とは/不動明王＞・・・・・・・・・・151
　第四章　経典読誦供養塔
　　概説　＜経とは/経典供養塔＞・・・・・・・・・・・・154
　　1　経典読誦供養塔
　　＜法華経読誦供養塔/普門品供養塔/光明真言読誦供養塔＞・・・・・156
　　2　写経供養塔＜写経供養塔/一字一石供養塔＞・・・・・・162
　　3　念仏供養塔
　　＜念仏とは/念仏供養塔/念仏百万遍供養塔/寒念仏供養塔＞・・・・・164
　第五章　巡拝供養塔
　　概説　＜巡礼/巡礼と造幣＞・・・・・・・・・・・・・171
　　1　納経巡拝供養塔
　　＜六十六部廻国供養塔/薬師如来納経供養塔＞・・・・・・・・174
　　2　巡礼供養塔＜西国坂東秩父巡礼供養塔/百八十八ケ所巡礼供養塔/神社仏閣拝礼供養塔/その他の供養塔＞・・・・・・・・・・・・・178
　第六章　石造奉賽物
　　概説　＜奉賽の意/石造奉賽物＞・・・・・・・・・・・・184
　　1　石鳥居＜鳥居とは/坂戸市内の鳥居＞・・・・・・・・・185
　　2　石灯籠＜石灯籠奉賽の意味/坂戸市内の大山灯籠/その他の石灯籠＞・・188
　　3　御手洗鉢＜御手洗鉢とは/坂戸市内の御手洗鉢＞・・・・・・189
　　4　狛　犬＜狛犬とは/坂戸市内の狛犬＞・・・・・・・・・197
　　5　旗　枕＜旗枕とは/坂戸市内の旗枕＞・・・・・・・・・199
　　6　その他の奉賽物＜結界石/その他の奉賽物＞・・・・・・201
　第七章　その他の石造遺物
　　概説　＜石造遺物の分類/坂戸市内のその他の石造遺物＞・・・・・・203
　　1　宝篋印塔・宝塔
　　＜宝篋印塔/西光寺墓地の宝篋印塔/坂戸市内の宝篋印塔/宝塔＞・・・・206
　　2　道しるべ＜道しるべ/坂戸市内の道しるべ＞・・・・・・・213
　　3　その他＜猿田彦大神/大六天/北辰尊星神/一日連神社/大杉大明神/六部の死と地蔵の真言/清正公大神儀/川崎大明神/機神様/七面大荒神/不明の二 神像/殉難者慰霊等/大震火災惨死者各霊位＞・・・・・・・・・・・・217
第三編　墓　石
　第一章　墓石以前
　　概説＜石仏と墓石/墓石と供養塔/墓石の種々相＞・・・・・・・・233
　　1　墓制の移り＜善応寺の両墓制/魂と肉体・他界観念/祟り場＞・・238
　　2　墓　地＜墓地と墓石/一家墓地/屋敷墓地/寺墓地/共同墓地＞・・・242
　第二章　墓　石
　　1　墓石の出現＜石塔は積塔/埋没された板碑・五輪塔/村の草分けの墓石/歴代住職の墓/領主の墓/枕石と楢付塔婆＞・・・・・・・・・・251
　　2　坂戸市内の墓石の様式＜宝篋印塔・五輪塔/板碑型の墓石/唐破風角柱型墓石/位牌型の墓石/自然石の墓石/仏像を彫った墓石/角柱型の墓石＞・・268
　　3　坂戸市内の墓石の種々相
　　＜筆子塚/神道系の墓石/子供の墓石/戦没者の墓/武芸者の墓石＞・・・274
　　4　新しい墓石と墓地整理
　　＜文化人の墓石/新しい五輪塔/墓誌と墓石/墓地整理＞・・・・・・281

昭和58年２月15日　発行

坂　戸　市

資料024『坂戸市の民俗一』

坂戸市民俗調査報告書　横沼の民俗

平成３年12月

目　次

第一章　概　況＜地理的背景/歴史的背景/地名＞・・・・・・・・・1
第二章　生　業
　第一節　農業
　　1　耕地と土地利用＜地区の概況と土地利用/耕地面積と収穫/三芳野地区のムラムラ/ノガタ・タバショ土質＞・・・・・・・・・・・・11
　　2　稲作＜水田/水利/肥料/稲の品種/大正年間の稲の品種/種籾の保存＞・・18
　　（1）植　田＜田うない/畦つけ/侵種/選別/苗代と種ふり/芽干しなど/苗取り/田かき/田植え/植え切り/田植え中の食事/のあがりと正月/草取り/土 用干し/出穂水/害虫・害鳥/稲刈り/はんで棒と乾燥/脱穀/籾すり/収納/精米/あきあがり＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
　　（2）摘　田＜摘田/わたり木/畦付け/田うない/きっこうし/種籾と肥料の配合/田かき/稲しび押し/はったんびき/田摘み/らちがきと草取り/きりあげ/稲刈り＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
　　3　畑作＜概況/麦/オカボ/粟/ソバ/豆腐/サトイモ/サツマイモ/木綿＞・45
　　4　農作業と用具
　　（1）農作業　1　一年間の仕事/生産暦/ワラ仕事/くずはき
　　2　労働慣行/モヤイ/スケット/テマガワリ/ヒョウトリ/牛馬とマモヤイ/地主・小作＞・・・・・・・・・51
　　（2）用　具
　　＜用具の調達/鍬/万能/うないと畦つけの用具/鎌/くるり棒/運搬具＞・・56
　　（3）農作業の機械化
　　＜田うない/田かき/田植え/稲刈り/脱穀/乾燥/籾すり/精米/農薬/除草剤＞60
　　5　江戸時代の農作業＜資料の概要/耕地と作業/生産暦と年中行事/資料(文政9年日雇付込覚帳＞・・・・・・・・・・・・・・63
　第二節　養蚕

1　概況＜養蚕の変遷と組合/養蚕の組立＞・・・・・・・・・84
2　養蚕の技術＜蚕種/掃き立て/稚蚕の飼育/蚕棚/棚飼い/条桑育/三齢から条桑/おこあげ(上蔟)族/蔟かき/けばとり/出荷/蚕室の例/蚕の病気と蔟の異常＞85
3　桑の栽培と確保＜桑園/桑の品種/桑くれ/桑の確保＞・・・90
第三節　諸職
1　諸職
＜カゴヤ/カゴヤ/マキヤ・コビキ/舟製造/屋根葺き/大工/屋号と職業＞・・96
2　瓦屋
（1）三芳野地区の瓦製造
＜概況/瓦屋の系譜/正木瓦屋/中島瓦工場/川越地方の瓦の特徴＞・・・104
（2）瓦屋の労働と経営＜瓦屋の労働力/ワタリ職人/瓦屋と瓦職人の組合/太子講/キリゾメ/瓦の種類/瓦屋の仕事場＞・・・・・・・108
（3）瓦の製造工程＜土をひく/ドロコネ/タタラモリ/アラジトリ/アラジの乾燥/仕上げ/アラジの製作・仕上げの工程と道具/乾燥/ヒキツチ/ダルマガマ/カマタキ/カマダシ/ヤクモンの製作/ムシロ/カタ燃料/サイゼン＞・・・・・112
第四節　川　漁
1　概況＜三芳野地区の川漁/農家による川漁業＞・・・・・・・127
2　準専業者による川漁
漁場と経営＜1 かぶせ網類(トアミ/カマツキ/コイのクルイ)/2 抄網類(ツッキダシノアミ)/3 敷網類(オッカイアミ/マチアミ/ヨツデアミ)/4 曳網類(ズリアミ)/5 建網類(ヤナ/オトシ/セバリ)/6 延縄類(オキバリ)/7 刺突具類(ヤス)/8 筒筌類(ゴキ/コイドウ/ドジョウウケ/ナマズウケ/ウナギウケ/スウケ)＞
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・129
第三章　交通
第一節　堤外の家々と河岸・渡し
1　道場の渡し・・・・・・・・・・・・・・・・・・139
2　横沼河岸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・141
第二節　道場の渡しと道場橋・・・・・・・・・・・・142
第四章　衣食住
第一節　衣服＜野良着/かぶりもの/手甲/脚半/はきもの/雨具/普段着/よそゆきの着物/下着/子供の着物/衣料/洗濯/染色/夜具/ワラ布団/ネゴザ/洗髪＞・・・145
第二節　食制
1　食制＜食事の場/食事の回数/コウジュウハン＞・・・・・・・149
2　主食＜麦飯/うどん/カテゴハン/サツマメシ・イモメシ/カラメシ＞・・149
3　副食＜汁/漬け物/油味噌/野菜の塩もみ/カテ肉・卵/野鳥/魚介類/海草/加工食品/キノコ/イナゴ/栗/キビ/豆類＞・・・・・・・・・・150
4　間食＜サトイモ/ジャガイモ/サツマイモ/トウモロコシ/コガシ/ヤキモチ/オニギリ/カキモチ/アラレ＞・・・・・・・・・・・・・153
5　調味料＜味噌/醤油/スマシ/砂糖/梅酢＞・・・・・・・・153
6　モノビの食べ物・・・・・・・・・・・・・・・154
第三節　住居
1　概況＜1 集落 2 屋敷構え 3 付属屋
4 主屋/建築/入口と土間/火所/土間境と部屋/暖房/照明＞・155
2　民家調査例＜1 A家の沿革 2 方位観 3 屋敷構え 4 付属屋
5 主屋/建築年代/部屋の呼称など/改造部屋の使い方/屋根・小屋組
6 神仏の祭祀/神棚と仏壇/その他の屋内神と屋敷神/年中行事＞・・・163
第五章　年中行事・・・・・・・・・・・・・・・・・183
第一節　正月の行事
1　正月準備＜大掃除/餅搗き/正月飾り/歳暮/大晦日＞・・・・184
2　正　月＜若水など/お供え/雑煮/その他の供えもの/仏様の供えもの/元旦参り/ダルマ市/年始/歳玉/寒の入り/松のある内/粟穂稗穂と粥/猿き箸/七草/仕事始め/蔵開き/小正月の物作り/小豆粥/嫁のお客/寄り合い/藪入り/大森日/馬頭観音/恵比須講/天神様/不祝儀と正月/正月の期間＞・・・・・・・・・・187
第二節　春・夏の行事
1　二・三月＜節分/初午/八日節供/出替わり/節供/春の彼岸＞・・193
2　四・五・六月
＜代参講/薬師様の縁日/お釈迦様の日/道普請と用水浚い/井戸浚い/春祭/種蒔き/菖蒲の節供/木綿の種蒔き祝/養蚕の祝/田植えの祝＞・・・・・・・195
3　七・八月
＜ケツアブリ/浅間様/天王様/嫁の里帰り/土用/観音様の日＞・・・・197
第三節　盆の行事
1　盆の行事
＜盆の時期/勘定/地獄の口開け/盆の不幸/盆供/新盆/七夕/墓掃除＞・・199
2　盆＜盆棚/オルスイサマ/無縁様/盆迎え/施餓鬼/棚経/盆の食べ物/盆送り/盆の16日＞・・・・・・・・・・・・・・・・・202
第四節　秋・冬の行事
1　九月・十月
＜二百十日/しょうが節供/十五夜/彼岸/十三夜/十日夜/秋祭/賽神の日＞・・206
2　十一月・十二月
＜収穫の祝/大師様/恵比須講/穴ふさぎ/八日節供/冬至＞・・・・・・207
横沼の年中行事一覧・・・・・・・・・・・・・・・209
第六章　信　仰
第一節　概　観・・・・・・・・・・・・・・・・・・211
第二節　神社と祠堂
1　ムラ・地域の祀る神仏
＜白髭神社/八坂神社/浅間神社/稲荷社/駒形八幡社/天神社/大蔵印・根本山社＞213
2　イッケ・同族で祀る神仏
＜阿弥陀堂/薬師堂/地獄堂/釈迦堂/地蔵堂＞・・・・・・・・・218
3　その他の小祠や堂
＜チョヒメサマ/カンカン地蔵/シンメサマ/ウツギサマ/馬頭観音＞・・・・221
第三節　家の神
1　屋敷神・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・223
2　屋内神・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・225
第四節　寺院と檀家
1檀家と家・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・226
2　勝光寺・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・227
3　忠栄寺・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・228
4　西福寺・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・230
第五節　講とヒマチ
1　第参講＜御嶽講/戸隠講/榛名講＞・2　地蔵講・・・231
3　その他の講＜天神講/オシラ講＞・・・・・・・・・・232
第六節　俗　信＜霊能者/狐/土用のうどん/天候占い＞・・・・・233
天保１５年「惣村歴代帳」・・・・・・・・・・・234
「神社明細帳」「寺院明細帳」「堂庵明細帳」・・237
新井健治家所蔵神仏守札等一覧表・・・・・・・240
第七章　社会構成
第一節　「惣村歴代帳」に見る横沼村
＜五苗五軒と五苗七軒/元祖と一軒者/買地分家と地先祖/家数の変遷＞・251
第二節　ムラ境と地縁集団
＜家屋配置/獅子とフセギダケ/クルワ/組合と隣保班・班/近隣/葬式の手伝い＞
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・257
第三節　ムラの構成員＜戸数の変遷/旧家の伝承/屋号/ムラ入り＞・267
第四節　ムラの運営など
＜ネンギョウジ/ワカイシアソビ/役者と区費/青年団＞・・・・・268
第五節　家と同族＜ジセンゾとジホンケ/イッケ・イチマキ＞・・・・271
第八章　人の人生
第一節　産育
1　出　産＜安産祈願/腹帯/妊娠中の禁忌/出産/ヘソノオとエナの処理/産後の食/チブク＞・・・・・・・・・・・・・・・273
2　育　児＜お七夜/名付け/宮参り/初正月と初節供/初山/食い初め/お誕生/ミツミの祝い/帯とき/成人＞・・・・・・・・・274
3　厄年と年祝い＜厄年/フキダケの祝い/米寿の祝い＞・・・・・275
第九章　芸　能
第一節　横沼ばやし
＜名称と系譜/曲目/構成/楽譜/舞子/川越祭りへの参加/芝居＞・・277
第二節　万　作・・・・・・・・・・・・・・・・・287
第十章　口承文芸
第一節　文献に記された伝説と世間話・・・・・・289
1　「三芳野村郷土誌稿」「小畦川」の項・・・289
2　「坂戸の民話と伝説」
＜北向き地蔵の由来/茶が蛇を飲んだ/池山の河童＞・・・・・・・289
3　「ふるさと川島」＜カッパの話=道場のカッパごう薬=＞・・291
第二節　伝説と世間話　＜オシボリ/小沼と島田/寛保二年の大水の塚/フカンボウ/越辺川の護所/岩殿/ケツアブリ/慶応二年の秩父暴徒/モミイシャ/オトウカの嫁入り/ヒトダマ/カッパ/オトウカモリ/アズキババア/川の怪異/大川平三郎家の古井戸/大穴＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・293
第十一章　大　水
第一節　大水の被害＜概況/明治43年の大水/大正時代の大水/昭和初年の大水と旱魃/昭和16年の大水/昭和22年の大水/その後の大水＞・・・・・301
第二節　大水への対処＜集落の大水への対処/耕地の大水への対処＞・314
第三節　大水の克服＜戦前の築堤/戦後の築堤＞・・・・・・・316
付録　資料　文政年間「新編武蔵風土記稿」・・・321

明治初年「武蔵国郡村誌」・・・・・322
大正初年「三芳野村郷土誌稿」・・・324

平成３年12月10日　発行
坂戸市教育委員会

資料025『坂戸市の民俗二』

坂戸市民俗調査報告書　赤尾の民俗

平成５年８月

目　　次

第一章　概況
＜支配関係と行政区の変遷/耕地と生業/川と堤防/集落の成立ち/野方と里＞・・・・1
第二章　生業
第一節　耕地
＜耕地と概況/大水による稲作・畑作の被害と対処/経営面積と食い料＞・・・・・21
第二節　稲作＜肥料/稲の品種/田うない/畦つけ/選別/侵種/苗代と種ふり/芽干し/苗取り/田かき/田植え/のあがり/用排水の管理/草取り/畦刈り/草刈り/二日おき正月/土用干し/出穂水/害虫・害鳥/稲刈り/追熱/脱穀/乾燥/籾すり/収納/精米/新米祝い/あきあがり＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
第三節　麦作＜大麦と小麦/堆肥/麦まき/ぶっつあくりまき/作切り/振るい込み/麦踏み/麦刈り/脱穀・調整＞・・・・・・・・・・・・・・・・38
第四節　その他の作物
＜雑穀/芋類/豆腐/野菜/木綿/琉球/作物/禁忌＞・・・・・・・41
第五節　労働＜一年間の労働/労働慣行/奉公人/子供の手伝い/地主と小作＞43
第六節　用具＜鍬と万能/犂・馬耕機/砕土機/苗取り腰掛/吹子と水車/桝鍬/　除草用具/鎌/くるり棒/箭/千歯こき/脱穀機/唐臼と籾すり機/篭/箕/農業機械＞・・48
第七節　牛馬＜農耕用牛馬/飼育/草刈り/上岡の観音様/手間がわり＞・・・54
第八節　養蚕
1　養蚕の変遷＜養蚕の始め/盛業館/養蚕の盛衰＞・・・・・・56
2　養蚕の技術＜養蚕の時期/種紙/棚飼いと条桑育/掃き立て・こば飼い/条桑育/桑くれ/うらとり/お蚕上げ/蔟かき/仲買/蔟の種類/蚕の病気/桑/養蚕に関する信仰/オキナサン＞・・・・・・・・・・・・・・・・・60
第九節　川漁
1　概観＜赤尾の川漁/漁期＞・・・・・・・・・・・・・・65
2　漁法＜釣/投網/転がし/置針/やす/笠/アユのおとし/つきで/梅がき/笹伏せ/池のかいどり/ドジョウとり＞・・・・・・・・・・・・・67
第十節　諸職＜職人と商い屋/職人/商い屋/露天/川魚/金魚売り＞・・・73
第十一節　箪笥
1　箪笥屋の仕事場と労働＜箪笥屋の仕事/問屋への納入/箪笥屋の奉公/技術の習得/太子講/箪笥の種類と構造＞・・・・・・・・・・・76
2　箪笥の製造工程＜桐材の調達/銅板の製造/箪笥の製作/仕上げ/釘削り/箪笥の製作用具＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・79
第十二節　交通・交易
1　交通＜概況/二つの渡/天神渡と天神橋/落合の渡と落合橋/赤尾河岸/筏/自転車/オートバイと自動車/運搬者＞・・・・・・・・・・・・・85
2　交易　＜米の市/桑市/種・苗の市/購入/行商＞・・・・・・・89
第三章　衣食住
1　衣服＜はじめに/野良着/かぶりもの/はきもの/雨具/普段着と晴れ着/洗濯/夜具/髪型/洗髪＞・・・・・・・・・・・・・・・・・93
第二節　食制
1　食制＜食事の場/食事の回数/こじはん＞・・・・・・・・・96
2　主食＜麦飯/うどん/混ぜご飯＞・・・・・・・・・・・・96
3　副食＜おかず/汁/漬け物/油味噌/野菜/卵・肉/海などの魚介類と海草/川の魚介類/加工食品/キノコ/豆類＞・・・・・・・・・・・・97
4　間食＜間食/芋類/にぎり飯と餅/団子/その他＞・・・・・・100
5　調味料＜味噌/醤油/砂糖/塩＞・・・・・・・・・・・101
6　儀礼食＜年中行事の食/冠婚葬祭の食＞・・・・・・・・・102
第三節　住居
1　屋敷＜屋敷構えと屋敷取り/付属屋/盛り土/水屋/池と構え堀＞・・・104
2　間取りと部屋の機能
＜母屋/屋根/二階/入口と土間/土間境と部屋/床/部屋の利用/土壁の補修/物の配置と大水の備え/掃除＞・・・・・・・・・・・・・・・115
3　井戸と火所＜井戸/火所/照明＞・・・・・・・・・・122
4　調査事例＜曲がり屋/民家調査による事例＞・・・・・・・126
第四節　大水
1　大水と堤防＜堤防の変遷/河川改修前の堤防＞・・・・・・135
2　大水への対策＜土地の高低と大水の水位/大水の警戒と予知/水じまく/大水時の危険/水の引き際/飲み水と食べ物の確保/大小便の処理/牛馬の避難/舟＞・138
3　大水による被害＜江戸時代の大水/明治ー昭和の大水＞・・・143
4　大水の体験＜昭和22年の大水/カスリーン台風ー「赤尾の水害」からー/水害とくらしー「昭和ーけたの足跡から」ー＞・・・・・・・・・・・154
第四章　年中行事
第一節　はじめに＜報告にあたって/赤尾の年中行事一覧＞・・・・161
第二節　正月の行事
1　正月準備＜大掃除/歳暮/餅搗き/カマメシ/門松/正月飾り/歳神様の棚/オソナエ/晦日市/いろりと竈の灰/大晦日/大晦日の参拝＞・・・・・・163
2　正月＜年男/初水/吸物と雑煮/正月のご馳走/初参り/初荷/年始/七草/村の寄り合い/蔵開き/仕事始め＞・・・・・・・・・・・・・171
3　小正月　＜小正月の物作り/小豆粥/嫁の里帰り/正月飾りをはずす/蘇入り/お斎日/馬頭観音/恵比須講/女遊び/正月と不祝儀等/正月の変遷＞・・・・174
第三節　春・夏の行事
1　二・三月＜節分/ダルマ市/八日節供/農道の砂利引き/天神講/初不動/初午/出替わり/春の彼岸＞・・・・・・・・・・・・・・・179
2　四・五・六月＜節供/神武祭・住吉神社の祭り/代参講/棚干狩り/用水掃除/春祈祷/八十八夜/大掃除/節供/お釈迦様の日/養蚕の祝い/田植えの祝い＞・182
3　七・八月＜ケツアブリ/半夏至/初山/天王様の祭り/二日おきの正月/夏の土用/土用の井戸掃除＞・・・・・・・・・・・・・・・187
第四節　盆の行事
1　盆の準備＜盆の時期と期間/地獄の口開け/盆の不幸/盆供/新盆/七夕/墓の掃除＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・189
2　盆＜盆棚/お留守居様/無縁様/盆迎え/施餓鬼/お棚参り/盆の供物と食べ物/盆送り/蘇入り/諏訪神社の祭り＞・・・・・・・・・・・・・190
第五節　秋・冬の行事
1　九・十月＜しょうが節供/二百十日/金山彦神社の祭り/十五夜/秋の彼岸/十三夜/日待＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・195
2　十一・十二月＜稲刈りの祝い/文化の日/十日夜/コックリボタモチ/恵比須講/新嘗祭/麦まきの祝い/贄神の日/川浸り/秋上がり/新米祝い/冬至/短根の修理＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・196
第五章　信　　仰
第一節　概　観
＜はじめに/神社と小祠/寺社の配置/大水からムラを守る神/寺と講＞・・・199
第二節　神社と小祠
＜神社の役員と当番/白山神社/八坂神社/愛宕神社/荒神社/浅間神社/稲荷神社/天神社/金山彦神社/諏訪神社/稲荷神社/九頭竜と一目連＞・・・・・・・207
第三節　寺院と檀家＜檀家と墓/成就院/光勝寺＞・・・・・・・224
第四節　その他の神仏＜薬師堂/大日様/オコウシン様/観音＞・・229
第五節　代参講と村外の神仏
＜在地講と参拝講/御嶽講/大山講と大山参り/榛名講/高山講/子の権現参りと子の山講/観音講/その他の講/地域外の寺社の参拝/オキナサン＞・・・・・・・230
第六節　家の神＜屋敷神/屋内神＞・・・・・・・・・・・235
第六章　社会構成
第一節　ムラの成立ち＜大字とムラ/集落/開発伝承/開発に関する伝説/開発に関する文書/土着伝承/本村の屋敷の所在/通婚圏＞・・・・・・・237
第二節　ムラの組織と運営＜カミとシモ/クミ・ブラク・モヨリ/クミアイ・ゴケングミ/隣保班区長/大字の役職/大字総会/大字費/伝達方法/トウバン/オトコアソビ/メデタモウシ/オンナアソビ/青年団/女子青年団/子供組＞・・・・257
第七章　人の人生
第一節　産育
1　出産＜妊娠/安産・子育祈願/出産/へその緒などの処理＞・・・・265
2　産後と成育
＜産後の食/産見舞い/お七夜/宮参り/厄年の子/初正月と初節供/初山/食い初め/お誕生/三つ身の祝い/帯解き/大山参り/成人/厄除けと年祝い＞・・・・・266
第二節　婚姻
1　結婚相手の選択＜相手の選択/通婚の範囲/相性と方位/仲人/見合い/口がためと結納/足入れ＞・・・・・・・・・・・・・・・268
2　結婚式＜ご祝儀の手伝い/嫁入り道具/ご祝儀/ご祝儀の服装/嫁のあいさつと鎮守参り/くれ祝儀/嫁とイチゲン/入家儀礼/もらい祝儀の場と膳/もらい祝儀/嫁のあいさつと里帰り＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・271
3　結婚後と里帰り＜初正月/初節供/住吉様/里帰りの機会＞・・275
第三節　葬送
1　死の直後＜死の予兆/末期の水/死後の処理/一杯飯/団子/餅/葬式の手伝い/死の知らせ/通夜/湯灌/納棺＞・・・・・・・・・・・・277

2　葬送＜共同の膳椀/作りもの/穴番/葬式/出棺/野辺送り/埋葬/お蔵い/清めと本膳/オカッテのお膳と念仏/死後の供養/幼児葬送＞・・・・・・・280
3　墓制＜墓地/土葬と火葬＞・・・・・・・・・・・・・284
第四節　個人の半生「Ｉ氏の個人史」
1　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・286
2　結婚前まで・・・・・・・・・・・・・・・・・287
3　結婚から戦争まで・・・・・・・・・・・・・・289
4　戦後から子供の独立・・・・・・・・・・・・・292
5　子供の独立後・・・・・・・・・・・・・・・・295
6　歳事儀礼・・・・・・・・・・・・・・・・・・296
7　集会所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・298
第八章　芸能
第一節　芸能
1　赤尾のはやし・・・・・・・・・・・・・・・・299
2　芝　居・・・・・・・・・・・・・・・・・・・300
第二節　民　謡
1　土羽打ち歌・・・・・・・・・・・・・・・・・301
2　その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・303
第三節　童　戯
1　子供の遊び・・・・・・・・・・・・・・・・・304
2　家と屋敷まわりの遊び
＜弓矢作り/どっかん/コマまわし/かくれんぼ/坊さん坊さん/メンコ/ケダシ/ネックイ/兵隊ごっこ/凧あげ/大水のときの水遊び＞・・・・・・・・・304
3　野や的川原の遊び
＜魚とり/水遊び/ホタル捕り/ハサミッチョ捕り/セミ捕り/トンボ捕り/アナゴ捕り/その他の虫捕り/ドドメ採り/クルミ採り/土手滑り＞・・・・・・・・306
第九章　口承文芸
第一節　文献に記された伝説
＜水禍を救うお諏訪様/諏訪神社の由来＞・・・・・・・309
第二節　伝説と世間話
1　概況と凡例・・・・・・・・・・・・・・・・・311
2　伝説＜赤尾の下でソバを作らないいわれ/諏訪神社とカジボウ/九頭龍様/赤尾と島田の林家/赤尾/三軒百姓・五軒百姓・六軒百姓/御殿方/お蔵屋敷/ビンショウ/左京/岩殿の大蛇征伐とけつあぶり/七月饅頭を作らないいわれ＞・・・・・・・312
3　世間話＜オトウカ/ヤキサマ話/餌差/餌差のイハッツアン/鴨追い/塩屋/貸元/親分/岩吉和十郎/有水/清蔵じいさん/落合のナミサン/境論で餅をせしめる/はなたらしは丈夫＞・・・・・・・・・・・・・・・・・315
第三節　赤尾の林蔵＜赤尾の林蔵の略歴/赤尾の林蔵に関する資料/赤尾で伝えられた林蔵/赤尾の林蔵/赤尾の林蔵と正月の餅のいわれ＞・・・・・・・・・・322
付録　資料　文政年間「新編武蔵風土記稿」・・・333
明治初年「武蔵国郡村誌」・・・・・334
天保２年「林本家記録帳」・・・・・337
安政６年
「上分出水床上り家々見回り記録」・・344

平成５年８月30日　発行
坂戸市教育委員会

資料026『坂戸市の民俗三』

坂戸市民俗調査報告書　坂戸宿の民俗

平成８年３月

目　　次

第一章　地域の概況＜坂戸の成立ち/日光街道と坂戸/支配関係と行政の変遷/6斎市と町内明治時代の生業と町並み/大正時代の生業/「坂戸町案内」と電話帳に見る坂戸/鉄道の開通と駅の開設/昭和10年代の坂戸駅前と駅通り＞・・・・・・・・・・1
第二章　町の組織
第一節　町並みとその広がり＜町場の村/上と下/木戸内と木戸外/短冊状の屋敷割り/明治35年の町並み/駅通りの周辺/中通りの家並み＞・・・・・21
第二節　町内と行政区＜町内と行政区との関係/江戸時代の町内/町内の付き合い/行政区の成り立ち/行政区の分割時期/行政区の連合/住居表示＞・・・・・28
第三節　近隣の組織＜組合と隣組/向こう三軒両隣＞・・・・・・35
第四節　地縁組織の運営＜総代/区長/区長代理/副区長/相談役/世話人/行事/総会/区費/規約＞・・・・・・・・・・・・・・・36
第五節　新しい町会＜1丁目の新しい町内/睦柳会/黄金町親和会＞・・39
第三章　生　業
第一節　坂戸の米市と周辺
＜米市と穀屋/穀屋の営業/周辺農家と米市/米市とイカダ流し/上吉田のイカダ流し＞43
第二節　農　業
＜坂戸宿と周辺地域の農業/耕地の概況/用水/稲作/陸田/畑作＞・・・・・47
第三節　蚕糸業
1　養蚕＜養蚕と桑栽培＞・・・・・・・・・・・・・・58
2　糸繭商
＜坂戸宿の糸繭商/繭の種類/仲買人/製糸業者との取引/糸繭屋の条件＞・・・59
3　燃屋と紺屋＜燃屋と紺屋の仕事/燃屋の商売＞・・・・・・60
第四節　商家の変遷
1　坂戸宿の商業＜坂戸宿の商家/商業専従の時代へ/商店街の形成＞・62
2　在来農家雑貨商から呉服屋・本屋へ
＜時計商の創業/呉服屋時代/書籍の販売＞・・・・・・・・・・63
3　旧家の小売展開
＜近世商家の廃業/炭小売店の開業/戦後の商売の変遷＞・・・・・・64
4　「百貨店の賑わい」
＜雑貨店の開業/配給元の時代/年始の商品＞・・・・・・・・・・65
5　文具卸商の独立とキドウチ移転
＜修業と暖簾分け/キドウチへの店舗移転＞・・・・・・・・・・65
6　戦後の時計店＜棒屋時代の半農半商/時計店の開業＞・・・・66
7　駅通り建具問屋から自転車販売店へ
＜建具問屋/改良唐箕の製造/販売/修行と販売＞・・・・・・・・67
8　キドソト呉服店の行商
＜キドソトでの開業/小間物から呉服用品へ行商/戦後の商売＞・・・・・68
9　京染取り次ぎ外商
＜京染取り次ぎ商/京都の染め屋との取引/顧客の範囲/外売りから店売りへ＞・・69
10　食堂とアイスキャンデーの成果＜暖簾分けと主店/菓子屋の需要/ホールの付設/アイスキャンデー時代/グループの組織/仕入れ/二代目の修業＞
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70
11　キドソト和菓子店の顧客獲得まで
＜修業と開店/夫人の婚入れ/顧客の獲得/パンの販売＞・・・・・・・72
第五節　職　人・・・・・・・・・・・・・・・・・・74
1　職人の気風と連帯＜坂戸宿の職人/職人の気風/職人の連帯＞74
2　左官職人の修業と技術＜職人の修業と仕事/アラキダ土/こまいかき/壁塗りの工程/アラカベ・ウラカベ/チリマワリ/ヌキプセ/ナラシ・ムラトリ・ナカヌリ/ウワヌリ/火所の壁/屋根漆喰/コテイタ/シタマワシとサイトリ/渡り職人/太子講＞
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
3　戦後の大工仕事と仏具店＜大工仕事/仏具店/引退＞・・81
4　鍛冶職から金物店へ
＜坂戸の移入/農具/鍛冶屋の生活/金物屋への転業＞・・・・・・・・83
第六節　旅館と露天商＜坂戸の旅館/旅館のなりたち/お釈迦の客＞・・84
第四章　衣食住
第一節　衣　服
1　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・89
2　仕事着と普段着＜商家などの仕事着/野良着/普段着/前掛け/モンペ/半纏/下着・肌着/戦中・戦後の衣服＞・・・・・・・・・・・89
3　晴れ着・外出着＜外出着/帯/羽織/長襦袢/礼服/初宮参り/七五三/花嫁衣装・嫁入り道具/葬式の衣服/祭りの衣装＞・・・・・・・・91
4　子供の衣服＜幼児の着物/おむつ/ねんねこ/もじり半纏/亀の子半纏/戦前の子供の着物戦後の子供の衣服/川越女学校の制服＞・・・・・・・92
5　防寒着＜二重まわし/オーバーコート/外套/普段着の防寒着＞・・・94
6　衣服の管理など＜洗濯/虫干し・土用干し/衣類の保管/機織/衣類に関する店/和裁/洋裁/雑巾・布巾＞・・・・・・・・・・・・94
7　髪型・洗髪＜髪型/洗髪＞・・・・・・・・・・・・95
8　被りもの＜帽子/手ぬぐい＞・・・・・・・・・・・96
9　履物＜野良仕事の履物/普段の履物/下駄/足袋/その他＞・・・・・96
10　雨具・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・97
11　寝具＜布団/嫁入りの寝具/枕/布団綿の打ち直し/綿入れ/蚊帳/夏の寝具/産布団/毛布/洋布団/寝間着＞・・・・・・・・・・・・・97
12　袋物・小物類＜風呂敷/袱紗/半紙/袋物/雑嚢＞・・・・・97
13　禁忌・俗信＜禁忌/俗信＞・・・・・・・・・・・・99
第二節　食　制
1　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・100
2　日常の食
＜食事の時間と様式/主食/副食/食品の確保/間食/弁当/食物の禁忌＞・・・100
3　年中行事の食

＜モノビの食べ物/正月の食/お釈迦の食/夏祭りの食/盆の食＞・・・・・104
第三節　住　居
1　概況＜宿通りの地割/屋敷構えと方位観/部屋の間取りと機能/出入口/掃除/畳/土間/燃料/井戸/付属屋/庭＞・・・・・・・・・・・・107
2　調査事例＜調査事例/屋内神と屋敷神/年中行事での利用/冠婚葬祭での利用/養蚕での利用＞・・・・・・・・・・・・・・・113
3　排水と大水＜側溝/大水＞・・・・・・・・・・128
第五章　年中行事
第一節　行事と歴法
＜年中行事の行われる日/暦法の変遷/本章の暦日表記＞・・・・・・・131
第二節　年末一正月の行事＜すす払い/餅つき/お供え/門松/カマシメ/正月飾り/初正月の縁起物/お歳暮/大晦日/坂戸神社の大祓祭/ミソカッパライ/除夜の鐘/ドンドン焼し＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・132
第三節　正月の行事＜若水/年男/元旦・雑煮/坂戸神社の元旦祭/永源寺の三朝祈願・新春祈祷/初詣で/三が日/正月の子供の遊び/年始回り/大盤ぶるまい/同業者の新年会/太子講/仕事始め/初荷・初売り/川越の初大師・ダルマ市/寺の年始/消防出初式/七草/永源寺の開山忌/永源寺の初護摩祈祷・ダルマ市/蔵開き・鏡開き/団子刺し/小正月＞・139
第四節　春一夏の行事＜春の彼入り/長久寺の観音参り/エビス講/屋敷神の祭日/米の市/金毘羅堂の縁日/薬師堂の縁日/春公人の出替り/初午/年取り/ミカイのまじない/遣経会・涅槃会/越生の鬱市/女の節供・鬱祭/堰徒総会/春彼岸/年忌総供養/坂戸神社の勧学祭/岩殿山の花見/薬師堂の開帳/坂戸神社の春季例大祭/春の大掃除/苗間正月/菖蒲の節供/永源寺のお釈迦/植え切り・野上がり/ケツアブリ/麦坊主/初山/八坂神社/夏祭/土用・丑の日/大山阿夫利神社代参＞・・・・・・・・・・・・・148
第五節　盆の行事
＜地獄の釜の蓋開け/ボンコ/七夕/新盆供養会/墓掃除/迎え盆/盆棚/盆/新盆見舞/お棚回り/送り盆/夏の彼入り/大施餓鬼会/蚤施餓鬼＞・・・・・・・162
第六節　秋一冬の行事＜出羽三山詣で/坂戸神社の諏訪祭/八朔の節供/大鏑殿造立記念日/十五夜/十三夜/秋彼岸/お釜様/秋の大掃除/達磨忌/十日夜/御会式/カッキリ正月/坂戸神社の秋季例大祭/笠間稲荷の菊祭/坂戸神社の七五三祭/穴っぶさげの祝/エビス講/坂戸神社の新嘗祭/釈尊成道会/熊手市/冬至＞・・・・・・・・・168
第六章　坂戸の「お釈迦」・・・・・・・・・・・・・173
第一節　はじめに・第二節　記述されたお釈迦・・173
第三節　永源寺とお釈迦・・・・・・・・・・・・・176
第四節　文化７年の一事件・・・・・・・・・・・・177
第五節　商家とお釈迦・・・・・・・・・・・・・・180
第六節　農家とお釈迦・・・・・・・・・・・・・・183
第七節　寺院とお釈迦・・・・・・・・・・・・・・184
第八節　露天商とお釈迦・・・・・・・・・・・・・186
第九節　おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・194
第七章　信　仰
第一節　寺社の変遷＜神社と寺院の変遷/祭りの成り立ち＞・・・・197
第二節　神　社＜坂戸神社とその合祀社/坂戸神社の祭神/氏子と氏子総代/世話人/宮司/一年の祭り/お庫＞・・・・・・・・・・・・・・・・203
第三節　寺と堂
1　永源寺＜由緒と歴史/寺の行事/金毘羅社/万治高尾＞・・・・・215
2　薬師堂＜由緒と歴史/祭祀組織/ご利益と縁日＞・・・・・・・218
3　現存しない寺院＜江戸時代以前の寺院＞・・・・・・・220
第四節　その他の神仏
＜地蔵/御祖宝稲荷/豊川稲荷/オコウシンサマ/八幡＞・・・・・・・221
第五節　家の神＜家の神と弊束＞・・・・・・・・・・223
第八章　夏祭りと大山講
第一節　夏祭りの構成と要素・・・・・・・・・・・225
1　夏祭りの概要＜八坂神社の夏祭りと成り立ち/祭りの日程と概要＞・225
2　大御輿の渡御の変遷＜大御輿渡御の概要/現在の大御輿渡御/戦前戦後の大御輿渡御/大御輿渡御の復活/栗生田の大御輿渡御/旭町の大御輿渡御＞・・230
3　夏祭りと大御輿のいわれ＜夏祭りの記録/大御輿の銘/夏祭りのいわれ/「坂戸神社誌」にみる夏祭りのいわれ＞・・・・・・・・・244
4　お仮屋・会所・獅子＜幟/お仮屋/会所/獅子＞・・251
5　山車・屋台の変遷＜山車・屋台の曳行/山車と屋台の導入/一丁目・二丁目共有の山車と為朝の首/一丁目の屋台/二丁目の屋台/三丁目・四丁目共有の山車/三丁目の屋台/四丁目の山車/栗生田の屋台/手古舞＞・・・・・・・・253
6　夏祭りの準備と役員
＜夏祭りの準備と役員/区の組織と夏祭りの役員＞・・・・・・・・262
7　夏祭りの役
＜夏祭りの片付けとお供物/お日待/全町世話人反省会/引き継ぎ＞・・・265
8　子供御輿の導入と新しい町会
＜子供御輿の概要/子供御輿の導入/各町の子供御輿＞・・・・・・・266
第二節　平成６年度夏祭り
1　平成６年度の日程・・・・・・・・・・・・・・270
2　７月15日　金曜日
＜お庫出し/御弊台の運び込み/大御輿入魂式/大御輿のお仮屋設置＞・・・270
3　７月16日　土曜日
＜トラック渡御/各町屋台の曳行/子供御輿の合同渡御/奉納囃子/曳きあわせ＞274
4　７月17日　日曜日
＜雲切り/会所の祈祷/神幸式/大御輿の渡御/大御輿納めの儀式/送り囃子/還幸式/曳き合わせ＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・276
第三節　大山講＜大山講の概要/大山の神酒樽と神酒枠/神酒樽と神酒枠と代参/平成6年度の大山講＞・・・・・・・・・・・・・・・・283
第四節　世話人
1　世話人の意義と職務＜はじめに/世話人の任期/世話人の選出/世話人の意義/仕事の伝達/呼びつかい/世話人の仕事/祭りの準備と執行/夏祭りの準備と有志総代会・全体会議/お日待と引き継ぎ/退任の記念品/大山講＞・・・・・290
2　その後の世話人
＜昭和60年代の世話人/昭和60年代の「申し送り」/変化のきっかけ＞・・300
3　世話人に関する記録＜記録の概要/大山代参の祭典要領/諏訪祭の祭典要領/例大祭の祭典要領/七五三と秋祭の祭典要領/カマメ・大祓・元旦祭の祭典要領/春祭の祭典要領/夏祭の祭典要領/行事一覧表＞・・・・・・・・・302
第五節　夏祭り囃子
1　坂戸夏祭り囃子＜夏祭りの囃子調査/坂戸の囃子の概要/坂戸の囃子の系統/夏祭りにおける主な囃子の場＞・・・・・・・・・・・312
2　一丁目／二丁目／三丁目／四丁目／栗生田／囃子の経本
第九章　個人史　ライフヒストリー
・Ａさんの半生・・・・・・・・・・・・・・・・・353
第十章　伝説と世間話
1　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・365
2　町・村の伝説
＜元坂戸/元坂戸/坂戸の町並み/曲がり曲がった日光街道＞・・・・・365
3　神仏の伝説＜大御輿のいわれ/お庫の鍵/夏祭りのいわれ/大御輿の重さ/永源寺の諏訪山/坂戸判官と経明と薬師/神吉田のお諏訪様＞・・・・・・366
4　行事その他の伝説
＜ヘイダシのいわれ/太子講のいわれ/けっぁぶり観音講/太田道灌＞・・・367
5　狐に関する世間話
＜オトウカの嫁入り/オトウカに化かされる＞・・・・・・・・・368
坂戸周辺の出来事年表・・・・・・・・・・・・・・371

平成８年３月25日　発行
坂戸市教育委員会

資料027『狭山市史　民俗編』

昭和60年３月

目　次

序　章
（１）自然条件から見たムラ・・・・・・・・・・・・3
（２）文化圏からみたムラ・・・・・・・・・・・・・6
（３）ムラと家・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
第一章　総　説
一　民俗学と市史
（１）民俗学とは＜常民の歴史を知る学問/狭山市史と民俗編＞・・・・13
二　各説の概要
（１）家とムラ・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
（２）年中行事・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
（３）人生儀礼・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
（４）伝説・昔話・世間話・・・・・・・・・・・・27
（５）織　物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
（６）石造遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
第二章　各　説
一　家とムラ
（１）家とムラについての観念の変化・・・・・・37
1　父系制の濃い東国の伝統
＜父方の姓/武蔵武士の伝統/家とムラ＞・・・・・・・・・37

2　ご先祖様と本家・分家
＜本家・分家/イッケ・地親類＞・・・・・・・・・・・・41
3　ムラの草分け
＜ムラの開発/柏原鍛冶の流れ/落人伝承/本村と新田＞・・・・・43
（2）屋内神
1　お釜様
＜お釜様の祭り/火の神から祖先神へ/作神への発展/釜〆＞・・・・48
2　荒神様＜荒神様の祀りと功徳/一家荒神からムラ荒神へ＞・・・・52
3　えびす・大黒＜大黒様とえびす様/大黒様/えびす講＞・・・56
4　大神宮
＜天照皇大神/八百萬の神/水神/雪隠神/オソウデン様/その他の屋内神＞58
（3）屋敷神と屋敷墓
1　屋敷神と屋敷墓
＜稲荷中心の屋敷神/屋敷神と屋敷墓/ホトケから屋敷神へ/盆/無縁仏/墓地と仏壇/屋敷神からムラの稲荷へ/変わった屋敷鎮守＞・・・・・・・62
二　ムラ
（1）ムラのしくみと信心
1　ムラのつきあい＜一家/もよりと組/ムラの階層＞・・・75
2　相互扶助とムラ
＜冠婚葬祭とムラ/もやい仕事/くぐはき橋＞・・・・・・・・78
3　講のさまざま
(1)山岳信仰に発した講＜講のさまざま/大山講/榛名講/古峰原講/三峯講/御嶽講/秋葉講/出羽三山講/富士講/高尾山講/山岳信仰と農村・町場＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・81
(2)特定の祈願の講＜産泰講/久米の水天宮講/子の神講/蚕　影講/おしら講/天神講/稲荷講＞・・・・・・・・・・・・・99
(3)塞ぎの講＜平心講/世良田の天王様/厄神講/庚申講＞・・・106
(4)仏教関係の講＜念仏講/観音講/川崎大師講/馬頭講成田講(不動講)/お命講/お斎日・お精進＞・・・・・・・・・・・・108
4　氏神・産土神
＜氏神・産土神の成立/素人芝居/合祀された氏神＞・・・・・・114
5　寺と堂＜寺と堂/祭り場＞・・・・・・・・・・・119
6　祭りと郷土芸能
(1)祭　り＜梅宮神社の甘酒祭り/市場の荒神様/広瀬の火祭り/諏訪神社のなすとりかえ/信立寺のお命講/加佐志の天王様/青柳の天王様　/沢の天王様/下奥富の天王様/柏原の天王様/入間川の天王様＞・・・・・・・・・120
(2)郷土芸能＜入曽の獅子舞/八幡神社鹿子舞/柏原の獅子舞/上赤坂の獅子舞/笹井豊年足踊り/入曽囃子/広瀬囃子/下諏訪囃子/菅原囃子/青中囃子/西方囃子/鶴の木囃子＞・・・・・・・・・・・・・・・131
（2）核家族化と家・ムラ
1　戦後の大変革＜自由主義の導入/高度成長と生活改善＞・・141
2　年齢階梯制の復活　＜子供会/老人会への期待＞・・144
3　信仰集団から目的集団へ
＜信教の自由/趣味の会の発展/生涯教育と地方公共団体＞・・・146
三　年中行事
序説・年中行事の意義・・・・・・・・・・・・・149
暦法の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・・・151
（1）正月の行事
1　正月のしたく
＜2がつ正月から1月正月へ/煤とり/餅つき/神飾り/大晦日の行事＞・・152
2　大正月＜年男/年神様と卯の日/おおばん/仕事始め/七草粥/あおひば/蔵びらきとさくりかけ＞・・・・・・・・・・・・・・172
3　小正月
＜繭玉/嫁の初帰りと雇人/どんど焼き/小豆がゆ/成り木責め/恵比須講＞・189
（2）春夏の行事
1　予祝行事＜次郎の朔日/節分と年とり/稲荷講/丑寅正月＞・・・204
2　祖霊に関する行事＜彼岸＞・・・・・・・・・・213
3　五節供＜節供について/三月節供/五月節供＞・・・・・・・214
4　農休日
＜植えきりと田上がり正月/その他の農休日/土用の丑の日＞・・・・222
（3）盆行事
1　盆のしたく
＜七夕と盆/入間川の七夕/盆の日取り/盆供と墓掃除/盆棚作り＞・・228
2　盆行事＜迎え盆/供え物と無縁仏/施餓鬼と棚経＞・・・・・・235
（4）秋冬の行事
1　感謝行事
＜十五夜と十三夜/お日待/お釜様/亥の子ととおかんや＞・・・・241
2　塞ぎ行事＜節走八日/冬至＞・・・・・・・・・・255
「まとめの言葉」・年中行事と地域差・・・・・・260
年中行事と作神
年中行事はなぜ簡素化されたか・・・・・・・・・261
四　人生儀礼　概　説・・・・・・・・・・・・・263
（1）産　育
1　出産以前＜子授けと安産祈願/妊娠の祝い/妊娠中の禁忌/産部屋/お産と産婆/産湯と産着＞・・・・・・・・・・・・・・・265
2　お七夜から初誕生まで
＜お七夜と命名/お宮参り/お食い初め/初正月と初節供/初山/初誕生＞・279
（2）子供から大人へ
1　少年期＜三つ身の祝い/五歳の祝いと帯解＞・・・・・・・289
2　成人期＜成人祝い＞・・・・・・・・・・・・・291
（3）婚　姻
1　婚礼以前＜縁談と仲人/口固めと結納/足入れ＞・・・・・・292
2　婚　礼＜出祝儀/嫁入りと入家式/本祝儀＞・・・・・・・299
（4）厄年と年祝い
1　厄年と厄除け＜厄年と厄除け＞・・・・・・・・・・306
2　年祝い＜年祝い＞・・・・・・・・・・・・・・307
（5）生と死の境から霊の世界へ
1　予兆と末期＜死の予兆/末期の水/死後の処理と通夜＞・・・308
2　葬　式＜ともらいの準備/ともらい＞・・・・・・・・・315
3　葬法と墓制＜土葬/火葬/単墓制と両墓制＞・・・・・・319
4　先祖供養と回忌
＜初七日から49日まで/1周忌から先祖となるまで＞・・・・・330
五　伝説・昔話・世間話
（1）伝　説・・・・・・・・・・・・・・・・・・335
1　水に関する伝説＜不老川その1・その2・その3・その4・その5・その6/逃水その1・その2・その3/逃水の里その6/逆川/しるたれ川その1・その2/まぐい淵/まごえもん淵/すえなし川/梅の井戸/乳の出る竹づっぱの水/乳の出る井戸水/タケが淵/オタケ大日如来水神宮/クモが淵/せとっぱらのガンガン井戸/西方の滝/七廻りの井/七曲がりの井＞・・・・・・・・・・・・・・・338
2　動物に関する伝説＜西浄寺でクツワ虫が泣かない話/ガシャを封じた話/西浄寺の夜盗/西浄寺の鷹の絵/ガシャガシャ山のオオカミ/オオカミの餌/ヘビと蔵/智光院の大蛇/オタケヘビ＞・・・・・・・・・345
3　植物に関する伝説＜血のしたたる木/血の出るケヤキ/ござさんとサトイモ/駒つなぎの松/ズイコウのケヤキ/じゃんか松/大樹寺の大ケヤキ/大樹寺の大ケヤキとふすま/大樹寺の大ケヤキと虚空蔵菩薩/大樹寺のの大ケヤキとくすり湯/大樹寺の大ケヤキと神の木さま/神の木さま/神木さま/なんじゃもんじゃの木＞・・・・348
4　地名に関する伝説＜射留鷹の地名由来/しるたれのさかさ川/天倒山/石無坂/しょいや坂/しょうや坂/柏原横町/中の坂/鵜の木/ごロー坂/河岸街道/梨の木/御狩場その1・その2/宮街道/寺街道/井戸山//ごしん山/かすや新道/ムジナ街道/やせ河原/権現橋/富士見台/富士見里と富士隠/向/オトウカ山/三つケ窪/思い川その1・その2/宮前/神明/かずばたけ/ガシャガシャ山/竹の花/梶屋/八瀬/八瀬の里/八丁の渡しその1・その2/清水/宮後/弁天道/前田/小袋/稲荷上/水押/ごへい坂/お寺街道/八反目/金堀/奥富/くぐはき橋/向陣/半貫/丸山/半貫山/御所の内/霞ヶ関/だんご坂/おおじょうどう/ござ橋その1・その2/新田の館/八幡/稲荷/たすき坂/広瀬その1・その2/中島/大杉だおし/清水坂/一本杉/加治街道/ネコ屋敷/よこまくりその1・その2/根山/日光街道/根岸のかじや/殿さま街道その1・その2/甚州開き山/滝谷戸/笹井＞・・・・・・・・・・・・・・・・・351
5　人物に関する伝説＜仮名頭粂吉と力石その1・その2/仮名頭粂吉と俵の柏子木/甲田の姓/半貫という姓の由来/鷹匠と豪傑/新田義貞の太刀/新田義貞潰陣の地＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・369
6　塚に関する伝説＜行人塚その1・その2/さかい塚/山王塚/お経塚/念仏塚/証文塚/のんの塚/富士塚/荒神さまの塚/将軍塚＞・・・・・371
7　神仏に関する伝説＜沢のお雷電さまその1・その2/百日咳に効く沢の雷電さま/三柱神社のツゲのだんご/市場の荒神さま/愛宕神社/眼病と虫歯に効く白山さま/亀の石像と石碑/こぶとりのお庚申さま/入間川の天神さまが晴のときは/なすとりかえ神事の由来/清水八幡宮のご利益/梨原御殿/入曽の獅子舞の起こり/乳の出る石/東方の薬師さまその1・その2/丸山の銭洗い弁天さま/足の権現さま/梅宮神社と安産の神/安産砂/やんめえばあさんその1/その2/歯に効く金山さま/あさひ稲荷/山の神さま/山神さまとオオカミ/くらの井戸の観音さま/かさもり稲荷その1・その2/弁天さまの雨もり/いぼ神さま/馬頭さま/三つの寺/渡辺稲荷と増島稲荷/お産神さま/火　事を防いだタニシ/どうはんのにちりんさま/イモができない場所/小山坊薬師如来の由来/薬師さまの清水/足に

効く権現さま/娘とオオカミ/庚申さま/大六天さまその1・その2/その3/耳だれさま/禅竜寺の観音さまその1・その2/新田の薬師さま/子育ての鬼子母神その1/広瀬の鬼子母神その2/子育ての鬼子母神その3/広瀬神社由緒/蟇洲さまと雹露消除のお堂/歯痛に効くがんざ山の白山さま/観音堂の火祭り/禅竜寺のだんぎとほっく＞・・・・374
8　地蔵に関する伝説＜耳だれ地蔵/耳んだれ地蔵/加佐志の耳だれ地蔵/岩田の耳だれ地蔵/自制坊の耳だれ地蔵/岩田のじせい坊/耳だれ地蔵/常円寺の耳だれ地蔵/化け地蔵/水野の化け地蔵その1/その2・その3 /影隠地蔵その1・その2/田中のカンカン地蔵その1・その2/増益地蔵/ますさん地蔵/歯痛どめの地蔵その1・その2/三体の地蔵尊/いぼ地蔵/黒くなった地蔵/子育て地蔵/ほっぽられた地蔵/せんちゃん地蔵/岩殿地蔵/夢地蔵＞・・・・・・・・・・・・・・・・・392
9　妖怪・変化に関する伝説＜井戸山の小豆婆さん/小豆婆その1・その2/ざっくりばばあ天狗にさらわれた話/てんごにさらわれた話/笹井のタケ坊その1・その2＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・400
10　その他の伝説＜だいだらぼっちの足跡その1・その2/でえだらぼっちの足跡/やんぶしのため/だいだらぼっちと大芦の清水の池/金子家の大刀と小刀/奥富おごり/どんど焼き/どんどん焼き/のげ焼きその1・その2/子供の夜泣き/武士の隠れ穴/ヒワ市/馬ぐそ大尽/笹原の不思議その1・その2/奥富の不思議＞・・・・・404
（2）昔　　話・・・・・・・・・・・・・・・・・409
1　動物昔話
＜ツバクロとすずめ/ニワトリとカラスが仲の悪い話＞・・・・・・411
2　世間話化した話＜スズメとカラスは仲がよい話/モズが木の枝に餌をかけるわけ/サルとイヌが仲の悪い話/ネコが十二支に入れてもらえなかったわけ/イタチが十二支に入れてもらえなかったわけ/ネコ・ヘコ・トコ/ニワトリは奇態なもんだ/おこさんとムジナ/善光寺参り＞・・・・・・・・・・・・・・414
3　その他の話・・・・・・・・・・・・・・・417
（3）世間話・・・・・・・・・・・・・・・・・・423
1　動物に関する話＜キツネの嫁入りその1・その2・その3/オトウカの嫁入り/オトウカの嫁入りと化かされた話/キツネ火その1・その2/キツネに化かされた話その1・その2・その3/五反田のキツネ/第六天のキツネ/キツネの意趣返し/キツネのべっぴんさん/キツネと野バラ/キツネ封じのタバコ/キツネとタバコ/かまってもらえぬ稲荷さま/ほら穴のキツネ/オトウカ山/おさんどんに化けたムジナ/タヌキ稲荷/オオカメをぶい出した話/ネコ・ヘコ・トコ＞・・・・・・・・・・・・424
2　綿貫家に関する話 ・・・・・・・・・・433
六　織　　物
（1）序　説・・・・・・・・・・・・・・・・・・439
1　広瀬地方の概要・・・・・・・・・・・・・440
2　養　蚕・・・・・・・・・・・・・・・・・・441
3　染　色 ・・・・・・・・・・・・・・・・・443
（2）広瀬斜子
1　川越斜子・・・・・・・・・・・・・・・・445
2　広瀬斜子・・・・・・・・・・・・・・・・447
3　広瀬周辺の斜子・・・・・・・・・・・・・451
4　斜子屋と問屋・・・・・・・・・・・・・・455
5　斜子織のおもな用途・・・・・・・・・・・456
（3）その他の織物・1　木綿織・・・・・・・・458
（4）織娘と機織歌・1　織娘・・・・・・・・・459
2　機織歌・・・・・・・・461
（5）信　仰
1　おしら講・・・・・・・・・・・・・・・・469
2　蚕神様＜荒神様/おしんめい様/おしら様/亀井神社と蚕影山/蚕と三味線/稲荷様/繭玉/馬鳴様＞・・・・・・・・・・・・・473
3　機神様・・・・4　愛染様・・・・・・・・475
七　石造遺物　総　説・・・・・・・・・・・・・477
1　民間信仰と石仏・2　石仏の分類・・・・478
3　狭山市の石仏・・・・・・・・・・・・・・480
（1）生産神・・・・・・・・・・・・・・・・・・486
1　水と生産神＜弁財天/九頭龍大権現/水神＞・・・・・・487
2　霊山と生産神
＜富士信仰/大山信仰/出羽三山信仰/御嶽信仰＞・・・・・・・495
3　日待・月待＜日待供養/月待供養＞・・・・・・・503
4　その他の生産神＜山の神/山王の猿/蚕神/稲荷＞・・・509
（2）塞　ぎ・・・・・・・・・・・・・・・・・・552
1　三界万霊供養塔＜狭山市内の三界万霊塔＞・・・・・553
2　石橋・敷石塔の供養塔
＜石橋供養塔/石階・敷石供養塔＞・・・・・・・・・・555
（3）現当二世安楽の供養塔
1　庚申塔＜造立の時代的推移/造像上の特色/庚申信仰＞・・・・575
2　如　来＜釈迦如来/阿弥陀如来/大日如来/五智如来＞・・・・582
3　地蔵菩薩＜造立の時代的推移/造像上の特色/地蔵信仰/安産・子育て地蔵/治病の地蔵菩薩/六地蔵＞・・・・・・・・・・・・588
4　馬頭観世音＜造立の時代的推移/造像上の特色/造立の趣旨と造立者/他の信仰と結びついた馬頭観世音＞・・・・・・・・・・597
5　観世音菩薩＜狭山市の観世音菩薩/七観音＞・・・・・602
（4）経典供養塔
1　経典読誦供養塔
＜法華経読誦供養塔/普門品供養塔/光明真言供養塔/大般若経供養塔＞・・684
2　写経供養塔＜納経塔/一字一石塔＞・・・・・・・690
3　念仏供養塔
＜念仏供養塔/百万遍念仏塔/六斎念仏供養塔/寒念仏供養塔＞・・・・692
（5）巡拝供養塔
1　納経巡拝供養塔＜市内の回国供養塔＞・・・・・・747
2　巡拝供養塔＜西国・坂東・秩父巡拝供養塔/伊勢信仰の塔＞・・750
（6）その他の石仏
＜道しるべ/不動明王/愛染明王/大六天/牛頭天王/疱瘡神＞・・・・・774
石造遺物写真図版
狭山市史編さん関係者名簿

昭和60年３月30日　発行
狭　　山　　市

資料028『志木市史　民俗資料編Ⅰ』

昭和60年３月

目　　次

ムラとイエの民俗
一　村の仕組み
1　行政区の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・3
2　村落の内部組織・・・・・・・・・・・・・・・6
3　家のつきあいと贈答・・・・・・・・・・・・・8
4　寄　合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
5　葬式組合・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
6　井戸組合・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
7　スケ（助）と共同作業・・・・・・・・・・・・15
8　休日と娯楽・・・・・・・・・・・・・・・・・17
二　本家と分家
1　親族のつきあい・・・・・・・・・・・・・・・25
2　本家の来歴・・・・・・・・・・・・・・・・・27
3　分家の出しかた・・・・・・・・・・・・・・・29
4　婚　姻・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
5　家族・親類の呼称・・・・・・・・・・・・・・33
三　住居と生活
1　商家の間取り・・・・・・・・・・・・・・・・35
2　農家の間取り・・・・・・・・・・・・・・・・37
3　部屋の呼称と機能・・・・・・・・・・・・・・43
四　ムラと講
1　講の分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
2　代参と目的・・・・・・・・・・・・・・・・・48
3　山嶽信仰と講の結成・・・・・・・・・・・・・50
4　冨士講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
5　御嶽講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
6　御岳講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
7　榛名講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71
8　大山講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
9　高尾講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・78
10　伊勢講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・79
11　念仏講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
12　庚申講・・・・・・・・・・・・・・・・・・・86
五　ムラの祭り
1　ムラと祭り・・・・・・・・・・・・・・・・・93
2　春祭り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・94
3　夏祭り＜火祭り/天王様＞・・・・・・・・・・・98
4　秋祭り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・105

六　屋敷神及び稲荷社
1　屋敷神とは・・・・・・・・・・・・・・・106
2　稲荷信仰の発生と流行・・・・・・・・・・108
3　屋敷神の推移・・・・・・・・・・・・・・111
4　屋敷稲荷から氏子稲荷へ・・・・・・・・・117
5　ビシャ講と祭日・・・・・・・・・・・・・126
6　その他の稲荷講
＜ニツ塚稲荷/籔竹稲荷/蓮田稲荷/泣虫稲荷/大野稲荷/尾崎稲荷/高野稲荷/前内手稲荷/行屋稲荷/三つ子稲荷/中丸稲荷/東光寺稲荷＞・・・・・・130
7　稲荷神以外の屋敷神・・・・・・・・・・138
8　屋敷神の移転とその処理・・・・・・・・143
七　家の中に祀られる神々
1　大神宮・・・・・・・・・・・・・・・・・146
2　荒神・・・・・・・・・・・・・・・・・・149
3　エビス大黒・・・・・・・・・・・・・・・156
4　井戸神・・・・・・・・・・・・・・・・・161
5　便所神・・・・6　水天宮と竜蛇様・・・・162
7　市神・・・・・・・・・・・・・・・・・・163
8　金山様・・・・・・・・・・・・・・・・・164
9　聖徳太子・・・・・・・・・・・・・・・・166
10　金毘羅様・・・・・・・・・・・・・・・・167
11　古い神札の処理・・・・・・・・・・・・・170
12　消滅した神々・・・・・・・・・・・・・・171

年中行事
一　概　　説
1　晴れの褻の区別・・・・・・・・・・・・・177
2　行事の簡略化と暦の変化・・・・・・・・・178
3　月と重日による行事・・・・・・・・・・・179
4　新暦採用と月遅れの行事・・・・・・・・・181
5　年中行事の変化と消滅・・・・・・・・・・183
二　正月の支度
1　煤掃き・・・・・・・・・・・・・・・・・185
2　竈注連・・・・・・・・・・・・・・・・・189
3　門　松・・・・・・・・・・・・・・・・・192
4　歳神棚・・・・・・・・・・・・・・・・・196
5　忌中の家の正月飾り・・・・・・・・・・・200
6　餅搗き・・・・・・・・・・・・・・・・・203
7　暮の贈り物・・・・・・・・・・・・・・・206
8　暮の買い物・・・・・・・・・・・・・・・209
9　大晦日・・・・・・・・・・・・・・・・・211
三　正月の行事
1　正月様・・・・・・・・・・・・・・・・・215
2　年　男・・・・・・・・・・・・・・・・・218
3　市　神・・・・・・・・・・・・・・・・・220
4　門付芸人・・・・・・・・・・・・・・・・223
5　正月中の仏壇の扱い・・・・・・・・・・・226
6　年始廻り・・・・・・・・・・・・・・・・228
7　お寺の年始・・・・・・・・・・・・・・・231
8　仕事始め・・・・・・・・・・・・・・・・233
9　棚さがし・・・・・・・・・・・・・・・・236
10　節（セチ）・・・・・・・・・・・・・・・238
11　松納め・・・・・・・・・・・・・・・・・241
12　七草粥・・・・・・・・・・・・・・・・・244
13　鍬入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・246
14　蔵開き・・・・・・・・・・・・・・・・・248
15　小正月・・・・・・・・・・・・・・・・・251
16　生木責め・・・・・・・・・・・・・・・・253
17　粟穂・稗穂・・・・・・・・・・・・・・・254
18　削り掛け・・・・・・・・・・・・・・・・258
19　粥かき棒・・・・・・・・・・・・・・・・260
20　孕み箸・・・・・・・・・・・・・・・・・262
21　繭　玉・・・・・・・・・・・・・・・・・265
22　小豆粥・・・・・・・・・・・・・・・・・269
23　どんど焼き（お焚きあげ）・・・・・・・・・272
24　藪入り・・・・・・・・・・・・・・・・・274
25　じょうめし（十五夜）・・・・・・・・・・・276
26　十八日粥・・・・・・・・・・・・・・・・279
27　二十日正月・・・・・・・・・・・・・・・281
28　恵比寿講・・・・・・・・・・・・・・・・283
四　春から夏の行事
1　次郎の朔日・・・・・・・・・・・・・・・288
2　節　分・・・・・・・・・・・・・・・・・290
3　馬の年越し・・・・・・・・・・・・・・・294
4　八日節供・針供養・・・・・・・・・・・・296
5　初午とビシャ講・・・・・・・・・・・・・299
6　出替り・・・・・・・・・・・・・・・・・302
7　雛祭り・・・・・・・・・・・・・・・・・305
8　お彼岸・・・・・・・・・・・・・・・・・309
9　種まき正月・・・・・・・・・・・・・・・311
10　大ぶせぎ・・・・・・・・・・・・・・・・312
11　卯月八日・・・・・・・・・・・・・・・・315
12　苗立て・・・・・・・・・・・・・・・・・318
13　菖蒲の節供・・・・・・・・・・・・・・・320
14　つじ餅・・・・・・・・・・・・・・・・・324
15　木綿ぼうず・・・・・・・・・・・・・・・326
16　麦の刈り上げ祝い・・・・・・・・・・・・328
17　サナブリ・・・・・・・・・・・・・・・・330
18　茅の輪くぐり・・・・・・・・・・・・・・333
19　七月一日・・・・・・・・・・・・・・・・336
20　白井様の祭り・・・・・・・・・・・・・・338
21　粉　初・・・・・・・・・・・・・・・・・339
22　総ごじまい・・・・・・・・・・・・・・・340
23　土用の丑の日・・・・・・・・・・・・・・343
五　盆の行事
1　盆こと釜の口開け・・・・・・・・・・・・346
2　七　夕・・・・・・・・・・・・・・・・・348
3　盆棚づくり・・・・・・・・・・・・・・・353
4　盆迎え・・・・・・・・・・・・・・・・・355
5　無縁仏・・・・・・・・・・・・・・・・・358
6　新　仏・・・・・・・・・・・・・・・・・360
7　盆　礼・・・・・・・・・・・・・・・・・363
8　棚　経・・・・・・・・・・・・・・・・・365
9　盆送り・・・・・・・・・・・・・・・・・367
10　藪入り・11　じょうめし（十五夜）・12　次ぎ盆・370
13　裏　盆・・・・・・・・・・・・・・・・・372
六　秋から冬の行事
1　八朔の節供・・・・・・・・・・・・・・・374
2　風切り鎌と無難正月・・・・・・・・・・・376
3　お九日・・・・・・・・・・・・・・・・・379
4　お彼岸・・・・・5　穂がけ・・・・・・・381
6　十五夜・・・・・・・・・・・・・・・・・383
7　十三夜・・・・・・・・・・・・・・・・・386
8　お日待ち・・・・・・・・・・・・・・・・388
9　刈り上げ・・・・・・・・・・・・・・・・390
10　卯と丑寅の麦蒔き・・・・・・・・・・・・392
11　穴っぷさげ・・・・・・・・・・・・・・・394
12　十日夜・・・・・・・・・・・・・・・・・396
13　お釜様・・・・・・・・・・・・・・・・・399
14　扱き上げ・・・・・・・・・・・・・・・・404
15　秋上り正月と油しめ・・・・・・・・・・・406
16　恵比寿講・・・・17　川浸り餅・・・・・408
18　八日節供・・・・19　大師粥・・・・・・411
20　冬至と星祭り・・・・・・・・・・・・・・414

生産性業と用具
I　農　　業
一　概　　況
1　自然状況＜土/水/気象/害虫鳥＞・・・・・・・・421
2　耕　地＜野方と里/土地利用と田の種類/土地改良＞・・・・・426
3　農業経営＜労働力/肥料/農家経営/組合＞・・・・・・429
二　作物と耕作

1　主な作物・・・・・・・・・・・・・・・・・437
2　作物の耕作
＜稲作/麦作/サツマイモ/ハクサイ/ホウレンソウ/ゴボウ/ニンジン＞・・438
三　保存と出荷
1　穀　類・・・・・2　芋　類・・・・・・・450
3　野菜類・・・・・・・・・・・・・・・・・452
四　用具と野良着
1　耕作具
＜耕起/播種・施肥/除草・害鳥虫駆除/収穫/脱穀・選別・調整/その他＞・456
2　運搬具＜身体につけるもの/車＞・・・・・・・・・・469
3　藁工用具・・・・・・・・・・・・・・・・・472
4　容　器＜笊・籠/桶・樽/その他＞・・・・・・・・・475
5　野良着＜衣服/被物・履物＞・・・・・・・・・・・477
五　用具の変化
1　製作と修理・・・・・・・・・・・・・・・・480
2　畜力と機械化・・・・・・・・・・・・・・・481
Ⅱ　商　業
一　概　況
1　志木の町場・・・・・・・・・・・・・・・・485
2　商家と店の種類・・・・・・・・・・・・・・487
3　今日の商業・・・・・・・・・・・・・・・・488
二　商い方法
1　商　店＜肥料屋/穀物問屋/米屋/荒物屋/呉服屋/主人と奉公人＞・・489
2　行　商＜志木内の行商/志木から出る行商/志木に出る行商＞・・・499
3　露　店＜露天商/地元商店とのかかわり＞・・・・・・・・505
三　用具と服装
看板・広告・・・・・・・・・・・・・・・・・509
2　帳場用具と証書・印判・・・・・・・・・・511
3　服　装・・・・・・・・・・・・・・・・・515
Ⅲ　諸　職
一　概　況
1　資料にみる志木の諸職・・・・・・・・・・519
2　技能職と製造職・・・・・・・・・・・・・520
二　職人のくらしと用具
1　大工職＜修業・生活/道具・道具箱・仕事着/仕事場＞・・・・・522
2　左官職＜修業・生活/蔵造りの工程/道具・道具箱・仕事着＞・・・525
3　箒　職＜志木の箒作り/修業・生活/原材料の入手と保管/道具・仕事場/箒作りの工程/販売方法＞・・・・・・・・・・・・・・・533
4　桶　職＜志木の桶作り/修業・生活/材料の入手と保管/道具・仕事場/桶作りの工程/製品＞・・・・・・・・・・・・・・・・・539
三　船頭のくらしと用具
1　早船（新河岸川運搬船）
＜新河岸川舟運と船/船頭の生活/仕事着＞・・・・・・・・・551
2　砂　船＜荒川の砂採り/砂船と生活/仕事着＞・・・・・・・555
3　遊覧船・・・・・・・・・・・・・・・・・・556
4　渡　船・・・・・・・・・・・・・・・・・・557
四　職人や船頭の集まり
1　太子講＜大工職/左官職/桶職＞・・・・・・・・・・558
2　ふいご祭り・・・・・・・・・・・・・・・・561
3　大杉講・水上講＜船頭/漁師＞・・・・・・・・　562
Ⅳ　漁　撈
一　概　況
1　志木の河川・・・・・・・・・・・・・・・・565
2　志木の川と魚種・漁法・・・・・・・・・・・566
3　法的規制＜漁業権と漁業共同組合/規制漁法＞・・・・・・・567
二　漁法と用具
1　網漁法＜投網/刺網/掛網/建干網/地曳き網/瀬張り網/四ツ手網/待網/鉄網/追込み網/ずり網/三角網/掻上げ網＞・・・・・・・・・・570
2　釣漁法＜置針/長縄/とびっつき/一本釣り/穴釣り/引っかけ＞・・578
3　雑漁法＜筌/ビン胴/竹ずっぽ/ゴキ/築/味噌漉伏せ/鰻掻き/火振り/ガラス箱/うろ探し/毒水/掻堀/潜り＞・・・・・・・・・・・・581
三　漁獲と処理
1　売り物と喰い料＜売り物/喰い料＞・・・・・・・・589
2　料理法と効用・・・・・・・・・・・・・・・591
3　餌取り・・・・・・・・・・・・・・・・・・592
四　用具と修理と保管
1　網＜網好き/柿渋作りときおり/保管＞・・・・・・・・・593
2　ヤ・・・・・・・3　船と付属品・・・・・596
五　川とくらし
1　内川と遊漁・・・・・・・・・・・・・・・・598
2　荒川と生活・・・・・・・・・・・・・・・・600
Ⅴ　狩　猟
一　概　況
1　狩猟対象の鳥獣・・・・・・・・・・・・・605
2　狩猟と法的規制＜鳥獣類の保護/志木地域の狩猟＞・・・・606
二　猟法と用具
1　網猟法＜霞網/鴨網/徳打/両羽＞・・・・・・・・・609
2　わな猟法＜箱わな/トラバサミ＞・・・・・・・・・616
3　その他の猟法＜千本/置針＞・・・・・・・・・・616
三　捕獲と処理
1　売り物・・・・・・・・・・・・・・・・・620
2　料理法・・・・・・・・・・・・・・・・・622

伝　説
Ⅰ　概　説　伝説分布地図・・・・・・・・・・634
Ⅱ　自然に関する伝説
一　動　物
1　カッパ
（1）宝幢寺の地蔵さんとカッパの話・・・・・637
（2）カッパから相撲を仕掛けられた話・・・・643
（3）カッパを相撲で負かした話・・・・・・・645
（4）市場天王さんの社紋とカッパの話
解説＜天王さんときゅうりとカッパについて/カッパについて＞・・・646
2　狐
（1）助右衛門さんと白狐の話・・・・・・・・656
（2）子狐の死と三ツ子稲荷の話
＜狐との出合い/稲荷の祠建立＞・・・・・・・・・・664
（3）つんぼになった船頭さんの話・・・・・・668
（4）八ツ釜地と狐の話・・・・・・・・・・・675
（5）子狐と鹿の話
解説＜稲荷信仰と狐について/仏家系の稲荷社/江戸での繁栄/迷信による信仰/狐とのつながり/初午祭り＞・・・・・・・・・・・・・・678
3　むじな
（1）長勝院のチョッピラリン・・・・・・・・686
（2）八どんとむじなの話・・・・・・・・・・687
（3）むじなのたたり
解説＜たぬきとむじなの違い/説話に出てくるたぬき＞・・・・694
4　猫＜猫踊り＞・・・・・・・・・・・・・・・699
5　魚
（1）三貫田池の片目のフナの話
（荒井仁右衛門と山口大膳の決闘）・・・・・・・・・・701
（2）コクゾウ池のうなぎが八ツ目うなぎに変身する話・・・・・・・・・・・・・・・・・703
（3）コクゾウさんの縁起
解説＜片目のフナと片目のうなぎ/資料に見える大膳と仁右衛門/館村古今精決集録＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・704
6　蛇
（1）蛇に当てられた話・・・・・・・・・・・708
（2）かしらなし（頭無し）・・・・・・・・・709
二　植　物
1　むくの木と坂上田村麻呂の口碑・・・・・・710
2　業平の松
3　杉の木のたたり＜大六天について＞・・・・・・・712
Ⅲ　歴史に関する伝説
一　地　名
1　三貫田・・・・・・・・・・・・・・・・・・717
2　精進場（しょうじんば）・・・3　女まきべ・・・・718
4　蟹　坂（かにざか）・・・・・・・・・・・・・719
5　稲荷山・・・・・6　浪人坂と浪人窪・・・720
7　味　場（あじば）・・・・・・・・・・・・・721
8　おおばけ・こばけ・・・・・・・・・・・・722
9　陣　場（じんば）・・・・・・・・・・・・・723

10　亭ノ下(ちんのした又はていのした)・・・・・・・・・・・724
11　絡ケ崎・・・・・12　芋頭(いもがしら)・・・・725
13　高　橋(たかばし)・・・・・・・・・・・・・・・726
14　地獄谷又は十玉谷・・・・・・・・・・・・・・・727
15　腹切り場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・728
16　焼き場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・729
17　馬捨て場と横馬置場(おおばおきば)・・・・・・・730
二　人　　物
1　業平伝説
(1)「館村旧記 上」による伝承・・・・・・・731
(2)「館村風土記・長勝院由来」による伝承
＜田面郡司藤原長勝の事/平清盛の横暴の事/業平と五月前の恋/都鳥の事/膝折の事/長勝・業平討死の事＞・・・・・・・・・・・・・・733
三　塚
1　中宗岡の一里塚・・・・・・・・・・・・・・・・739
2　甲子山塚と日本武尊の口碑・・・・・・・・・・740
3　休み場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・741
4　首　塚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・742
Ⅳ　信仰に関する伝説
一　神
1　北向きの下の氷川さん・・・・・・・・・・・・743
2　富士の巻狩りの時の話
(羽根倉浅間神社の縁起)・・・・・・・・・・745
3　中宗岡の泣き虫稲荷・・・・・・・・・・・・・747
4　子供の好きなお稲荷さん・・・・・・・・・・・751
二　仏
1　ほっぺたの黒いお地蔵さん・・・・・・・・・・753
2　味場の地蔵さんと哀れな姉ちゃんの話・・・756
(1)味場の地蔵さん・(2)哀れな姉ちゃんの話
3　イボとり地蔵さん・・・・・・・・・・・・・・760
4　中道の子育て地蔵さん・・・・・・・・・・・・763
5　大塚のすくも薬師の話・・・・・・・・・・・・765
6　鉄身不動明王が汗を流した話・・・・・・・・767
7　六部にさらわれた上宗岡の観音さんの話・・770
8　ボボ施餓鬼寺とボボ薬師寺・・・・・・・・・771
三　妖怪変化
1　お鷹橋と魔女の話・・・・・・・・・・・・・・775
2　姥　袋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・777
3　水中の怪物・・・・・・・・・・・・・・・・・778
4　地獄谷の小豆婆・・・・・・・・・・・・・・・781

街道・耕地・集落
一　街　　道
1　河岸街道・・・・・・・・・・・・・・・・・・785
2　引又道・・・・・・・・・・・・・・・・・・・787
3　科人街道（江戸道）・・・・・・・・・・・・・790
二　耕　　地
1　耕地の様子・・・・・・・・・・・・・・・・・796
2　湿田と土地改良・・・・・・・・・・・・・・・798
3　耕地と人々・・・・・・・・・・・・・・・・・800
4　残る高地・・・・・・・・・・・・・・・・・・803
三　集　　落
1　街　村・・・・・・・・・・・・・・・・・・・805
2　集村・塊村・・・・・・・・・・・・・・・・・808
3　散　村・・・・・・・・・・・・・・・・・・・811
4　戦後の新しい集落景観・・・・・・・・・・・812
執筆者及び執筆分担／話者・協力者一覧
志木市史編さん関係者名簿
あとがき

昭和60年３月25日　発行
志　　木　　市

資料029『白岡町史　民俗編』

平成２年３月

目　　次

第一章　地域概観
第一節　自然環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第二節　歴史概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
第二章　生産・生業・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第一節　農　　業
一　農業
1　植田の栽培慣行＜種籾の管理と品種/耕起/田うない用具とその変遷/畦塗り/苗代と種まき/代掻き/田植え/田植えの服装と野良着/田植えの禁忌と儀礼/除草/害鳥虫駆除/稲刈り/稲あげ/脱穀/調整/牛馬の飼育＞・・・・12
2　摘田の栽培慣行　＜名称とその規模/立地と水利/耕作/播種/苗揃え・田の草取り/稲刈り＞・・・・・・・・・・・・・・・31
3　掘上田＜掘上田の分布(爪田ケ谷地区)(高岩地区)(小久喜・千駄野地区)(野牛地区)(下大崎地区)(皿沼)(柴山沼)/掘上田の耕作(耕起)(ハネツケ)(ノロヒキ)(アゼッピキ)(苗代)(田掻き)(田植え)(田の草取り)(水落とし)(稲刈り)＞・・・・・・・・・・・・・・・・・35
二　畑　作
1　麦作
＜整地/播種/中耕/麦踏み/土入れ/麦刈り/脱穀/精麦・精粉/検査＞・44
2　雑穀類＜粟/もろこし/そば/大豆/小豆/ささげ/金時豆/えんどう豆/そら豆/みずら＞・・・・・・・・・・・・・・・・53
3　芋類＜さつま芋/里芋/じゃが芋＞・・・・・・・・59
4　工芸作物＜茶/綿/菜種/ごま/えごま/柿＞・・・・・・62
5　蔬菜＜大根/なす＞・・・・・・・・・・・・・・67
三　養　蚕＜蚕室/蚕種/飼育/出荷/桑＞・・・・・・・・・68
四　肥　料
＜ダゴイ/ツミゴイ/モク/緑肥/下肥/煮大豆/大豆粕/化学肥料＞・・71
五　梨作り　1　梨栽培の歴史＜埼玉梨の歴史/町内への梨伝授/梨栽培の定着と産地化＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
2　梨栽培　＜品種(品種の変遷)(品種の更新)/施設(梨棚)(竹棚)(幾見式)(福島式)(鉄線)(棚がけ)＞・・・・・・・・・・82
3　栽培技術＜土壌管理(表層管理)(深耕と有機物の投入)(排水と灌水)/花かけ(直接受粉)(人工受粉)(受粉樹)/摘果から収穫まで(摘果)(袋かけ)(収穫・共選)/剪定と肥料(カッパギ)(肥料)＞・・・・・・・・87
4　病害虫防除＜無袋栽培/袋かけ/防除/鳥害対策＞・・・・99
5　出荷販売組織
＜出荷方法/出荷の容器/大山村果実出荷組合の成立/花見会＞・・・・99
第二節　諸　　職
一　町内の概要＜篠津村野諸職/町内の職人(屋根屋)(縦屋・綿屋)(鍛冶屋)(瓦屋)(造酒屋)(桶屋)(下駄屋)＞・・・・・・・・・・104
二　屋根屋　＜技術の伝播/屋根葺の材料/屋根葺道具(鉈)(鋏)(押切り)(鋸)(カヤヌキ)(ガンギ棒)(針棒)/屋根葺きの工程(準備)(下地作り)(軒付け)(グシ)(グシドメ)(仕上げ)/技術の修得/職能の分担/同業者の組織/職人の生活/生産暦/信仰＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・110
三　紺屋　＜技術の伝播/藍染/施設と道具/藍建て/型染め/糸染め/技術の修得と組織/職人の生活＞・・・・・・・・・・・・・・・119
四　大工＜技術の伝播/素材/製作の工程/技術の修得(職能の分担)(西行)/同業者の組織/職人の生活/行事の信仰＞・・・・・・・・・・・126
五　仏師＜技術の伝播/素材/作品(彫刻)(彫塑)(塗り物)(修理)/技術の修得/信仰＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・131
六　鍛冶屋＜製品/信仰と行事/組合/西行＞・・・・・・・・136
第三節　漁　　撈
一　網漁法
＜カキサデ(掻叉手)/網/スクイ網/エビスクイ網/投網/四つ手網＞・・138
二　釣り漁法＜竿釣/ボカン釣/オキバリ＞・・・・・・・・141
三　雑漁法　＜ウナギヤス/アガリトリ/ブッサシ/ドカゴ/ビンドーケ/金網筌/タカズッポー/キリゴミ/ニゴシ/フミカゴ(踏み籠)/カタッケー捕り/しじみ捕り＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・142
第三章　年中行事
第一節　年中行事暦・・・・・・・・・・・・・・・・151
一　暦の変化＜旧暦から新暦へ/モノビ＞・・・・・・・・152
二　年中行事の変化＜現在でも行われる行事/消滅した行事＞・・154
三　年中行事暦・・・・・・・・・・・・・・・・・159
第二節　正月行事
一　正月準備＜すす払い/餅つき/門松/オカザリとカマジメ/大晦日/暮れ市/神の膳・神の椀＞・・・・・・・・・・・・・・・・164

二　大正月
＜年男/歳神様/初詣/若水汲み/朝湯/宝船/オオバン/正月の供え物と家例/山入り/七草・七草粥/鍬入れ＞・・・・・・・・・・・・・・・171
三　小正月＜繭玉団子/ハナ/オミタマ/成木責め/嫁の里帰りと女の年取り(年越)/小豆粥/小豆飯とオサイニチ(お斎日)/藪入り/オカザリへの感謝＞・・・179
四　五月・六月・七月の行事
＜五月の節供/フセギ/初山・浅間様/百万遍/夏越と天王様/石尊様の灯籠/サナボリ(サナブリ)＞・・・・・・・・・・・・・・・・・196
第四節　盆行事
一　七夕
＜七夕飾り/七夕の供え物/七夕飾りや馬の処理/七夕に関する伝授＞・・・・204
二　盆　＜釜の口開け/盆供/盆の期日/盆棚/ルスイの先祖様/無縁仏/迎え盆/盆の食事と供物/オミタマ/盆参り/棚経/野回り/施餓鬼/送り盆/新盆＞・・・204
第五節　秋冬の行事
一　九月の行事＜八朔の節供/二百十日/十五夜＞・・・・・・211
二　十月の行事
＜クンチ・オヒマチ(お日待ち)/荒神様(オカマサマ)＞・・・・・・212
三　十一月・十二月の行事＜十日夜/収穫儀礼/ダイシガユ(大師粥)/恵比寿講/七五三/カビタリ(川浸り)/シワスヨウカ(師走八日)/ヨウカセック(八日節供)/徳がけ/冬至＞・・・・・・・・・・・・・・・215
第四章　信　仰
第一節　社寺の信仰・・・・・・・・・・・・・・・222
一　神社と信仰＜『風土記講』に見る神社/『郡村誌』に見る神社/「社寺明細帳」に見る神社/神社の起源＞・・・・・・・・・・・・・・223
二　寺院と信仰＜新義真言宗/禅宗/浄土宗/修験/寺院の起源＞・・333
三　社寺の縁起＜大徳寺(上野田)/正伝寺(上野田)/安楽寺(太田新井)/忠恩寺(高岩)/白岡八幡宮/諏訪八幡神社(柴山)＞・・・・・・・・241
第二節　民間の信仰・・・・・・・・・・・・・・・249
一　屋敷神と屋内神
1　屋敷神＜祭神と呼称/祭祀の開始と契機/御利益と祟り/祭場/祭祀＞・250
2　屋内神＜大神宮様/歳神様/恵比寿・大黒様/荒神様/便所神様/井戸神様/戸守り＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・257
二　講
1　講とは＜民間信仰を基盤とした講/社寺に参詣する講＞・・・・262
2　民間信仰を基盤とする講＜庚申講(講中の範囲)(日時)(当番と供え物)(講の沿革・歴史)/稲荷講(千駄野の講)(爪田ケ谷の講)(篠津下宿の講)(篠津馬立の講)(荒井新田の講)(柴山の講)/愛宕講(篠津上宿の講)(篠津神山の講)(白岡茶屋の講)(下大崎のオカダン)(荒井新田のオカダン)/弁天講/念仏講(千駄野の講)(篠津の念仏講)(白岡大門講)/百万遍(千駄野の講)(上野田の講)/日待講/浅間講/八将神講＞・・・・・・・・・・264
3　県内の社寺に参拝する講
＜秋葉講/箭弓稲荷講/第六天講/三峰講/妙見講＞・・・・・・284
4　県外の社寺に参拝する講＜板倉講/榛名講/成田講/笠間稲荷講/大山講/川崎大師講/武州御嶽講/善光寺講/戸隠講/伊勢講/木曽御嶽講＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・287
三　絵馬
1　正伝寺開山堂の絵馬＜(正伝寺と開山堂)(絵馬の分類)(銘文)(年代)(年齢)(奉納者の分布)(開山様信仰)(御利益と奉納物)＞・・297
2　柴山諏訪八幡神社の絵馬＜(図柄による分類)(祈願内容による分類)(絵解き)(奉納者の信仰)(絵馬販売の様子)＞・・・・・302
四　石仏と供養塔・・・・・・・・・・・・・・・・306
1　石仏＜阿弥陀如来/菩薩(観音菩薩)(馬頭観音菩薩)(勢至菩薩)(虚空蔵菩薩)(地蔵菩薩)/不動明王/庚申/その他の石仏(十三仏)(愛宕大権現)(大黒天)(聖徳太子)＞・・・・・・・・・・・・・・・・307
2　供養塔＜巡拝塔・廻国塔/読誦塔・光明真言塔/念仏供養塔/名号塔・題目塔/石橋・敷石供養塔/二十三夜塔＞・・・・・・・・・・・315
五　石祠と石塔＜稲荷/天神・天満/山岳信仰/その他の神々＞・・319
第三節　民間知識
一　前兆・予兆＜天候・気象の予知(自然現象によるもの)(動物によるもの)(諸事によるもの)/吉凶・事変の予知(天体・気象によるもの)(動物によるもの)(植物によるもの)(暦によるもの)(諸事によるもの)＞・・・・・・・・321
二　民間療法
＜呪術的療法/祈願/薬草による療法(内臓・風邪)(皮膚病・外傷)(歯・目・その他)/動物を薬とする療法＞・・・・・・・・・・・・・・・326
三　俗　信＜人の人生に関するもの/衣服・食事に関するもの/住居に関するもの/年中行事に関するもの/動物・植物に関するもの/その他＞・・・・・・・329
第五章　人の人生
第一節　産育儀礼
一　妊　娠　＜妊娠/妊娠祈願と安産祈願/腹帯/鯉の贈答/妊娠中の労働/妊娠中の禁忌・俗信＞・・・・・・・・・・・・・・・・・337
二　出　産＜産室/トリアゲバアサン/出産/地蔵様っ子/へその緒と後産/産湯/ウブタテゴメと産後の食事/産後の禁忌/授乳＞・・・・・・・・・341
三　子供の成長と祝い＜お七夜/産見舞い/セッチンマイリ(名称)(実施例)(行われる日)(供物)(参る所)(参るときの生児の姿)(生児を連れて参る人)/トオアゲ/里帰り/お宮参り/産毛そり/食い初め/初節供/初正月/初山参り/初誕生/おしめ/乳歯/夜泣き＞・・・・・・・・・・・・・・・・・345
第二節　婚　姻
一　婚約
＜結婚の条件/恋愛結婚/縁談と仲人/見合い/タルイレ/結納/アシイレ＞・356
二　御祝儀＜名称と時期/荷送り/嫁迎え(クレシュウギ)/嫁の出家儀礼/嫁入り行列/嫁の入家儀礼/御祝儀の座/御祝儀の次第/イチゲンのあいさつ/三三九度/祝宴/祝宴の料理/祝い金と引き出物＞・・・・・・・・・・・・・・362
三　御祝儀後
＜宮参り/女イチゲン/ミツメ/里帰り/シンショウ渡し＞・・・・・・370
第三節　葬　送
一　死と霊
＜予兆/末期の水/死後の処理/ハヤツカイ/湯灌/入棺/通夜＞・・・・・373
二　葬　式＜葬式の日取り/葬式組/床掘り/出棺/ニワドムライ/葬列/埋葬/葬式の食事/キヨメ/キゴミ/念仏/墓直し/異常葬式＞・・・・・・・376
三　忌明け・年忌＜忌中餅/ヒトナノカ/四十九日/新盆/年忌＞・・383
第六章　見の回りの生活史
第一節　衣生活
一　仕事着とふだん着＜仕事着/男の仕事着/女の仕事着/袖の型(筒袖)(元禄袖)(振袖)/前かけ/ふだん着(下着)(帯)(足袋)(おしめ)/外出着＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・387
二　晴れ着＜婚姻(シアワセ・見合い)(御祝儀)(メデタムシ)(里帰り)(ヨメゴ八幡)/子供の祝い(お七夜)(宮参り)(ミツミイワイ)(オビトキ)/葬送(死者の服装)＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・396
三　衣の製作・入手方法
＜機織り/染色/藍染め/針仕事・裁縫/針と糸/衣服の調達＞・・・・・・400
四　かぶり物・履物・雨具
＜かぶり物(ほっかぶり)(モーロク頭巾)(あねさんかぶり)(おこそかぶり)(菅笠)/履物(下駄)(草履)/雨具＞・・・・・・・・・・・・・・403
五　寝　具＜枕/カヤ＞・・・・・・・・・・・・・・408
六　衣類の保管＜洗濯/衣類の管理＞・・・・・・・・・・410
七　髪型と化粧用具
1　髪型・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・412
2　化　粧＜(オハグロ)(マユオトシ)＞・・・・・・・・414
3　その他＜歯みがき/洗髪/風呂/便所紙＞・・・・・・・・414
第二節　食生活
一　日常の食事＜主食(麦・粟・そば)/副食/間食/保存食(大根・さつま芋・魚)/調味料＞・・・・・・・・・・・・・・・・416
二　ハレの食事
＜米/糯米/大麦/小麦/粟/もろこし/そば/その他/甘酒＞・・・・・・421
三　共同飲食＜通過儀礼＞・・・・・・・・・・・・・425
第三節　住生活
一　屋敷
＜母屋の向き/井戸/庭/屋敷林/庭木/門・木戸/昔の屋敷の構え＞・・・・・428
二　母屋＜「小久喜村百姓家小前絵図」にみる間取り(事例1・2・3・4・5)/聞き取りによる間取り(パターンⅠ・Ⅱ・Ⅲ)＞・・・・・・・・・・431
三　付属や＜木小屋/蔵/便所＞・・・・・・・・・・・440
四　家づくり
＜チョウナハジメ/ジマツリ/ジギョウ/ムネアゲ/壁塗り/家移り＞・・・・・440
五　屋根替え・・・・・・・・・・・・・・・・・・446
第七章　交通・交易
第一節　交　通
一　道路
1　道路＜鎌倉街道/御成道/慈恩寺道/春日部・菖蒲道(粕壁菖蒲往還)/蓮田・杉戸道/久喜道/原市道＞・・・・・・・・・・・・・453
2　道しるべ・・・・・・・・・・・・・・・・・・461
二　河川と用排水
1　町域を流れる河川と用排水＜元荒川/野通川/星川/見沼代用

水/隼人堀/裕間堀/庄兵衛堀/黒沼代用水/笠原用水/姫宮堀/備前堀/野牛高岩落/新堀/三ケ村落＞・・・・・・・・・・・・・・・465
2　『武蔵国郡村誌』にみられる河川と用排水468
3　見沼代用水開削の前と後・・・・・・・・470
三　舟運
＜見沼代用水の舟運/江戸時代の河岸と荷物/見沼通船会社の設立/菖蒲河岸/平野河岸/柴山橋戸の町並/橋戸の屋号と職業/隼人堀の舟運/元荒川の舟運＞・・・・・・472
四　車の普及
1　荷車・リヤカー
＜荷車(オシグルマ)(貸シグルマ)(車輪の変遷)/リヤカー＞・・・・・481
2　トラック・オート三輪
＜トラック/オート三輪/原動機付自転車＞・・・・・・・・・・484
3　自転車・・・・・・・・・・・・・・・・485
五　交通機関の発達
1　人力車・輪タク・タクシー
＜人力車/円タク/輪タク＞・・・・・・・・・・・・・488
2　乗合馬車・乗合自動車＜乗合馬車/乗合自動車＞・・489
六　鉄道の敷設＜駅の開設/新設白岡車站之碑/共進組合/祝賀記念式と八幡橋の架橋/駅周辺の発達＞・・・・・・・・・・・・・・・・490
第二節　交　易
一　行商＜ヨカヨカ飴屋/ブッキリ飴屋/朝鮮飴屋/細工飴屋/甘酒売り/糀売り/しん粉屋/氷屋/アイスキャンデー屋/川魚売り/魚売り/アサリ・シジミ売り/玄米パン屋/唐辛子屋/富貴豆売り/煮豆売り/佃煮売り/焼き団子売り/納豆/豆腐屋/おでんや/目立て屋/コウモリ直し/ラオ屋/下駄の歯すげ/鋳かけ屋/フルイ屋/研ぎ屋/瀬戸物売り/小間物屋/呉服屋/刃物売り/座卓売り/蓆屋/十銭屋/あかぎれの膏薬売り/毒消し売り/薬売り/セイセイヤッカ/孫太郎虫売り/御札売り/神の膳・ヨシの簾売り/にわとこの花売り/七夕の馬売り/盆花・シキミ売り/蚕の種紙売り/苗売り/金魚売り/押し売り＞・・・・・・・・493
二　市＜町内の市/白岡八幡宮の市/篠津の市/白岡の市/橋戸の鰭市/紅葉大門の市/近傍の市/岩槻の市/幸手の市/久喜の市/杉戸の市/菖蒲の市/大宮の市＞501
三　篠津の町並＜江戸時代末期の篠津/明治・大正の篠津/うどん屋/餅屋/穀屋/木綿屋(シロヤ)/足袋屋/下駄屋/荒物・雑貨屋/料理・仕出し屋/銭湯/造酒屋＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・503
第八章　社会生活
第一節　ムラのしくみ
一　ムラの構造
1　ムラの起源＜ムラ/ムラの範囲/ムラの開発伝承(岡泉・実ケ谷・千駄野・小久喜・上野田・下野田・爪田ケ谷・太田新井・彦兵衛・篠津・野牛・高岩・寺塚・白岡・柴山・荒井新田・下大崎)/村制度の変遷＞・・・・・・・・・・513
2　ムラの組織と運営＜(実ケ谷の事例)(千駄野の事例)(荒井新田の事例)/トナリ・マエ・ウシロ/ムラ入り/寄り合い＞・・・・・・・519
二　相互扶助と共同作業＜(道普請・井戸替え・茅の調達)/消防組合(梨の手伝い・馬の共有・農機具の共有)/水利慣行(入水と落水・水番・底浚い・藻刈)＞527
三　ムラの諸集団＜子供組/青年会/若い衆組/処女会/年よりの集団(念仏講・老人会)＞・・・・・・・・・・・・・・・・・536
第二節　家と同族
一　家族の名称と呼称
＜名称と呼称/相続/潰れ屋敷の再興/家の継承＞・・・・・・・・544
二　本家・分家と種類＜イッケと家意識/家の付き合い(親戚,親類の付き合い・年中行事/人の人生)＞・・・・・・・・・・・・・547
第九章　民俗芸能と遊び
第一節　民俗芸能
一　小久喜のささら獅子舞
＜由来/日時と場所/役割と組織/祭の準備/宮参り/舞の種類(飛違いの舞・巣籠りの舞・祈祷獅子)/ゴシュウギとウタイ/獅子舞の笛＞・・・・・・・・・・553
二　岡泉の神楽と囃子
＜由来・日時/演目と構成/他所での奉納/がっきと神楽面＞・・・・・・574
第二節　祭　礼
一　篠津の天王様＜須賀神社/祭礼/御輿/山車＞・・・・・・577
二　新田の天王様・・・・・・・・・・・・・584
三　柴山の天王様・・・・・・・・・・・・・586
四　玉敷神社のおしっさま＜玉敷神社/行事の日取り/役割分担/村回り/小久喜の事例/千駄野の事例/野牛の事例＞・・・・・・・・590
五　あんば様の祭り
＜由来/お獅子様の各戸訪問/御輿の渡御(村回り)＞・・・・・・・595
第三節　遊　び
一　植物の遊び
＜採る・集める/味わう/染める/ふくらます/鳴らす/いじわる/比べる/とばす/占いなど/おしゃれ/作る・あそぶ/竹の玩具/その他＞・・・・・・598
二　動物の遊び＜捕らえる/させる＞・・・・・・・・・・605
三　屋内の遊び＜おはじき/お手玉(なんご)/しと投げ/紙相撲/着せかえ人魚/折紙/あやとり/こすり出し色鬼/椅子取り/座布団すわり＞・・・・・607
四　屋外の遊び＜こま回し/メンコ/ビー玉/釘さし/たが回し/凧あげ・竹馬/影ふみ/石けり/押しくらまんじゅう/山くずし/石投げ/根ん刈り/根つ木(念柄・念打ち)/ひょうたん鬼/牢屋田んぼ/かんけり/ポコペン/だるまさんころんだ/乞食と王様＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・608
五　あそび唄＜てまり唄(1)~(8)/お手玉唄(1)~(5)/羽根つき唄(1)~(4)/紙風船つき唄/きしゃご遊び唄/手遊び唄/指遊び唄/なわとび唄(1)~(3)/鬼遊び唄/せっせっせっ/ぼたんの花/通りゃんせ/かごめかごめ/唄＞・・612
第十章　口承文芸
第一節　昔話と伝説・・・・・・・・・・・・・・624
一　昔話＜ねずみ浄土/ツバメの借金取り/蛇女房/菖蒲湯のいわれ/縫い針を飲まされて死んだ虹/桃太郎/米俵糠喜/猫踊り/慈照院はチンピロリン/どっこいしょ団子/いっとこ団子/糸合図/屁っぷり嫁ご/ものぐさ/鼻の療治屋/手打ちか半ころしか/聞いただけで千両とられた/仕事は弁当/休みながらためかい/鉄びんのおっこべとけ/湯のしたふったけろ/弘法様の話(1)~(5)/きゅうくっ/灰の縄＞・・・・・・・・・・・・624
二　世間話＜オトカに化かされた話(1)~(4)/オトカの嫁取り(1)~(4)/ムジナに化かされた話/ムジナを捕まえた話/マミ/隠し婆/血採りが出る/「柳やら」の由来/何か忘れてきやしねえか/食いくらべ(1)~(2)/暴徒を防いだ篠津の人々/度胸だめし＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・646
三　伝説＜八幡太郎駒つなぎの杉/駒つなぎの松/片葉の葦/鷹匠湯由/地名の来/ある聖の墓/塚の越塚/東光院塚/根精塚/行人塚の話/神馬社の由来/神馬社と,でか清さん/竜神と娘/筆子地蔵/忠恩寺の地蔵＞・・・・・・・・・・・・・658
第二節　ことわざと謎・・・・・・・・・・・・・667
一　ことわざ・・・・・・・・・・・・・・・・668
二　謎　1　二段式の謎・・・・・・・・・・・674
2　三段式の謎・・・・・・・・・・・・・676
あとがき
民俗編執筆者／民俗部会調査員・協力者／資料・写真提供者／民俗調査協力者／白岡町史関係者名簿

平成２年３月27日　発行
白　岡　町

資料030『草加市史　民俗編』

昭和62年３月

目　次

Ⅰ　緒　論ー草加の民俗生活ー
一　自然と歴史・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
二　民俗生活の基盤・・・・・・・・・・・・・・・・・9
三　歳事と生産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
四　宿場と村落・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
Ⅱ　暮らし（生活伝承）
一　概説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
二　衣
1　日常の服装
（1）普段着・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
（2）仕事着・①　野良着・・・・・・・・・・42
②　職人の着物・商人の着物・・50
（3）子どもの服装・・・・・・・・・・・・・58
2　晴の日の服装（1）晴れ着・・・・・・・・・63
（2）ヨソユキ・・・・・・・・79
3　衣服の調達と管理・・・・・・・・・・・・・・82
三　食
1　日常の食事（1）食事・・・・・・・・・・85
（2）主食物・・・・・・・・・89
（3）副食物・・・・・・・・・93
（4）調味料・・・・・・・・・98
（5）間　食・・・・・・・・・101
2　晴の日の食事
（1）餅・団子・・・・・・・・・・・・・・・・102
（2）赤飯・小豆飯・・・・・・・・・・・・・・・114

（3）麺　類・・・・・・・・・・・・・・・・・118
（4）粥・・・・・・・・・・・・・・・・・・・119
（5）副食物（その他の行事食）・・・・・・・120
3　民間医薬・・・・・・・・・・・・・・・・125
（1）植　物・・・・・・・・・・・・・・・・126
（2）生き物（動物・昆虫・魚など）・・・・・134
（3）その他の民間医薬・・・・・・・・・・・140
四　住
1　屋敷構え・・・・・・・・・・・・・・・・142
（1）草加宿の屋敷構え・・・・・・・・・・144
（2）農村部の屋敷構え・・・・・・・・・・146
2　母　屋
（1）間取り・・・・・・・・・・・・・・・・149
（2）九左衛門新田(旭町)の場合・・・・・・158
（3）各部屋の名称と機能・・・・・・・・・169
（4）各部屋の特徴・・・・・・・・・・・・171
（5）暖房・燃料・照明・・・・・・・・・・176
（6）屋根　①　茅葺屋根の場合・・・・・・179
②　瓦葺屋根の場合・・・・・・181
（7）風　呂・・（8）井　戸・・・・・・・・185
3　付属屋・・・・・・・・・・・・・・・・187
4　建築儀礼・・・・・・・・・・・・・・・193
Ⅲ　社会（社会伝承）
一　概　説・・・・・・・・・・・・・・・・201
二　ムラの社会生活
1　ムラのしくみ
（1）ムラの範囲と区分
①　村とムラ・・・・・・・・・・・・・・215
②　ムラ境・・・・・・・・・・・・・・・217
③　ムラ組と近隣組・・・・・・・・・・・219
（2）ムラの組織と運営
①　ムラの役職・・・・・・・・・・・・・228
②　ムライリ・ナカマイリ・・・・・・・・234
③　ムラの共有財産・・・・・・・・・・・237
④　ムラの共同作業・・・・・・・・・・・239
（3）ムラの諸集団　①　氏子組織・・・・・240
②　講集団・・・・・・・240
③　年齢集団・・・・・・248
2　イエの仕組み
（1）家族の構成と生活
①　名称と呼称・・・・・・・・・・・・・253
②　家族の役割・・・・・・・・・・・・・255
③　奉公人・・・・・・・・・・・・・・・257
④　屋号・・・・⑤　家例・・・・・・・・258
⑥　相続・・・・⑦　養子・・・・・・・・260
⑧　隠居・・・・・・・・・・・・・・・・261
（2）本家分家と種類・・・・・・・・・・・268
三　マチ(宿)の社会生活
1　マチ(宿)の民俗・・・・・・・・・・・・268
2　マチ(宿)のしくみ
（1）マチの範囲と区分・・・・・・・・・・269
（2）草加宿から草加市へ・・・・・・・・・272
（3）マチ(宿)ノ組織と運営・・・・・・・・277
（4）マチ(宿)の諸集団と慣行・・・・・・・280
（5）現在の町会組織・・・・・・・・・・・282
（6）交　易・・・・・・・・・・・・・・・286
3　イエのしくみ
（1）家族の構成と生活・・・・・・・・・・304
（2）親族の名称と範囲・・・・・・・・・・310
（3）交際互助慣行・・・・・・・・・・・・312
（4）マチの職業の変遷・・・・・・・・・・319
Ⅳ　生産生業（生産伝承）
一　概　説・・・・・・・・・・・・・・・・323
二　マチのなりわい
1　宿駅から商店街へ・・・・・・・・・・・331
2　米穀商（1）米問屋・・・・・・・・・・332
（2）精米小売り・・・・・・・・・・336
3　せんべい屋（1）由来・沿革・・・・・・338
（2）生地屋・・・・・・・・・339
（3）焼　屋・・・・・・・・・343
4　ゆかた染め（1）由来と概況・・・・・・347
（2）晒・・・・・・・・・・・349
（3）白張・形付け・・・・・350
（4）染　色・・・・・・・・353
5　諸　職・・・・・・・・・・・・・・・・356
三　ムラの生産生活
1　農業経営と管理
（1）耕作物と地域・・・・・・・・・・・・364
（2）用水の利用と管理・・・・・・・・・・368
（3）肥料の調達・・・・・・・・・・・・・370
（4）農耕馬の調達・・・・・・・・・・・・372
（5）労働力の調達・・・・・・・・・・・・373
2　農耕技術
（1）稲　作・・・・・・・・・・・・・・・374
（2）稲作以外の水田耕作・・・・・・・・・392
（3）畑　作・・・・・・・・・・・・・・・398
3　生産暦（1）水田作物・・・・・・・・・408
（2）畑作物・・・・・・・・・411
Ⅴ　まつり・信仰（信仰伝承）
一　概　説・・・・・・・・・・・・・・・・415
二　家のまわり(年中行事)
1　正月行事・・・・・・・・・・・・・・・433
（1）行事と暦日・・・・・・・・・・・・・433
（2）正　月　①　正月の準備・・・・・・・434
②　正月飾り・・・・・・・・437
③　大晦日・・・・・・・・・442
④　大正月・・・・・・・・・444
⑤　小正月・・・・・・・・・454
2　春・夏の行事
（1）二月・三月の行事・・・・・・・・・・463
（2）四月・五月の行事・・・・・・・・・・469
（3）六月・七月の行事・・・・・・・・・・473
3　盆行事事
（1）七夕の行事・・・・・・・・・・・・・475
（2）盆の行事・・・・・・・・・・・・・・478
4　秋・冬の行事
（1）九月・十月の行事・・・・・・・・・・493
（2）十一月・十二月の行事・・・・・・・・500
三　村のまつり
（1）宿場の祭り・・・・・・・・・・・・・504
（2）初　午・・・・・・・・・・・・・・・516
（3）ヒャクマンベン(百万遍)・・・・・・・519
（4）花祭り・・・・・・・・・・・・・・・526
（5）ダイハンニャ(大般若)・・・・・・・・529
（6）オビシャ・・・・・・・・・・・・・・554
（7）虫追い・・・・・・・・・・・・・・・556
（8）テンノウサマ(天王様)・・・・・・・・571
（9）オヒマチ・・・・・・・・・・・・・・581
(10) 蛇ねじり・・・・・・・・・・・・・・584
(11) オミキ・・・・・・・・・・・・・・・586
四　人の人生
1　誕生（1）妊　娠・・・・・・・・・・・590
（2）出　産・・・・・・・・・・・597
（3）誕生儀礼・・・・・・・・・・607
（4）育　児・・・・・・・・・・・614
（5）子ども・・・・・・・・・・・616
2　結婚（1）結婚の条件・・・・・・・・・618
（2）婚約の成立・・・・・・・・・622
（3）婚　礼・・・・・・・・・・・627
（4）嫁の里帰り・・・・・・・・・638
3　死　（1）死の予兆・・・・・・・・・・639
（2）死者の処理・・・・・・・・・640

（3）葬　送・・・・・・・・・・・・・648
4　死　後（1）忌明け・・・・・・・・・・・・666
（2）年　忌・・・・・・・・・・・・668
五　信　仰
1　講
（1）代参講―遠隔地社寺への信仰―
①　講の目的と分布・・・・・・・・・・・670
②　講の組織・・・・・・・・・・・・・・674
③　講の運営・・・・・・・・・・・・・・676
④　各講の実際・・・・・・・・・・・・・680
（2）巡行―ムラの周辺をめぐる信仰―
①　三郡送り大師講・・・・・・・・・・・711
②　大正記念大師講・・・・・・・・・・・716
③　夏祈祷・・・・・・・・・・・・・・・718
（3）村の中の講―追善・祈り・娯楽と信仰―
①　念仏講・・・・・・・・・・・・・・・720
②　観音行・・・・・・・・・・・・・・・732
2　屋内の神・屋外の神
（1）屋内の神
①　神を祀る場所・・・・・・・・・・・・734
②　神棚に祀る神・・・・・・・・・・・・736
③　神の祀り方・・・・・・・・・・・・・738
④　荒　神・・・・・・・・・・・・・・・740
（2）屋外の神
①　屋敷神・・・・・・・・・・・・・・・741
②　稲荷社の祭り・・・・・・・・・・・・744
③　その他の屋敷神・・・・・・・・・・・745
3　俗　信
（1）禁　忌・・・・・・・・・・・・・・・753
（2）呪　い・・・・・・・・・・・・・・・765
4　前兆・予知
（1）前　兆・・・・・・・・・・・・・・・770
（2）占　い・・・・・・・・・・・・・・・783
5　民間療法(呪いによる療法)・・・・・・・784
Ⅵ　ことば・芸能（言語・行動伝承）
一　概　説・・・・・・・・・・・・・・・795
二　伝　説　1　地名起源の伝説・・・・・・807
2　塚にまつわる伝説・・・・・・・・・・808
3　神々にまつわる伝説・・・・・・・・・809
4　地蔵の伝説・・・・・・・・・・・・・815
5　薬師の伝説・・・・・・・・・・・・・818
6　観音の伝説・7　その他の神や仏の伝説・819
8　旅の僧の伝説・・・・・・・・・・・・821
9　動物・妖怪の伝説・・・・・・・・・・822
10　世間話・・・・・・・・・・・・・・・827
三　民謡・童話
1　民謡（1）祝い唄・・・・・・・・・・・837
（2）行事唄・・・・・・・・・・・・850
（3）仕事唄・・・・・・・・・・・・852
（4）踊り歌・余興歌・・・・・・・・858
（5）「うた」の伝承と定着
①　「うた」の運搬者・・・・・・871
②　「うた」の伝承者・・・・・・873
2　童謡（1）遊び歌・・・・・・・・・・・885
（2）囃し歌・・・・・・・・・・・・893
（3）子守り歌・・・・・・・・・・・897
四　諺・謎
1　諺・・・・・・・・・・・・・・・・・899
（1）天候に関するもの・・・・・・・・・900
（2）批判・攻撃的なもの・・・・・・・・901
（3）知識・教訓的なもの・・・・・・・・902
2　謎・・・・・・・・・・・・・・・・・906
五　民俗芸能
1　万　作・・・・・・・・・・・・・・・908
（1）柿木町の万作・・・・・・・・・・・909
（2）氷皮町の万作・・・・・・・・・・・913
（3）稲荷町の万作・・・・・・・・・・・919
（4）谷塚町の万作・・・・・・・・・・・935
2　里神楽・・・・・・・・・・・・・・・936
（1）柿木町の神楽・・・・・・・・・・・937
（2）手代町の神楽・・・・・・・・・・・943
3　祭り囃子と太鼓・・・・・・・・・・・980
（1）氷川町の祭り囃子・・・・・・・・・981
（2）八幡町の八幡太鼓・・・・・・・・・982
六　遊　戯
1　童　戯・・・・・・・・・・・・・・・985
（1）玩　具　①　買い求める玩具・・・・・985
②　手作りの玩具・・・・・・987
（2）遊　び　①　屋外の遊び・・・・・・・993
②　屋内の遊び・・・・・・1007
（3）子供の年中行事・・・・・・・・・1012
2　競　技・・・・・・・・・・・・・・1013
3　娯　楽・・・・・・・・・・・・・・1016
あとがき
資料提供者および調査・編集等協力者／
「草加市史 民俗編」／　草加市民俗調査団／
草加市史編さん関係者名簿

昭和62年３月９日　発行
草　加　市

資料031『玉川村の民俗』

平成3年12月

目　次

はじめに＜玉川村の民俗／年中行事とは／人の人生／村の生業／村の口頭伝承＞・・・1
第一章　年中行事・・・・・・・・・・・・・・・5
第二章　人の人生・・・・・・・・・・・・・・・22
第三章　村の生業・・・・・・・・・・・・・・・34
第四章　村の口頭伝承・・・・・・・・・・・・・60
第五章　村の祭り・・・・・・・・・・・・・・・69
資料提供者／協力者名簿／執筆者・
村史編さん調査協力者名簿
村史編さん事務局員名簿

平成３年12月25日　発行
玉　川　村

資料032『鶴ケ島町史　民俗社会編』

平成４年３月

目　次

第一章　背　景
第一節　自然　1　地形・地質・・・・・・・・・・2
2　気候と植生・・・・・・・・・・4
第二節　歴史・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
第三節　地名　1　境界と地名の変遷・・・・・・10
2　鶴ケ島の地名の特徴・・・・・10
3　鶴ケ島という地名・・・・・・11
4　小字名等・・・・・・・・・・12
第四節　字誌
1　大字脚折・・・・・・・・・・・・・・・・16
2　大字高倉・・・・・・・・・・・・・・・・18
3　大字下新田・・・・・・・・・・・・・・・20
4　大字中新田・・・・・・・・・・・・・・・21
5　大字上新田・・・・・・・・・・・・・・・22
6　大字町屋・・・・・・・・・・・・・・・・24
7　大字三ツ木，三ツ木新田・・・・・・・・・25
8　大字太田ケ谷・・・・・・・・・・・・・・27
9　大字藤金・・・・・・・・・・・・・・・・29
10　大字上広谷・・・・・・・・・・・・・・・30
11　大字五味ケ谷・・・・・・・・・・・・・・31

12　旧大字大塚野新田(現富士見1丁目/富士見6丁目)・・・・33
第二章　村　　落
第一節　ムラの形成と空間配置
1　概観・・・2　中世に成立した集落・・・・36
3　近世に成立した集落・・・・・・・・・・・・40
4　中間形態を持つ集落・・・・・・・・・・・・42
第二節　ムラの組織
1　組織の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・46
2　ムラの寄り合い・・・・・・・・・・・・・・48
第三節　ムラの活動
1　共有財産の運営・・・・・・・・・・・・・・49
2　共同の活動・・・・・・・・・・・・・・・・51
第四節　ムラの生活と諸集団
1　概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
2　年齢を軸にした集団・・・・・・・・・・・・54
3　経済互助を目的にした集団・・・・・・・・・56
4　その他の集団・・・・・・・・・・・・・・・56
第五節　近隣集団・・・・・・・・・・・・・・・57
第六節　近隣集団のツキアイ
1　クミアイのツキアイ・・・・・・・・・・・・60
2　ムラのツキアイとスグジ道・・・・・・・・・61
第七節　近隣集団の活動
1　脚折におけるクミ・・・・・・・・・・・・・61
2　脚折と三ツ木におけるクミアイと班・・・・62
第三章　生　　業
第一節　鶴ケ島の農業
1　鶴ケ島の農業の歴史・・・・・・・・・・・・64
2　農家の階層と労働力・・・・・・・・・・・・68
3　労働と休日（正月）・・・・・・・・・・・・69
第二節　稲作
1　鶴ケ島の水田・・・・・・・・・・・・・・・78
2　摘み田による稲作・3　摘み田の作業工程・・79
4　摘み田から植田へ・・・・・・・・・・・・・81
5　陸稲栽培・・・・・・・・・・・・・・・・・82
第三節　養蚕
1　明治時代以降の養蚕の動向・・・・・・・・・83
2　養蚕のプロセス・・・・・・・・・・・・・・85
3　養蚕製造業者・・・4　養蚕言葉・・・・・92
第四節　茶業
1　河越茶から狭山茶へ・・・・・・・・・・・・95
2　近代の狭山茶・・・・・・・・・・・・・・・96
3　鶴ケ島の茶業・・・・・・・・・・・・・・・97
第五節　諸職
1　鶴ケ島の諸職・・・・・・・・・・・・・・・99
2　ムラの諸職・・・・・・・・・・・・・・・・103
3　諸職の事例・・・・・・・・・・・・・・・・104
第六節　交通
1　道の種類・・・・・・・・・・・・・・・・・112
2　道の種類・・・・・・・・・・・・・・・・・115
3　道の管理・・・・・・・・・・・・・・・・・117
4　乗合馬車から乗合自動車へ・・・・・・・・・118
5　鉄道・・・・・・・・・・・・・・・・・・・119
第四章　イエと家族
第一節　イエの特性
1　構造的特色・・・2　イエの表象・・・・・122
3　イエの相続・・・・・・・・・・・・・・・・127
4　イエ内の人間関係・・・・・・・・・・・・・130
第二節　イエと祖先祭祀
1　センゾの観念・・・・・・・・・・・・・・・133
2　センゾの位牌・・・・・・・・・・・・・・・134
3　センゾの祀り・・・・・・・・・・・・・・・136
第三節　イエと女の一生・・・・・・・・・・・・137
第四節　イエの家族構成・・・・・・・・・・・・141
第五節　生活空間としてのイエ
1　建物としての家と屋敷・・・・・・・・・・143
2　生産空間としての家と屋敷・・・・・・・・152
3　生活空間としての家と屋敷・・・・・・・・154
4　住居の変化とその要因・・・・・・・・・・163
第五章　親　族
第一節　イッケ
1　概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・168
2　三ツ木におけるイッケの事例・・・・・・・169
3　五味ケ谷におけるイッケの事例・・・・・・173
4　鶴ケ島のイッケと他地方の本分家集団との比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・174
5　鶴ケ島のイッケと父系集団との比較・・・・174
第二節　シンセキ・・・・・・・・・・・・・・・177
第二節　婚姻圏・・・・・・・・・・・・・・・・179
第三節　親族間における交際の諸相・・・・・・181
第六章　人の人生
第一節　概観　1　人生の節目と儀礼・・・・・188
2　儀礼の背景・・・・・・・・・188
第二節　妊娠と出産
1　妊娠・・・・・・・・・・・・・・・・・・・189
2　出産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・192
3　産後・・・・・・・・・・・・・・・・・・・193
第三節　育児　1　初誕生まで・・・・・・・・・194
2　子供の成長・・・・・・・・・199
第四節　青年期・・・・・・・・・・・・・・・・201
第五節　婚姻
1　婚礼以前・・・・・・・・・・・・・・・・・203
2　婚礼・・・・・・・・・・・・・・・・・・・209
3　婚礼以降・・・・・・・・・・・・・・・・・216
4　入籍と離婚・・・・・・・・・・・・・・・・217
第六節　厄年と年祝い
1　厄年・・・・・・2　年祝い・・・・・・・218
第七節　葬送
1　死・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・220
2　死後の処理と通夜・・・・・・・・・・・・221
3　葬送・・・・・・・・・・・・・・・・・・・225
第八節　死生観と供養
1　ブクと死生観・・・・・・・・・・・・・・・233
2　年忌と先祖供養・・・・・・・・・・・・・・236
3　墓制と位牌・・・・・・・・・・・・・・・・238
第七章　年中行事
第一節　概観
1　年中行事について・2　年中行事の内容・・242
第二節　正月の行事
1　正月の準備・・・・・・・・・・・・・・・・243
2　大正月・・・・・・・・・・・・・・・・・・251
3　小正月・・・・・・・・・・・・・・・・・・256
第三節　春の行事
1　一月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・258
2　二月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・261
3　三月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・268
4　四月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・272
第四節　夏の行事
1　五月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・274
2　六月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・277
3　七月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・278
4　八月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・283
第五節　盆
1　盆月・・・・・2　盆の準備・・・・・・・284
3　盆行事・・・・・・・・・・・・・・・・・・286
第六節　秋から冬の行事
1　九月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・290
2　十月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・291
3　十一月の行事・・・・・・・・・・・・・・・294
4　十二月の行事・・・・・・・・・・・・・・・297
第八章　信　仰
第一節　ムラの神社
1　概観・・・・・2　白鬚神社・・・・・・・300

3　日枝神社・・・・・・・・・・・・・・・・・302
4　羽折稲荷神社・・・・・・・・・・・・・・・303
5　神明神社・・・・・・・・・・・・・・・・・304
6　日枝神社・・・・・・・・・・・・・・・・・305
7　高徳神社・・・・・・・・・・・・・・・・・306
8　その他の神社・・・・・・・・・・・・・・・308
9　屋内神・・・・・・・・・・・・・・・・・・309
第二節　ムラの寺院
1　概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・311
2　善能寺・・・・・・・・・・・・・・・・・・313
3　慈眼寺・・・・・・・・・・・・・・・・・・314
4　満福寺・・・・・・・・・・・・・・・・・・316
5　法昌寺・・・・・・・・・・・・・・・・・・317
6　正音寺・・・・・・・・・・・・・・・・・・318
第三節　石造遺物
1　概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・319
2　石仏・・・・・・・・・・・・・・・・・・・320
3　石塔・・・・・・・・・・・・・・・・・・・321
4　石碑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・322
5　石祠・・・・・・・・・・・・・・・・・・・323
第四節　共同祈願
1　ムラ祈祷・・・・・・・・・・・・・・・・・324
2　雨乞い・・・・・・・・・・・・・・・・・・325
第五節　信仰的講集団
1　講の種類・・・・2　代参講・・・・・・・328
第六節　民間宗教者
1　概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・331
2　修験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・332
3　御嶽講・・・・・・・・・・・・・・・・・・333
第九章　民俗芸能と遊び
第一節　概観・・・・・・・・・・・・・・・・・338
第二節　高倉の獅子舞
1　概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・339
2　名称・・・3　日時・・・4　場所・・・・340
5　組織及び諸役・・・・・・・・・・・・・・340
6　被りもの，服装・・・・・・・・・・・・・341
7　練習，準備・・・・・・・・・・・・・・・343
8　祭当日・・・・・・・・・・・・・・・・・344
9　順路及び舞曲・・・・・・・・・・・・・・345
10　曲目，舞・・・・・・・・・・・・・・・・347
11　獅子の褒め言葉，返し言葉・・・・・・・347
12　高倉の獅子舞の特徴・・・・・・・・・・348
第三節　民謡
1　概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・350
2　仕事唄・・・・・・・・・・・・・・・・・・351
第四節　子供の遊び
1　概観・・・・・2　遊びの種類・・・・・・354
第十章　口承伝承
第一節　概観・・・・・・・・・・・・・・・・・364
第二節　伝説
1　鶴ケ島の鶴と松・・・・・・・・・・・・・365
2　鶴ケ島，脚折，羽折・・・・・・・・・・・365
3　ケツアブリ(=尻灸り)・・・・・・・・・・365
4　雷電池と雨乞の龍・・・・・・・・・・・・366
5　日本武尊と脚折の坂・・・・・・・・・・・367
6　高麗人と白鬚神社・・・・・・・・・・・・367
7　白鬚神社の大欅と蛇の話・・・・・・・・・367
8　高倉と高倉福信・・・・・・・・・・・・・368
9　旧高福寺の不動尊掛け軸・・・・・・・・・368
10　オカネガ井戸・11　高倉のお雷電様・・・・369
12　上新田・中新田の出入りと正月の餅・・・・369
13　三ツ木という地名・・・・・・・・・・・・370
14　鎌倉街道と逆木の池・・・・・・・・・・・370
15　逆木ノ池・・・・・・・・・・・・・・・・371
16　ダイダラボッチと逆木・・・・・・・・・・372
17　埋蔵された宝物・18　岸田正信と和泉橋・・372
19　太田ケ谷の地名・・20　孝女ちか・・・・・372
21　瘡守稲荷・・・・・・・・・・・・・・・・373
22　長龍寺の狸・・・・・・・・・・・・・・・374
23　藤株稲荷・・・・・・・・・・・・・・・・375
24　ブッキラレ坂・・25　オクニガ池・・・・・376
26　上広谷の天王様・・・・・・・・・・・・・376
27　腹を立てたささら獅子・・・・・・・・・・377
28　六部の墓・・・・・・・・・・・・・・・・378
第三節　世間話
1　神明社の台石・2　前方地蔵の祟りの話・・378
3　オトーカの話・・・・・・・・・・・・・・379
4　大蛇の話・・・・・・・・・・・・・・・・381
第四節　諺・俗信・禁忌
1　諺・・・・・・・・・・・・・・・・・・・382
2　俗信・・・・・・・・・・・・・・・・・・385
3　禁忌・・・・・・・・・・・・・・・・・・391
第五節　地元の言葉と口承伝承
1　挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・394
2　子供の頃・・・・・・・・・・・・・・・・395
3　オカネガ井戸・・・・・・・・・・・・・・396
4　ケツアブリ(=尻灸り)・・・・・・・・・・397
5　薬師様と不動の掛け軸・・・・・・・・・・398
6　時代の違い・・・・・・・・・・・・・・・399
7　日枝神社・獅子舞・六地蔵・・・・・・・・400
8　回避作物・・・・・・・・・・・・・・・・401
9　家屋と生活・・・・・・・・・・・・・・・402
10　民間療法・・・・・・・・・・・・・・・・403
第十一章　ライフ・ヒストリー
第一節　トピック別回想
1　子ども時代・・・・・・・・・・・・・・・408
2　娘時代・・・・・・・・・・・・・・・・・410
3　結婚・・・・・・・・・・・・・・・・・・413
4　嫁の時代・・・・・・・・・・・・・・・・416
5　産育・・・・・・・・・・・・・・・・・・419
6　主婦の時代・・・・・・・・・・・・・・・422
7　老年時代・・・・・・・・・・・・・・・・425
第二節　自分史
1　生家・・・・・・・・・・・・・・・・・・427
2　子供の頃・・・・・3　娘時代・・・・・・428
4　結　婚・・・・・・・・・・・・・・・・・429
5　嫁の苦労・・・・・・・・・・・・・・・・432
6　農家の生活・・・・・・・・・・・・・・・433
7　嫁と実家・・・・・・・・・・・・・・・・434
8　嫁の外出・・・・・・・・・・・・・・・・435
9　お客日・・・・・・・・・・・・・・・・・436
10　子育て・・・・・・・・・・・・・・・・・437
11　戦争の頃・・・・・・・・・・・・・・・・438
12　食生活・・・・・・・・・・・・・・・・・439
13　怪我とお針・・・・・・・・・・・・・・・442
14　辛かった思い出，楽しかった思い出・・・・442
15　結　び・・・・・・・・・・・・・・・・・443
あとがき
町史編さん関係者・協力者名簿

平成４年３月23日　発行
鶴　ケ　島　市

資料033『所沢市史　民俗』

平成1年3月

目　次

第一章　地域概観・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第一節　地理と自然
1　地理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
2　自然・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
第二節　歴史と市の沿革

1　歴史の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
2　市の沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第二章　ムラと家・・・・・・・・・・・・・・・・・15
第一節　ムラの社会生活
1　北野海谷組の事例・・・・・・・・・・・・・17
2　集落の構成と付き合いの諸相・・・・・・・19
3　共同作業など・・・・・・・・・・・・・・・22
4　江戸時代の五人組・・・・・・・・・・・・・23
第二節　マチの社会組織
1　マチの範囲・・・・・・・・・・・・・・・・25
2　マチの組織と機能(1)　町会・・・・・・・・27
(2)　組・・・・・・・・・35
3　年齢集団(1)　子供・(2)　青年・壮年・・・36
(3)　婦人・・・・・・・・・・・・37
(4)　老人・・・・・・・・・・・・38
4　利益組合(1)　井戸・上水道組合・・・・・・38
(2)　街灯組合・・・・・・・・・・44
第三章　生産生業・・・・・・・・・・・・・・・・47
第一節　農　業
1　労働(1)　労働と休日・・・・・・・・・・・49
(2)　農家経営と労働力・・・・・・・・49
(3)　相互扶助と雇用労働・・・・・・・52
(4)　子供と労働・・・・・・・・・・・56
2　稲作(1)　水田の分布と水稲栽培の特色・・・57
(2)　植田の技術伝承・・・・・・・・・58
(3)　摘田の技術伝承　・・・・・・・・63
3　畑作・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
(1)　麦・・・・・・・・・・・・・・・67
4　さつま芋の栽培・・・・・・・・・・・・・75
(1)　栽培技術・・・・・・・・・・・・76
(2)　貯蔵と出荷・・・・・・・・・・・78
(3)　儀礼・・・・・・・・・・・・・・79
5　茶の栽培と製茶・・・・・・・・・・・・・80
6　養　蚕・・・・・・・・・・・・・・・・・86
7　その他の農作物・・・・・・・・・・・・・90
第二節　地場産業
1　所沢飛白
(1)　発祥から衰退まで・・・・・・・・・・92
(2)　所沢飛白の特徴・・・・・・・・・・93
(3)　所沢飛白の製造工程・・・・・・・・96
(4)　機　屋・・・・・・・・・・・・・112
(5)　織り娘・・・・・・・・・・・・・115
2　所沢人形・・・・・・・・・・・・・・・125
(1)　「所沢人形」の実態・・・・・・・・126
(2)　雛人形・・・・・・・・・・・・・128
(3)　押絵羽子板・・・・・・・・・・・133
3　安松笊・・・・・・・・・・・・・・・・140
(1)　竹細工の製作・・・・・・・・・・141
(2)　竹の仕入れ・(3)　道具と工程・・・・142
第三節　諸　職
1　箒　屋・・・・・・・・・・・・・・・・145
2　桶　屋
(1)　製品・・・・・・・・・・・・・147
(2)　製作方法・・・・・・・・・・・150
(3)　修業(4)　桶屋職人のプロフィール・152
(5)太子講・・・・・・・・・・・・・154
3　菓子屋・・・・・・・・・・・・・・・・154
(1)　第二次世界大戦中の菓子屋・・・・155
(2)　年中行事と人生儀礼の和菓子・・・・156
(3)　和菓子屋の仕事場と信仰・・・・・157
4　箪笥屋　(1)　加工販売・・・・・・・・157
5　豆腐屋・・・・・・・・・・・・・・・・158
6　棒　屋・・・・・・・・・・・・・・・・161
7　鍛冶屋・・・・・・・・・・・・・・・・162
第四章　年中行事・・・・・・・・・・・・・・・165
第一節　概　観・
1　年中行事について・・・・・・・・・・・167
2　年中行事の特徴・・・・・・・・・・・・171
3　行事内容について
(1)　正月の準備・・・・・・・・・・・172
(2)　大正月・・・・・・・・・・・・・175
(3)　蔵開き・・・・(4)　小正月・・・・・177
(5)　恵比須講・・・(6)　初午・・・・・・181
(7)　節分・・・・・・・・・・・・・・・183
(8)　女の節供・・(9)　男の節供・・・・・184
(10)　七夕・・・・・・・・・・・・・・・184
(11)　盆・・・・・・・・・・・・・・・185
(12)　十五夜・十三夜・・・・・・・・・・188
(13)　オカマサマ(お釜様)・(14)　亥の子・・・189
(14)　恵比須講・・・・・・・・・・・・・190
第二節　年中行事の事例
1　中富ＳＳ家の事例
(1)　正月行事・・・・・・・・・・・・・191
(2)　節分・・・・(3)　初午・・・・・・・194
(4)　藪入り・・・(5)　女の節供・・・・・195
(6)　春の彼岸・・(7)　春祈祷・・・・・・195
(8)　男の節供・・(9)　ボンコ・・・・・・196
(10)　盆・・・・・(11)　十五夜　・・・・・196
(12)　十三夜・・・(13)　亥の子・・・・・・197
(14)　秋祈祷・・・(15)　恵比須講・・・・・197
(16)　オカマサマ・(17)　サツマホリ正月・・197
(18)　冬至・星祭り・・・・・・・・・・・197
2　中富ＳＴ家の事例
(1)　正月行事・・・・・・・・・・・・・198
(2)　節分・(3)　恵比須講・(4)　初午・・200
(5)　春の彼岸(6)　女の節供(7)　男の節供201
(8)　ショウゴジマイ(9)　ボンコ(10)　盆・201
(11)　二百十日・・・(12)　十五夜・・・・・202
(13)　オヒマチ(お日待ち)・・・・・・・・・202
(14)　十三夜・(15)　オカマサマ(お釜様)・・・203
(16)　イノコ(亥の子)・・・(17)　恵比須講・・203
(18)　冬至　・・・・・・・・・・・・・・203
3　北野Ｏ家の事例
(1)　正月行事・・・・・・・・・・・・・203
(2)　ジロウノツイタチ(次郎の朔日)・(3)　節分・207
(4)　初午・(5)　女の節供・(6)　春の彼岸・208
(7)　天神様の祭礼・・・・・・・・・・・209
(8)　シガツヨウカ(四月八日)・・・・・・・209
(9)　榛名講・・(10)　御獄講・平方講・・・209
(11)　五月節供(男の節供)・(12)　上棟祝い・・・209
(13)　半夏・・(14)　七夕・・(15)　盆・・・210
(16)　八削の節供・・・(17)　十五夜・・・・212
(18)　十三夜・・(19)　オカマサマ(お釜様)・・213
(20)亥の子(亥の子)・・・・・・・・・・・213
(21)　カマアライ・(22)　ドジョウガユ・・・213
(23)　アナップサギマンジュウ・・・・・・214
(24)　恵比須講・(25)　ノアゲノダン・・・・214
4　大字城Ａ家の事例
(1)　正月の行事・・・・・・・・・・・・214
(2)　節　分・・・・・・・・・・・・・217
(3)　春・夏の行事・・・・・・・・・・・219
(4)　盆行事・・・・・・・・・・・・・・222
(5)　秋・冬の行事・・・・・・・・・・・224
第五章　信　仰・・・・・・・・・・・・・・・・227
第一節　神社と寺院
1　市内の神社・寺院の信仰と年中行事・・・・229
(1)　神社及び寺院の概要・・・・・・・・230
(2)　社寺の年中行事一覧・・・・・・・・232
(3)　神社の行事と寺院の行事・・・・・・240
2　市外の神社・寺院の信仰と年中行事・・・・241
(1)　今井の荒神様・(2)　宮寺の馬鳴様・・242
(3)　木の宮地蔵(富の地蔵)の祭礼・・・・・243

3　社寺・小堂の祭りと神事・・・・・・・・・245
（1）久米の初水天宮・・・・・・・・・・・247
（2）本郷上組の乳不動講初護摩・・・・・・248
（3）久米長久寺豊川稲荷の初午・・・・・・250
（4）坂之下の金毘羅堂大祭・・・・・・・・251
（5）坂稲荷の初午・・・・・・・・・・・・252
（6）北野天神社の春祭り・・・・・・・・・253
（7）日比田氷河神社の神楽・・・・・・・・255
（8）多聞院の大般若経転読・・・・・・・・256
（9）宮本町新光寺の馬のまち・・・・・・・257
（10）東住吉町豊川稲荷の大祭・・・・・・・259
（11）北秋津富士塚の山開き・・・・・・・・259
（12）有楽町の天王様・・・・・・・・・・・261
（13）北秋津の天王様・・・・・・・・・・・263
（14）安松の天王様・・・・・・・・・・・・265
（15）上新井の厄除け獅子・・・・・・・・・266
（16）久米の天王様・・・・・・・・・・・・267
（17）山口堀之内の地蔵祭り・・・・・・・・269
（18）囃子の天王様・・・・・・・・・・・・270
（19）下富の天王様・・・・・・・・・・・・272
（20）西所沢三ツ井戸の弘法様・・・・・・・275
（21）原の地蔵祭り・・・・・・・・・・・・276
（22）和田の地蔵祭り・・・・・・・・・・・278
（23）日比田の地蔵祭り・・・・・・・・・・279
（24）元町法華寺の炮烙灸・・・・・・・・・279
（25）北の天神社の秋祭り(芝居)・・・・・・280
（26）糀谷八幡神社のヤブサメ・・・・・・・281
（27）山口観音の十夜・・・・・・・・・・・283
（28）北岩岡のお念仏・・・・・・・・・・・285
（29）西新井町熊野神社の若注連神事・・・・287
（30）東町庚申堂のオヒマチ・・・・・・・・288
（31）和泉のまわり地蔵・・・・・・・・・・289
4　講と生活
（1）榛名講・・・・・・・・・・・・・・・292
（2）戸隠講・・・・・・・・・・・・・・・293
（3）御嶽講・・・・・・・・・・・・・・・296
（4）平方平心講・・・・・・・・・・・・・297
（5）古峯講・・・・・・・・・・・・・・・298
（6）富士講・・・・・・・・・・・・・・・300
5　絵馬の奉納・・・・・・・・・・・・・・303
6　所沢の山車祭り
（1）神明社祭礼の山車引き回し・・・・・・307
（2）大正期以降の山車引き回し・・・・・・309
（3）山車祭りの実際・・・・・・・・・・・310
（4）町内の準備・・・・・・・・・・・・・312
（5）山車の編成とひき出し・・・・・・・・312
（6）山　車・・・・・・・・・・・・・・・316
7　新しい祭り
（1）市民フェスティバル・・・・・・・・・317
（2）新興地域の祭り・・・・・・・・・・・319
第二節　屋敷神と屋内神
1　屋敷神・・・・・・・・・・・・・・・・322
（1）各戸でまつる事例・・・・・・・・・・323
（2）本分家や親戚一族でまつる事例・・・・325
（3）地縁でまつる事例・・・・・・・・・・325
（4）他家へ参拝する事例・・・・・・・・・326
（5）子供たちが屋敷神の前に小屋掛けする事例
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・326
（6）屋敷神の祭場と祭日・・・・・・・・・327
2　屋内神・・・・・・・・・・・・・・・・327
第六章　衣生活・・・・・・・・・・・・・・・331
第一節　仕事着
1　かぶりもの（1）男のかぶりもの・・・・333
（2）女のかぶりもの・・・・335
2　野良着（1）男の野良着・・・・・・・・337
（2）女の野良着・・・・・・・・351
3　履　物（1）男の履物・・・・・・・・・384
（2）女の履物・・・・・・・・・386
4　雨　具・・・・・・・・・・・・・・・・388
第二節　通過儀礼の衣装
1　出産・2　お七夜・3　オビヤケ(初宮参り)・・390
4　初節供・・・・・・5　オビトキ・・・・・391
6　成人・・・・・・・・・・・・・・・・・397
7　婚礼（1）嫁の衣装・・・・・・・・・・397
（2）嫁入りに持ってくる衣類・・・405
（3）婿の衣装・(4)　新客の衣装・・407
8　弔い
（1）死者の装束・・・・・・・・・・・・・408
（2）カケギモノ・・・・・・・・・・・・・409
（3）着物に水を掛ける風習・・・・・・・・409
（4）死者の着物の縁起・・(5)　喪服・・・409
第三節　機織り
1　木綿織
(1)　糸の入手・(2)　染色・(3)　織る・・・412
(4)　織の種類・・・・・・・・・・・・・・414
2　絹（1）製糸・・・・・・・・・・・・・415
（2）染織・・・・・・・・・・・・・・・417
第四節　寝　具・・・・・・・・・・・・・・・419
1　布　団・・・・・・・・・・・・・・・・420
2　夜具・カイマキ・・・・・・・・・・・・422
3　藁布団・・・・
4　枕・・(1)　男の枕・・(2)　女の枕・・・・424
第五節　髪
1　髪型（1）男の髪型・・・・・・・・・・425
（2）女の髪型・・・・・・・・・・426
2　洗髪（1）回数・・(2)　洗髪剤・・・・・433
第七章　食べ物・・・・・・・・・・・・・・・435
第一節　食　制
1　食事の呼称と回数・・・・・・・・・・・437
2　食事の場所と食事の座・・・・・・・・・437
3　食事の作法・・・・・・・・・・・・・・439
第二節　ふだんの食事
1　主　食・・・・・・・・・・・・・・・・439
2　副　食・・・・・・・・・・・・・・・・442
3　間　食・・・・・・・・・・・・・・・・444
4　調味料（1）味噌・・・・・・・・・・・449
（2）醤油・・・・・・・・・・・455
（3）塩と砂糖・・・・・・・・・456
5　飲料水・・・・・・・・・・・・・・・・456
6　調理・・・7　調理用具と食器・・・・・459
第三節　ハレの食事・・・・・・・・・・・・・462
1　アソビヒ(遊び日)の食事・・・・・・・・465
2　農耕儀礼の食事・・・・・・・・・・・・468
3　産育儀礼の食事・・・・・・・・・・・・469
4　御祝儀の食事・・・・・・・・・・・・・470
5　とむらいの食事・・・・・・・・・・・・471
第四節　貯　蔵
1　穀物の貯蔵・・2　野菜・芋類の貯蔵・・・472
第八章　住まい・・・・・・・・・・・・・・・475
第一節　屋敷と家
1　立地と条件・・・・・・・・・・・・・・477
2　母屋と付属棟配置・・・・・・・・・・・480
3　屋敷林・・・・・・・・・・・・・・・・487
4　垣根・・・・・・・・・・・・・・・・・488
5　取付け道・・・・・・・・・・・・・・・489
6　屋敷神・・・・・・・・・・・・・・・・490
第二節　母屋と付属施設
1　農　家
(1)　北野O家・・・・・・・・・・・・・・492
(2)　中富S家・・・・・・・・・・・・・・504
(3)　南永井I家・・・・・・・・・・・・・507
(4)　山口T家・・・・・・・・・・・・・・512

(5) 山口S家・・・・・・・・・・・・・・・516
(6) 下安松I家・・・・・・・・・・・・・・520
2 商 家・・・・・・・・・・・・・・・・・・525
(1) 元町K家商家・・・・・・・・・・・・・526
(2) 元町S家商家・・・・・・・・・・・・・528
3 職人の家
(1) 上安松竹細工屋M家・・・・・・・・・・532
(2) 元町豆腐屋E家・・・・・・・・・・・・535
第三節 井 戸
1 井戸の特色・・・・・・・・・・・・・・・539
2 中富の井戸と井戸組・・・・・・・・・・・541
3 井戸かい・・・・・・・・・・・・・・・・545
第四節 照 明・・・・・・・・・・・・・・・・546
第五節 風 呂・・・・・・・・・・・・・・・・549
第六節 家普請と建築儀礼
1 立て替えの準備・・・・・・・・・・・・・552
2 家の取り壊し・・・・・・・・・・・・・・553
3 地祭り・・4 水盛り・・5 地搗き・・・554
6 上棟式・・・・・・・・・・・・・・・・・555
7 家移り・・・・・・・・・・・・・・・・・556
第九章 交通交易・・・・・・・・・・・・・・・557
第一節 交 通
1 主要道・街道・道しるべ
(1) 主要道・・・・(2) 街道(古道)・・・・559
2 交通の変遷・・・・・・・・・・・・・・・564
3 宿場町と旅籠屋
(1) 旅館・・・・・・・・・・・・・・・・・565
(2) 下宿屋・・・・・・・・・・・・・・・・566
(3) 木賃宿・・・・・・・・・・・・・・・・567
4 古橋と石橋供養塔
(1) 古橋・・・・・・・・・・・・・・・・・567
(2) 石橋供養塔・・・・・・・・・・・・・・568
第二節 交 易
1 所沢の交易・・・・・・・・・・・・・・・570
2 行商と市
(1) ムラに来た行商・・・・・・・・・・・・571
(2) ムラに来た職人・門付け芸人・・・・・575
(3) 所沢の市・物日と露店 ・・・・・・・577
3 問屋と仲買人・・・・・・・・・・・・・・580
(1) 問 屋・・・(2) 仲買人・・・・・・581
4 商 店
(1) 店の定着・・・・・・・・・・・・・・・581
(2) 商店の種類と商店会・・・・・・・・・583
第十章 人の人生・・・・・・・・・・・・・・・585
第一節 概 説・・・・・・・・・・・・・・・587
第二節 日常生活
1 プロフィール・・・・・・・・・・・・・・588
2 子供のころ・・・・・・・・・・・・・・・589
3 青年のころ・・・・・・・・・・・・・・・590
4 壮年のころ・・・・・・・・・・・・・・・591
5 老年のころ・・・・・・・・・・・・・・・598
第三節 儀 礼
1 妊娠と出産
(1) 妊娠・・・・・・・・・・・・・・・・・600
(2) 安産祈願とお礼参り・・・・・・・・・601
(3) 妊娠中の禁忌・俗信・・・・・・・・・604
(4) 出産・・・・・・・・・・・・・・・・・605
(5) 産後の禁忌・・(6) 産婦の食事・・・610
(7) コシュ・・・・(8) お産見舞い・・・611
(9) 異常出産・・・・・・・・・・・・・・・612
2 育児
(1) お七夜・・・・・・・・・・・・・・・・612
(2) 命名・・・・(3) 産毛そり・・・・・613
(4) オビアゲとお宮参り・・・・・・・・・614
(5) 食い初め・・・(6) 初誕生・・・・・615
(7) 初正月・・・・(8) 初節供・・・・・616
(9) 捨子の習俗・・(10) 育児の俗信・・・618
(11) 子守り・・・・(12) 七五三・・・・・619
3 成 人・・・・・・・・・・・・・・・・・・621
4 婚姻
(1) 通婚圏・・・・(2) 結婚年齢・・・・622
(3) 男女の交際・・・・・・・・・・・・・・624
(4) 縁談 ・・・・・・・・・・・・・・・・・625
(5) 仲人・・・・・(6) 婚約・・・・・・626
5 御祝儀
(1) 時期と日取り・(2) 嫁入り道具送り・630
(3) クレ祝儀とモライ祝儀・・・・・・・・631
(4) カオミセ・ヨメミセ・・・・・・・・・637
6 嫁と里
(1) 里帰り・・・・・・・・・・・・・・・・638
(2) アタマアライ(カミアライ)・・・・・・・639
(3) 年中行事と里帰り・・・・・・・・・・639
7 厄年と年祝い・・・・・・・・・・・・・・639
(1) 厄年と厄落とし・・(2) 年祝い・・・640
8 葬送と墓制
(1) 葬送・・・・・・・・・・・・・・・・・640
(2) 墓制・・・・・・・・・・・・・・・・・653
第十一章 民俗芸能
第一節 民俗芸能・・・・・・・・・・・・・・・657
1 獅子舞
(1) 獅子舞の構成・・・・・・・・・・・・・657
(2) 獅子舞の由来・沿革・・・・・・・・・657
(3) 組織・・・・・・・・・・・・・・・・・660
(4) 獅子頭と衣装・・・・・・・・・・・・・662
(5) 期日・・・・・・・・・・・・・・・・・664
(6) 場所・・・・・・・・・・・・・・・・・665
(7) 演目と順序・・・・・・・・・・・・・・666
(8) 歌謡・・・・・・・・・・・・・・・・・675
2 祭り囃子
(1) 祭り囃子の分布・・・・・・・・・・・・675
(2) 古谷重松と重松流祭り囃子・・・・・・676
(3) 祭り囃子の系譜・・・・・・・・・・・・678
(4) 重松流祭囃子保存会・・・・・・・・・679
(5) 重松流の芸態・・・・・・・・・・・・・681
(6) 祭り囃子の事例・・・・・・・・・・・・683
3 飴屋芝居と万作・・・・・・・・・・・・・703
4 双盤念仏
(1) 双盤念仏の分布・(2) 構成と特徴・・712
(3) 起源と廃絶・・・・・・・・・・・・・・713
(4) 演奏の機会・・・・・・・・・・・・・・714
(5) 系譜と流派 ・・・・・・・・・・・・・715
(6) 双盤念仏の事例 ・・・・・・・・・・・716
第二節 民謡
1 祝い歌・・・・・・・・・・・・・・・・・725
2 祭り踊り歌・・・・・・・・・・・・・・・728
3 歳事歌・・・・・・・・・・・・・・・・・729
4 仕事歌・・・・・・・・・・・・・・・・・730
5 子供歌・・・・・・・・・・・・・・・・・733
6 その他の歌・・・・・・・・・・・・・・・744
第十二章 口頭伝承・・・・・・・・・・・・・・745
第一節 昔話
1 太郎とマメ・・・・・・・・・・・・・・・747
2 こぎつねコンとこだぬきポン・・・・・・750
3 百姓は天狗様より偉い・・・・・・・・・752
4 ネコが十二支に入れて貰えなかったわけ・・752
第二節 伝説
1 三ツ井戸・・・・・・・・・・・・・・・・753
2 河童のわび証文(秋津曼陀羅淵河童)・・・754
3 勘七猫塚・・・・・・・・・・・・・・・・755
4 桜淵地蔵尊・・・・・・・・・・・・・・・756
5 とんぼの宿り木・・・・・・・・・・・・・757
6 車返しの弥陀・・・・・・・・・・・・・・758

7　行脚の弥陀・・・・・・・・・・・・・・・・759
8　福猫塚・・・・・・・・・・・・・・・・・・760
9　鼠薬師・・・・・・・・・・・・・・・・・・761
10　あっちいちいの新光寺・11　滝の城の竜・762
12　滝之城の大蛇・・・・・・・・・・・・・・763
13　北岩岡の念仏地蔵・14　平家の落人・・・764
15　ドーシンボーツカ・16　東光寺の金毘羅様764
17　塚ノ越地蔵・・・・・・・・・・・・・・・765
18　タヌキのお稲荷さん・19　堀口の小太郎坂766
20　ヤマトタケルノミコト井戸・・・・・・・766
第三節　世間話・・・・・・・・・・・・・・・・767
1　動物に関する話
（1）　キツネの出る場所・・・・・・・・・・769
（2）　キツネの話・・・（3）　キツネ火・・・770
（4）　キツネが人をバカす話・・・・・・・・772
（5）　キツネにバカされずに済む方法・・・・772
（6）　キツネが人をバカす方法・・・・・・・773
（7）　ワカイシューとキツネ・・・・・・・・773
（8）　キツネの意趣返し・・・・・・・・・・773
（9）　キツネが娘に化けた話・・・・・・・・774
（10）　山の中の茶店・・・・・・・・・・・・774
（11）　キツネにバカされた話・・・・・・・・775
（12）　キツネがバカそうとした話・・・・・・778
（13）　キツネが跡を追ってきた話・・・・・・779
（14）　キツネが自転車に飛び乗った話・・・・779
（15）　キツネが化けたのを見た話・・・・・・779
（16）　白いキツネの話・・・・・・・・・・・779
（17）　キツネに祟られた話・・・・・・・・・780
（18）　稲荷に祟られた話・・・・・・・・・・780
（19）　キツネッタカリの話・・・・・・・・・780
（20）　キツネッタカリが落ちる方法・・・・・781
（21）　きつねったかりになった人の話・・・・781
（22）　お白狐がワザをした話　・・・・・・・782
（23）　信心者の人に病気をみてもらった話・・782
（24）　ハヤリ神・・・・・・・・・・・・・・782
（25）　所沢のDさん・・(26)　エチコ・・・・783
（27）　クボの稲荷・・(28)　ムジナの話・・・783
（29）　ムジナが飛行機に化けた話・・・・・・783
（30）　ムジナがバカしにきた話・・・・・・・784
（31）　ムジナが尻尾で戸をたたいた話・・・・784
（32）　タヌキが尻尾で戸をたたいた話・・・・784
（33）　イタチの話　・・・・・・・・・・・・784
（34）　イタチのチンペー・(35)　ネコの話・・784
（36）　ネコがクダマキをした話・・・・・・・785
（37）　オオカミの話　・・・・・・・・・・・785
（38）　御岳さんのオオカミ・・・・・・・・・785
（39）　大蛇の話　・・・・・・・・・・・・・785
（40）　ナンジャモンジャのヘビ・・・・・・・786
（41）　ヘビの話・・(42)　カッコーの話・・・786
（43）　天狗様の話・(44)　カッパの話・・・・787
（45）　雷獣の話・・・・・・・・・・・・・・787
2　不思議な話
（1）　カラス鳴きの話・・・・・・・・・・・787
（2）　人魂の話・・・・・・・・・・・・・・788
（3）　火の玉を見た話・・（4）　死の予兆・・789
（5）　魂が戻ってきた話・・・・・・・・・・790
（6）　影が薄い人の話・(7)　ウドンゲの花・790
（8）　馬に追われる夢・(9)　歯のこぼれる夢791
（10）　虫の知らせ・・(11)　不思議な夢・・・791
（12）　ヘビの夢の話・・・・・・・・・・・・792
（13）　木を伐って祟のあった話　・・・・・・792
（14）　財産家の家がつぶれた話・・・・・・・792
（15）　樫の木の祟　・・・・・・・・・・・・792
（16）　仏の祟の話・(17)　大山参りの雷・・・793
（18）　病人の不思議な言葉・・・・・・・・・793
（19）　生き霊の話・・・・・・・・・・・・・793
（20）　墓地の幽霊・(21)　幽霊を見た話・・・794
（22）　小太郎坂の老婆・(23)　不思議な光・・794
（24）　不思議な出来事・・・・・・・・・・・795
（25）　小ケ谷戸の幽霊騒ぎ・・・・・・・・・795
（26）　三ケ島の幽霊騒ぎ・・・・・・・・・・795
（27）　タクシーの幽霊・(28)　幽霊騒ぎ・・・796
（29）　お化け騒ぎ　・・・・・・・・・・・・796
3　ホラ吹き・トンチモン他
（1）　センミの話・・(2)　センミツの話・・797
（3）　茂十さんの話・(4)　オトウカドンの話797
（5）　ヘダラモンの話・・(6)　米泣き・・・798
（7）　カモギモンの話・・(8)　太平の話・・798
あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・800
話　者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・801
資料提供者及び協力者・・・・・・・・・・・806
執筆分担・・・・・・・・・・・・・・・・・807
所沢市史関係者名簿・・・・・・・・・・・・808

平成1年3月29日　発行
所　沢　市

資料034『戸田市史　民俗編』

昭和58年3月

目　次

第一章　社会構成
第一節　概　観・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第二節　村落生活
1　ムラの構造＜行政区/境界＞　・・・・・・・・・7
2　地位・階層＜名主/ダンナ/地主・小作＞　・・・・・8
3　ホラと町会・・・・・・・・・・・・・・・・11
4　ホラの組織＜ホラの寄合/ホラの人足/回文・その他/ホラの運営費/共有財産の管理/ホラ入り/八分(ホラハブキ)＞・・・・・・・・・・14
5　組・リンカ・・・・・・・・・・・・・・・・20
6　年齢集団＜子どもの仲間/青年会・青年団/若い衆仲間/処女会・婦人会/老人会/念仏の仲間＞・・・・・・・・・・・・・・・・・27
7　消防組・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
8　つきあい・贈答＜葬式づきあい/祝儀のつきあい/見舞い・援助/屋根葺き・建築の手伝い/ツレ＞・・・・・・・・・・・・・・38
9　労働慣行＜農事のモヤイ/餅搗きのモヤイ/ヒヨトリ/農馬の共同利用/水番・用水管理/経済的な講/農休み/代参講と休み日＞・・・・・・・・・45
10　祭祀機能＜神社と氏子/寺と檀家/講＞・・・・・・・・51
第三節　家族生活
1　家族の呼称と名称・・・・・・・・・・・・・54
2　家族の構成・・・・・・・・・・・・・・・・55
3　家族の生活
＜生業/家長/夜なべ仕事/小遣い/若い衆/子ども/里子・養子＞・・・・・56
4　相続・隠居
＜美女木の例/下笹目の例/惣右衛門の例/新曽の例/上戸田の例/下戸田の例＞・・62
5　奉公人・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
第四節　同族慣行・その他
1　本家と分家・・・・・・・・・・・・・・・・70
2　イッケとジルイ・・・・・・・・・・・・・・72
3　イッケのつきあい・・・・・・・・・・・・・76
4　擬制的親子関係・・・・・・・・・・・・・・77
第二章　人生儀礼
第一節　産　育＜妊娠/出産/産後の儀礼/育児/七五三/成人式＞・・・83
第二節　婚　姻
1　通婚圏・・・・・・・・・・・・・・・・・・101
2　配偶者の選択＜結婚年齢/夫婦の年齢差/生まれ年・相性・方角/家格・家屋・家系/恋愛結婚と夜遊び/見合い/仲人＞　・・・・・・・・・105
3　婚約の儀礼＜結納＞・・・・・・・・・・・・110
4　アシイレ・・・・・・・・・・・・・・・・・111
5　婚礼＜婚礼の時期と日取り/荷物送り/習入り/嫁のタチブルマイ/嫁の出立ち/嫁入り道中/入家儀礼/盃事/披露目/婚礼の衣装/手伝いとアトザシキ/カオミセ/近所ブルマイ/祝儀に関する禁忌・その他/ミツメの里帰り/髪洗い/お歯黒・マミヤ落とし＞112

6　嫁の里帰り・・・・・・・・・・・・・・・・・122
7　離縁・再婚・・・・・・・・・・・・・・・・・123
厄年・年祝い・・・・・・・・・・・・・・・・・124
第三節　葬　送＜死と死の種類/霊魂・後生・再生/死後の世界/口寄せ・イジッコ/死の予兆・虫の知らせ/火の玉・シトダマ/死に水・末期の水/死の間際の続経・祈祷/お百度踏み/タマヨビ/組と葬儀の準備・分担/トモライヅカイ/臨終後の死体の扱い/マクラ団子・死者への供物/通夜/通夜念仏/湯灌/死装束/納棺/トモライ/葬式行列/トコトリ・トコバン/埋葬/念仏講/ユミアケの膳/シジュウクモチ/死者の着物/ユミアケ・シハライ/四十九日までの供養/百箇日・年忌/墓制/特別葬法/死の忌＞・・・・・・・・・・・・・・・126
第三章　生　業
第一節　農業の立地・環境
1　自然環境・・・・2　堤内と堤外・・・・・175
3　土　壌・・・・・・・・・・・・・・・・・177
第二節　稲　作
1　稲作の歴史と概要・・・・・・・・・・・・179
2　品　種・・・・・・・・・・・・・・・・・180
3　稲作の作業＜本田の整地/水利慣行/侵種/苗代/播種/田植え/本田の管理/刈り入れ/脱穀/調製/販売/精米/選種と保存/検査制度＞・・・・・・192
4　稲作の特徴・・・・・・・・・・・・・・・228
第三節　畑　作
1　畑作の歴史と概要・・・・・・・・・・・・265
2　畑作物の概要＜ムギ「品種」「耕起・整地」「基肥」「播種」「中耕・追肥」「刈り入れ」「脱穀」「精麦」/コムギ「品種」「耕起・整地・基肥」「播種」「中耕」「収穫」「脱穀」「精粉」/雑穀/アワ/ヒエ/キミ/モロコシ/ソバ/トウモロコシ/豆類/ダイズ/アズキ/ササギ/ヤイナリ・ヤエナリ/インゲン/ナタマメ/ブンゾウマメ(蚕豆)/ソラマメ・ナツマメ・テンマメ/サトイモ/ドダレ・ワセイモ/エゴイモ・シマイモ/トウノイモ/ヤツガシラ/インネンイモ・ナガイモ/ジャガイモ/ナツイモ・ジャガタラ/ジャガイモ/サツマ・サツマイモ/クワイ/ハス/ダイコン/カブ/ゴボウ/ニンジン/ショウガ/漬菜/ミカワシマ・タイナ・サントウナ・チリメンナ/キョウナ/コマツナ/フダンソウ・トウナ/ホウレンソウ/ネギ/ワケギ・ワキネギ・ワケネギ/アサズケ・アサツキ/ラッキュウ・ラッキョウ/ヒル・ニンニク/ニラ/ミツバ/キュウリ/ナス/トウナス/トンガラシ/ナタネ/カラシナ/ゴマ/ワタ/アイ/アサ/ネリ/チャ＞・・・・・・・269
3　畑作の特徴・・・・・・・・・・・・・・・334
第四節　肥料
1　草(緑肥)・・・・・・・・・・・・・・・・357
2　灰・・・・3　ゲス灰(ネリ灰・ネリゴエ)・・・・・361
4　カタゴエ(金肥)・5　シモゴエ(下肥・人肥・人糞)・・364
6　肥料形態の変化・・・・・・・・・・・・・368
第五節　漁撈
1　漁撈の歴史と概要・・・・・・・・・・・・370
2　棲息魚種・・・・・・・・・・・・・・・・372
3　網漁法＜サシアミ/トアミ/ツキアミ/サデアミ/イタミドリ/ナタアミ/フンゴミ/マチアミ/アジアミ/ヨツデアミ/ジビキアミ/セバリアミ/タテボシ＞・・374
4　釣漁法＜サシバリ/ウナギツリ/トビッツキ/ヒッカケ/ナガナワ＞・・389
5　雑漁法＜ウナギカキ/ヤス/ブッサシ/ボサ/ド/ウナド/エビド/ドジョウド/カイボリ/ハネコミ/セイド/ゴキ/テッポウウケ/タケズッポ/ブッタイ/ソコダテ/ブクブク/ウガラス＞・・・・・・・・・・・・・・・395
6　漁具・漁船・・・・・・・・・・・・・・・418
7　荒川の漁撈の特徴・・・・・・・・・・・・422
第六節　諸職
1　諸職の歴史と概要・・・・・・・・・・・・423
2　屋根葺き職人＜屋根葺きの材料「茅」「小麦ガラ」「藁および藁縄」「栗」「チガヤ」/道具「ハリ」「ハサミ」「ハゴイタおよびガンギ」「ホウチョウ」「ノコギリ」「アゲタケ」/屋根葺き「足場作り」「下地作り」・ヤナカ・タルキ・ロッパ・ケショウダケ・エツリ・ホコダテ/「屋根葺き」「棟つくり」「刈り込み」＞　・・・・432
3　井戸掘り職人
＜井戸の種類「ナミイド」「チュウイド」「フカイド」/掘削＞・・・・・・446
4　瓦屋＜瓦の製作工程/瓦の販売ほか＞・・・・・・・・454
5　船大工＜材料/造船の過程/船釘/道具/当地の造船に関する史料＞・・463
6　臼屋＜臼の材料/臼の製作工程＞・・・・・・・・・・487
7　籠屋＜材料/道具「ワリボウチョウ」「ヒゲボウケチョウ」「ケズリボウケチョウ」「クリガンナ」「クリガンナ(棒状)」「ケズリ(カンナ)」「ケズリ台」「タタキボウ(ツチ)」「ヘラ・ベラ」「ノコギリ」「ワリボウ」「ハサミ」「ヒゲカケ」「その他の道具」/ビクの製作工程/籠の販売ほか＞・・・・・・・・・・・・・506
第七節　交　易
1　近隣の町と市＜町と市利用の概要/[『埼玉県営業便覧』(明治35年)から蕨町・志木町の町並と埼玉県下市日一覧の抄録][『新編武蔵風土記稿』・『十方庵遊歴雑記』から吹上観音市の抄録]＞・・・・・・・・・・・・529
2　行商＜甘酒売り屋/ヨカヨカ飴屋/ブッキリ飴屋/センセヤッカ/山椒魚・孫太郎虫売り/お膳・お椀売り/　粉屋/イワシコイ/氷屋/アイスクリン売り/饅頭屋/箕売り/蓑売り/桶屋・桶売り/目立て屋/唐白屋/蚕の種紙売り/瀬戸物売り/印刷屋/本屋/ウドン屋/煮豆屋/煎餅売り/寒天売り/サツマイモ売り/川魚売り/小間物屋/アンマコウ屋/竹細工屋/塩辛屋/定斎屋/庖兵/サツマ苗売り/キュウリ苗・ナス苗売り/鍛冶屋/鋳掛屋/下駄・草履屋/金魚屋/風鈴・ホウズキ売り/盆花・提燈・神膳・オガラ・シキビ・線香売り/荒神様の額・神膳売り/細工飴屋/玄米パン屋/唐辛子屋/納豆売り/大根売り/西瓜・トウナス売り/アイスキャンディー屋/ラオ屋/白屋/足袋屋/研ぎ屋/コウモリ直し/毛皮屋/ニンジン・ゴボウ売り/アサリ・蛤・シジミ売り/魚屋/豆腐屋/カンピョウ売り/夜鳴きソバ/紙芝居屋/富山の薬売り/大和の薬売り/近江の薬売り/毒消し売り/呉服屋/刃物売り/箒屋/下駄の歯入れ屋/二品屋/座卓売り押売り＞・・・・・・・551
第四章　衣食住
第一節　衣生活
1　衣料＜木綿/絹/その他の衣料/染色/機織り＞・・・・・・・621
2　ふだんの服装＜農作業の服装「ジュバン・ナガギ」「ハンテン・チャンチャンコ」「モモヒキ・モンペ」「コシマキ」「オビ」「マエカケ」「ウデヌキ」「キャハン」「ノラギの変化」/商人・職人の服装/勤め人の服装/家庭婦人の服装/子どもの服装/学生の服装/下着/防寒着/かぶりもの「手ぬぐい」「カサ」「ミノ・キゴザ・雨合羽」「ズキン」「帽子」/はきもの「ゾウリ」「ワラジ」「ゲタ」「クツ」/髪型・化粧＞・・629
3　晴の日の服装＜晴れ着/婚礼の服装/葬式の服装/身祝いの服装/行事・儀礼のときの服装＞・・・・・・・・・・・・・・・・651
4　衣生活の管理＜裁縫/洗濯/寝具/購入品と贈答＞・・・・695
第二節　食生活
1　主食と食制＜主食「大麦」「外米」「雑穀」「イモ」「小麦」「米」/食制「田植えのときの食事」/中間食＞・・・・・・・・・・664
2　ふだんの日の食物＜三度の食事/毎日の副食/魚貝類/鶏肉と卵納豆とナメミソ/調味料「味噌」「醤油」「油」「塩」「砂糖」「スマシ」/嗜好品「茶」「酒」「甘酒」「菓子」＞・・・・・・・・・・・・・・・・670
3　晴の日の食物＜年中行事の食物「正月の食物」「盆の食物」「餅」「赤飯・ササギメシ」「白米飯」「カユ」「ボタモチ」「ダンゴ」「ツバとウドン」「マンジュウ」/婚礼・葬式の食物/出産と食事/贈答＞・・・・・・・・・・・679
4　食生活の管理＜食物の管理「炊事」＞・・・・・・・689
第三節　住　居
1　屋敷＜集落/屋敷取り/屋敷林/水害＞・・・・・・・・・693
2　民家＜間取り/ダイドコロ/オカッテ/ザシキ/コザ/デイ/ヘヤ/屋根＞・696
3　屋内の火所＜ヘンナカ/カマド/荒神/イロリ＞・・・・・703
4　民家の設備＜フロ/便所/井戸/照明＞・・・・・・・709
5　古民家＜小林政吉氏宅/横山実氏宅/栗原嘉雄氏宅/峰岸俊氏宅/大山隆治氏宅/鴨下清左衛門氏宅/細井敏治氏宅/大山多嘉蔵氏宅/熊木幸雄氏宅/八木橋春儀氏宅ウマヤ/石井正徳氏宅/熊木惣次郎氏宅/永井利久氏宅/熊木義蔵氏宅/加藤正軌氏宅/そのほかの民家＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・713
6　新築民家＜間取り/部屋名称の消滅/屋内神の合祀・祭場の変化/その他の変化＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・763
7　建築儀礼＜ジマツリ/ジンギョウ・トウツキ/タテマエ/ザシキビロメ＞766
8　堤外民家の移転＜河川改修/写真に見る堤外地の民家＞・・・772
9　重瀬地区の復元＜移転の経過/渡船/竹製品/洪水と堤防/地名＞775
第五章　年中行事
第一節　年中行事と暦
＜暦法の変遷/本章の暦日表記/年中行事とモノビ/年中行事とアソビヒ＞・・・・・785
第二節　正月準備と行事＜クネユイ/ススハキ/ススハキイワイ/酉の市/餅つき/ジザイモチ/餅つきの準備/モチゴメ以外の餅/カキモチ/水餅・寒餅アラレ/鏡餅・供え餅/カクシモチ/賃餅/正月飾り/歳神棚/神の膳・神の椀/ヤナギバシ/カマジメ・神札/御嶽札など/門松/御歳暮/大晦日/貸借の清算/オタキアゲ/オミタマサマ/除夜の鐘・晦日参り/ミソカッパライ＞・・・・・・・・・・・・・・・・・796
第三節　正月の行事＜若水・年男の奉仕/元旦・三が日/福の掃きこみ/初詣で・初詣り/初ダルマ/元旦の寺の行事/ハタタテ・ノボリタテ/オセチ料理/雑煮/初寄/若い衆の初寄り合い・初入り/初荷・初売り/職人の仕事始め/年始回り/セチ・大番/寺の年始/タナザラエ/お年玉・正月の子どもの遊び/正月の門付け/カミアガリ/七草・七草ガユ/蔵開き・鏡開き/クワイレ・仕事始め/小正月/小正月の小豆ガユ・ササギメシ/作の花・アボヘボ/マユダマ団子/ナレナレのまじない/ヤブイリ/針供養・十王様/正月の晦日＞・・・・・827
第四節　春・夏の行事＜上岡の馬頭観音/エビス講/大野の氷川祭り/新曽観音寺の御開帳/砂場の天神祭り/毎月の行事「薬師様」「お題目講」「富士講」「観音講」「ツキナミ念仏」「巣鴨のトゲヌキ地蔵の縁日」「一乗院の地蔵尊護摩供」/講の代参決め/初午/初午のビシャ講/子どものビシャ講・オイナリコッコ/藪雨・惣右衛門の初午祭り/節分の豆まき・ヤッカ

ガシ／八日節供／鎮守の新年祭／春祈祷／火の番のうちあげ／歳のヒナ市／三月節供・雛祭り／ツジ餅／春彼岸／天道念仏／社日詣り／吹上の観音様／一乗院の不動尊大護摩供／花祭り・オシャカサマ／花見・行楽／足立坂東三十三ケ所ノ巡拝／大師送り／代参講の参拝／種まき正月／水口祭り／西新井大師の縁日／川崎大師の除厄／四月のツジ餅／木綿坊主／春の大掃除／五月節供／オロクショサマの田植え／サナブリ／野あがり正月／オシメリ正月／大野の氷川祭り／新曽観音寺の御開帳／重願の観音経／朝マンジュウの昼ウドン／荒川のマゴリ／富士山の山開き／夏祈祷／夏祈祷の大般若／夏祈祷の百万遍念仏／重願／石尊講／鎮守・ホラ神の夏祭り／土用・丑の日＞857

第五節　盆の行事＜盆供／新盆の高燈籠／七夕／盆／盆の墓掃除／迎え盆・ホトケムカイ／盆棚の飾りつけ／無縁仏への供物／盆棚の供え膳／棚経／送り盆／盆のヤブイリ／オセガキ／ウラ盆＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・908

第六節　秋・冬の行事＜八削の節供／新曽の弁天祭り／観音様の供養／氷川神社の庚申祭り／十五夜・十三夜／川施餓鬼／西堀・田島の泣き節供／お日待ち・節供／鎮守の秋祭り／秋彼岸／観音寺の御開帳／重願の観音経／荒神の出雲発ち／秋の大掃除／カリアゲ／十日夜／ルスイギョウ／エビス講／ワセ大師・ナカ大師／オク大師／八日節供／七五三・オビトキ／ニイナメ祭／カビタリ／冬至＞・・・・・・・・・・・・・・・・936

第六章　信　仰

第一節　村の神＜神社の変遷／村の神／ホラの神／はやり神＞・・・・961

第二節　寺と堂
＜寺堂の変遷／村の寺／ホラの堂／観音参りなど／大師送りなど＞・・・984

第三節　講その他＜講の変遷／稲荷講と稲荷祭り／庚申講と不動講／観音経の講中／念仏講と題目講／ホラごとの代参講／そのほかの参詣講＞・・・・・・・1024

第四節　家の神＜神札と幣神／家の中の神／屋敷神＞・・・・・・1050

第五節　俗信＜俗信の意義／予兆／卜占／禁忌／呪法／民間医療＞・・・1081

第七章　芸　能

第一節　獅子舞・・・・・・・・・・・・・・・・・1115

1　下戸田の獅子舞＜日時・場所／組織・役割・稽古／獅子頭と用具の保管／用具・衣装「獅子頭」「花笠」「楽器」「採物」「衣装」／宮入り・道行／演技「出端の舞い」「歌舞／歌」「神楽舞」「太刀がかり」「三宝」「花がかり」「女獅子隠し」「蛇がかり（蛇のみ）」「九字切り」「お茶の礼」「幣の舞」／伝説と来歴「六義園の獅子舞」「北足立郡芸能大会出場」「浅草長昌寺奉納」「市無形文化財指定」「獅子供養参加」「靖国神社奉納」＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1118

2　新曽の獅子舞・・・・・・・・・・・・・・・・1130

3　美女木八幡神社の獅子舞
＜日時・場所／用具・衣装「花笠」「太鼓」「衣装」「長持」＞・・・・1130

第二節　祭り囃子・・・・・・・・・・・・・・・・1135

1　曲目と楽器＜「天王昇殿」「屋台」「鎌倉」「四丁目」「タマ」「エンバ」「大太鼓（オオド）」「締太鼓（シラベ）」「笛（トンビ）」「鉦（ヨスケ）＞・・1136

2　下前の祭り囃子・・・・・・・・・・・・・・・1137

3　馬場囃子・・・・・・・・・・・・・・・・・・1137

4　沖内囃子・・・・・・・・・・・・・・・・・・1139

第三節　神　楽

1　中町氷川神社の神楽・・・・・・・・・・・・1145

2　上戸田氷川神社の祭り・・・・・・・・・・・1146

3　新曽氷川神社と馬場の素人神楽
＜新曽氷川神社の秋祭り／津島神社の夏祭り＞・・・・・・・・・・・1146

4　惣右衛門稲荷神社の神楽・・・・・・・・・・1152

5　笹目神社（聖様）の神楽・・・・・・・・・・1152

6　美女木八幡神社の神楽・・・・・・・・・・・1152

7　素人神楽の大蛇退治・・・・・・・・・・・・1153

第四節　観音経・・・・・・・・・・・・・・・・・1155

1　上洞（氷川町）の観音経・・・・・・・・・・1156

2　下洞（新曽南）の観音経・・・・・・・・・・1157

3　新田の観音経・・4　馬場の観音経・・・1158

5　沖内の観音経・・・・・・・・・・・・・・・1159

6　観音経の音楽（観音経の楽譜）・・・・・・1159

第五節　万作踊り　1　上戸田の万作踊り・・・1164
2　おいねさん踊り・・・・1167

第六節　民　謡

1　はつうせ・・・・・・・・・・・・・・・・・1169

2　餅搗き歌・・・・・・・・・・・・・・・・・1174

3　盆踊り歌・・・・・・・・・・・・・・・・・1175

4　夜さがり（船頭歌）・・・・・・・・・・・・1180

5　機織り歌・・・・・・・・・・・・・・・・・1182

6　土端つき歌・・・・・・・・・・・・・・・・1186

7　農作業歌・・・・・・・・・・・・・・・・・1187

8　飴屋歌・・・・・・・・・・・・・・・・・・1189

9　はやり歌・・・・・・・・・・・・・・・・・1192

10　わらべ歌・子守歌・・・・・・・・・・・・・1196

11　民謡の音楽＜はつうせ／餅搗き歌／盆歌／田の草取り歌／夜さがり（船頭歌）／麦打ち歌＞・・・・・・・・・・・・・・・・1199

第七節　童戯＜玩具／手・腕などの遊び／お手玉／おはじき／手まり／人形遊び／植物遊び／虫遊び／たこ揚げ／コマまわし／根っ木／メンチ／石けり／縄跳び／棒跳び／押しくらまんじゅう／竹馬・はしご乗り／トオリヤンセ／カゴメカゴメ／花いちもんめ／かくれんぼ／鬼ごっこ／鳥捕り／魚介捕り／泳ぎ＞・・・・・・・・・・・・・・・1206

第八章　口承文芸

第一節　昔　話

1　昔話概説＜伝承の実態／採集方法／話型／語り手＞・・・・・1221

2　動物昔話＜キツネの尻尾の釣／タニシとキツネ／十二支由来／サルカニ合戦／カチカチ山／古屋の猫り／ムカデの医者迎え／ホトトギスと兄弟／スズメ孝行／犬の脚／コオロギの鳴き声／ボーコーの鳴き声／ヒバリの鳴き声／ヨシキリの鳴き声／カエルの鳴き声＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1237

3　本格昔話＜ショウブ湯の由来／ツル女房／キツネ女房／天人女房／桃太郎／竹取姫／子育て幽霊／花咲じい／舌切スズメ／金のツエンボ／米埋糠埋／継子と鳥／継子の釜ゆで／継子と魚／天狗に助けられた継子／姉妹とエビ／ザルで水汲み／浦島太郎／七枚のお札／猿神退治／化物寺／タヌキの八畳敷／ゴンベエとタヌキ／ネコの踊り／夢で長者＞・1244

4　笑話＜床をとれ／／茶の実／愚か者の洗面／事三昧線／芋転がし／和尚裁判／沢庵風呂／団子聟／愚か聟／ウグイス言葉／首通し／屁ひり嫁／ネズミの嫁入り／草刈ろう／ミョウガ女房／姑毒殺／へのこの話／半殺し皆殺し／平林／三人商人／辛抱比べ／風鈴かチロリンか／中ぶらりん／十五夜の月／親捨て山／和尚と小僧／餅は本尊様／俵薬師／つまみ話＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1260

5　形式譚＜長い話／はなし／長い名の子＞・・・・・・・・・1274

6　世間話化した話＜牛にひかれて善光寺参り／養老の滝／幽霊は枝っ木／湯たく山茶くれん寺／餅の話／バクチの話／薬師様の開眼＞・・・・・・1276

第二節　世間話＜キツネに化かされた話（1）～（6）／ミミズを食べた話／マグソを食べた話／肥だめに落ちた話／キツネにとりつかれた人（1）～（5）／キツネにとりつかれた人とイカ／戸田のキツネ／キツネの話（1）（2）／キツネ火（1）～（3）／キツネの穴（1）（2）／ムジナに化かされた話（1）～（4）／ムジナにいたずらされた話／ムジナのたたり／ムジナの話（1）～（3）／ムジナとキツネ／タヌキの話／タヌキ汁にした話／送りイタチ／カワウソに化かされた話／カッパの話／ネコの話（1）（2）／ネズミに話／ツバメの話／屋敷ヘビ（1）（2）／ヘビの話／大蛇の話／八幡様のヘビ／アブラメンのヌシ／ヘビのたたり／羽黒山のヘビ／戸田橋の霊（1）～（3）／戸田橋犠牲者の霊／オコンの霊／人魂の話（1）（2）／モチの木の火の玉／幽霊の話／魂の話／不思議な夢（1）～（3）／無縁仏のお礼／平等寺の観音経棟梁の妻の腰巻き／ふんどしで天気予報／女郎買いに行った話／ほらたけ・ふきだけ／子どもの名／新曽のあだ名／庚申の夜／ミョウガの話（1）（2）／水戸黄門とサンマ水戸黄門と米＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1279

第三節　伝　説

1　村・ホラの部＜美女木のいわれ／美女木のホラのいわれ／頼朝の立て札／美女木の砂場／馬場のいわれ＞・・・・・・・・・・・・・・1294

2　石・岩の部＜氷川神社の力石／カゴダイ＞・・・・・・・1296

3　水の部＜聖釜（1）（2）／片目の魚／コウスケ橋／弘法清水／弘法水／鎌こわし／タイタロウ／お水もらい＞・・・・・・・・・・・・・・1296

4　塚の部＜熊太家の塚／塚田＞・・・・・・・・・・・1298

5　祠堂の部＜美女木八幡の鐘（1）（2）／美女木八幡の鳥居／西勝寺の地蔵／下笹目の稲荷様／子安曼陀羅／川岸の水神様／夜泣きをなくす稲荷様／シロヤの道陸神様＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1299

6　その他＜弘法大師と石芋／弘法大師のゴマぼた餅／弘法大師と里芋／水子村の由来／ビクニン田／ヘビ田／伝四郎屋敷／鷹場／モリヤスジの葬式／歳の本陣／建て前にクシなどを祭るいわれ＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1301

第四節　謎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1305

第五節　諺・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1310

付・関係史料（地誌・縁起類）

［解説／武蔵志／新編武蔵風土記稿／武蔵国郡村誌／神社明細帳／寺院明細帳／堂庵明細帳／正八幡宮並出現之籠略縁起／三宝山徳祥寺の起因／氷川明神縁起／宗門第一子安之霊場略縁起／龍宝山愛染院観音寺略縁起／足立郡戸田氷川神社並多福院縁起／戸田羽黒山縁起／北足立戸田村海禅寺由緒／武州足立郡笹目領内谷村日輪山一乗院本尊大日如来延命地蔵尊略縁起／足立坂東起本開山記／足立坂東順礼歌／武州足立百不動尊順礼歌／北足立新四国真言在家勤行法集／北足立二一ケ所弘法大師順拝詠歌］

あとがき・執筆者一覧・資料提供者一覧・市史編さん関係者名簿

昭和58年３月15日　発行
戸　田　市

資料035『長瀞町史

民俗編Ⅱ　野の石造物』

平成３年３月

目　次

一　石仏・石神
1　如来＜阿弥陀/大日/釈迦/薬師＞・・・・・・・・・・・・1
2　菩薩＜聖観音/如意輪観音/馬頭/子安/地蔵/六地蔵/勢至＞・・・・3
3　明王＜不動＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
4　天＜大黒/弁財/青面金剛＞・・・・・・・・・・・・・8
5　諸天・諸神＜摩利支天/猿田彦大神＞・・・・・・・・・9
二　民間信仰の石仏・石神
1　庚申塔・・2　日待塔＜甲子/巳待＞・・・・・・10
3　月待塔＜二十二夜塔/二十三夜塔＞・・・・・・・・・・11
4　念仏塔＜百万遍/寒念仏/十六日念仏/彼岸念仏/千日廻向＞・・・・13
5　経典供養塔＜読誦塔/石経塔/光明真言塔＞・・・・・・・15
6　巡拝塔・回国塔＜百番巡拝/六十六部回国＞・・・・・・16
7　馬頭観音塔・・・・・・・・・・・・・・・・・17
8　山岳信仰塔＜冨士講/木曽御嶽講/雹神塔＞・・・・・・・18
9　名神大社信仰塔＜金毘羅信仰塔＞・・・・・・・・・・20
10　自然信仰塔＜山神/水神/社日/金神＞・・・・・・・・・20
11　道祖神・塞神塔・・・・・・・・・・・・・・22
12　その他の信仰塔
＜三界万霊/名号/蚕神/聖徳太子/市杵島姫/子の権現/大口真神＞・・・22
三　石仏・石神以外の信仰石造物
＜宝篋印塔/五輪塔/無縫塔/石幢/石灯籠/石祠/狛犬/神使＞・・・・・24
四　道標・標石等＜道標/句碑/歌碑＞・・・・・・・・・・29
五　調査地区の設定・同設定図・・・・・・・・・・30
六　調査地区ごとの石造物
1　長瀞地区・・・・・・・・・・・・・・・・・33
2　本野上・中野上地区・・・・・・・・・・・・73
3　野上下郷(宮沢・辻・杉郷)地区・・・・・・138
4　野上下郷(小坂・滝の上)地区・・・・・・・178
5　矢那瀬地区・・・・・・・・・・・・・・・204
6　岩田地区・・・・・・・・・・・・・・・・236
7　井戸・風布地区・・・・・・・・・・・・・263
8　増　補・・・・・・・・・・・・・・・・・304
七　考　察＜町内石造物の概要と考察,集計表＞・・・・・・・・307
1　長瀞地区＜概要と考察,集計表＞・・・・・・・・・309
2　本野上・中野上地区＜集計表＞・・・・・・・・311
3　野上下郷(宮澤・辻・杉郷)地区＜集計表＞・・313
4　野上下郷(小坂・滝の上)地区＜集計表＞・・・315
5　矢那瀬地区＜集計表＞・・・・・・・・・・・317
6　岩田地区＜集計表＞・・・・・・・・・・・・319
7　井戸・風布地区＜集計表＞・・・・・・・・・321
8　編年表＜馬頭尊,地蔵尊,二十二夜塔,庚申塔＞・・・・・・323
あとがき
関係者名簿

平成３年３月25日　発行
長　瀞　町

資料036『滑川村史　民俗編』

昭和59年10月

目　次

第一章　衣・食・住・・・・・・・・・・・・・・・・33
第一節　衣生活＜かぶりもの/はきもの/雨具/普段着/寝具/結婚式の衣服葬式の衣服/機織り/染めつけ/お針＞・・・・・・・・・・・・・・・35
第二節　食生活＜食事/ヒキワリメシ/イモ/ウドン/ツメリッコとオッキリコミ/汁物と漬物/味噌/野菜/魚/焼き餅とだんご/甘酒/ソバ/ナリクダモノ/カーリモン/結婚式の食事/葬式の食事＞・・・・・・・・・・・・・・・・・40
第三節　住生活＜屋敷構えと間取/タネー/棗とカヤの屋根/イロリ/便所と風呂/建築儀礼/屋敷取りと間取りの実例/蚕も馬も同居＞・・・・・・・・・・50
第二章　沼の民俗・・・・・・・・・・・・・・・・71
第一節　沼は語る＜1下福田　両表/2下福田　大木・下向/3下福田　下中郷/4上福田　馬場/5上福田　小川谷/6上福田　中在家/7上福田　円正寺/8山田山王/9山田　根岸/10山田　前谷中郷/11山田　中里/12山田　東・西/13山田道山/14土塩　下/15土塩　中/16土塩　薬王子/17土塩　上/18和泉　上/19和泉　中・下/20和泉　菅田/21中尾　前組/22中尾　内郷/23中尾広瀬/24中尾　加田/25伊古　下/26伊古　郭/27伊古　中/28伊古　上/29水房　上/30水房　下/31月輪　六軒/32月輪　西荒井/33月輪　中丸/34月輪　中組/35月輪　下組/36羽尾　蟹山/37羽尾　金光地/38羽尾　打越/39羽尾　糠ケ谷戸/40羽尾　両家/41羽尾　中組/42羽尾　表/43羽尾平/44羽尾　裏郷南部/45羽尾　裏郷北部＞・・・・・・・・73
第二節　沼の呼び名・・・・・・・・・・・・・・106
第三節　沼水の利用・・・・・・・・・・・・・・108
1　山田大沼＜水はいつ出すか/本樋を抜く/水を引く/五分しっけ＞・・109
2　羽尾平地区＜堀普請/水を引く/堰水の上を流して＞・・・・113
3　土塩中・下地区
＜水を引く/水を出す時期と規則/沼下・出耕作・入耕作＞・・・・・115
第四節　沼普請と沼普請唄
1　両表の沼普請＜役に出る/鍬入れと上げ講/樋の伏せ替え/内はぎ・外はぎ/沼キチガイ/島田文子さんの体験記から＞・・・・・・・・・・121
2　いろいろな沼普請唄
＜土盛り/タコ搗き唄(ドウ突き唄)/土搗打ち唄＞・・・・・・・126
第三章　ヤマと生活・・・・・・・・・・・・・・・133
第一節　二ノ宮・大立・高根の三山
1　二ノ宮山と伊古の人たち
＜二ノ宮山に登る/山遊び/花見/雨乞いの山/二ノ宮山は奥社＞・・・・135
2　大立山と加田１４軒＜大立山/大立山頂の松/山の神の石祠/山の神に初詣/とりかえ餅＞・・・・・・・・・・・・・・・140
3　高根山と円正寺・榎の人たち
＜高根さま/高根さまのまつり/ダンゴ作り＞・・・・・・・・・143
第二節　ヤマ仕事聞き書
1　吉田健吉さんに聞く＜さきやまし/山仕事は冬場/薪を伐る/山は宝物/たて松/木心/一軒百本/燃し木/山の神の日/山入りの行事＞・・・・146
2　宮島森蔵さんに聞く＜水房はヤマシが多い/木の伐り方/カノヤとキノヤ/伐りしん/木をかえす/さがっちょの山の木/あてっ木は伐りにくい/伐る心構え/木のかつぎ出し/材木にこしらえる/薪伐り/苗木の植付けと手入れ/うるぬき/燃し木/堆肥づくり/山講やるべえ/水房の山の神/山入り＞・・・・・・・・・150
第三節　ヤマの食べもの
1　春の山菜
＜ショウロ/ワラビ/フキノトウ/山ミツバ/サンショウ/タロンベ＞・・・158
2　秋のキノコ採り・・・・・・・・・・・・・・159
3　冬のナガイモ掘り・・・・・・・・・・・・・160
第四節　薬草のいろいろ・・・・・・・・・・・・161
第五節　ヤマと屋号・・・・・・・・・・・・・・162
第四章　馬と共に・・・・・・・・・・・・・・・169
第一節　馬のこと聞き書き
1　農耕馬について＜馬の役割/馬の値段/馬の産地と性質/いい馬/馬の食べ物=カイバ/仕事を覚えさせる/百姓馬の仕事/馬の手入れ/モヤイ馬/ウマゴサク(馬小作)/ノウウマ(ゴガツウマ)/馬との別れ/馬と信仰/花馬(ハナウマ)/農作業/牛と馬＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・171
2　運送馬について＜荷と行く先/山出し/タテバ/よい運送馬/カイバ/仕込み/馬の手入れ/さみしがる/馬頭観音信仰/馬の病気＞・・・・・・177
3　紫藤たけさんと贄田広治さんの体験記
＜馬のはなどり/桑運び＞・・・・・・・・・・・・・181
第二節　馬の信仰
1　福田の観音さま＜馬の観音詣り/千匹馬の幕/大きな供え餅＞・185
2　馬の絵馬＜絵馬/絵馬売り＞・・・・・・・・・・・187
3　辻々の馬頭観音・・・・・・・・・・・・・・190
第五章　年中行事・・・・・・・・・・・・・・・195
第一節　暮れと大正月の行事＜すす払い/カマシメ/餅搗き/門松/年神様の棚/人形/大晦日/年神様/年男/若水/お炊き上げ/正月の食習/正月に餅を食べない家例/初詣/セチ/仕事始め/棚さがし/作入れ/山入り/七草/蔵開き・鏡開き＞・・・200
第二節　小正月の行事＜若木/物作り/小正月の家例/オミタマ様/ナルカナンネエカ/小豆粥/アーボヒーボブーラブラ/寝ごの正月/蔡入り/セエノカミ/仏の口あけ/十八粥/恵比須講/天神講/棚おろし/薬師・山の神・不動の祭日＞・・・・・・218
第三節　春と夏の行事＜次郎の朔日/川浸り/年取り・節分/八日節供・針供養/初午/男遊び/女遊び/雛祭り/彼岸/水口祭/花祭り/すす払い/端午の節供/苗開き/サナブ

リ//アガリ/尻あぶり/川浸り＞・・・・・・・・・・・・・230
第四節　盆の行事＜釜のふたあげ/七夕/墓掃除/盆花/盆棚/ショウリョウ様/迎え盆/作案内/送り盆/棚経/新盆/霊祭/盆の食習/盆がら＞・・・・・・238
第五節　秋と冬の行事＜生姜節供/二百十日/お月見・十三夜/彼岸/お九日/鎌初め/刈り上げ祝い/オカマ様/亥の子/十日夜/恵比須講/大師粥/こき上げ祝い/マキアゲ/川浸り/師走八日/冬至＞・・・・・・・・・・・・・・247
第六節　宮前村郷土誌にみえる年中行事・・・・・255
第一章　人の人生・・・・・・・・・・・・・・・・257
第一節　産育＜妊娠/安産祈願/帯祝い/妊娠中の食事/妊娠中の俗信/産婆/出産/双子の出産/ウブタテの御飯/産湯/ヘソの緒/後産/乳付け/産後の食事/産の忌/お七夜/お産見舞い/名付け/初剃り/宮参り/孫祝い/食い初め/初正月/初節供/初誕生/オビトキ/初山参り/育児とまじない＞・・・・・・・・・・・・・・259
第二節　厄年と年祝い＜厄年/厄年の子/彼岸生まれの子/年祝い＞273
第三節　婚姻＜年まわり/相手の選択/仲人/クチガタメ/アシイレ/道具送り/嫁入り/御祝儀/里帰り/挨拶回り＞・・・・・・・・・・・・・・275
第四節　葬　送
1　葬式＜葬制/臨終/北枕/五軒組/勝手仕事/弔の沙汰・遣い/湯灌/棺桶/納棺/通夜/穴掘り/香典/焼香/野辺送り/埋葬/墓地/浄め・忌中ばらい/墓なおし＞279
2　死後の供養＜初七日/四十九日/新盆/年忌＞・・・・・・284
第七章　村人の信仰・・・・・・・・・・・・・・・・287
第一節　村の神・・・・・・・・・・・・・・・・・289
1　神社の移り変わり・・・・・・・・・・・・・290
2　鎮守＜熊野神社=下福田/淡洲神社=上福田・上山田/大雷淡洲神社=下山田/淡洲神社=土塩/八宮神社=和泉・菅田/雷電神社=中尾/伊古乃速御玉比売神社=伊古/阿和須神社=水房/月輪神社=月輪/羽尾神社=羽尾＞・・・・・・・・・300
3　部落やイッケの神＜稲荷=福田両表/稲荷=福田両表/荒神=福田大木/山王=福田大木/琴平=福田下向/琴平=福田古姓/浅間=福田小川谷/亀ケ入の稲荷=福田中在家/天神=福田小川谷/高根山=福田円正寺/湯前権現=福田円正寺/北向稲荷=山田根岸/神明=土塩上/駒形=土塩上/広路谷稲荷=土塩下/天神=和泉上/八幡=和泉下/愛宕=中尾内郷/稲荷=中尾内郷/天神=中尾加田/大立山=中尾加田/三島=中尾広瀬/ハスケ様=中尾広瀬/荒神=中尾広瀬/稲荷=中尾広瀬/棲名=伊古/大六天=伊古大上/天神=伊古上/稲荷=伊古山田/北向稲荷=水房/露島=月輪六軒/篠崎稲荷=月輪中丸/高根=月輪西荒井/高嶋稲荷=月輪西荒井/金井稲荷=月輪中組/大塚稲荷=月輪下組/武井稲荷=月輪下組/御嶽愛宕=羽尾平/横塚稲荷=羽尾平/赤沼稲荷=羽尾表/諏訪=羽尾裏郷/小林稲荷=羽尾裏郷/弁天=羽尾裏郷/天王=羽尾裏郷/八坂=羽尾山屋敷/稲荷=羽尾山屋敷/倉林稲荷=羽尾倉林/二つ山稲荷=羽尾打越/稲荷=羽尾打越/神明=羽尾糠ケ谷戸/鹿島=羽尾両家/飯塚稲荷=羽尾蟹山＞・・・・・・・・・・・・・・321
4　その他の神仏＜聖天=福田円正寺/薬王子権現=土塩薬王子/八王子権現=土塩薬王子/生首八幡=土塩下/不動=伊古郭/山の神様=菅田/ヤクシ様=山田追山/はらみ松=伊古中/コウチの地蔵様=伊古中/二十二夜様=伊古中/地蔵月輪西荒井/ホーセンボウ=月輪中組/不動坂の不動様=月輪中組/弁天様=羽尾打越/ドウロクジン羽尾糠ケ谷戸/鹿島=羽尾両家/飯塚稲荷=羽尾蟹山/天神=福田下向/蚕の神/疱瘡神様＞345
第二節　家の神
1　家屋内外の神・・・・・・・・・・・・・・・・349
2　荒神様とオカマ様・・・・・・・・・・・・・・352
3　各戸のウジガミ・・・・・・・・・・・・・・・354
第三節　寺と堂
1　寺と堂の移り変わり・・・・・・・・・・・・377
2　寺＜成安時=福田/明照寺=土塩/泉福寺=和泉/慶徳寺=中尾/円光寺=伊古/方光寺=水房/福正寺=月輪/興長寺=羽尾/その他＞・・・・・・・・381
3　堂＜不動庵=福田両表/十王堂=福田大木/馬頭観音=福田古姓/摩尼庵堂=福田小川谷/薬師堂=福田中在家/不動庵=福田円正寺/薬師堂=福田円寺/真福寺観音堂=福田馬場/七観音=福田馬場/薬師堂=山田西/薬師堂=山田中郷/阿弥陀堂=山田山王/観音堂=山田前谷/不動堂=和泉中/薬師堂=中尾加田/東覚院=伊古上/如来堂=伊古上/薬師堂=伊古中/延命地蔵=水房上/聖観音=水房上/十一面観音=水房中/大日堂=月輪中丸/勢至堂=月輪中組/地蔵堂=羽尾平/千体地蔵=羽尾表/十王堂=羽尾裏郷/阿弥陀堂=羽尾打越/薬師堂=羽尾金光地/川原堂=羽尾糠ケ谷戸/不動堂=羽尾蟹山＞・・・・・385
第四節　村外の神仏
1　代参講＜棲名講/大山講/三峯講/宝登山講/その他＞・・・・・393
2　深谷国済寺の地蔵・・・・・・・・・・・・・400
3　木曽御嶽山・・・・・・・・・・・・・・・・401
第五節　雨乞いとフセギ
1　雨乞い・・・・・・・・・・・・・・・・・・405
2　フセギ・・・・・・・・・・・・・・・・・・406
第六節　農と絵馬奉納
1　雨乞いの絵馬・・・・・・・・・・・・・・・409
2　富士山の絵馬・・・・・・・・・・・・・・・411
3　伊勢参りの絵馬・・・・・・・・・・・・・・411
4　目の絵馬・・・・・・・・・・・・・・・・・413
第七節　まえだれ・いみ・まじない
1　まえぶれ＜自然現象に関するもの/動物に関するもの/その他＞・・415
2　いみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・422
3　まじない・・・・・・・・・・・・・・・・・424
第八章　民俗芸能・・・・・・・・・・・・・・・・429
第一節　獅子舞
1　下福田の獅子舞　*舞いつづける・・・・・431
＊花づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・432
＊場を浄める棒使い・・・・・・・・・・・・・434
＊獅子が舞う
(1)すり込み/舌/女獅子隠し/ミコの舞/天狗拍子/暇乞い/すり出し・・・435
(2)田の草踊り/御幣抜き/綾拍子・・・・・・・・・・・439
＊今日のささらの切りをちがえた・・・・・・442
＊オカメとヒョウットコの舞
＜オカメの舞/ヒョットコの舞＞・・・・・・・・・442
2　上福田の獅子舞
＊新稽古の思い出・・・・・・・・・・・・・・444
＊獅子舞聞き書き＜獅子が出る/特別な舞庭/棒使いとすり込み/獅子の出/田草取り/一番ご・二番ご/休み/お神楽/幣掛り/すり上げ＞・・・・・446
＊雨乞いの獅子・・・・・・・・・・・・・・・450
3　羽尾下郷の獅子舞
＊獅子元の家・・・・・・・・・・・・・・・・451
＊座敷獅子・・・・・・・・・・・・・・・・・452
4　羽尾裏郷の獅子舞
＊お諏訪のまち・・・・・・・・・・・・・・・453
＊花うちわ・・・・・・・・・・・・・・・・・454
5　羽尾平郷の獅子舞
＊平郷の獅子舞・・・・・・・・・・・・・・・455
6　月輪の獅子舞
＊上と下を払う・・・・・・・・・・・・・・・457
＊月輪の獅子舞を見る<三宝/悪魔払いの唄/勇壮な神楽舞>・・458
7　伊古の獅子舞
＊早川さんのノートから・・・・・・・・・・・461
＊腕抜きと御幣抜き・・・・・・・・・・・・・465
＊オカメ神楽と大神楽・・・・・・・・・・・・466
＊雨乞いに獅子が出る・・・・・・・・・・・・466
＊雨乞い唄・・・・・・・・・・・・・・・・・467
第二節　地芝居
1　水房の地芝居
＊きのじゃ連の歩み・・・・・・・・・・・・・468
＊坂東又四郎と坂東池鶴・・・・・・・・・・・469
＊花芝居と祭り込み・・・・・・・・・・・・・470
2　裏郷の地芝居
＊栄連の役者たち・・・・・・・・・・・・・・474
＊幕初めに三番叟・・・・・・・・・・・・・・475
＊佐平さんの思い出・・・・・・・・・・・・・476
3　下福田の地芝居
＊大正団・・・・・・・・・・・・・・・・・・477
＊大正団の人たち・・・・・・・・・・・・・・479
第三節　万　作
1　大木の万作
＊大木連・・・・・・・・・・・・・・・・・・479
＊おいとこそうだよ・・・・・・・・・・・・・481
＊お半長右エ門・・・・・・・・・・・・・・・482
第四節　盆踊り
1　盆がヤーハエ
＊田植踊りと石投げ踊り＜盆踊り唄＞・・・・・・483
第五節　傘踊り
1　滑川の傘踊り
＊傘踊りの流行＜山田の傘踊り/裏郷の傘踊り＞・・・・・485
第六節　もちつき踊り
1　裏郷のもちつき踊り
＊にぎやかなもやい搗き・・・・・・・・・・・489

＊ひきづり餅・・・・・・・・・・・・・・・・490
第七節　キツネつり
＊キツネつり＜椚平のキツネつり/キツネつりやるべー＞・・・・491
第八節　連経太鼓と真言打ち
1　伊古の薬師堂と月輪の勢至堂で
＊連経太鼓と真言打ち・・・・・・・・・・・494
第九節　民　謡
1　仕事唄
＊田植唄・・・・・・・・・・・・・・・・・・495
＊機織唄＜どうぞ日機の織れるように/監督さんの目がひかる/来たらよりなよ/沼の数さが百七つ＞・・・・・・・・・・・・・497
2　わらべ唄
＊子守唄・・・・・・・・・・・・・・・・・・503
＊手まり唄
＜はじめの唄/あの山で/あれみさえ/おらが前の竹ちゃん＞・・・・・506
＊縄とび唄・・・・・・・・・・・・・・・・・516
＊手合せ唄・・・・・・・・・・・・・・・・・518
第九章　昔話・伝説・噂話・唱えことば・ことわざ・・・521
第一節　昔話＜十二支のいわれ/一粒千粒なあれ/モリドン/古屋のモリヤ/ほととぎすの兄弟/雀とつばめ/嬶の嫁取り/子供の寿命/舌切雀/お元日の十貰い/まま子の栗拾い/まま子と笛/三枚のお礼/狐のお産/こしゃみせん/羊転がし/馬の尻に十三仏/ドッコイショ餅/屁ひり嫁/胆試し/半殺し/天狗の隠れ蓑/ヒガンかヒーガンか/うばすて山/クッタクッタ/たんぎくどんの仕事は弁当/たんぎくどんの大食い/たんぎくどんの休みながらの溜かめ/風呂の湯加減/初午のいわれ/オトシバナシ/嘘くらべ/知ったかぶり/夕飯の時間/福は苦い/てんしき/夢のお告げ/娘のおなら/牛に引かれて善光寺参り/お茶は毒消し＞・・・・・524
第二節　伝説＜如来堂の阿弥陀様/恒儀様/ホーセンボウ/不動坂の不動様/生首八幡/広路谷稲荷/福田鉱泉/福田鉱泉/天狗の足跡/滑川の濁り水/河童の証文/油免/すずふりめん/平/地獄谷/論証場/とりっこ坂/五月節供のいわれ/五月節供のいわれ＞・・・550
第三節　噂話＜オトウカの嫁取り/狐火/狐火/狐の話/オトウカの巣/狐に化かされた話(1~5)/狐に憑かれた話/獣に憑かれた話/ムジナの嫁とり/ムジナの話/ムジナに憑かれた話/オトウカとムジナ/三峯様/オイヌ様の見まわり/オオカメ様/送り狼/送り狼/猫の話/大蛇の話(1~3)/カッパ/カッパ/龍の話/石の話/火の玉/人魂/火柱/人魂/ホウシの玉/幽霊の話/生まれ変わりの話/忌みを破った話/カクレザトウ/ジャッキリオバア/アズキトギ/モー/血取り/力持ち/大食い/大食い/臆病な侍/天に道にあるまい/あわてものの代参/芋の多い雑煮＞・・・・・・・・・・・・・・・・555
第四節　唱えことば
＊ニューニューニューの頭に火がついた・・・565
＊肩させ裾させ・・・・・・・・・・・・・・566
＊お寒ことこと・・・・・・・・・・・・・・567
＊だるまさんころんだ・・・・・・・・・・・568
＊泣き虫小虫・・・・・・・・・・・・・・・569
＊唱えごと(呪文)・・・・・・・・・・・・570
第五節　ことわざ
＊女は機織れ・・・・・・・・・・・・・・・571
＊薪きシンを教えるもの・・・・・・・・・・572
話者・協力者名簿・・・・・・・・・・・・・573
調査参加者名簿・・・・・・・・・・・・・・576
執筆者名簿・・・・・・・・・・・・・・・・577
村史編さん関係者名簿・・・・・・・・・・・578

昭和59年10月31日　発行
滑　川　村

資料037『鳩ヶ谷市史』民俗編

昭和63年8月

目　次

第一章　鳩ヶ谷の地域概況・・・・・・・・・・・・・1
1　地域の概況・・・・・・・・・・・・・・・・3
2　位置・面積・・・・・・・・・・・・・・・・4
3　行政区域野変遷・・・・・・・・・・・・・・6
4　人口動態・・・・・・・・・・・・・・・・11
第二章　生産・生業・・・・・・・・・・・・・・17
第一節　生産・生業の概観・・・・・・・・・・・19
第二節　農業・・・・・・・・・・・・・・・・・21
1　稲　作
(1)植田＜水田稲作/用水と灌漑/稲の品種/耕起/用水さらい/畦塗り/苗代作り/種もみの管理/種まき/苗代の管理/代かき/田植/水の管理/除草/追肥/害虫駆除/稲刈り/脱穀/調整/播種儀礼/田植の禁忌/サナブリ/雨乞い/雨降り正月/収穫儀礼/労働慣行＞
(2)摘田＜株の踏込み/田うない/畦つけ/ニバン(二番)/田摘み/一番草＞・ 42
(3)蓮＜田うない/植え付け/追肥/除虫/除草/芽回し/蓮の種類/収穫/出荷＞ 47
(4)くわい
＜くわい種の保存/植え付け/除虫/除草/葉欠き/施肥/収穫/出荷＞・・ 51
2　畑　作
(1)麦＜耕起/播種/追肥/麦踏み/土入れ/麦刈り/脱穀・調整/俵詰め/裸麦の利用/麦搗き/麦の食品/麦作儀礼＞・・・・・・・・・・ 54
(2)里　芋・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
(3)八つ頭・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
(4)さつま芋・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
(5)じゃが芋・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
(6)大根＜夏大根/秋大根＞・・・・・・・・・・・ 70
(7)ふ　き・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
(8)山東菜・・・・・(9)ね　ぎ・・・・・・・・ 72
(10)みょうが＜根掘り/みょうがのもやし作り＞・・・・・・・ 73
(11)な　す・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
(12)粟・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
3　柿の栽培＜柿の栽培サイクル/施肥/枝欠き/収穫/出荷/豊作祈願＞・ 76
第三節　諸　職
1　釣竿作り・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
(1)釣竿業の沿革・・・・・・・・・・・・・・・ 81
(2)釣竿に使われる竹＜布袋竹/矢竹/大名竹/淡竹/真竹＞・・ 82
(3)継ぎ竿の名称・・・・・・・・・・・・・・・ 84
(4)継ぎ竿の釣り方と釣り物による竿の名称
①釣り方の呼び名による継ぎ竿・・・・・・・ 85
②釣り物の呼び名による継ぎ竿（川釣り）・ 86
③釣り物の呼び名による継ぎ竿（海釣り）・ 86
(5)継ぎ竿の製作工程
①さらし＜皮むき/竹磨き/油抜き＞・・・・・・・・・・ 86
②切り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87
③タメ・火入れ・・・④シタゴシラエ・・・ 89
⑤糸巻き・・・・・・⑥節抜き・・・・・・ 91
⑦継ぎ＜コミケズリ/クチサライ＞・・・・・・・・・・ 93
⑧漆塗り・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94
⑨仕上げ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96
(6)販売・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96
2　井戸屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104
(1)井戸掘り＜掘削位置/掘削時期/一日目の作業工程/二日目の作業工程/三日目の作業工程/井戸さらい＞・・・・・・・・・・・ 104
(2)服装・賃金・仕事の範囲他・・・・・・・・ 110
3　羽根職
(1)総　観・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111
(2)素　材・・・(3)製作・加工工程・・・・・ 112
(4)製作・加工用具・・・・・・・・・・・・・ 113
(5)製作・加工施設・・・・・・・・・・・・・ 114
(6)製　品・・・・・(7)職能・組織・・・・・ 114
(8)職人の生活・・・・・・・・・・・・・・・ 115
4　紺　屋
(1)総　観・・・・・(2)素　材・・・・・・・ 121
(3)製作・加工工程・・・・・・・・・・・・・ 122
(4)製作・加工用具・・・・・・・・・・・・・ 123
(5)製作・加工施設・・(6)製　品・・・・・・ 123
(7)職能・組織・・・・(8)職人の生活・・・・ 124
5　畳　職
(1)総　観・・・・・・(2)素　材・・・・・・ 138
(3)製作・加工工程・・・・・・・・・・・・・ 139
(4)製作・加工用具・・(5)製作・加工施設・・ 140
(6)製品・販売・・・・(7)職能・組織・・・・ 140
(8)職人の生活・・・・・・・・・・・・・・・ 141
(9)その他・・・・・・・・・・・・・・・・・ 142
6　鋸鍛冶・目立て
(1)総観・・(2)素材・・(3)製作・加工工程・ 147
(4)製作・加工用具・・・・・・・・・・・・・ 149

(5)製作・加工施設・・・・・・・・・・・・・ 150
(6)取引き・・・・・(7)職能・組織・・・・・ 150
(8)職人の生活・・・(9)その他・・・・・・・ 151
第三章　衣　服・・・・・・・・・・・・・・・・・ 157
第一節　衣服の概観・・・・・・・・・・・・・・ 159
第二節　衣　服
1　普段着・仕事着
(1)普段着・・・・・・・・・・・・・・・・・ 162
(2)仕事着＜野良着/商人の着物/職人の着物＞・・・・・・・ 167
2　ハレ着＜ヨソユキ/子供の祝い/結婚式/葬式＞・・・・・・・ 177
3　夜　着・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 182
第三節　衣服の調達と管理
1　衣服の調達・・・・・・・・・・・・・・・・ 184
2　衣服の新調・・・・・・・・・・・・・・・・ 185
3　衣服の管理・・・・・・・・・・・・・・・・ 186
第四章　食　物・・・・・・・・・・・・・・・・・ 191
第一節　食物の概観・・・・・・・・・・・・・・ 193
第二節　普段の食事とハレの食事
1　日常食・労働食
(1)主　食・・・・・・・・・・・・・・・・・ 195
(2)副食物＜漬物/芋類/肉・魚・海産物＞・・・・・・・・・ 196
(3)食事の回数・献立・・・・・・・・・・・・ 199
(4)労働食＜大工の食事/機屋の食事＞・・・・・・・・・・ 199
2　ハレの日の食事・・・・・・・・・・・・・・ 200
(1)年中行事と食事＜一日と十五日/一日餅/正月三箇日/七種粥/蔵開き/マユダマ団子/小豆粥/ハツカコガシ/節分/初午/三月の節供/彼岸/五月の節供/サナブリ/天王様/七夕/お盆/お日待/荒神様/恵比須講＞・・・・ 200
(2)人生儀礼の食事＜祝儀/葬式＞・・・・・・・・・ 205
3　保存食＜あられ/寒餅/乾燥芋/芋がら/乾飯/切り干し/芋穀ずいき＞・ 207
第三節　調理と保存
1　調理器具＜せいろ/焙烙/こね鉢/鍋/笊＞・・・・・・・・ 209
2　食器＜膳/茶碗/お椀/おか持ち/弁当箱＞・・・・・・・・ 211
3　貯蔵法
＜土中にそのまま保存/乾燥させて保存/漬物にして保存/粉にして保存/米櫃/俵/甕＞ 212
第四節　醸　造＜醤油/味噌＞・・・・・・・・・・ 215
第五節　食と信仰
1　食の禁忌＜きゅうりの禁食/正月の餅/その他の食についての言い伝え＞ 217
第五章　すまい暮し・・・・・・・・・・・・・・・ 219
第一節　すまいの概観・・・・・・・・・・・・・ 221
第二節　すまいの歴史・・・・・・・・・・・・・ 225
第三節　農　家
1　屋敷内の状況・・・・・・・・・・・・・・・ 233
2　母屋の形式と屋根の形・・・・・・・・・・・ 234
3　母屋の各室の名称と使い方＜土間/カマヤ/デシキ/デエーディ・デ/ヘヤ・オク/コザ・コウザ・オカッテ/柱＞・・・・・・ 235
4　付属屋＜物置/蔵/外便所＞・・・・・・・・・・ 241
5　屋敷内の植物・・・・・・・・・・・・・・・ 242
6　燃　料・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 244
7　井　戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 245
8　照　明＜石油ランプ/提灯/燭台/電気＞・・・・・・・・ 247
第四節　家・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 251
第六章　社会生活・・・・・・・・・・・・・・・・ 255
第一節　社会生活の概観・・・・・・・・・・・・ 257
第二節　町の社会生活
1　町の概観・・・・・・・・・・・・・・・・・ 259
2　町の組織
(1)町会の組織・・・・・・・・・・・・・・・ 269
(2)近所・組合＜向こう三軒・両隣/お組合＞・・・・・・・ 270
(3)町の諸集団＜井戸組合/納税組合/青年団/消防組/氏子/講＞・ 271
3　町の祭りと社会組織・・・・・・・・・・・・ 275
4　町の家族・親族
(1)商家の家族と奉公人・・・・・・・・・・・ 279
(2)商家の同族集団・・・・・・・・・・・・・ 280
第三節　村の社会生活
1　村の範囲と区分・・・・・・・・・・・・・・ 281
2　村の組織と運営・・・・・・・・・・・・・・ 282
3　村寄り合い・・・・4　村入りの慣行・・・ 283
5　前田地区の事例＜ムラの範囲/ムラの境/隣近所の付き合い/ムラの役職者/社寺にかかわる役職者/葬式組/共有財産/寄り合い/座順/転入者の承認方法/ムラの重立ち＞・・・・・・・・・・・・・・・・・ 285
6　家族・親族＜家族呼称/奉公人/屋号/親類・縁故/本家・分家＞・ 287
第七章　年中行事・・・・・・・・・・・・・・・・ 291
第一節　年中行事の概観・・・・・・・・・・・・ 293
第二節　暮れから正月の行事＜煤払い/餅搗き/注連飾り/歳暮/大晦日/ミソカッパライ/門松/歳神棚/正月/初詣/初水汲み/オウバン/年始まわり/正月の遊び/タナサガシ/迎え年越し/仕事始め/七草/クラビラキ/小正月/マユダマ/あずき粥/ヤブイリ/ハツカコガシ/恵比須講/天神講＞・・・・・・・ 295
第三節　春から夏の行事＜節分/オビシャ/初午/初庚申/鰹祭り/フセギ/彼岸/花祭り/花見/春祈祷/五月の節供/夏祈祷/サナブリ/田植正月/大祓え/天王様＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 310
第四節　盆行事＜カマノクチ/七夕/十一面様/墓掃除/盆棚/迎え盆/棚経/送り盆/盆礼/ヤブイリ/施餓鬼/ウラボン/地蔵盆＞・・・・・・・・ 318
第五節　秋から冬の行事＜八朔/十五夜/十三夜/お日待/神送り/ルスイギョウ(留守居業)/荒神様/恵比須講/冬至/おかめ市＞・・・・・・ 328
第八章　人の一生・・・・・・・・・・・・・・・・ 331
第一節　人の一生の概観
1　産育と成人・・・・・・・・・・・・・・・・ 333
2　婚　姻・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 335
3　葬　送・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 337
第二節　産育と成人
1　妊娠と出産
(1)妊娠＜妊娠/安産祈願/帯祝い/妊娠中の禁忌・俗信＞・・・・・ 339
(2)出産＜お産の場所と方法/夫の役割/へその緒/エナ/産湯/乳付け/産後の禁忌/産婦の食事/産見舞/異常出産＞・・・・・・・・・・ 341
2　育　児
(1)誕生儀礼＜お七夜/命名/宮参り/食い初め/初正月/初節供/初誕生＞ 345
(2)育児の習俗＜育児の俗信/子守り＞・・・・・・・・・ 349
3　子どもの成長と儀礼
(1)七五三＜三歳の祝い/五歳の祝い/七歳の祝い＞・・・・・・ 350
(2)一人前・・・・・・・・・・・・・・・・・ 351
第三節　婚　姻
1　婚　約
(1)結婚の条件＜通婚圏/結婚年齢/相手の選択/恋愛/仲人/見合い＞ 352
(2)婚約＜結納/アシイレ＞・・・・・・・・・・・・ 355
2　祝　儀
(1)ご祝儀前の儀礼＜荷送り＞・・・・・・・・・・ 356
(2)御祝儀＜ムコイレ/嫁入り行列/入家儀礼/御祝儀/祝い唄/オバサンブルマイ/ミツメ/カミアライ/仲人礼/離婚＞・・・・・・・・・ 357
第四節　葬　送
1　死と霊＜死の予兆/死に水/死者の扱い/枕団子/枕飯/葬式の準備/シニゾカイ/湯灌/入棺/通夜＞・・・・・・・・・・・・・・ 363
2　葬　送
＜葬式組/墓穴掘り/葬式/香典/出棺/野辺送り/埋葬/帰りの作法/異常葬法＞・ 367
3　忌み明け・年忌＜葬式後/初七日/四十九日/新盆/年忌＞・・ 373
第九章　信　仰・・・・・・・・・・・・・・・・・ 377
第一節　信仰の概観・・・・・・・・・・・・・・ 379
第二節　家のまつり
1　屋内の神＜神棚/荒神様/歳神様＞・・・・・・・・・ 381
2　屋敷神＜畑田稲荷/妙前稲荷/三光稲荷/石田明神/天神社/不動堂＞・ 384
第三節　村のまつり
＜鳩ヶ谷氷川神社/三ツ和氷川神社/八幡神社/十二所神社＞・・・・ 393
第四節　講＜念仏講/榛名講/古峯講/伊勢講/大山講/身延講/送り大師講＞・ 402
第五節　俗　信
1　予　兆＜予兆のいろいろ＞・・・・・・・・・・ 426
2　禁忌＜結婚に関する禁忌/妊娠・出産に関する禁忌/死に関する禁忌/日に関する禁忌/その他の禁忌＞・・・・・・・・・・・・・・ 427
第十章　交通・交易・・・・・・・・・・・・・・・ 431
第一節　交通・交易の概観・・・・・・・・・・・ 433
第二節　交通
1　陸上交通＜道路/ミチの呼称/道普請＞・・・・・・・・ 435
2　交通機関＜人力車/乗合馬車/乗合自動車＞・・・・・・・ 442
3　河川交通・・・・・・・・・・・・・・・・・ 445

4　運搬＜人力運搬/畜力運搬/車両運搬＞・・・・・・・・・・ 447
5　旅＜代参講としての旅/伊勢講の旅/旅の服装・所持品/旅の俗信＞・・・ 450
6　通信＜言い継ぎ/回覧板/その他の伝達＞・・・・・・・・・ 452
第三節　交　易
1　行商・出荷＜行商/セリ売り(引き売り)/市場への出荷＞・・・ 454
2　問屋＜穀物問屋＞・・・・・・・・・・・・・・・・ 457
3　仲買＜穀類の仲買人/灰の仲買人＞・・・・・・・・・・ 459
4　店＜穀屋/魚屋/種屋/自転車店/買い物＞・・・・・・・・・ 459
5　市＜三・八市/市における香具師の役割＞・・・・・・・・・ 463
付・資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 473
参考・引用文献一覧／執筆者一覧／民俗調査員一覧／話者一覧／資料提供者一覧
鳩ヶ谷市編さん関係者名簿／あとがき
附録「昭和28年鳩ヶ谷町全図」／「昭和60年鳩ヶ谷市全図」

昭和６３年８月３１日　発行
鳩ヶ谷市

資料038『飯能市史』資料編Ⅵ

昭和58年３月

目　次

Ⅰ　飯能市の概観
＜位置/面積/地勢/市域/気候/交通/人口/民俗＞・・・・・・・・・ 1
Ⅱ　生産生業
1　農業
(1)稲作＜ツミタとウエタ/堰つくり/クロツケ/タウナイ/タネツミ/メボシ/
クサトリ/ハナカケミズ/オイゴエ/オトシミズ/タカリ/ノゴキ/籾干し/棒打ち
籾摺り・俵づめ/小作米/ヒマチ＞・・・・・・・・・・・・・ 7
(2)畑作・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
(ア)年間の農作業(昭和30年頃)春　夏　秋　冬
(イ)こんにゃく
(ハ)苗木①種とり②種まき③手入れ④山出し
2　養　蚕
(1)時期・・・(2)蚕室・・・(3)蚕種・・・・・ 16
(4)掃立て・・・・・(5)飼育・・・・・・・・ 17
(6)上蔟・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
(7)繭かき・・・・・(8)糸繭師・・・・・・・ 20
3　林　業
(1)山の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
ア 地形から来たと思われるもの/イ 水に関するもの/ウ 住居の跡地から来たもの/
エ 意味不明なもの
(2)山林の境界＜ア 境界　イ 境界争い＞・・・・・・ 21
(3)山林所有面積・・・(4)草刈場・・・・・・ 22
(5)造林・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
ア 地ごしらえ/イ 植付け/ウ 下刈り/エ 起し/オ 枝打ち/カ 施肥/キ 除伐
ク 間伐
(6)販売と山見・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
(7)伐採・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
ア 口開け/イ 山始め祭り/ウ 木切り/エ 輪/オ ユウ荷/カ 中土場祭り/
キ 山仕舞祭り
(8)搬出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
ア 木出し祭り/イ かつぎ出し/ウ 土挽き/エ 修羅/オ 木馬/カ 土入れ祭り/
キ 山終え祭り/ク 山の神/ケ 架線/コ サ流し
サ 筏　①西川材 ②筏の組み方 ③筏の川下げ ④竿の使い方 ⑤筏の障害物
⑥最終段階での筏の大きさ ⑦筏歌
(9)製材＜ア 木挽き/イ 削り/ウ 工場製材＞・・・・・・・ 41
(10)山小屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
(11)薪炭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
ア 薪と粗朶/
イ 炭焼き ①炭材 ②白消しと黒消し ③窯築き ④焼成 ⑤炭出し・俵づめ・搬出
4　狩猟
(1)狩猟の対象・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
ア 獣類　A野兎 B狸 C狐 D熊 E鹿 F羚羊 G猪 Hその他の獣
イ 鳥類　A山鳥 B鳩 C小綬鶏 Dその他の鳥類
(2)狩猟法＜ア 罠/イ 網/ウ 謂/エ 銃/オ 個人銃/カ 共同猟＞・ 51
(3)狩猟の禁忌・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
5　織　物
(1)原料の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
(2)糸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
ア 績む/イ 糸ひき/ウ 綜枠・綜台と目針/エ 精錬・糸染め・糊つけ
(3)手　機・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
ア 糸アヤ・筬/イ 男巻き・機草/ウ 糸車・座繰/エ イザリバタ・高機
(4)昔の飯能織物・・・・・・・・・・・・・・・ 62
ア 飯能絹/イ 浮織/ウ 斜子織/エ 銘仙/オ 新銘仙/カ 双子織/
キ 縮緬/ク 京機留/ケ 博多結城＞
(5)現在の飯能織物・・・・・・・・・・・・・・ 64
Ⅲ　年中行事
1　大正月の行事
(1)三が日・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
(2)１月４日・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
(3)七草・・・・・・・・(4)蔵開き・・・・・ 69
2　小正月の行事
(1)粟穂稗穂・・・・・・(2)小豆がゆ・・・・ 69
(3)まゆ玉・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
(4)なり木責め・・・・・(5)やぶ入り・・・・ 71
3　えびす講・・・・・4　節　分・・・・・・ 71
5　２月の祭事
(1)山の神祭り・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
(2)２月８日の目籠・・・(3)針供養・・・・・ 73
(4)初午・・・・・・・・(5)天神講・・・・・ 73
6　ひなまつり・・・・7　春の彼岸・・・・・ 74
8　お釈迦様祭り・・・・・・・・・・・・・・・ 74
9　５月節供・・・・・10　七夕・・・・・・・ 75
11　お盆様
(1)盆の用意・・・・・(2)盆迎え・・・・・・ 76
(3)盆棚・・・・・・・(4)供え物・・・・・・ 76
(5)生き盆・・(6)盆送り・・(7)精霊流し・・・ 77
12　秋の行事
(1)十五夜・十三夜・・(2)十日ン夜・・・・・ 78
(3)七・五・三・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
13　冬　至・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
14　歳　末
(1)餅つきその他・・・・・・・・・・・・・・・ 79
(2)大晦日・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
Ⅳ　民　家
1　飯能市民家の概要
(1)立地条件＜ア 境界と旧郡/イ 地勢と交通＞・・・・・・ 83
(2)民家の構造＜ア 入母屋造り/イ 切妻造り/ウ 寄棟造り＞・・ 83
(3)民家の地域性＜ア 庇と棟＞・・・・・・・・・ 84
2　民家の型式
(1)間取りの型・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
ア 古四間取り/イ 三間取り広間型/ウ 四間取り/エ 四間取り裏部屋付木/
オ 六間取り
(2)部屋の呼び名・・・・・・・・・・・・・・・ 85
ア 土間/イ 土間寄りの前の部屋/ウ ザシキ裏の部屋/エ ザシキ横の部屋
オ デエ裏の部屋/カ 六間取りおよび六間取祖形の客座敷
(3)構造＜ア 柱配置と断面架構の基本形＞・・・・・・・・・ 86
(4)民家の主な部分の解説・・・・・・・・・・・ 87
ア 棟 ①大棟 ②隅棟 ③箱棟 /イ 梁/ウ 桁
3　明治期におけるある村落民家の実態
(1)絵図の概要と村落の状況・(2)方位と配置・ 88
(3)生活必需物件・・・・・・・・・・・・・・・ 89
ア 湯屋/イ 火床/ウ 水屋/エ 収納場・味噌部屋/オ 飲料水等/カ 便所/
キ 屋根の葺材
4　明治期における市街地の蔵造り
(1)田口家・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 90
(2)大河原家・・(3)町屋としての新井家・・・ 91
5　飯能市における古民家
(1)加藤家・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92
(2)岡部家・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 93
(3)岡野家・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94
(4)市川家・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95
(5)関口家・・・・・(6)井上家・・・・・・・ 96

(7)岩田家・・・・・(8)朝日家・・・・・・・・ 97
(9)宿谷家・・・・・・・・・・・・・・・・・ 98
(10)西村家・・・・・(11)木崎家・・・・・・ 99
6　付
(1)屋根の葦材・・・・(2)壁について・・・・ 100
(3)明治初年の飯能村・・・・・・・・・・・ 100
Ⅴ　食　物
1　主　食
(1)麦の時代・・・・・・・・・・・・・・・・ 103
(2)外来・・・・・・・(3)稗・・・・・・・・ 104
(4)小麦・・・・・・・(5)かて物・・・・・・ 105
(6)米の収納・・・・・(7)精米・・・・・・・ 106
(8)麦の収納・・・・・(9)棒打ち・・・・・・ 107
2　その他の穀物・・・・・・・・・・・・・・ 108
3　野菜・根菜・その他・・4　保存食・・・・ 108
5　食物調理の場
(1)いろり・・・・・・(2)かまど・・・・・・ 109
(3)むかしのお勝手道具・・・・・・・・・・ 110
6　食器具
(1)膳箱・・・・・・・(2)弁当箱・・・・・・ 111
7　年中行事と食べもの・・・・・・・・・・・ 112
8　もの日と日常の食べもの
(1)往時のもの日(ハレの日)の食事・・・・・ 112
(2)ふだんの日の食事・・・・・・・・・・・ 112
9　余禄・大食いの話・・・・・・・・・・・・ 113
Ⅵ　衣　服
1　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・ 117
2　衣服の原料・・・・・・・・・・・・・・・ 118
3　ふだん着・・・・・・・・・・・・・・・・ 119
4　赤ん坊の衣服　その他
(1)はだ着・・・・・・(2)中着・・・・・・・ 121
(3)よだれかけ・・・・(4)襁褓・・・・・・・ 121
(5)赤ちゃん用のおくるみ・・・・・・・・・ 121
(6)赤ちゃん用の帽子・・(7)蚊帳と揺籃・・・ 121
(8)成長と衣服の大きさ・・・・・・・・・・ 122
ア　一ツ身/イ　三ツ身/ウ　四ツ身/本裁ち/オ　各特長
5　祝い着ほか
(1)熨斗目・・・・・・・・・・・・・・・・・ 123
(2)七五三の祝い着・・(3)七歳女児祝い着・・ 124
(4)被　布・・・・・・(5)成人の祝い着・・・ 124
(6)婚礼の衣服・・・・・・・・・・・・・・ 124
6　喪　服・・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
7　仕事着
(1)農　民・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
(2)職　人・・・・・・(3)商人・・・・・・・ 127
(4)山仕事・・・・・・・・・・・・・・・・ 128
8　防寒具
(1)二重回・・・・・・(2)マント・・・・・・ 129
9　小学生の服装・・・・・・・・・・・・・・ 129
10　被りもの
(1)よそ行き帽子<ソフト帽/ハンチング/山高帽子>・・・・ 129
(2)夏物の帽子<麦わら帽子/カンカン帽子/パナマ帽子>・・・ 130
11　履きもの
(1)普段履き・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
(2)祝い履きとよそ行き・・・・・・・・・・ 132
12　雨　具
(1)から傘・・(2)こうもり傘・・(3)日傘・・ 133
13　夜　具
(1)ふとん・・・・・・(2)枕・・・・・・・・ 133
(3)蚊帳・・・(4)寝巻・・・(5)どてら・・・ 134
14　髪かたち
(1)丁髷・・・(2)断髪・・・(3)稚児髷・・・ 134
(4)桃割れ・・(5)島田髷・・(6)丸髷・・・・ 135
15　化　粧
(1)紅・(2)白粉・(3)石けん・(4)お歯黒・・・ 136
16　装身具
(1)煙草入れ・(2)金銀時計・(3)金銀のキセル 136
(4)櫛・・(5)笄・・(6)簪・・(7)リボン・・・ 137
(8)手　絡・・・・(9) 帯どめ・・・・・・・ 137
Ⅶ　社会生活
1　村の生活の実相
(1)村の区域・・・・・・・・・・・・・・・・ 141
(2)村　組・・・・・・・・・・・・・・・・・ 142
(3)共有財産・・(4)若者組から青年団へ・・・ 143
2　倹約令から生活改善運動まで
(1)倹約令・・・・・(2)五人組・・・・・・・ 144
(3)節倹申合せ・・・・・・・・・・・・・・・ 145
ア　小久保村惣合内/イ　双柳村節倹規約/ウ　原市場村生活改善申合規約
(4)自力更生指定村東吾野村・・・・・・・・ 149
(5)戦時下の生活・・・・・・・・・・・・・ 149
3　原市場の青年矯風会・・・・・・・・・・・ 150
4　地域社会とのかかわり合い・・・・・・・・ 151
Ⅷ　人の一生
1　出　産
(1)出産まで・(2)助産婦・(3)産室・(4)後産・ 155
(5)へその緒・・・・・(6)産見舞い・・・・・ 156
(7)お七夜・・・・・・(8)お宮参り・・・・・ 156
2　食い初め
(1)食い初め等・・・・(2)七五三・・・・・・ 157
3　青年期・・・・・・・・・・・・・・・・・ 158
4　結　婚
(1)縁　談・・・・・・・・・・・・・・・・・ 159
(2)結納・口固め・・・・・・・・・・・・・・ 160
(3)結納の型・・・・・(4)結納後・・・・・・ 162
(5)結婚式・・・・・・・・・・・・・・・・・ 162
ア　嫁迎え/イ　嫁がたくさん歩いた例/ウ　花嫁衣装/エ　嫁入り道具/
オ　嫁の乗り物　作文-嫁入り行列/カ　組合の協力/キ　嫁ご到着/
ク　着座して(祝儀の座の進め方の例)
(6)結婚式後<ア　嫁の顔見せ/イ　嫁入り道具拝見/ウ　里帰り以後>・ 169
5　嫁と姑（思い出話）・・・・・・・・・・・ 171
6　厄年・・・・・・7　ひのえうま等・・・・ 172
8　葬　儀
(1)ひと・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 172
(2)北まくら・・・・(3)まくら団子・・・・・ 173
(4)四十九だんご・・・・・・・・・・・・・・ 173
(5)葬具・・・・・・(6)納棺・・・・・・・・ 173
(7)通夜・・・・・・(8)葬儀・・・・・・・・ 174
(9)葬列・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 175
(10)墓地にて・・・・・・・・・・・・・・・ 176
(11)壇払い・・・・(12)葬式のあと・・・・・ 177
(13)忌明け・その後・・・・・・・・・・・・ 178
Ⅸ　交　易
1　行　商
(1)せんきん丹売り・・(2)置き薬屋・・・・・ 181
(3)毒消売り・(4)山椒魚売り・(5)こんぶ売り 181
(6)わかめ売り・・・・(7)ヨカヨカ飴屋・・・ 182
(8)ぶっかき飴屋・・・(9)小間物屋・・・・・ 182
(10)おきぬさん・(11)その他<ア　瞽女/イ　万才>・ 182
2　店売り・仲買い・出買い
(1)山間部の店売り・・・・・・・・・・・・・ 183
(2)平野部の店売り・(3)都市部の店売り・・・ 184
(4)山間部の仲買い・(5)平野部の仲買い・・・ 185
(6)都市部の仲買い・・・・・・・・・・・・・ 186
(7)その後の繭の出荷方式・・・・・・・・・・ 186
3　市（いち）
(1)山間部の市・・・・・・・・・・・・・・・ 186
(2)都市部の市・・(3)飯能五・十の市・・・・ 188
Ⅹ　信　仰
1　講
(1)講とは・・・・・・・・・・・・・・・・・ 193
(2)代参講・・・・・・・・・・・・・・・・・ 193
ア　太太神楽/イ　大山講/ウ　大山講と登籠/エ　現代版御嶽講

(3)代参講以外の講・・・・・・・・・・・・・ 196
ア 御岳講/イ おしら講/ウ お精進/エ 太子講/オ えびす講/
カ いなり講 ①大人のいなり講 ②子供のいなり講/キ 天神講/ク 二十三夜待(講)
ケ 三日月信仰/コ 念仏講/サ お申講/シ 火伏せの神
2 民間信仰・慣習
(1)厄除け・・・・・・・・・・・・・・・・・ 201
(2)六三除け・・・・・・・・・・・・・・・・ 201
ア 大西ノブ氏の話/ イ 葉茂新蔵氏の話/ ウ 関根吉市氏の話
(3)金神・・・(4)土公神・・・(5)鬼門・・・ 203
(6)水神・井戸神・・・・・・・・・・・・・・ 203
3 祈願・共同祈願
(1)雨乞い・・・・・・・・・・・・・・・・・ 204
(2)庚申信仰・・・・・・・・・・・・・・・・ 205
XI 芸能・娯楽・遊戯
1 獅子舞
(1)獅子舞とは・(2)諏訪八幡神社の獅子舞・・ 209
(3)浅間神社の獅子舞・・・・・・・・・・・・ 210
(4)三輪神社の獅子舞・・・・・・・・・・・・ 211
(5)喜多川神社の獅子舞・・・・・・・・・・・ 212
(6)花桐の獅子舞・・(7)我野神社の獅子舞・・ 213
(8)阿寺の獅子舞・・・・・・・・・・・・・・ 215
2 獅子舞の種目一覧・・・・・・・・・・・・・ 215
3 獅子舞の行列一覧・・・・・・・・・・・・・ 215
4 獅子舞の歌・・・・・・・・・・・・・・・・ 216
5 高山の太々お神楽・・・・・・・・・・・・・ 218
6 阿寺諏訪神社の神楽・・・・・・・・・・・・ 219
7 下畑の回り獅子・・・・・・・・・・・・・・ 220
8 石原の獅子・・・・・・・・・・・・・・・・ 221
9 西川古柳の車人形・・・・・・・・・・・・・ 222
10 片瀬人形・・・・・・・・・・・・・・・・・ 223
11 西光寺の浅草流念仏・・・・・・・・・・・・ 224
12 大光寺の双盤鉦・・・・・・・・・・・・・・ 224
13 囃 子
(1)一丁目のはやし・・(2)二丁目のはやし・・ 225
(3)三丁目のはやし・・(4)河原町のはやし・・ 226
(5)宮本町のはやし・・・・・・・・・・・・・ 226
(6)原町のはやし・・・(7)中山のはやし・・・ 227
(8)前だのはやし・・・(9)柳原のはやし・・・ 227
(10)双柳のはやし・・(11)下畑のはやし・・・ 228
(12)上畑のはやし・・・・・・・・・・・・・・ 228
(13)直竹のはやし・・(14)間野のはやし・・・ 229
(15)中藤のはやし・・・・・・・・・・・・・・ 229
(16)板石町分のはやし・・・・・・・・・・・・ 230
14 童謡・民謡
(1)わらべ歌・・・・・・・・・・・・・・・・ 230
ア まりつき歌/イ 羽子つき歌/ウ お手玉歌/エ 蛍とり/オ お月様いくつ/
カ しりとり歌
(2)作業歌・・・・・・・・・・・・・・・・・ 236
ア いかだ歌/イ 木挽き/ウ 機おり歌/エ 麦打歌/オ 田刈歌/
カ うすひき歌/キ 茶もみ歌/ク どう突き歌
XII 民俗の知恵
1 予兆・・・・・・・2 禁忌・・・・・・・・ 243
3 まじない・・・・・・・・・・・・・・・・・ 244
4 民間療法・・・・・・・・・・・・・・・・・ 245
調査協力者一覧表・・・・・・・・・・・・・・ 247
あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 249
編さん関係者氏名・・・・・・・・・・・・・・ 250

昭和５８年３月１日 発行
飯 能 市

資料039『東松山市史』民俗編

昭和58年7月

目 次

第一章 概 観
第一節 生活の舞台
1 東松山市の自然・・・・・・・・・・・・・・ 1
2 東松山市の略沿革・・・・・・・・・・・・・ 2
3 江戸末期のようす・・・・・・・・・・・・・ 4
4 明治期のようす・・・・・・・・・・・・・・ 8
5 大正期のようす・・・・・・・・・・・・・・ 16
第二節 民 俗
1 社会生活・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
2 生産と生業・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
3 交易と交通・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
4 衣・食・住・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
5 人の人生・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
6 祭りと信仰・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
7 年中行事・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
8 民俗芸能・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
9 伝 説・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
10 付編(町村誌抜粋)・・・・・・・・・・・・ 31
第二章 社会生活
第一節 むらの社会生活
1 行政区の変遷・・・・・・・・・・・・・・・ 33
2 むら社会のしくみ・・・・・・・・・・・・・ 36
3 モヨリとリングミ・・・・・・・・・・・・・ 37
4 むらの運営・・・5 むらの共同作業・・・ 39
6 むらの寄り合い・・・・・・・・・・・・・・ 41
7 むらの休み日・・・・・・・・・・・・・・・ 42
第二節 家と付き合い
1 家・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
家族と相続／分家／家柄／屋号と家例
2 家のつきあい・・・・・・・・・・・・・・・ 47
両隣／本家分家のつきあい／組の付き合い／
仕事によるつきあい／ぼたもち親戚
第三節 町場の社会生活・・・・・・・・・・・ 49
地域の概況／町内会の組織と運営／隣組の
つきあい
第三章 生産と生業
第一節 田と畑
1 田・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
田の種類／水利／稲作／いぐさの栽培／
琉球の栽培
2 畑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
麦作／木綿の栽培／養蚕／甘藷の栽培／
ゆりの栽培＞
3 農家のくらし・・・・・・・・・・・・・・・ 80
堆肥づくり／山仕事／水車
第二節 漁 撈
1 魚の種類・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85
2 漁 法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86
3 魚取りの名人・・・・・・・・・・・・・・・ 89
4 溜池での魚取り・・・・・・・・・・・・・・ 90
第三節 諸職・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
鍛冶屋／籠屋／桶屋／唐臼屋／屋根屋／
菓子屋／鳶
第四章 交通と交易
第一節 交 易
1 町なみ＜本町の町なみ＞・・・・・・・・・ 101
2 市と交易・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105
五・十の市／その他の市／高市
3 松山町の店・・・・・・・・・・・・・・・・ 113
穀屋／呉服屋／材木屋／荒物屋／下駄屋／
綿屋／足袋屋／糸繭商／荷鞍屋などの話
4 村々の店・・・・・・・・・・・・・・・・・ 128
雑貨屋／菓子屋／豆腐屋／酒屋／醤油屋
などの話
5 行 商・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 137
定斎屋・毒消売り・マムシ屋・飴屋・朝鮮
飴屋・ヨカヨカ飴屋・オシンコ屋・チヂミ
屋・際物売り・魚屋・キノコ売り・ワカメ
売り・氷屋・苗木屋・種木屋・ヨミウリ・

イカケ屋・トギ屋・ラオ屋・下駄の歯スゲ
第二節　運搬と道路
1　運　搬・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 140
馬と荷車／馬力と立場／乗合馬車と人力車／馬喰のはなし
2　主要道・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 149
川越・熊谷道／鴻巣・小川道／八王子・日光道／秩父道
3　村々の道・・・・・・・・・・・・・・・・・ 154
川岸道／観音道／秋葉道／殿様街道
4　道　標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 156
第三節　舟運と河川
1　早俣河岸と舟運・・・・・・・・・・・・・・ 162
＜早俣河岸と問屋／舟運と船乗り／船造りと船下し＞
2　渡船と橋・・・・・・・・・・・・・・・・・ 166
3　都幾川と越辺川の筏流し・・・・・・・・・・ 171
＜筏流し／筏乗りの服装や食物／筏乗りの信仰＞
4　主な河川・・・・・・・・・・・・・・・・・ 174
都幾川と越辺川／その他の河川
5　洪　水・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 182
第五章　衣・食・住
第一節　衣生活
1　衣の心・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 189
1　東松山地方のお針の先生・・・・・・・・・・ 190
松山の田中まつさん／田中まつさんのお弟子の話／東平の柳沢せいさん／古凍の中山なべさん／川越仲町の大塚ていさん
第二節　食生活
1　食事と食物・・・・・・・・・・・・・・・・ 200
2　日常の食べ物・・・・・・・・・・・・・・・ 201
3　ハレの日の食べ物・・・・・・・・・・・・・ 203
4　味噌と醤油・・・・5　保存食・・・・・ 206
6　水と酒・・・・・・7　その他の食物・・ 207
第三節　住
1　屋敷構え・・・・・・・・・・・・・・・・・ 206
2　母屋と生活・・・・・・・・・・・・・・・・ 211
3　付属建物・・・・・・・・・・・・・・・・・ 215
4　井　戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 216
5　照明具・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 217
第六章　人の人生
第一節　産育と通過儀礼
1　妊娠と安産祈願＜妊娠／腹帯祝い／安産祈願／妊娠中の禁忌＞・ 219
2　出産＜産室／産褥／ウブタテの飯／ヘソの緒／後産／ウブユ／産見舞い／産婦の食事／血服と休養＞・・・・・・・・・・・・・・ 221
3　生児儀礼＜オシチヤ（お七夜）／セッチンマイリ／お宮参り／オクイゾメ／ユミハマ／初節供／初山参り／初誕生＞・・・・・・・・・・ 224
4　育児・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 227
＜育児とまじない／オニッコ／厄子／四十二の恥かきっ子／四十二のニっ子／四十二カカリゴ／四十八の恥かきっ子／子守り／三ツ身の祝い／五つの祝い／オビトキ＞
5　成人＜一人前／若衆遊び／厄年／還暦祝い／吹き竹の祝い／米寿の祝い＞・ 231
第二節　婚　姻
1　結婚の条件＜年まわり／相性と方角／縁談／見合い／恋愛／仲人／クチギワメ／結納／アシイレ＞・・・・・・・・・・・・・・ 232
2　婚礼＜道具送り／クレシュウギ／出家式／入家式／貰い祝儀／初節供＞・ 234
第三節　葬　制
1　死霊＜マツゴの前後／マツゴの水／死の直後／神棚かくし／枕団子／枕飯／シラセ／テラズカイ／ツカイバシリ／葬式組／ハヤモノ／カザリダンゴ／カッテバタラキ／通夜／湯灌／納棺／道中銭／カクシガネ／杖／キョウカタビラ／底なし足袋／頭陀袋／ツノボウシ／位牌かけ／摺鉢かぶせ／アンピンモチ／トモライモチ／祭嫂＞・・ 237
2　葬送＜タイヤク／出棺前／出棺／野辺送り／ニワトモライ／埋葬と帰りの作法／喪家への贈り物／カワセガキ＞・・・・・・・・・・ 243
3　忌み明けと年忌＜ショナノカ／ブクアケ／アラボン／年回忌＞・ 246
第七章　祭りと信仰
第一節　鎮守と祭り
1　むらと鎮守・・・・・・・・・・・・・・・・ 249
2　鎮守さまの祭り＜大岡地区の鎮守さま／願いごと／あげもの／お下り／榎の木／雷電山／とうろう／とうろう絵／祭りの日／春日待と秋日待／初聴あげ／大谷の仕付祭典／雷さま＞・・・・・・・・・・・・・・ 249
3　松山の天王様＜八雲神社の祭典／祭りの主催者／祭りの場所／祭りの準備／祭りのかたち／祭りの係り／御輿の担ぎ手／祭りの服装／子供みこし／屋台／祭りを支える人々＞・・・・・・・・・・・・・・・ 254
第二節　モヨリで祭る神仏・・・・・・・・・・・ 257
第三節　町場の祭りと信仰＜初午祭／下沼の弁天様／己の晩／お釈迦様／大祓いと人形流し／お諏訪様／ヤクジンサマ／金勢様／下寺のお地蔵様／元宿のお地蔵様と庚申様／山王様／八幡様の祭り／お酉様／闇魔様／清正公様／神明様／愛宕様／太子様／子育稲荷／おとんきょ様／椿地蔵／愛宕様＞・・・・・・ 258
第四節　水神信仰＜九頭龍さま／水神さま／弁財天＞・・・・・ 266
第五節　村祈とう＜春祈とう／オシッサマ（お獅子様）／平心講（オシッサマ）大般若／フセギ／ナンマイダンボ＞・・・・・・・・・ 269
第六節　いろいろな講・・・・・・・・・・・・ 272
＜鎮守講／念仏講／八幡講／甲子講／観音講／太子講／天神講／九頭龍講／その他／代参講（榛名講・石尊講／伊勢講）＞
第七節　共同祈願＜雨乞い／虫送り＞・・・・・・・・・ 279
第八章　年中行事
第一節　正月行事
1　正月の準備・・・・・・・・・・・・・・・・ 281
＜門松迎え・神棚かざり／年神飾り・正月餅／カマジメ・ススハライ＞
2　大晦日＜ミソカッパライ／ミソカソバ／大晦日の晩＞・・・・・ 284
3　大正月・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 284
＜正月の供物と家例／トシオトコ／元旦／三箇所の食事／ワカミズ／オタキアゲ／仕事始め／三日とろろ／四日おじや／寺年始／殿様年始／山入り／オタナサガシ／七草がゆ／クワイレ／クラビラキ／鏡開き／あさづけ／お鏡なおし／正月送り＞
4　小正月・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 289
＜モノツクリ／マユ玉ダンゴ／モメンバナ／ナルキゼメ／アズキガユ／粥占い＞
5　その他の正月行事・・・・・・・・・・・・・ 292
＜書き初め／初湯／初荷／ネンシまわり／ヤブイリ／男遊び／女遊び／正月の子供遊び／仏の正月／十八日ガユ／不幸のあった家の正月＞
第二節　春から夏の行事
1　一月の行事＜二十日正月／エビス講／天神様＞・・・・・ 294
2　二月の行事＜ジロウノツイタチ／節分／焼きかがし／福茶／福豆／コト八日／針供養／観音講＞・・・・・・・・・・・・・・ 295
3　三月・四月の行事・・・・・・・・・・・・・ 298
＜初午／スミツカリ／春の彼岸／ひな祭り／フセギ／春祈願＞
4　五月の行事・・・・・・・・・・・・・・・・ 300
＜花まつりと虫除け呪い／五月の節供／菖蒲節供／種播き祝い＞
5　六月・七月の行事＜オオバライ／ケツアブリ正月／タコトマンジュウ／初山参り／夏祭り／土用の丑の日／虫送り＞・・・・・・・・ 302
6　八月の行事＜たなばた／髪洗い＞・・・・・・・・・ 304
第三節　盆
1　盆の準備＜盆供／盆掃除／盆棚洗い／盆花迎え／盆棚飾り／新盆＞・ 306
2　盆行事＜迎え盆／迎え火／供え物／送り火／送り盆＞・・・・・ 307
3　その他の盆行事＜タナマイリ／仏の野廻り／朝草刈り／タナギョウ／セガキ／盆の十六日／イキボン＞・・・・・・・・・・・・ 309
第四節　秋から冬の行事
1　九月の行事＜ショウガセック／十五夜／二百十日＞・・・・ 311
2　十月の行事＜十三夜／オクンチ／お日待ち／薬師様／お十夜＞・・ 311
3　十一月の行事・・・・・・・・・・・・・・・ 313
＜十日夜／秋のエビス講／オカマサマ祭り／帯解き＞
4　十二月の行事・・・・・・・・・・・・・・・ 316
＜カワビタリ／ヨウカセック／ダイシ講／大島様／冬至＞
第九章　民俗芸能
第一節　神　楽
1　下唐子・川辺の神楽＜大吉坊さんの神楽／川辺の神楽＞・ 317
2　古凍の神楽・・・・・・・・・・・・・・・・ 319
＜舞台を浄める翁舞／面白い半神代／岩戸開き／オロチ退治／権兵衛の種まき＞
3　正代の神楽＜三番叟の舞／エビスと大黒の魚とり＞・・・・・ 322
4　箭弓神社の神楽・・・・・・・・・・・・・・ 323
＜箭弓さまの神楽殿／村方の神楽をよぶ／奉納された神楽面／国貞の絵＞
第二節　獅子舞
1　野田の獅子舞＜悪魔払いの獅子頭／太右エ門さんの笛＞・・・ 326
2　宮鼻の獅子舞＜山のおくにさん＞・・・・・・・・・ 328
3　上野本の獅子舞・・・・・・・・・・・・・・ 329

＜獅子舞を見る/地元の人と共に/厳粛な棒使い/大きな万灯＞
4　下唐子の獅子舞＜獅子舞の行列/獅子舞の構成(一)(二)＞・ 333
5　西本宿の獅子舞＜富士浅間/獅子が狂う/扇子であおぐ＞・・ 339
6　上唐子の獅子舞＜笛のしらべ＞・・・・・・・・ 341
7　神戸の獅子舞＜雨乞い獅子/駿歩渕にすり込む/祈りの雨乞い唄＞ 343
8　大谷と下岡の獅子舞＜書かれた文字/ささら道＞・・・ 344
9　東平新田の獅子舞＜なか道化＞・・・・・・・ 346
第三節　祭ばやし
1　古凍の祭ばやし＜小見野から習う/屋台の踊り＞・・・・ 347
2　正代の祭ばやし・・・・・・・・・・・・ 349
＜ステテケ/オイテケ/ヤッテケ/通り祭り/屋台の踊り＞
3　箭弓町と松葉町の祭ばやし・・・・・・・ 351
＜屋台の新調/子供ばやし＞
4　屋台のヒッカワセ・・・・・・・・・・・ 352
第四節　万　作
1　柏崎の万作・・・・・・・・・・・・・・ 353
＜踊りと歌/はじめに銭輪さんば/とのさ節を万作に＞
2　毛塚の万作＜薬師堂で習う/新川踊り他＞・・・・・・ 356
第五節　盆踊り
1　盆踊り・・・・・・・・・・・・・・・・ 358
2　下唐子の盆踊り・・・・・・・・・・・・ 359
3　盆踊りと原留さん・・・・・・・・・・・ 360
第六節　傘踊り
1　神明町の傘踊り・・・・・・・・・・・・ 362
＜傘踊りの仲間/音頭取りの加藤さん/新田のオハネ＞
2　上野本の傘踊り・・・・・・・・・・・・ 365
＜シッチョイバケツが十三裁/幕間の手踊り＞
3　大谷の傘踊り＜山本連＞・・・・・・・・・・ 366
4　新作の八木節＜高坂村々づくし＞・・・・・・・・ 367
第七節　チョボクレ
喜十さんのチョボクレ
岩治さんと実さんのショボクレ
第八節　地芝居
1　田木の地芝居＜今に残る幕/聞書＞・・・・・・・ 371
第九節　餅搗き踊り
1　金谷の餅搗き踊り・・・・・・・・・・・ 374
＜餅搗き踊りの種類/餅搗き踊りの基本/金谷の餅搗き唄＞
2　東平のひきづり餅＜厳やかなモヤイ搗き/ひきづり餅＞・・ 377
第十節　人形芝居
1　東平の人形芝居・・・・・・・・・・・・ 377
＜東平人形芝居の起り/四里四方に興業/阿古屋の人形＞
第十一節　相　撲
1　大谷のぼたもち相撲・・・・・・・・・・ 381
＜大雷神社の祭礼相撲/豊作を喜ぶ祭礼相撲/大雷神社の雨乞い/山あいの相撲場＞
2　八幡講相撲・・・・・・・・・・・・・・ 383
＜八幡講の力士たち/八幡講で土俵開き/土俵じまい＞
第十二節　梯子乗り
1　勇み肌の芸＜梯子乗りの型＞・・・・・・・・・ 385
第十三節　民　謡
1　土手普請唄＜いろいろな土手普請唄＞・・・・・・・ 386
2　麦打唄＜ヤレオセ/ソレオセ＞・・・・・・・・・ 394
3　酒づくりの唄＜いろいろな酒づくりの唄＞・・・・・・ 395
4　木やり唄＜祝いの席で＞・・・・・・・・・・ 400
5　屋移し唄＜ヨイトコ/巻いて＞・・・・・・・・・ 400
6　保線の唄＜ベタ搗き唄＞・・・・・・・・・・ 403
7　わらべ唄＜山の山のオクニさん/まりつき唄＞・・・・・・ 404
伝説編
1　市ノ川の室戸岩のいわれ・・・・・・・・ 409
2　田村麿将軍の悪龍退治・・・・・・・・・ 410
3　弘法大師の願い井・・・・・・・・・・・ 412
4　高済寺の蓮のお曼荼羅・・・・・・・・・ 414
5　岩殿山と比企能本・・・・・・・・・・・ 416
6　若狭局と比企禅尼・・・・・・・・・・・ 419
7　鈴木三郎重家と鈴留川・・・・・・・・・ 421
8　勝利地蔵と洪水・・・・・・・・・・・・ 423
9　高坂氏息女の悲恋物語・・・・・・・・・ 425
10　松山城落城と龍の枕石・・・・・・・・・ 426
11　松山の女沼男沼の由来・・・・・・・・・ 427
12　八百比丘尼東崎山に来たる・・・・・・・ 428
13　おさずけ沼の話・・・・・・・・・・・・ 429
14　黒髪塚の由来・・・・・・・・・・・・・ 431
15　本海行人の入定談・・・・・・・・・・・ 432
16　雷電山の山姫様・・・・・・・・・・・・ 434
17　秋葉神社のご神徳・・・・・・・・・・・ 435
18　越辺川若ケ渕の悲話・・・・・・・・・・ 437
19　岩殿観音の抜け絵馬・・・・・・・・・・ 438
20　安曇昌成二本松経塚・・・・・・・・・・ 439
21　白山神社の縁起・・・・・・・・・・・・ 440
22　永福寺に伝えられた河童の詫証文・・・・ 441
23　河童地蔵・・・・・・・・・・・・・・・ 443
24　下沼の巡礼坂のいわれ・・・・・・・・・ 443
25　箭弓神社銭絵馬(めおと狐)の由来・・・・・・ 444
26　下唐子の夜泣き松・・・・・・・・・・・ 445
27　金谷の一本松にまつわる悲話・・・・・・ 446
28　袖曳坂の怪・・・29　ざる坂のいわれ・・ 447
30　徳利坂の由来・・31　狐に化かされた話・ 448
32　万五郎稲荷の狐に化かされた話・・・・・ 449
33　おとうかっ火・・・・・・・・・・・・・ 449
34　大日堂の怪談・・・・・・・・・・・・・ 450
35　神かくしにあった男の話・・・・・・・・ 451
36　お力さん・・・・・・・・・・・・・・・ 452
37　だいりぼっち・・・・・・・・・・・・・ 453
38　くずるが橋のいわれ・・・・・・・・・・ 454
39　ざきっこ婆さん・・40　乞食谷のいわれ・ 454
41　たたった蟹と蛇・・42　落人穴の由来・・ 455
43　蛇娘・・・・44　利仁神社の枕石・・・・ 456
45　雪女郎・・・・・・・・・・・・・・・・ 457
46　等覚院の阿弥陀さまの縁起・・・・・・・ 458
付編　町村誌抜萃(明治末期～昭和初期)
松山町誌抜萃・・・・・・・・・・・・・・ 461
唐子村郷土誌抜萃・・・・・・・・・・・・ 470
高坂村郷土誌抜萃・・・・・・・・・・・・ 473
野本村誌抜萃・・・・・・・・・・・・・・ 482
話者・資料提供・協力者一覧・・・・・・・・・ 501

昭和５８年７月２５日発行
東　松　山　市

次号に向けて

目論みの前提としての「章立て」という資料を紹介するために紙幅を相当費やした。次号も手元のフロッピーを見ると相当ページが章立てという事例の提示に費やされる予定である。自治体刊行の民俗編についても、これだけのエネルギーを消費しての成果であるから、この県内市町村で繰り広げられてきた「民俗編刊行」という名の風潮の功罪についても、一度はまとまった論議をしてもいい時期だと思っている。もう、すでに県内の自治体発行の民俗資料あるいは民俗編のありようが、いうなれば調査あるいは研究の対象となっているわけだ。「民俗編」というものがどんなものなのか、という合意形成が暗黙のうちにあるにせよ、そろそろ、その暗黙の合意の内容についても考えていくことが必要なのかも知れない。私たちが繰り返してきた徒党（気の合う調査仲間、信頼し合える調査仲間のこと）を組んでの民俗調査と民俗編（資料）刊行は、ムラの伝統とあるいはマチの伝統をある概念で捕捉し、近隣市町村との差異を探しながら、今日（現代）と少し昔（過去）との暮らしのあり方についても、その差異を細かに、そして見つけたら最大限にシルシづけて、伝統の素晴らしさ（民俗文化の重要性）を訴えながら、膨大な資料を積み上げてきた。問うてみたいことは、私たちの用意した概念や実際に調査上の規制とか制約、調査の方法、調査員（あるいは調査団）の依頼方法、執筆までの調査刊行日程、調査予算のありかた、までを含めた総合的なことがらとなるのでは、と思っている。

なお、本報告ではできるだけ遺漏のないように資料を集めていく方針だが、気づかないような資料がそれぞれの市町村にあれば、何卒ご教示を賜りたいと思っているのでよろしくお願いしたい。

ところで、最後になるが『民俗編』というかなり厚めの本は、刊行されたときにはそれなりに歓迎されて購入されるという現象を筆者が入間市史の編纂の過程で体験したことがある。身近なことがらが記されているからだとか、なつかしさのあまり購入したとか、話者となって協力した人たちが自分がしゃべったことがらが書かれているからだとか、掲載された古い祭りの写真に若いころの父親が写っているとか、『中世編』とか『近世編』とかがあまりにつまらないし解りにくいからだとか、民俗編が売れる理由は諸説紛々ということになっていた。ようするに民俗編にはいろいろな過去と現在の多様な生活実相が、バランスよく配備されていて、市民の多くが納得のいく態勢をとっているからだと思われているからである。これって民俗編への幻想でしかない。けれども、私自身の経験からだが、「民俗編は身近な市民の経験を載せるのだから、一定程度は売れるんです」なんてことをせっかく刊行したのに在庫の山になっては大変だという悩みを持つ担当者に向かって安心の呪文のように唱えたことがあるぐらいだから、民俗編は割りと売れるという感覚をいつのまにか持っているのも事実である。ノスタルジックをセールスポイントにして売れているからといっても、良書ということではないけれど、他と比較して売れているというのも紛れもない事実なのである。そこで、次に気になるのは『民俗編』を読むいわゆる読者層のことである。私たちが『民俗編』を見るとき文字どおり「民俗の事例集」として眺めているだけで、飛ばし読みしかないから、味わって読むような熱心なことはしない。そうなると、熱心な民俗編の読者という存在が気になっ

てくる。ただ、これまでの経験では、近隣市町村が刊行する『民俗編』を集めて読むような熱心な読者とはついぞ会ったことはないから、本当はいないのかも知れない。民俗編の購買層の存在が相気になるのである。

再び、入間市で筆者が経験したように、割りと気まぐれで購入した人たちから、その後にもっと詳しく民俗調査を実施し、市内の民俗の記述を充実させろといった意見は出てこない。このページの記述が面白かったというような読書カードが寄せられることもない。また、あの厚い市町村史の『民俗編』の存在が、いわば定本となり、決定版となってしまい、新たな問題意識を民俗調査員が持ち込もうとしても、「もう、私たちの町ではあの立派な民俗編ができあがったのだから、もう調査なんていらないのでは、第一に予算だってでませんよ」ということになる。今後はあの煩わしい民俗調査を経験しなくてもいい、という証明にあの厚い本は自治体にとって必要だったわけである。自治体にとって、次の開発行為に進むために、いわば「過去の文化も大切に」というキャッチコピーをかざしながら、振り返り行為のピリオドとしての民俗編というふうに思っておけばいいのでは、と思う。民俗編を刊行することによって、自治体に暮らす人たちのアイデンティティーが醸成されたと理解し、幕を閉じるのである。要するに民俗編は結局は政治的な営みであって、読者がいないのに書くことを許される媒体でありつづけたというのも、その辺にありそうだと思うのである。

『民俗編』は父母や祖父母の暮らしぶりが、伝統的な暮らしぶりだったというシルシをつけながら記述されていく。この伝統時な暮らしを忘れてはならない、と囁く。何げない日々が実は伝統で民族的で貴重な暮らしの経験をされてきたんですと名指しされた人たちは、その後になっても同じように暮らしつづける。民俗編は飾ってはおかれるのの、伝統的・民族的ということで調査員から指名された人たちは、依然としてこの民俗編を読もうとしていない風景を忘れてはならない、と思うのである。

博物館と学校教育の連携（２）

－「博学融合」の試み－

渡　辺　　勤

はじめに

生涯学習審議会は、「地域における生涯学習機会の充実方策について（答申）」（平成８年４月24日）のなかで、学校教育と社会教育の関わりについて、

「学社融合は、学校教育と社会教育がそれぞれの役割分担を前提とした上で、そこから一歩進んで、学習の場や活動など両者の要素を部分的に重ね合わせながら、一体となって子供たちの教育に取り組んでいこうという考え方であり、学社連携の最も進んだ形態と見ることもできる」

と明言し、「学社融合」の理念に立った事業展開を提唱している。答申は、「それぞれの施設が、学校との連携・協力を図りつつ、学校教育の中で活用しやすいプログラムや教材を開発し、施設の特色を生かした事業を積極的に展開していくことが重要である」と続けている。

「学社融合」を博物館施設にあてはめるならば「博学融合」となろう。辞書によると「融合」とは「組織などが合一すること」とある。「博学融合」とは、博物館等と学校が、つまりは博物館等職員と教師が連携・協力し、一緒になって子供たちの教育にあたるということである。

そこで本年度は、「博学融合」の試みとして、学校の協力のもと授業に一歩踏み込ませていただいた。具体的には、社会科の授業において、学校へ出向いたり（「出前授業」）、当館を授業の場とし、担当教師とともに展開した。いわゆるティーム・ティーチングに関わったのである。

本稿は、その試みの一端を紹介することによって、学校と博物館等が「博学融合」の望ましい在り方について追究する場を提供することを目的としている。

１　「出前授業」

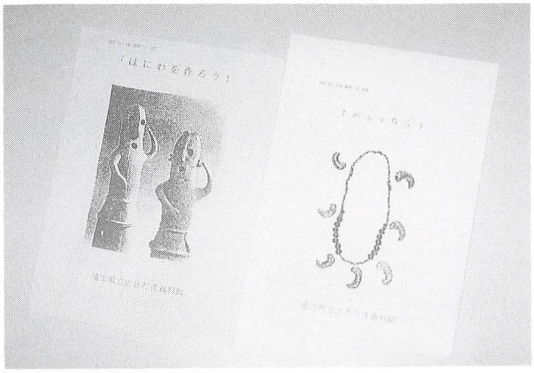
生涯学習時代を迎えた今日、その基礎づくりの場としての学校教育には、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を目指し、新しい学力観に立った教育活動の展開が強く求められている。とりわけ実物を見たり、触れたり、操作したり、作ったりといった体験的な学習が重視されている。そうした体験的な学習の機会を子供たちに提供することは博物館等の重要な役割である。当館においても、教育普及事業として、考古及び民俗に関する多種多様な体験的な学習の場を提供している（当館



まが玉作りに挑戦

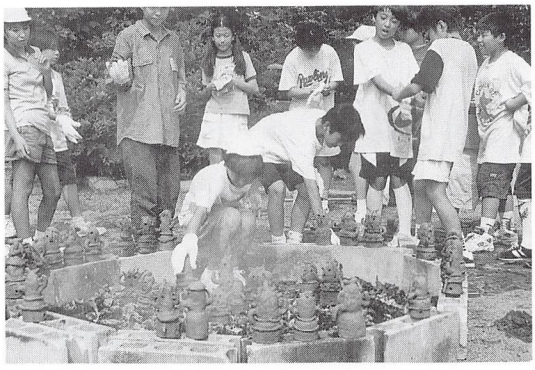
『調査研究報告』第９号参照)。

しかし、博物館等の体験的な学習を学校全体で、あるいは学年・学級単位で実施することは物理的に困難な場合が多い。そこで、館側から直接学校を訪問し、授業を展開あるいは授業に協力する「出前授業」を実施した。社会科の授業や文化祭における「はにわ作り」（３校）や「まが玉作り」（５校）などの体験的な学習に関わったのである。



体験学習のしおり

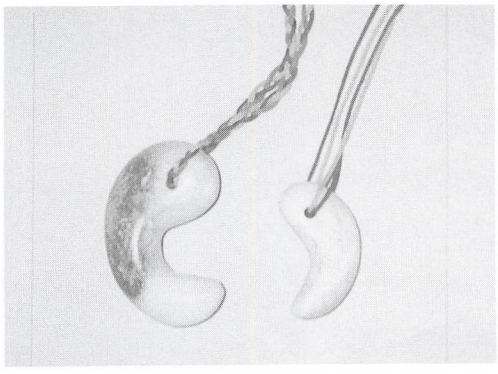
具体的には、製作に入る前に、持参した埴輪や勾玉をもとに、用意したしおりを使って、埴輪の種類や役割、勾玉をはじめとする副葬品についてスライド等を用い説明を加え、その後製作を行った。担当教師が事前に体験し、製作段階で子供たちに直接指導を行った中学校もあった。この場合より効果的であったことはいうまでもない。



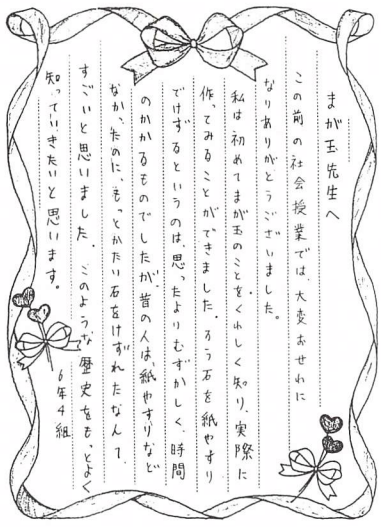
はにわの野焼きに挑戦

どの学校の子供たちも目を輝かせ一生懸命に取り組んでいた。越谷市の小学校の児童たちは、自分で作った勾玉を自慢げに首に掛け下校していったという。北本市の中学校の生徒は、「もっといい物を作りたい」と勾玉の材料であるろう石の入手方法を求めてきた。行田市の中学校の生徒は、学習後、家庭へ持ち帰って作り上げた勾玉を見せるために休日に来館した。また、埴輪作りに挑戦した騎西町の小学校の児童たちは、思い思いの個性豊かな埴輪を作り、夏の暑い太陽が照り付けるなか野焼きを実行し、全員みごとに焼き上げた。焼き上がった自分の埴輪に子供たちは満足感でいっぱいであった。いずれにせよ自分で作った作品は世界でたった一つであり、子供たちにとって貴重な宝物である。子供たちはその製作過程において、古代人の心をも学ぶとともに、歴史にに興味関心を持ち、学習意欲を一層高めてくれたものと考えている。

「出前授業」は、かなりの効果が期待できる。しかし、当然「出前授業」にも限界があり、県立館の難しさがある。そこで、来年度からは、学校の先生方に埴輪や勾玉の製作技術等を学んでいただき、学校の授業の中で実施することができるよう教師対象の体験学習講座を実施していく予定である。



児童が作ったまが玉



まが玉先生へ

この前の社会授業では、大変おせわになりありがとうございました。

私は初めてまが玉のことをくわしく知り、実際に作ってみることができました。ろう石を紙やすりでけずるというのは思ったよりむずかしく、時間のかかるものでしたが昔の人は紙やすりなどなかったのに、もってかたい石をけずれたなんて、すごいと思いました。このような歴史をもっとよく知っていきたいと思います。

6年4組

児童から寄せられた感想

2　当館を授業の場とした実践

学習指導要領の「内容の取り扱い」には、次のように明示されている。

・小学校社会科

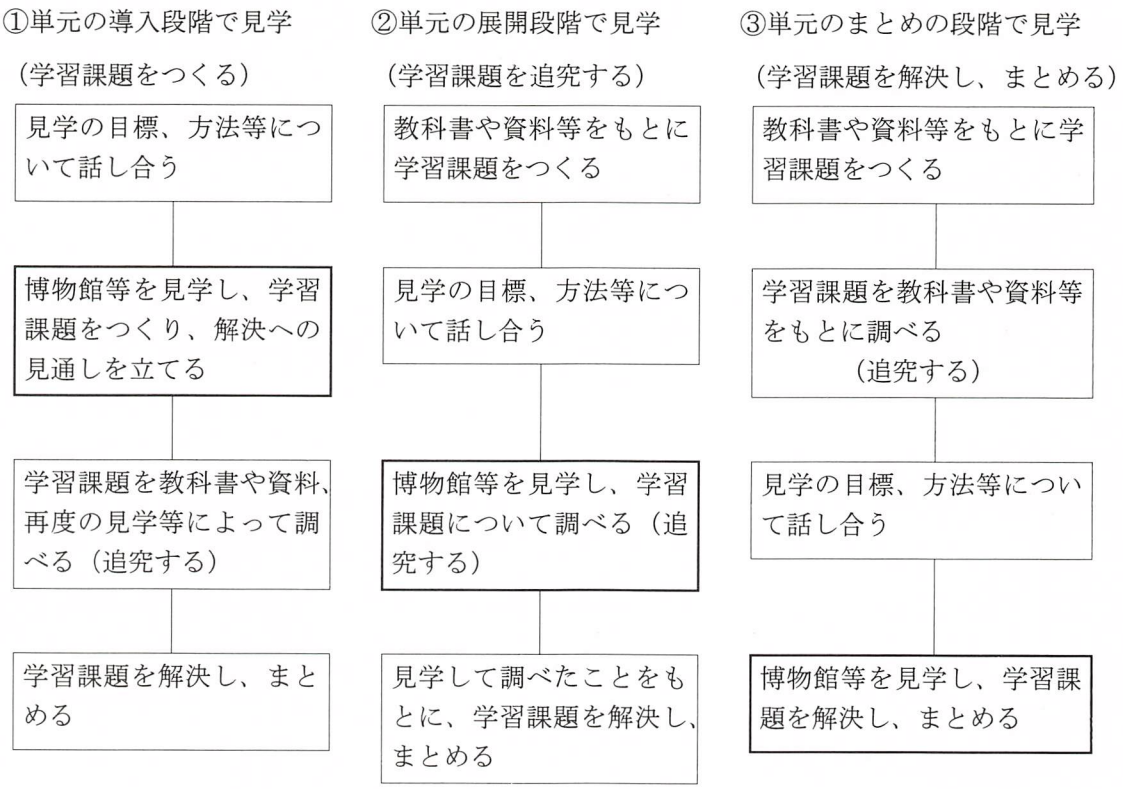
> 「指導計画の作成に当たっては、博物館や郷土資料館等の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査を行い、それに基づく表現活動が行われるよう配慮する必要がある」

・中学校社会科

> 「日本人の生活や生活に根ざした文化については、各時代の政治や社会の動き及び各地域の地理的条件、身近な歴史とも関連づけて指導するとともに、博物館や郷土資料館等を活用した文化財の見学・調査を通じて、生活文化の発展を具体的に学ぶことができるようにする。

このように今日の社会科の授業においては、観察や見学・調査等の体験的な学習が重視されており、とりわけ博物館や資料館等の積極的な活用が求められている。

その博物館や資料館等を見学により活用する場面には、次の３つが考えられる。



必要によって、これらを組み合わせて授業を展開することになる。

いずれにしても博物館等の見学は、年間指導計画にしっかりと位置付け、生徒の実態を踏まえ、評価規準を明確にし、計画的に実施されなければならない。生徒の実態としては、特に発達段階を４つの観点（関心・意欲・態度、思考・判断、資料活用の技能・表現、知識・理解）からとらえ、博物館等を見学することによってどんな資質・能力を身に付けさせたいか、また伸ばしたいのかを明確にするとともに、生徒の博物館等の利用状況等（特に博物館等との関わり）を十分に踏まえることも重要であろう。その上で博物館等をどの段階で活用するかが決まってくるものと考える。実

践する上では、博物館等の職員との綿密な打ち合わせが不可欠であることはいうまでもない。

ここでは、当館を実際の授業の場として活用した実践例２つについて述べる。

（１）小学校第６学年（川里村立屈巣小学校）の実践

これは、「地域の教材を活用して、生き生きと活動する児童を育てるための指導の工夫」をテーマに、小単元「米づくりのむらから古墳のくにへ」において行われたものである。

川里村立屈巣小学校の第６学年は、２学級からなる。この実践は、学級の枠を取り払い、２人の教師が指導に当たるいわゆるティーム・ティーチングとして展開された。当館としてもそのティーム・ティーチングの一翼を担ったといえる。

まず、事前打ち合わせのため先生方に来館していただき、本実践のポイントやねらい等の説明を受けた。その後、指導計画等について先生方とともに検討した。特に当館を見学する場面や子供たちへ対応（見学時の説明の程度、資料の提供、見学後の対応等）について打ち合わせた。本実践のポイントやねらい、指導計画等については以下の通りである。

1 実践のポイント

(1)児童が主体的に学習活動に取り組める学習過程の工夫

・身近な地域にある、埼玉古墳群や県立さきたま資料館を見学、調査する活動を取り入れた学習過程の工夫

・学習過程における子供たちの歴史的な見方・考え方を援助する博物館職員などの人材を活用した指導の工夫

・見学・調査活動、表現活動などの体験的な活動の工夫

(2)地域の人材が登場する歴史学習

・稲荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣に記されている「ヲワケの臣」を手掛かりにした教材の開発

・地方の豪族や古墳を中心とした学習により、中央政府との関わりをとらえる教材開発

2 小単元のねらい

米づく作りが始まったころの様子や「むら」や社会の様子が大きく変わったこと、「むら」や「くに」が大和朝廷によって統一されていったことを、遺跡や出土品、想像図などから調べ、当時の人々のくらしの様子について考えることができるようにする。

3 評価規準

評価の観点	評　価　規　準
社会的事象への関心・意欲・態度	人々の生活や社会の様子の急激な変化に関心をもち、その背景や米づくり、国土の統一の様子を自ら意欲的に調べることができる。
社会的な思考・判断	「むら」の様子の変化から、米づくりと人々の生活や社会の変化の関連について考えることができる。
観察・資料活用の技能・表現	様々な資料や遺跡、出土品などから、当時の人々の生活の様子を想像し、自分なりに表現することができる。

社会的事象についての知識・理解	米づくりの技術や大陸からの文化の広がりが人々の生活や社会に変化をももたらし、やがて大和朝廷によって国土が統一されていったことを理解することができる。

4　小単元の指導計画・評価計画

	主な学習活動・内容	支援と評価	資料
つかむ	①米づくりが始まったころの様子と米づくりが広がったころの様子の想像図を比べて違いを考える。 ・集落や水田などの違い ・古墳の有無 米づくりをするようになって、人々のくらしはどのように変わったのだろう。	〈資〉想像図からいろいろなことを発見することができる。 ○縄文時代との違いを考えながら、児童の「気づき」を大切にする。	〈絵〉 弥生時代と古墳時代の想像図
調べる	②弥生時代と古墳時代の概略を年表や想像図などを活用して調べる。 ・米づくりの広がりと意義 ・米づくりの様子 ・邪馬台国の様子 ・大和朝廷による統一	〈知〉米づくりの様子や「むら」同志の争いから、大きな豪族や王が生まれたことをとらえることができる。 〈思〉米づくりが、生活全般への転換のきっかけになったことを考えることができる。 ○米づくりにより、経済的な貧富の差が生じてきたことをおさえる。	登呂遺跡の想像図 吉野ヶ里遺跡の写真 邪馬台国の女王卑弥呼の絵
	③大きな古墳が造られたことを知り、「さきたま古墳群」と「さきたま資料館」を見学する計画を立てる。 ・古墳の大きさ ・古墳に葬られた豪族 ・古墳の副葬品 ・当時の人々のくらし ・大和朝廷とのつながり ・中国・朝鮮とのつながり	〈知〉全国に古墳があることから、日本各地に豪族がいたことがわかる。 〈関〉人々の生活や社会の様子の変化に興味・関心を持ち、進んで調べる意欲を持つ。 〈思〉自分で調べようとする問題をある程度考えることができる。 ○古墳の大きさやその分布などに対する児童の驚きを大切にし、学習意欲に結び付ける。 ○学校の近くにも「さきたま古墳群」があることや、「さきたま資料館」を見学することを知らせる。	二子山古墳の写真 稲荷山古墳出土金錯銘鉄剣の写真

調べる	④⑤「さきたま古墳群」や「さきたま資料館」を見学する。 ・さきたま資料館職員の話 ・課題意識をもって見学する ・「さきたま古墳群」の見学	〈関〉身近な地域の遺跡や遺物に関心をもち、意欲的に見学することができる。 〈資〉自分で調べたい課題をはっきりとつかむとともに、課題解決への見通しを持ち、必要な資料を収集することができる。 ○事前の打ち合わせを密にしておく。 ○最初に全体で説明を聞き、その後各自見学をしながら、調べたい課題を明確につかむとともに、課題解決への見通しを持てるようにする。 ○分からないことは、資料館職員に聞いてもよいことを知らせておく。	さきたま資料館職員 さきたま資料館 さきたま古墳群
	⑥⑦見学をもとに、自分の課題について、自分なりの方法でまとめる。 ・古墳の大きさ ・古墳に葬られた豪族 （ヲワケの臣） ・金錯銘鉄剣 ・渡来人によって伝えられた文化 ・大和朝廷とのつながり ・当時の人々の生活 ※古代劇「さきたま物語」の準備	〈資〉〈技〉調べたことをもとに、自分なりの表現方法でまとめることができる。 ○古墳の一般論として調べるのではなく具体的な事例（さきたま古墳群）を通して、まとめるよう助言する。 ○課題が解決できないときやより詳しく調べたいときは、放課後や休日等に、さきたま資料館へ行って、職員からアドバイスを得てもよいことを知らせる。 〈関〉〈技〉古代劇に意欲的に取り組み、古墳時代の人々を表現できる。 〈知〉シナリオ作りや小道具の製作、劇の練習を通し、理解を深めることができる。 ○希望により古代劇グループをつくり、古代劇の準備をする。	さきたま資料館職員 さきたま資料館
まとめる	⑧調べたことを発表する。 ・古代劇による発表 ・模造紙による発表 ・新聞による発表 ・紙芝居による発表	〈技〉発表を工夫し、分かりやすく発表することができる。 〈思〉当時の人々の生活の様子をとらえ自分の見方考え方を深めようとする。 ○まとめ方の種類ごとに発表する。	発表資料

実践にあたっての当館の役割は、当館を学習の導入段階において見学することから、まず子供たちに「古墳文化」に興味・関心を持たせ、自らの課題を持たせること、またその後の学習活動への意欲化を図り、課題解決への見通しを持たせること、そして子供たちが課題を解決する上での支援をすることであった。これは先に述べた博物館や郷土資料館等を見学により活用する場面の①と②に当たる。

見学における館側からの説明は、子供たちが興味・関心を持ち、「疑問」を持つことを第一とした。例えば、「埴輪から、古墳時代の人々のくらしを発見してみよう」という投げ掛けに、子供たちは形象埴輪を食い入るように見ながら、

「この埴輪は、琴を弾いている」

「こっちの埴輪は、踊っているよ」

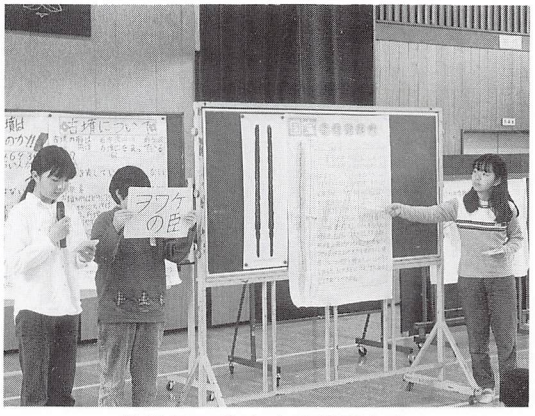
「この人の髪形へんだなぁー」

「この２つの家、つくりが違うよ」

などと呟いていた。子供たちは、発見から様々な疑問を持ってくれた。そして、子供たちがつくった課題は、「どうして人や、家や、動物の埴輪を並べた？」「なぜ鍵穴型の古墳？」「どのように大きな古墳を造った？」「なぜ副葬品を？」「ヲワケとはどこのどういう人？」等々様々であった。見学の目的は達成されたようである。

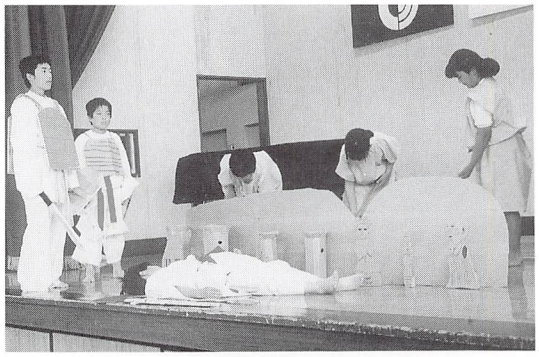
その後、子供たちはグループを編成し自分たちの課題解決に向け、見学当日収集した資料や学校の図書室等の資料をもとに、さらには放課後や休日等を利用して当館を訪れ学芸員を質問攻めにし、自分たちの課題を追究していった。学芸員との会話は課題を越え、様々な話題に広がり、子供たちの興味・関心が一層広がったようである。なかには、その後の当館の事業にも積極的に参加する児童も出てきた。生涯学習の基礎はこのようなところから築かれていくのではないだろうか。いずれにせよ、子供たちは自分たちの課題を自分たちの方法でまとめ発表し合っていた。

また、「古墳文化」についての理解を一層深めてもらおうと、当館が平成７年度に公開した古代劇「さきたま物語－古墳ができるまで－」を子供たちなりにアレンジし、演じてもらった。この古代劇は、鉄剣の作者ヲワケの臣をさきたまの豪族として設定し、大和の大王に仕え、任務を終え帰還し、戦争で死に古墳が造られるまでを物語としたものである。直接子供たちに指導を加えることはできなかったが担当教師を通しアドバイスをさせていただいた。古代劇グループは、小道具をダンボールで作り、熱心に練習に励んでいたという。発表の当日参観させていただいたが、子供たちは当館が貸し出した衣装を身に着け、熱演していた。演じる側も見る側もスムーズに「古墳文化」を理解していったようである。演じた子供たちの感想は別掲の通りであり、今回見る側に回っていた子供たちからは、「次回は出演したい」との声が上がっていた。なお、この古代劇の様子は新聞（別掲）でも報道された。

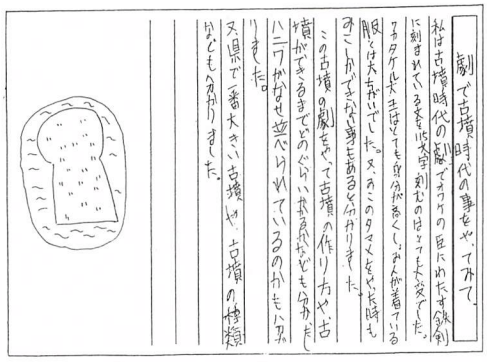


模造紙で発表する児童たち

この実践は、テーマ「地域の教材を活用して、生き生きと活動する児童を育てるための指導の工夫」に十分に迫れるものであった。また、中央教育審議会第一次答申が「『生きる力』の重要な要素のである」と規定している「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力」の育成につながる実践でもあった。子供たちの中には、その後も度々当館を訪れ、学芸員に質問を投げ掛けたり、当館の体験学習にもに参加する児童もいる。当館が「学びの場」になっていることを嬉しく思とともに、改めて博物館等の役割の重要性を認識するものである。



古代劇を演ずる児童たち



劇で古墳時代の事をやってみて

私は古墳時代の劇でヤマトの王にめたす鉄剣に刻まれている名を以太字刻むのはとても大変でした。ヲタケル大王はとても身分が高く、かん冠着ている服もはでやかでした。又、おこのかっこをした時もみこしがでかい男主あるなぁ分かりました。

この古墳の劇をやって古墳の作り方や古墳ができるまでどのくらいかかるかなども分かりました。ハニワがなぜ並べられているのかも分かりました。

又、県で一番大きい古墳や古墳の種類なども分かりました。

古代劇を演じた児童の感想

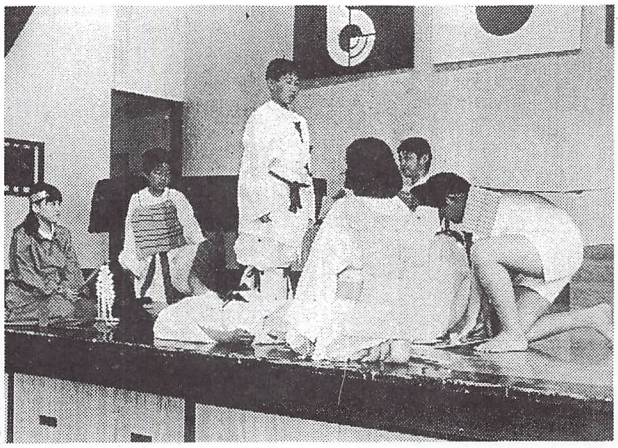
川里 屈巣小 古代劇上演などで成果発表

さきたま資料館と連携授業
古墳テーマに聞き取り調査

県立さきたま資料館と連携した社会科の特別授業が二十二日、川里村の屈巣小学校（高橋豊三校長）で行われ、子どもたちが同館学芸員からの聞き取り調査などでまとめた研究の成果を発表した。

古墳時代の学習に当たって同館を積極的に活用し、より充実した内容の授業を目指すもの。文部省の学習指導要領も地域の博物館、郷土資料館と学校との「博学連携」の方針を打ち出している。

この日の授業に臨んだのは六年一、二組の児童五十人。両クラスは八日に同館を見学、学芸課の渡辺勤主査から古墳や出土品について説明を受けた。その後、それぞれのテーマに基づいて、土、日曜日や放課後に同館を訪問し、学芸員から話を聞くなどの学習を進めてきた。



古代装束に身を包んだ子どもたちが上演した「さきたま物語―稲荷山古墳ができるまで」＝屈巣小学校体育館

授業内容は調査の発表と古代劇の上演の二本立て。発表組は「古墳とは何か」「古墳、はにわはなぜ作られたのか」といったテーマごとにグループで発表。それぞれ仮説を立てたうえで調べた成果を模造紙にまとめて披露した。

古代劇の上演は歴史上の人物を演じることで理解を深めてもらう体験学習。昨年七月に同館職員らが上演したシナリオを子ども向けにアレンジ、衣装も貸し出した。

子どもたちは土器やはにわなどの小道具を約一週間かけて準備。金錯銘鉄剣が出土した稲荷山古墳ができるまでをつづった「さきたま物語」を、十八人が熱演した。

資料館側で指導にあたった渡辺主査は「まず歴史に興味を持ってもらうことが大切。自分たちで調べたり劇をやったことが、次へのステップになれば」と話していた。

埼玉新聞（平成８年５月24日付）

（２）中学校「選択社会」（行田市立埼玉中学校）の実践

中学校学習指導要領の「選択教科としての「社会」」には、

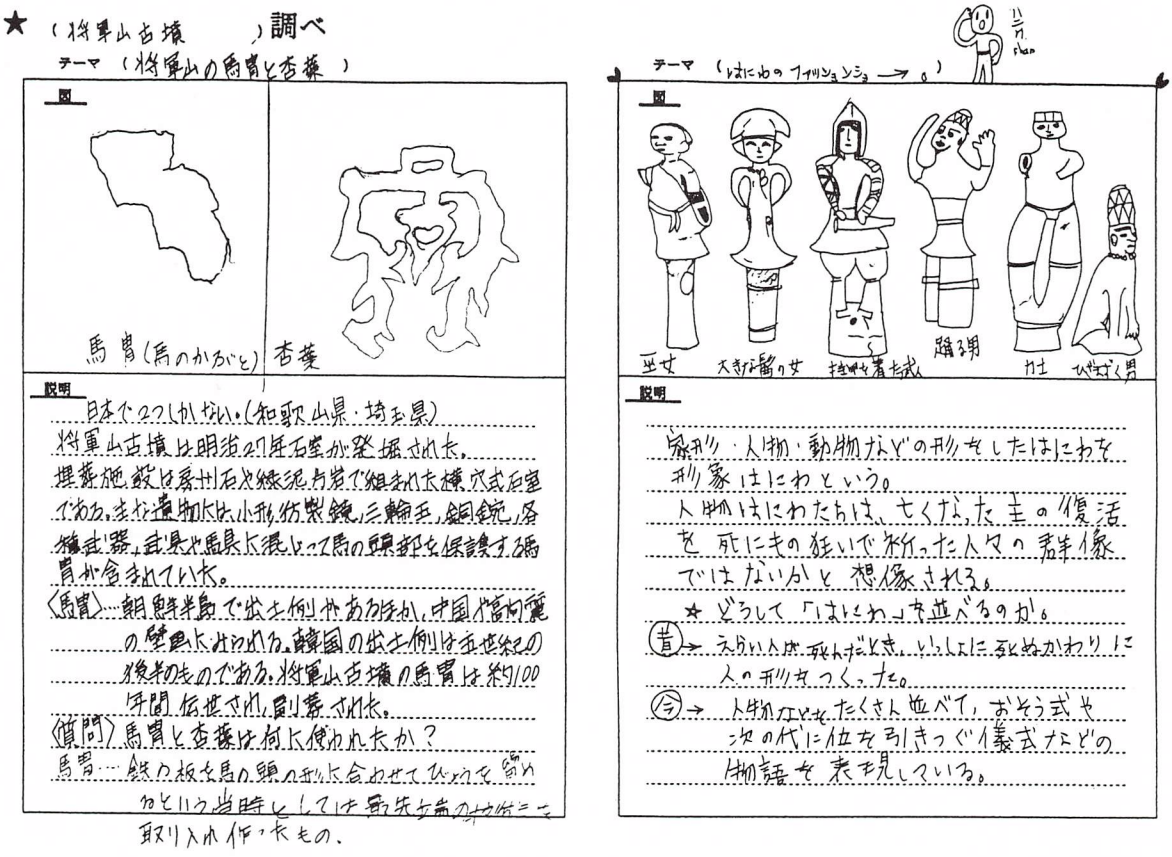
> 第３学年における選択教科としての「社会」においては、生徒の特性等に応じ多様な学習活動が展開できるよう、第２の内容について、分野間にわたる学習、自由研究的な学習、見学・調査、作業的な学習などの学習活動を学校において適切に工夫して取り扱うものとする。

とある。行田市立埼玉中学校の場合は、見学・調査をもとにした自由研究的な学習が展開されていた。選択教科であることから、また郷土の古墳群をテーマにしていることから学習内容に興味・関心を持つ生徒が多く、意欲的に活動していた。その主な学習活動は次の５項目であった。

①古墳調べ　　②埴輪などの出土品調べ　　③まが玉作り

④発表会　　⑤古代劇づくり

当館の見学については、各自の学習課題を追究する場として利用された。それぞれが課題意識を持って臨んでいるため、当館はまさに学習の場となった。館側の役割は、生徒たちの課題解決への援助であった。生徒たちは、自らの課題を解決するとともに、新たな課題を見出してくれたものと考える。それらをまとめた生徒たちは、①の「古墳調べ」及び②の「埴輪などの出土品調べ」の学習において、次のようなレポート（一部）を作成している。



生徒のレポート

③の「まが玉作り」については、１，で紹介した実践と同様に実施した。中学３年生ということもあり、個性的で表現力豊かな勾玉が出来上がった。④の「発表会」及び⑤の「古代劇作り」については３学期の学習内容とのことであった。


オリエンテーリングする生徒たち

なお、同校の「選択社会」の生徒たちは、休業土曜日に当館が実施している「土曜おもしろ博物館－実感！古墳探検オリエンテーリング－」にも参加している。日頃見慣れている古墳群であるが、改めて問題に挑戦しながらオリエンテーリングし、より一層理解を深めてくれたようである。

生徒たちは、変化に富んだ多様な学習内容に各々が個性を発揮し、主体的に学習しており、「選択社会」の目的は達成されたものと考える。

おわりに

以上、本年度の実践から「博学融合」の試みの一端を述べてきた。子供たちの授業中の呟きやその後の感想から、私は、子供たちの主体的な学習を促すうえで、「出前授業」や当館を活用した授業が極めて効果的であることに確信を得た。しかし、こうした授業は市町村立の館ならば全校で実施することも可能であるが、遠方では困難であり、ここに県立館としての難しさがある。県立館の役割としては、こうした実践を学校はもとより博物館等に紹介することによって、それぞれの地域における「博学融合」の促進を図ることではないだろうか。

生涯学習時代を迎え、第15期中央教育審議会は、「ゆとり」の中で「生きる力」を育むことが教育の基本とする教育の改革方向を提唱している。「ゆとり」とは、子供たちが主体的に考え、主体的に活動できる心と時間ではないだろうか。博物館等としては、子供たちの「ゆとり」が向けられるような魅力ある事業を展開するとともに、学校教育との連携を一層深め、「生きる力」を培う場の一つとなっていかなければならない。「博学連携」から「博学融合」の時代へ、博物館等の役割は大きい。

おわりに、今回の授業実践にご協力いただき、かつ貴重な資料や写真等をご提供いただいた行田市立埼玉中学校、同忍中学校、川里村立屈巣小学校、騎西町立高柳小学校、羽生市立手子林小学校、加須市立昭和中学校、越谷市立花田小学校、北本市立宮内中学校の先生方及び児童生徒の皆さんに心よりお礼申し上げます。

調査研究報告　第10号

印　　刷　平成９年３月21日
発　　行　平成９年３月28日
編集・発行　埼玉県立さきたま資料館
〒361 行田市埼玉4834
印　　刷　関印刷株式会社
〒360 熊谷市宮町２丁目72